新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A.意匠		A-41	建具表＿１	S.構造		E.電気設備		M.機械設備	
A-01	表紙・図面リスト	A-42	建具表＿２	S-1	特記仕様書（建築構造）その１	E-1	特記仕様書（電気設備工事）その１	M-1	特記仕様書（機械設備工事）その１
A-02	特記仕様書（建築新営）その１	A-43	家具配置図・詳細図	S-2	特記仕様書（建築構造）その２	E-2	特記仕様書（電気設備工事）その2	M-2	特記仕様書（機械設備工事）その２
A-03	特記仕様書（建築新営）その２	A-44	建具詳細図＿１	S-3	特記仕様書（建築構造）その３	E-3	配置図（電気設備工事）	M-3	衛生 器具表
A-04	特記仕様書（建築新営）その３	A-45	建具詳細図＿２	S-4	特記仕様書（建築構造）その４	E-4	凡例・観戦、弱電設備系統図	M-4	配置図、凡例 桝表
A-05	特記仕様書（建築新営）その４	A-46	建具詳細図＿３	S-5	配筋標準図１	E-5	分電盤・照明器具姿図	M-5	衛生 １２階平面図
A-06	特記仕様書（建築新営）その５	A-47	ユニットバス詳細図(参考図)	S-6	配筋標準図２	E-6	１・２階 電灯設備図	M-6	衛生 １階平面詳細図（１）
A-07	特記仕様書（建築新営）その６	A-48	シャワーユニット詳細図(参考図)	S-7	配筋標準図３	E-7	１・２階 幹線、ｺﾝｾﾝﾄ設備図	M-7	衛生 １階平面詳細図（２）
A-08	特記仕様書（建築新営）その７	A-49	外構詳細図・雑詳細図	S-8	鉄骨標準図１	E-8	１・２階 弱電設備図	M-8	衛生 ２階平面詳細図
A-09	特記仕様書（建築新営）その８	A-50	サイン詳細図	S-9	鉄骨標準図２			M-9	換気機器表、換気計算書
A-10	特記仕様書（建築新営）その９	A-51	法チェック図	S-10	ボーリング図			M-10	換気 １２階平面図
A-11	特記仕様書（建築新営）その１０			S-11	基礎伏図			M-11	消火 １２階平面図
A-12	特記仕様書（建築新営）その１１			S-12	基礎リスト				
A-13	特記仕様書（建築新営）その１２			S-13	Ｒ階・２階梁伏図				
A-14	特記仕様書（建築新営）その１３			S-14	枕棚梁伏図				
A-15	全体配置図・付近見取り図			S-15	軸組図１				
A-16	全体面積表			S-16	軸組図２				
A-17	部分配置図			S-17	軸組図３				
A-18	部分配置詳細図			S-18	部材リスト表				
A-19	仮設計画図			S-19	架構詳細図				
A-20	工事車両搬入経路図			S-20	架構詳細図２				
A-21	仕上げ表＿共通			S-21	Ｄコラム工法仕様書				
A-22	平面図・屋根伏図・求積図・求積表			S-22	ベースパック施工標準図				
A-23	立面図			S-23	ＱＬデッキ施工標準図				
A-24	断面図								
A-25	天井伏図								
A-26	断面詳細図＜A-A＞								
A-27	断面詳細図＜B-B＞								
A-28	階段詳細図								
A-29	１階平面詳細図＿１								
A-30	１階平面詳細図＿２								
A-31	２階平面詳細図								
A-32	ハイサイド平面詳細図								
A-33	展開図＿１								
A-34	展開図＿２								
A-35	展開図＿３								
A-36	展開図＿４								
A-37	展開図＿５								
A-38	展開図＿６								
A-39	展開図＿７								
A-40	建具配置図								

設計変更年月日	
１回	年　月　日
２回	年　月　日
３回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 A3版	佐賀県競馬組合
図面名	表紙・図面リスト	設計 年　月　日	１級建築士登録　第　号

図面番号 A-01

新22号・23号・25号きゅう舎新築工事　　特　記　仕　様　書

Ⅰ　工事概要

1　工事場所　佐賀県鳥栖市江島町字西谷3256番地228

2　敷地面積　450,000m2

3　地域地区　都市計画区域（ ⊙内　・外 ）　準都市計画区域（ ・内　・外 ）
用途地域等（市街化調整区域、一部準工業地域 ）　・指定なし
（ ・防火地域　・準防火地域　⊙法22条区域　・指定なし ）

4　建物用途　畜舎

5　建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積（㎡）	建築面積（㎡）	建築基準法別表第１区分	備考
畜舎	S造	2階建	637.99	524.92		

6　工事種目　新築

Ⅱ　建築工事仕様

1　共通仕様

(1)　図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」(以下、「標準仕様書」という)による。
(2)　本工事に電気設備、機械設備工事を含む場合の特記仕様書は別図による。
(3)　受注者は完了検査（中間検査を含む）には、特定行政庁（建築主事）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意すること。

2　特記仕様

(1)　項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2)　特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と⊗印の付いた場合は、ともに適用する。
(3)　特記事項に記載の（ . . . ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図、又は当該表を示す。
(4)　G 印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（ｸﾞﾘｰﾝ購入法）」の特定調達品目を示す。判断の基準は「環境物品の調達の推進に関する基本方針（令和5年2月版）」（環境省のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞからﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ可能）による。
(5)　関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応について、監督職員と協議すること。
(6)　形状寸法の単位は、特記無き限りﾐﾘﾒｰﾄﾙとする。

章	項　目	特　記　事　項
① 各章共通事項	① 適用基準等	⊗建築工事標準詳細図（令和４年版） ⊙構内舗装・排水設計基準（平成31年版） ・擁壁設計標準図（平成12年版） ・敷地調査共通仕様書（令和４年改定） ・ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ施設整備基準 （佐賀県福祉のまちづくり条例　施設整備ﾏﾆｭｱﾙ） ⊙施設におけるわかりやすいユニバーサルデザインのサイン （佐賀県県土づくり本部建築住宅課発行） ・土木工事等共通仕様書（佐賀県県土整備部） ・建築物解体工事共通仕様書（令和４年版）
	② 発生材の処理	・発注者に引渡しを要するもの　(1.3.11) （・金属類　・PCB含有物　・　　） 特定建設資材の分別解体等及び再資源化等 ⊙本工事は特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に特定資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に係る法律」（平成12年5月31日法第104号。以下「建設ﾘｻｲｸﾙ法」という）施行令又は都道府県が条例で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設ﾘｻｲｸﾙ法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な措置を講ずる。 工事契約後に明らかになったやむを得ない事情により、予定した条件によりがたい場合は、監督職員と協議する。

工程ごとの作業内容

	工　程	作　業　内　容
工程ごとの作業内容	①　造成等	造成等の工事 ・有　⊙無
	②　基礎・基礎ぐい	基礎・基礎ぐいの工事 ⊙有　・無
	③　上部構造部分・外装	上部構造部分・外装の工事 ⊙有　・無
	④　屋根	屋根の工事 ⊙有　・無
	⑤　建築設備	建築設備・内装等の工事 ⊙有　・無
	⑥　その他 （　外構　）	その他の工事 ⊙有　・無

⊙本工事は、建設ﾘｻｲｸﾙ法等の対象工事外であるが分別解体等及び特定建設資材の再資源化等について適切な措置を講ずる。

特定建設資材

廃棄物の種類	施設名称	所　在　地	搬出距離
・ｺﾝｸﾘｰﾄ塊			
・ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ塊			
⊙建設発生木材	㈲鳥栖環境開発総合ｾﾝﾀｰ	鳥栖市轟町929-2	約3km
⊙建設発生土	㈲ｶｰ・ｾﾚｸﾄ	三養基郡上峰町大字坊所字三本松	約5km

上記に示す受入れ施設は参考であり、実施にあたっては関係法令を遵守し、適切な処理を行うものとする。なお、処分場の決定に当たっては監督職員と協議をすること。
・再生資源利用計画書および実施書は、建設副産物情報交換システム（ｺﾞﾐﾘｽ）にて作成し提出すること。

特定建設資材以外

廃棄物の種類	施設名称	所　在　地	搬出距離
・			
・			
・			
・			

上記に示す受入れ施設は参考であり、実施にあたっては関係法令を遵守し、適切な処理を行うものとする。なお、処分場の決定にあたっては監督職員と協議をする

③　品質計画　施工計画書で工法を定める場合の風圧力の計算　(1.1.2)
基準風速（ V0 ）　（　34　）m/s
地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　⊙Ⅲ　・Ⅳ
・上記風圧力の1.3倍の風圧力に対する安全性を確保する
・上記風圧力の1.15倍の風圧力に対する安全性を確保する
適用工種　・ALCﾊﾟﾈﾙ(外壁、屋根)　・押出成形ｾﾒﾝﾄ板(外壁)
・外壁石張(乾式)　・外装材(断熱工法)
・長尺金属板葺　・折板葺
・アルミ笠木　・ガラスブロック
・シート防水(機械式)　・屋上緑化システム
・（　　）

④　設計GL　※図示による　・現状地盤の平均高さとし、監督職員の指示による

⑤　設備工事との取り合い　施行範囲　別表-1による　(1.1.7)
施工図等　設備機器の設置、取合い等が検討のできる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける

⑥　材料の品質等　同等以上の材料・機材等の使用　(1.4.2)
本工事に使用する材料・機材等は設計図書に定める品質及び性能と同等以上のものを使用する。
ただし、製造業者が記載されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。
材料・機材等の品質及び性能
本工事に於いて別表-2に示す材料を使用する場合の材料・機材等の製造業者等は次の(1)から(6)すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける
1)　品質及び性能に関する試験データを整備していること
2)　生産施設及び品質の管理を適切に行っていること
3)　安定的な供給が可能であること
4)　法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること
5)　製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
6)　販売、保守等の営業体制を整えていること

⑦　環境への配慮　(1.4.1)
本工事の建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の1)から4)を満たすものとする
1)　合板、木質系ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、構造用ﾊﾟﾈﾙ、集成材、単板積層材、MDF、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ、その他の木質建材、ﾕﾘｱ樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩材、断熱材、塗料、仕上塗材は、ﾌｫﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量」の区分に応じた材料を使用する
2)　接着剤及び塗料はﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ及びｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝの含有量が少ない材料を使用する
3)　接着剤は可塑剤(ﾌﾀﾙ酸ｼﾞｰnｰﾌﾞﾁﾙ及びﾌﾀﾙ酸ｼﾞｰ2ｰｴﾁﾙﾍｷｼﾙ等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する
4)　1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする

また、設計図書に規定する「ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量」は、次の通りとする
規制対象外
①　建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ発散建築材料以外の材料
②　建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
第三種品
①　建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ発散建築材料
②　建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通
ｱｽﾍﾞｽﾄ含有建材
本工事に使用する材料については、ｱｽﾍﾞｽﾄを含有しないものとする
公共工事の配慮事項
ｸﾞﾘｰﾝ購入法（平成12年法律第100号）に基づく環境物品等の調達の推進に関する基本方針における公共工事の配慮事項に留意すること
（基本方針一部抜粋）２１．公共工事の【配慮事項】資材の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること

⑧　化学物質の濃度測定　⊙行う　・行わない　(1.5.9)
施工完了時に室内空気中のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ｽﾁﾚﾝの濃度を測定し、監督職員に報告すること。
1) 測定方法　※ﾊﾟｯｼﾌﾞ型採取機器　・ｱｸﾃｨﾌﾞ型採取機器
2) 測定対象室　※仕上表による　・対象室名（　　）
3) 測定箇所数　※仕上表による　・
注）測定ﾊﾟｯﾁはﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ用と、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ｽﾁﾚﾝ用の2種類を用いる

9　特別な材料の工法及び新工法　標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法及び新工法は、以下のいずれかによるものとし、監督職員と協議すること
①　NETISで認定された工法
②　公的機関の実験等により確認された工法

⑩　技能士　(1.5.2)
※本工事に必要な作業及びその作業に従事する職種について適用する。
ただし、これにより難い場合は監督職員と協議すること。
※技能士の資格を証明する資料を監督職員に提出すること。

適用工事種類	職　種	技能検定作業
仮設工事	とび	⊙とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	⊙鉄筋組立て作業
コンクリート工事	型枠施工	・型枠工事作業
防水工事	防水施工	⊙ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業 ・ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ⊙ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業
木工事	建築大工	・大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	⊙内外装板金作業
金属工事	内装仕上げ施工	⊙鋼製下地工事作業
左官工事	左官	⊙左官作業
建具工事	建具製作	⊙木製建具手加工作業 ・木製建具機械加工作業
	ガラス施工	⊙ｶﾞﾗｽ工事作業
塗装工事	塗装	⊙建築塗装作業
内装工事	内装仕上げ施工	⊙ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業 ・ﾎﾞｰﾄﾞ仕上げ工事作業
	表装	・表具作業　・壁装作業
	畳製作	・畳製作作業
排水工事	配管	⊙建築配管作業
植栽工事	造園	・造園工事作業

⑪　建設機械等
※建設機械を使用する場合は、排出ｶﾞｽ対策型建設機械等を使用すること
※建設工事に伴う騒音振動対策技術指針に基づき、低騒音型・低振動型建設機械を使用すること
※建設機械を使用しないときは、エンジンを停止するなど建設機械の稼働時間の抑制に努めること
※そのほか土木工事等共通仕様書(佐賀県県土整備部)「第1章第41節 環境対策」による

② 仮設工事

①　足場その他　(2.2.4)
※定置する足場、作業構台等は、関連工事等の関係者に無償で使用させる

②　監督員事務所　・設ける　※設ない　(2.3.1)
面積規模（　　）㎡程度
監督職員ｽﾍﾟｰｽと工事監理業務の職員ｽﾍﾟｰｽは間仕切壁等で仕切る
監督職員事務所の仕上げ

部位等	仕上げ
床	合板張り又はﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ貼り
内壁、天井	合板又は石膏ﾎﾞｰﾄﾞ張り、合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り
屋根	塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り、調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り

（現場事務所）
※現場事務所内に監督職員閲覧ｽﾍﾟｰｽを設け、施工計画書等を備えること

③　工事用水　構内既存の施設　⊗利用できる(⊗有償　・無償)　・利用できない

④　工事用電力　構内既存の施設　・利用できる(※有償　・無償)　⊗利用できない

⑤　指定仮設等　指定仮設の範囲（種類、箇所、規格、数量を明示）
⊗図示
上記に該当しない仮設については、全て任意仮設とし、請負者の創意工夫により施工すること。施工にあたっては、施工計画書に工法・数量等を明示し、監督職員に提出すること。
なお、任意仮設のため、仮設工法の変更に伴う数量変更や工期変更は行わない。

③ 土工事

①　埋戻し及び盛土　種別　・A種　⊙B種　・C種　・D種　(3.2.3)(表3.2.1)
C種の場合
（発生場所：　　）
（連絡先　：　　）
（運　搬　：・発生原因者側　・本工事　km　）

②　建設発生土の処理
・構内指示の場所(・敷きならし　・たい積)
受け入れ施設　（ (株) 篠原建設等　　）
受け入れ場所での処置　（ ・敷きならし　※たい積 ）
搬出距離　（　～10　）Km
処分費　・有償　・無償
上記に示す受入れ場所・距離は参考であり、実施にあたっては監督職員と協議のうえ決定する
・構内指示の場所　※図示　・(　　)
・処理方法　（ ・敷きならし　※たい積 ）
⊙構外自由搬出

4～7　特記仕様書（構造関係による）
4章　地業工事
5章　鉄筋工事
6章　コンクリート工事
7章　鉄骨工事

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント工事

1　補強ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造　ブロックの種類等　(8.2.2～5,8)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法 長さ	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法 高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
空洞ブロックC(16)	・120 ・150	※400 ・	※200 ・	・無 ・有		
・	・	・	・	・		

各部配筋　※図示　・
モルタルの調合（容積比）
・標準仕様書(表8.2.1)による
・セメント（　　）：砂（　　）
目地仕上げ
・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ
モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲
・図示　・

2　ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ帳壁及び塀　ブロックの種類等　(8.3.2～4)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法 長さ	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法 高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
空洞ブロックC(16)	・120 ・150	※400	※200	・無 ・有		
・空洞ブロック20	・120 ・150	※400	※200	・無 ・有		
・						

塀の厚さ
塀の高さが2m以下　・120　・
塀の高さが2m超え　・150　・
壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　※図示　・
各部の配筋　※図示　・
化粧目地の有無　・無　・有
工法
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ積帳壁の積高さは、壁厚の25倍かつ3500以内とし、その他の部分は同厚の鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造垂壁とする

設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新８号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:1 A3版 1:1.50	佐賀県競馬組合
図面名	特記仕様書（建築新営）その１	設計　年　月　日	１級建築士登録　第　号

図面番号　A-02

8 続き

3 ALCパネル

ALCﾊﾟﾈﾙの区分等 (8.4.2～5)

区分			単位荷重(N/㎡) 正荷量	単位荷重(N/㎡) 負荷量	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火性能	構法の種別
・外壁用	・一般 ・ｺｰﾅｰ	・平 ・意匠			・100 ・	図示による	・○○し ・○○時間	・○○種 ・B種
・間仕切壁用	・一般 ・ｺｰﾅｰ	・平 ・意匠	－	－	・100 ・	図示による	・○○し ・○○時間	・○○種 ・D種 ・○○種
・屋根用	－	－			・100 ・	図示による	・○○分 ・○○時間	・F種
・床用	－	－			・100 ・	図示による	・○○時間 ・○○時間	

パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材 ・( )

外壁、屋根ﾊﾟﾈﾙの構法
１章 適用区分による風圧力の (・1.0 ・1.15 ・1.3) 倍
の風圧力に対応した構法

外壁ﾊﾟﾈﾙ構法及び間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ構法における耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

ﾊﾟﾈﾙ幅の最小限度を300mm未満とする場合
※図示 ・

ﾊﾟﾈﾙ短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁ﾊﾟﾈﾙの出隅及び入隅のﾊﾟﾈﾙ接合部並びにﾊﾟﾈﾙと他部材との取り合い部の目地幅
・10～20mm ・

伸縮調整目地への耐火目地材の充填
・適用する ・適用しない

4 押出成形セメント板 (ECP)

(8.5.2～5)

ﾊﾟﾈﾙの種類	形状		厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	耐火性能
・外壁ﾊﾟﾈﾙ	・F ・D ・T	・F-R ・D-R ・T-R	・50 ・60 ・100	・450 ・600 ・	・○○種 ・B種	・○○分 ・○○時間 ・○○時間
・間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ	・F ・D ・T	・F-R ・D-R ・T-R	・50 ・60 ・100	・450 ・600 ・	・B種 ・○○種	・○○分 ・○○時間 ・○○時間

注）F：ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ、D：ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ、T：ﾀｲﾙﾍﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ、R：ﾛｯｸｳｰﾙ充てん品

外壁、屋根ﾊﾟﾈﾙの構法
１章 適用区分による風圧力の (・1.0 ・1.15 ・1.3) 倍
の風圧力に対応した構法

外壁ﾊﾟﾈﾙ構法及び間仕切壁ﾊﾟﾈﾙ構法における耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

ﾊﾟﾈﾙ幅の最小限度を300mm未満とする場合
※図示 ・

ﾊﾟﾈﾙ相互の目地幅 長辺 ( ) mm 短編 ( ) mm

出隅及び入隅のﾊﾟﾈﾙ接合目地の目地幅
※15 ・

耐火構造以外の目地及び隙間の処理
※ﾊﾟﾈﾙの製造所の仕様 ・

やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出する。

		孔あけ及び欠き込みの大きさ	切断後のﾊﾟﾈﾙの残り部分の幅
ﾊﾟﾈﾙに孔あけを設ける場合	短辺	・ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下	150mm以下
	長辺	・500mm以下	300mm以下
ﾊﾟﾈﾙに欠き込みを設ける場合	短辺	・ﾊﾟﾈﾙ幅の1/2以下、かつ、300mm以下	300mm以下
	長辺	・500mm以下	300mm以下

9 防水工事

1 アスファルト防水

屋根保護防水 (9.2.2～5)(表9.2.3～9)

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート
・A-1 ※A-2 ・A-3			※ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上、又は、ﾌﾗｯﾄｻｰﾝｸﾛｽ70g/㎡程度 ・
・B-1 ※B-2 ・			
・AI-1 ※AI-2 ・AI-3		(種類) ※JIS A 9521に基づく押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材3種bA(ｽｷﾝ層付) ・ (厚さ) ・25mm ・50mm	※ﾌﾗｯﾄｻｰﾝｸﾛｽ70g/㎡程度 ・
・BI-1 ※BI-2			

⊙保護防水絶縁工法 B-1同等(平部:田島ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ ﾚｲﾔｻｰﾙPL-2・BC
立上り:田島ﾙｰﾌｨﾝｸﾞ SLV-T・SF同等品以上)

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.3から標準仕様書表9.2.4による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ・
厚さ ( ) mm以上

部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5から標準仕様書表9.2.6による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ・
厚さ ( ) mm以上

立上り部への断熱材及び絶縁用ｼｰﾄ ⊙設置しない ・設置する

平場の保護ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ
こて仕上げ ※水下80mm以上 ・
床ﾀｲﾙ張り ※水上80mm以上 ・

立上り部の保護
・乾式保護材
窯業系ﾊﾟﾈﾙⅠ類 厚さ ( ) mm
幅 ( ) mm
(品質・性能・試験方法) 建築材料等品質性能表による
・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え
・れんが押え (・JIS A 1250 ・)
・ﾓﾙﾀﾙ押え (屋内等)

屋根露出防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗材	脱気装置
・D-1 ・D-2			(種類) ・製造所の仕様 ・	(種類) ※製造所の指定 ・
・DI-1 ※DI-2		標準仕様書9.2.2(9) (種類) ・ (厚さ) ※25mm ・	(使用量) ※製造所の仕様 ・	(接地数量) ※製造所の指定 ・

高日射反射率防水の適用 G ・適用する ・適用しない

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.8による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ・
厚さ ( ) mm以上

部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.7から標準仕様書表9.2.8による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ・
厚さ ( ) mm以上

絶縁断熱工法の場合の、ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
※図示 ・

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層 ・設ける (※図示 ・)
・設けない

E-1の工程3を行う部位 ・貯水槽、浴室等常時水に接する部位
・

防水層下地の立上り
※コンクリート打放し仕上げ
標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種
・

押え金物の材質及び形状 ※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 L-30×15×2.0mm程度
・

防水層の下地のﾓﾙﾀﾙ塗り
・適用する (施行範囲 ・図示 ・)
・適用しない

屋根排水溝 ※図示 ・

施行標識 ※監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける

2 改質ｱｽﾌｧﾙﾄシート防水

防水層の種別 (9.3.2、3)(表 9.3.1～3)

種別	施工箇所	断熱材	防湿層	仕上塗料
・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-T3 ・AS-T4				(種類) ※製造所の仕様 ・ (使用量)
・AS-J1				
・ASI-T1 ・ASI-J1		標準仕様書9.3.2(3)(ｳ) (種類) ・ (厚さ) ※25mm ・50mm	・設ける (製造所の仕様) ・設けない	※製造所の仕様 ・

高日射反射率防水の適用 G ・適用する ・適用しない

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ・
厚さ ( ) mm以上

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ・
厚さ ( ) mm以上

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分 ・
材料による区分 ・
厚さ ( ) mm以上

押え金物
※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 L-30×15×2.0(mm)程度 ・

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ・ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定 ・
設置数量 ・ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の指定 ・

施工標識
※監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける

3 合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水

防水層の種別 (9.4.2～4)(表 9.4.1～3)

種別	施工箇所	可塑剤移行防止ｼｰﾄの材質	断熱材	S-F1 S-M1 SI-F1 SI-M1の仕上塗料
・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M3				(種類) ・製造所の仕様 ・ (使用量)
・SI-F1 ・SI-F2			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(b) (種類) ・ (厚さ) ※25mm ・	・製造所の仕様
・SI-M1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(a) (種類)	
・SI-M2		・発泡ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ ・	(厚さ) ※25mm ・	

高日射反射率防水の適用 G ・適用する ・適用しない

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様
・非歩行仕様 ・軽歩行仕様

SI-M1及びSI-M2における防湿ﾌｨﾙﾑの設置
・設ける ・設けない

S-M2又はSI-M2の立上り部の工法
・接着工法 (立上り面のｼｰﾄ厚さ ※1.5mm ・)
・機械的固定方法

屋内防水
防水層の種別

種別	施工種別	保護層 平場のﾓﾙﾀﾙ塗り厚	保護層 立上り部の保護ﾓﾙﾀﾙ塗り厚
・S-C1			・7mm以下 ・

平場のﾓﾙﾀﾙ塗りにおける床の目地割及び種類
目地割 ・目地割2㎡程度、最大目地間隔3m程度
・
目地の種類 ・押し目地 ・

ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による
・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ
種類 ・ 厚さ ・( )mm以上

固定金具の材質及び寸法形状
※防錆処理した鋼板、ｽﾃﾝﾚｽ鋼板及びそれらの鋼板の片面又は両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上
・図示

接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の指定 ・
設置数量 ・ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の指定 ・

接着工法の場合のﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ部材下地の目地処理
・行う (・図示 ・)
・行わない

ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ部材の入隅部の増張り (S-F1、SI-F1の場合)
・行う (・図示 ・)
・行わない

機械的固定工法の場合の一般部のﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの張付け
1章 適用区分による風圧力の (・1.0 ・1.15 ・1.3)
の風圧力に対応した工法

施工標識
※監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける

設計変更年月日 1回 年 月 日 2回 年 月 日 3回 年 月 日	1級建築士 内田 要 大臣登録 第189294号 株式会社渋江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目3番50号 TEL 0952-24-7211	工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事 図面名 特記仕様書（建築新営）その2	縮尺 A1版 1:1 A3版 1:1.50 設計 年 月 日	佐賀県競馬組合 1級建築士登録 第 号	図面番号 A-03

⑨ 続き

4 塗膜防水

防水層の種別 (9.5.3)(表 9.5.1、2)

種別	施工箇所	仕様塗材 種類	仕様塗材 使用量	保護層
・X-1		※ 主材料の製造所の仕様 ・	※ 主材料の製造所の仕様 ・	
・X-2		※ 主材料の製造所の仕様 ・	※ 主材料の製造所の仕様 ・	
・Y-1	※ 地下外壁防水 ・			
・Y-2	※ 屋内防水 ・			・適用する ・適用しない

高日射反射率防水の適用 G ・適用する ・適用しない

ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ・主材料の製造所の仕様 ・
設置数量 ・主材料の製造所の仕様 ・

ｺﾞﾑｱｽﾌｧﾙﾄ系塗膜防水Y-1、Y-2の工程数及び各工程の使用量
・主材料の製造所の仕様 ・

施工標識
・監督職員と表示内容を協議し、指示の位置に標識を取り付ける

5 ｹｲ酸質系塗布防水

防水層の種別 (9.6.1～4)(表9.6.1)

種別	施工場所	種別	施工箇所
※C-UI		・C-UP	

防水層の下地
壁 (※ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ(表6.2.4 B種) ・)
天井部 (※ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し仕上げ(表6.2.5 B種) ・)

下地処理
ｺﾝｸﾘｰﾄの打継ぎ箇所の処理
※ 打継ぎ部分に対し、幅30mm及び深さ30mm程度の目地棒を用いる。
目地棒除去後、水洗い清掃し、ｹｲ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙを充填する。
・図示 ・

型枠締付け材にｺｰﾝが使用されている部位及び防水材の塗布面以外の下地処理
・図示 ・

⑥ ｼｰﾘﾝｸﾞ

下表以外は、標準仕様書表 9.7.1による (9.7.2)(表 9.7.1)
ただし、外壁ﾀｲﾙ接着剤張りの場合のｼｰﾘﾝｸﾞは11章に、ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙの場合のｼｰﾘﾝｸﾞは17章による

施工箇所	ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類（記号）
図示	

仕上げを行わない施工箇所
・図示 ・

ｼｰﾘﾝｸﾞ材の目地寸法
※ 標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による
・

接着性試験
※ 簡易接着性試験 ・引張接着性試験

7 保証

※ 防水工事については、10年間の施工保証とし、保証書は元請業者と施工業者の連名とすること
・防水工事については、 ( ) 年間の施工保証とし、保証書は元請業者と施工業者の連名とすること

10 石工事

1 施工

石材の割付け ・図示 (10.1.3、5)

粗面仕上げの場合ののみ込み部分の仕上げ ・図示 ・

屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ
・行う (適用場所 ・すべて ・)
・行わない

2 石材等

天然石 (10.2.1、3)(表 10.2.1、2)

施工場所	等級	岩石の種類	形状	寸法 mm	厚さ mm	表面仕上げ
	・1等品 ※2等品		※ 正方形に近い矩形	・図示	・図示	・粗磨き ・本磨き
	・1等品 ・2等品				・図示	

ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げの有無 ・あり ・なし

ﾃﾗｿﾞﾌﾞﾛｯｸ

施工場所	種石の種類	種石の大きさ	形状	仕上げ面	寸法 mm	表面仕上げ
	※ 大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・平もの ・役もの ・	・片面 ・両面	・図示	
	※ 大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面	・図示	

ﾃﾗｿﾞﾀｲﾙ

施工場所	種石の種類	種石の大きさ	寸法による区分	表面仕上げ
	※ 大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・300型 ・400型 ・	
	※ 大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・300型 ・400型	

取り付用ﾓﾙﾀﾙ、既調合の目地ﾓﾙﾀﾙ、石裏面処理材、裏打ち処理材
※ 石材施工業者の指定する製品 ・

3 外壁湿式工法

石裏面処理 ・適用する ・適用しない (10.2.2、3)(10.3.2、3)
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない

下地ごしらえ ※流し筋工法 ・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー,横筋横流し工法

受金物 材質 ※SUS304 ・
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 L=150mm
・

ﾄﾞﾚｲﾝﾊﾟｲﾌﾟの材質 ・樹脂ﾈｯﾄ製ﾊﾟｲﾌﾟ ｸﾛｽﾒｯｼｭ巻き 25～35φ
・

ｱﾝｶｰの材質及び径 ※SS400 M12 ・

あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )

目地
一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書11.1.1による ・図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による
・図示

受金物 材質 ※SUS340 ・
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 L=150mm
・

石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない

下地ごしらえ ※あと施工アンカー,横筋横流し工法
・あと施工アンカー工法

ｱﾝｶｰの材質及び径 ※SS400 M12 ・

あと施工ｱﾝｶｰの材質及び寸法 ( )

目地
一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※6m程度ごと ・図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による
・図示

5 外壁乾式工法

(10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
・図示 ・標準仕様書表10.2.4による
(方式 ・ｽﾗｲﾄﾞ方式 ・ﾛｯｷﾝｸﾞ方式)

石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない

だぼ用の穴の位置 ・標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による
・図示

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
1章 適用区分による風圧力の (・1.0 ・1.15 ・1.3)
の風圧力に対応した工法

ｱﾝｶｰの材質及び形状
※ ｽﾃﾝﾚｽ (SUS304) M10 ・

あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )

目地
目地幅(mm) ※8以上

ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・適用する (※標準仕様書9章7節による ・図示)
・適用しない

6 床及び階段の石張り

(10.6.2～3)
透水性吸収防水材 床石張り ・適用する ・適用しない

床石張りの裏面処理 床石張り ・適用する ・適用しない
階段張り ・適用する ・適用しない

階段張りの裏面処理 床石張り ・適用する ・適用しない

目地
一般目地 目地幅(mm) 屋外 ・
屋内 ・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他部材との取り合い部
・図示

7 笠木、甲板等の石張り

(10.2.2) (10.7.1～3)
取付け工法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法

特殊部位用金物
材質 ・SUS304
寸法等
引金物 ・標準仕様書10.2.2(1)(ｱ)による ・
だぼ ・標準仕様書10.2.2(1)(ｱ)による ・
かすがい ・標準仕様書10.2.2(1)(ｱ)による ・
受金物 ・標準仕様書10.2.2(1)(ｲ)による ・

乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
ﾌｧｽﾅｰ ・図示 ・標準仕様書表10.2.4に準ずる
(方式 ・ｽﾗｲﾄﾞ方式 ・ﾛｯｷﾝｸﾞ方式)

石裏面処理 ・適用する ・適用しない

乾式工法の場合の取付け代 ※標準仕様書10.5.3(2)による
・

石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない

ｱﾝｶｰの材質及び径 ・ｽﾃﾝﾚｽ(SUS304) M10 ・

あと施工ｱﾝｶｰの材質及び寸法
種類 ・
材質 ・
寸法 ・

目地（湿式工法）
一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書11.1.1による ・図示
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による
・図示

目地（乾式工法）
目地幅(mm) ※8以上
ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・適用する (※標準仕様書9章7節による ・図示)
・適用しない

⑪ タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置 ※標準仕様書表11.1.1による ・図示 (11.1.3)(表11.1.1)

目地寸法 ※標準仕様書9.7.3による ・

② ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙによるﾀｲﾙ張り

ﾀｲﾙの形状、寸法等 (11.2.2、3、7)

施工箇所	種類	形状/寸法 mm	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材適用	耐凍害性 有	無	耐滑り性
壁 2階玄関	JIS A 5209	100角	⊙	・	・	⊙	・	・	⊙	⊙	・	・	・	・	⊙
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

試験張り ・行う ※行わない

見本焼き ・行う ※行わない

下地ﾓﾙﾀﾙ塗りを行うｺﾝｸﾘｰﾄ素地面の処理
・MCR工法 ・目荒し工法（高圧洗浄） ・

壁ﾀｲﾙ張りの工法
内装ﾀｲﾙ ・密着張り ・改良圧着張り
外装ﾀｲﾙ ※密着張り ・改良圧着張り
内装ﾀｲﾙ以外のﾕﾆｯﾄﾀｲﾙ ・ﾏｽｸ張り ・ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ張り

既製調合ﾓﾙﾀﾙ
ﾓﾙﾀﾙ下地としたﾀｲﾙ工事に使用する張付け用ﾓﾙﾀﾙとして、ｾﾒﾝﾄ、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

（品質・性能・試験方法） 建築材料等品質性能表による

3 有機系接着剤によるﾀｲﾙ張り

ﾀｲﾙの形状、寸法等 (11.3.2～4、7)

施工箇所	種類	形状/寸法 mm	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材適用	耐凍害性 有	無	耐滑り性
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

試験張り ・行う ※行わない

見本焼き ・行う ※行わない

接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F☆☆☆☆ ・

目地のｼｰﾘﾝｸﾞ材
打継ぎ目地 ※ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・
ひび割れ誘発目地 ※変成ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・
伸縮調整目地 ※変成ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・
その他目地 ※変成ｼﾘｺｰﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・

下地調整塗材塗りを行うｺﾝｸﾘｰﾄ素地面の処理
・MCR工法 ・目荒し工法（高圧洗浄） ・

4 階段滑り止め

※磁器製 ( )
・ ( )

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版 1:1 A3版 1:1.50
図面名	特記仕様書（建築新営）その3	設計	年 月 日

佐賀県競馬組合
1級建築士登録 第 号

図面番号 A-04

⑫ 木工事

① 表面仕上げ

(12.1.4)

表面仕上げの種別		適用箇所
機械加工	⊙A種	見切り枠・建具枠
	・B種	
	・C種	
手加工	・H-A種	
	・H-B種	
	・H-C種	

② 材料

現場搬入時の木材の含水率　※A種　・B種

保存処理木材　・使用する　（　仕様樹種　：　　）
間伐材等　・使用する　（　仕様樹種　：　　）

③ 産地等

・県産木材　※使用する　（　仕様樹種　：すぎ・ひのき　）
・さがの木　※使用する　（　仕様樹種　：　　）
・地域材　※使用する　（　仕様樹種　：県産木材以外　）

・県産材製材品（板材）の規格

施工箇所	働き幅×厚さ×長さ	樹種	等級	加工形状	
床材	135×20×1,950	すぎ	節有り	四面本実	ｴﾝﾄﾞﾏｯﾁ
内壁材	105×12×1,950	すぎ	節有り	本実	小口ｶｯﾄ無
	105×12×1,950	すぎ	節有り	本実	目透し・小口ｶｯﾄ無
外壁材	135×20×3,950	すぎ	節有り	相決り	小口ｶｯﾄ無
	135×20×3,950（被り20）	すぎ	節有り	鎧張り	裏加工・小口ｶｯﾄ無

4 製材 G

(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

・JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用針葉樹製材

施工箇所	寸法 mm	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※2級・	※A種・B種	・	・
		※2級・	※A種・B種	・	・

・JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用針葉樹製材

施工箇所	寸法 mm	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え掛り面		※上小節・	※A種・B種	・	・
見え掛り面以外		※小節以上・	※A種・B種	・	・

・JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法 mm	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※1等・	※10%以下・	・	・
				・	

・JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法 mm	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		・（造作材の場合）・A種　・B種	・適用する	※A種・B種	・

⑤ 造作用集成材 G

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※規制対象外　・　(12.2.1)

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	品名	樹種	寸法 mm	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
⊙図示					※1等・2等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	樹種	寸法 mm	化粧薄板の厚(mm)	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
		・化粧薄板・芯材				※1等・2等	・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 mm	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15%以下	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法 mm	化粧薄板の厚(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	・化粧薄板・芯材				※15%以下	・

6 造作用単板積層材 G

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※規制対象外　・　(12.2.1)

・JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法 mm	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
			・有り　・天然木加工・塗装加工 ・無し（等級　：　）	・適用する・適用しない	・

・JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法 mm	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
			・有り・天然木加工・塗装加工 ・無し（　）	・適用する・適用しない	※14%以下	・

・JAS0306に基づく直行集成板（CLT）

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能	樹種	寸法	間伐材等の適用
							・

⑦ 合板等

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※規制対象外　・F☆☆☆☆

・「合板の日本農林規格」による普通合板

施工箇所	品名	厚さ mm	単板の樹種	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
		※5.5・	・しな・ﾗﾜﾝ	※1類・2類	広葉樹※2等以上・1等 針葉樹※C-D以上・	・適用する・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	厚さ mm	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
⊙図示	※12・	※2級以上・1級		※1類・特類	※C-D以上	・適用する・適用しない	・	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	品名	厚さ mm	単板の樹種	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
				・1類・特類	・適用する・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	厚さ mm	化粧板に使用する単板の樹種	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			・1類・2類	・適用する・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	品名	厚さ mm	接着の程度	単板の樹種	化粧加工の方法	防虫処理
						・適用する・適用しない

⊙ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ

施工箇所	厚さ mm	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分
	※15 ⊙20		※13ﾀｲﾌﾟ・	※P又はM・	

・JAS 0360に基づく構造用ﾊﾟﾈﾙ

施工箇所	品名	寸法（mm）

・MDF

施工箇所	厚さ mm	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	間伐材等の適用

⑧ 接合具等

造作材の化粧面の釘打ち　(12.2.2)
⊙隠し釘打ち　・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち　・釘頭現し

諸金物
・かすがい、座金、箱金物、短冊金物
（標準仕様書表12.2.3～5に示す程度の市販品 表14.2.2のF種程度）
・
（　形状　：　寸法　：　材質　：　）

⑨ 接着剤

接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。　(12.2.2、3)

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量　※F☆☆☆☆　・

10 防腐・防蟻・防虫処理

・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材　(12.3.1、2)
適用部位　：（　）

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法	薬剤の種類
	※標準仕様書12.3.1(ｲ)(b)・	・JIS K 1571に適合又は同等品
	・	・

・薬剤の接着材への混入による防腐、防蟻処理
適用部位　：（　）

・合板の加圧注入処理の適用
適用部位　：（　）

・防虫処理　・行う　・行わない

⑪ 床板張り

木材（ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞは標準仕様書19章5節による）　(12.6.1～2)
※県産木材(板材)　・

12 壁及び天井下地

木材　壁仕上げ　※県産木材（板材）　・図示　(12.7.1～2)
壁仕上げ以外　※図示　・

⑬ 屋根及びとい工事

① 長尺金属板葺

施工場所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性めっき付着量等の種類及び記号	厚さ mm	屋根葺形式
⊙図示	※JIS G 3322の屋根用ｺｲﾙ(CGLCCR-20-AZ150)・			・心木なし瓦棒葺 ⊙立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ⊙ﾀﾃﾊﾞﾋﾞ葺き(嵌合式)

下葺材料
※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ940
・改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ下葺材
（　・一般ﾀｲﾌﾟ　・複層材ﾀｲﾌﾟ　・粘着層付ﾀｲﾌﾟ　）

工法
1章 適用区分による風圧力の　（　・1.0　・1.15　・1.3　）
の風圧力に対応した工法

雪止め　・設置する（図示）

2 折板葺

(13.2.2)(13.3.2、3)(表 13.2.1)

施工場所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分 山高	山ﾋﾟｯﾁ	耐久による区分	材料による区分	厚さ mm	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形※はぜ締め形・かん合形			（　）種	※鋼板製・ｱﾙﾐﾆｳﾑ・合金板製		・有り・無し	・30分・無し

材料　※JIS G 3322の屋根用コイル（CGLCCR-20-AZ150）
・（　）

断熱材　・有り　種別　：
厚さ(mm)　：
耐火性能
・無し

ﾀｲﾄﾌﾚｰﾑにJIS G 3302以外の鋼材を直接外気の影響を受けないで屋外で使用する場合の表面処理
（　標準仕様書表14.2.2による　・E種　・F種　）

折半のけらば納め　※けらば包みによる方法

工法
1章 適用区分による風圧力の　（　・1.0　・1.15　・1.3　）
の風圧力に対応した工法

3 粘土瓦葺

(13.4.2、3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	産地	役物瓦の種類	雪留め瓦
						・適用する・適用しない

桟瓦の防災瓦の使用　・適用する　・適用しない

JIS A 5208に基づく凍害試験等　・行う　・行わない

瓦桟木　材質　・杉　・
寸法　・幅21mm×高さ15mm以上　・

棟補強用心材　材質　・杉　・
寸法　・幅40mm×高さ30　・

瓦緊結用釘及びねじ
種類　（　）　径　（　）　長さ　（　）

棟補強等に使用する金物等
材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状、寸法及び留付け方法　・図示　・

工法
1章 適用区分による風圧力の　（　・1.0　・1.15　・1.3　）
の風圧力に対応した工法

風耐力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等　・図示　・

瓦桟木の留付け工法　・図示　・

棟の工法　・7寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟
・のし積み棟

設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

1級建築士　内田　要
大臣登録　第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:1 A3版 1:1.50	佐賀県競馬組合
図面名	特記仕様書（建築新営）その4	設計　年　月　日	1級建築士登録　第　号

図面番号 A-05

⑬ 続き

④ といい

といの材種 (13.5.2、3)(表 13.5.4)

種別	材質	径	施工箇所	備考
たてどい	・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	φ75		
	・配管用鋼管			
	・ｽﾃﾝﾚｽ鋼管			SUS304
	⊙硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(ｶﾗｰ)	Φ75・Φ100	⊙図示	
軒どい	⊙硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(ｶﾗｰ)角型(前高165)			

防露材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※F☆☆☆☆ ・

鋼管製といの防露巻き
・適用する (工法 ※標準仕様書表13.5.4による ・)
・適用しない

といい受金物
材種 ※ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）
・標準仕様書表13.5.2による（溶融亜鉛めっき）
形状 ※市販品（とい径100以下） ・
※25×4.5以上（とい径100を超えるもの）
取付間隔 ・標準仕様書表13.5.2による

足金物
材種 ※ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）
・標準仕様書表13.5.2による（溶融亜鉛めっき）
形状 ※市販品 ・
取付間隔 ・標準仕様書表13.5.2による

多雪地域 ・適用しない ・適用する

ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ (13.5.2)(表 13.5.3)

種別		呼び	施工箇所	材種
・ろく屋根用たて形	・ねじ込み式	・80 ・100 ・125		
	・	・150		
・ろく屋根用よこ形	・ねじ込み式	・80 ・100 ・125		
	・	・150		
・ﾊﾞﾙｺﾆｰ用	・ねじ込み式	・50 ・80 ・100		
	・差し込み式	・50 ・75 ・100		
・ﾊﾞﾙｺﾆｰ中継用	・ねじ込み式	・50 ・80 ・100		
	・差し込み式	・50 ・75 ・100		

⑤ 保証

※金属屋根工事については、10年間の施工保証とし、保証書は元請業者と施工業者の連名とすること

⑭ 金属工事

1 ｽﾃﾝﾚｽの表面仕上げ

(14.2.1)

種類	施工箇所（手すり、ﾀﾗｯﾌﾟ、建具以外）
※ﾍﾌﾗｲﾝ（HL）程度	
・鏡面仕上げ	
・No.2B程度	

2 ｱﾙﾐﾆｳﾑ及びｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の表面処理

(14.2.2)(表 14.2.1)

種別	色合い等	施工箇所（成形版、笠木、建具以外）	備考
	・標準色 ( )		
	・特注色 ( )		

陽極酸化皮膜の着色方法
※二次電解着色 ・三次電解着色

3 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.3)(表 14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所（手すり、ﾀﾗｯﾌﾟ以外）
溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

④ 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類
屋外 ※25形 ・19形
屋内 ※19形 ・19形

⊙屋外の軒天井、ﾋﾟﾛﾃｨ天井等
野縁受、吊りﾎﾞﾙﾄ及びｲﾝｻｰﾄの間隔 ・900程度 ・( )
周辺部の端からの間隔 ・図示 ・
野縁の間隔 ・300程度 ・( )

・吊りﾎﾞﾙﾄの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ※図示 ・

⊙天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
補強方法 ※標準仕様書14.4.4(8)による ・図示

・天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法 ※図示 ・

・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所 ・図示 ・
補強方法 ・図示 ・

・屋外の軒、ﾋﾟﾛﾃｨｰ等の天井における耐風圧性を考慮した補強
(1 一般共通事項の品質計画による)
補強箇所 ・図示 ・
補強方法 ・図示 ・

耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

屋外の軒天上、ﾋﾟﾛﾃｨ天井等の工法
1章 適用区分による風圧力の (・1.0 ・1.15 ・1.3)
の風圧力に対応した工法

⑤ 軽量鉄骨壁下地

ｽﾀｯﾄﾞ、ﾗﾝﾅｰの種類 (14.5.3～4)(表 14.5.1)
※標準仕様書表14.5.1によるｽﾀｯﾄﾞの高さによる区分に応じた種類
・図示

ｽﾀｯﾄﾞの高さが5.0mを超える場合
※図示 ・

出入口及びこれに準ずる開口部の補強
・標準仕様書表14.5.4(5)による ・

6 金属成形板張り

(14.6.2、3)(表 14.2.1)

種別	製法	形状	板幅 mm	寸法 mm	厚さ mm	表面処理 種別	表面処理 色合い等
※ｱﾙﾐﾆｳﾑ	※押出し ・ﾛｰﾙ ・ﾌﾟﾚｽ ・	・ﾌﾗｯﾄ ・目地有 ・目地無 ・凹凸 ・	※100 ・		※1.0		
・							

取付け用下地 ※標準仕様書14.4による ・図示

伸縮調整継手 ・設ける (施工箇所 ・図示 ・)
・設けない

屋外の軒天上、ﾋﾟﾛﾃｨ天井等の工法
1章 適用区分による風圧力の (・1.0 ・1.15 ・1.3)
の風圧力に対応した工法

⑦ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製笠木

(14.7.2、3)(表 14.2.1)(表 14.7.1)

施工箇所	種類	製品幅	呼称 肉厚	表面処理 種別	表面処理 色合い等
	・押出し250形	※240,250	※1.6以上	・	・標準色
	・押出し300形	※300	※1.8以上		( )
	・押出し350形	※350	※2.0以上		・特注色
	・押出し200形	⊙200	※2.0以上		( )
	・板材折曲げ形	・	※2.0以上		

棟上避雷導体ｼｽﾃﾑ ・無 ・有（実厚2.0以上）

笠木の固定金具の工法等
取付け用下地 ※標準仕様書14.4による 図示

笠木の固定金具の工法等
1章 適用区分による風圧力の (・1.0 ・1.15 ・1.3)
の風圧力に対応した工法

⑧ 手すり及びﾀﾗｯﾌﾟ

手すり
・ｽﾃﾝﾚｽ製 SUS304 (14.8.2、3)(20.2.12)
表面処理 ※HL程度 ・No.2B程度 ・
⊙鋼製
表面処理 ※溶融亜鉛めっきC種 ・

ﾀﾗｯﾌﾟ
⊙ｽﾃﾝﾚｽ製 SUS304
ｽﾘｯﾌﾟ止め加工 ・有り ⊙無し
・鋼製
表面処理 ※溶融亜鉛めっき
標準仕様書表14.2.2による種類
・C種 ・

⑮ 左官工事

① ﾓﾙﾀﾙ塗り

ﾓﾙﾀﾙ
⊙現場調合材料
・既調合材料 (材料 :)

既成目地材
・設ける 施工箇所 ( )
形状 (※図示 ・)
・設けない

床目地
⊙設ける 目地割り ※2㎡程度（最大目地間隔3m程度）
・
種類 ※押し目地 ・
・設けない

外装壁ﾀｲﾙ張り下地等の下地ﾓﾙﾀﾙ塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
※適用する ・適用しない

・防水剤
（品質・性能・試験方法） 建築材料等品質性能表による

2 ﾗｽ系下地

ﾗｽ系下地 (15.2.4)
・二層下地通気構法
・単層下地通気構法
換気口部の措置 ・公共木造建築工事標準仕様書11.4.3(2)(ｳ)
・直張りﾗｽﾓﾙﾀﾙ下地
・直張りﾗｽｼｰﾄﾓﾙﾀﾙ下地
・耐力壁、耐火構造、準耐火構造等の指定
( )

建築基準法に基づく耐力壁、耐火構造、準防火構造等の指定
・

ﾗｽの材料
材料記号 ( )
種類 ( )
単面積当たりの質量 ( )

ﾗｽｼｰﾄの材料
ﾗｽ目による区分 ※M
山高、山ﾋﾟｯﾁ、質量及び溶接ﾋﾟｯﾁによる区分
※LS4（建築基準法に基づく耐力壁） ・

ｽﾃｰﾌﾟﾙの形状及び寸法 ・

直張りﾗｽｼｰﾄﾓﾙﾀﾙ下地で建築基準法に基づく耐力壁のﾗｽｼｰﾄの施工
・

3 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ その他のﾎﾞｰﾄﾞ下地

せっこうボード及びせっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞの種類及び厚さ (15.2.5)
種類 ・GB-R ・GB-L ・
長さ ・

木質系ｾﾒﾝﾄ板の種類及び厚さ
種類 ・
長さ ・

4 こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定 (15.2.6)
・指定あり ・指定なし

5 木ずり下地

木ずり用小幅板の種類 (15.2.7)
・杉（心去り材） ・

6 ｾﾙﾌﾚﾍﾞﾘﾝｸﾞ材塗り

・せっこう系 ・ｾﾒﾝﾄ系 (15.5.2)(表15.5.1)

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事
図面名 特記仕様書（建築新営）その５
縮尺 A1版 1:1 A3版 1:1.50
設計 年 月 日
佐賀県競馬組合
１級建築士登録 第 号
図面番号 A-06

15 続き

7 仕上塗材仕上げ

建物内部に使用する塗料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 (15.6.2)
※F☆☆☆☆ ・

仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Si	・	・ゆず肌状
	・外装薄塗材E	・	（・吹付け ・ﾛｰﾗｰ塗り ）
	・可とう形外装薄塗材E	・	・さざ波状 ・平たん状
	・防水形外装薄塗材E	・	・凹凸状
	・外装薄塗材S	・	（・吹付け ・こて塗り ）
	・内装薄塗材C	・	・着色骨材砂壁状
	・内装薄塗材L	・	（・吹付け ・こて塗り ）
	・内装薄塗材Si	・	・砂壁状じゅらく
	・内装薄塗材E	・	・京壁状じゅらく
	・内装薄塗材W	・	吸放湿性 ・適用する ・適用しない 耐湿性 ・適用する ・適用しない
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・	・吹放し ・凸部処理
	・外装厚塗材Si	・	・平たん状 ・凹凸状
	・外装厚塗材E	・	・ひき起こし ・かき落とし
	・内装薄塗材C	・	吸放湿性 ・適用する ・適用しない
	・内装薄塗材L	・	
	・内装薄塗材G	・	上塗材 ・適用する ・適用しない
	・内装薄塗材Si	・	
	・内装薄塗材E	・	
・複層仕上塗材	・複層塗材CE	・	・ゆず肌状 ・凸部処理
	・可とう形複層塗材CE	・	・凹凸模様
	・複層塗材Si	・	耐候性 ・耐候形3種
	・複層塗材E	・	・耐候形2種
	・複層塗材RE	・	・耐候形1種
	・防水形複層塗材CE	・	上塗材
	・防水形複層塗材E	・	溶媒 ※水系 ・溶剤系
	・防水形複層塗材RE	・	樹脂 ※ｱｸﾘﾙ系 ・
			外観 ※つやあり ・つやなし ・ﾒﾀﾘｯｸ
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・	
	・こて塗よう軽量塗材	・	

8 ALCﾊﾟﾈﾙの場合の下地処理

内壁目地部の形状 (15.6.4)
※V形目地付き ・

9 ﾏｽﾁｯｸ塗料塗り

種別 ・A種 (15.7.2)
・B種 （ 仕上材塗り： EP-G ・B種 ・A種 ）

10 せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ塗り

下塗り ・既調合ﾌﾟﾗｽﾀｰ（下塗り用） (15.8.3)
・現場調合ﾌﾟﾗｽﾀｰ（下塗り用）
上塗り ・既調合ﾌﾟﾗｽﾀｰ（上塗り用） ・しっくい塗り

11 ﾛｯｸｳｰﾙ吹付け

ﾛｯｸｳｰﾙﾉﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F☆☆☆☆ ・ (15.12.2、3)
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F☆☆☆☆ ・

吹付け厚さ(mm) ・図示 ・25
色彩 ・着色 ※原色

12 しっくい塗り

しっくい
・既調合材料
色しっくい ・適用する ・適用しない
・現場調合材料

下地
・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ ・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ ・ﾓﾙﾀﾙ塗り
・木ずり ・こまい土壁
・下塗りをせっこうﾌﾟﾗｽﾀｰとし上塗りに使用する場合
・

既調合しっくいの調合
・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ下地 ・標準仕様書表15.10.1 ・
・ﾓﾙﾀﾙ塗り下地 ・標準仕様書表15.10.2 ・
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ下地 ・製造所の仕様による ・

現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
・木ずり下地 ・標準仕様書表15.10.1
・せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ下地、こまい下地 ・標準仕様書表15.10.2
・

既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
・なで切り仕上げ ・ﾊﾟﾀｰﾝ仕上げ

13 こまい壁塗り

のり (15.11.2～5、7、8)
・土壁用ののり ・ふのり ・つのまた
・ぎんなんそう ・粉末海藻
・

・砂壁用ののり ・ふのり ・つのまた
・こんにゃくのり ・にわか
・合成高分子系混和剤 ・

色土
・土物仕上げに用いる土色の種類 （ ）
・大津仕上げに用いる土壁の種類 （ ）

色砂の種類
・天然砂と岩石の砕砂
・人工的に着色、製造したもの

下塗りの調合
・標準仕様書表15.11.2
・

塗厚
・標準仕様書表15.11.8による
・建築基準法に基づく耐力壁のある場合 （ ）

こまい壁の工程
・A種 ・B種

・こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類
・土物仕上げ工法 ・水ごね土物1工法
・水ごね土物2工法
・のりさし土物工法
・ねりごね土物工法
・砂壁仕上げ工法
・切返し仕上げ工法

・こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上げの工法の種類
・普通大津仕上げ工法
・大津みがき仕上げ工法

ちりじゃく
・図示 ・

16 建具工事

1 防火戸

※建具表による ・ (16.1.3)

2 見本の製作等

建具見本の製作 ・行う （ 建具符号 ： ） (16.1.4)
・行わない

建具見本製作の目的等 ・

特殊な建具の仮組 ・行う （ 建具符号 ： ）
・行わない

3 防犯建物部品

・適用する （ ※建具表による ・ ） (16.1.6)
・適用しない

④ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具

性能等級 (16.2.2～5)（表16.2.1～2）
外部に面する建具の種別（ｺﾝｸﾘｰﾄ系下地及び鉄骨下地）
⊙A種 （ 建具符号 ： ※建具表による ・ ）
・B種 （ 建具符号 ： ※建具表による ・ ）
・C種 （ 建具符号 ： ※建具表による ・ ）

外部に面する建具の種別（木下地）
・D種 （ 建具符号 ： ※建具表による ・ ）
・E種 （ 建具符号 ： ※建具表による ・ ）

上記によらない場合
耐風圧性の等級 （ ）
気密性の等級 （ ）
水密性の等級 （ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）

防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
・適用する 遮音性の等級 （ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない

断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ G
・適用する 断熱性の等級 （ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない

枠の見込み寸法 ⊙建具表による ・

ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ・SUS304、SUS340J1L、又はSUS443J1 ・
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ ・HL ・

表面処理
外部に面する建具
種別 ・BB-1種 ⊙BB-2種 （標準仕様書表14.2.1）
着色 ⊙標準色 ・特注色
屋内の建具
種別 ・BC-1種 ⊙BC-2種 （標準仕様書表14.2.1）
着色 ⊙標準色 ・特注色

結露水の処理方法 ※図示 ・水貯め式 ・排水水

工法
水切り板、ぜん板 ※図示 ・
木下地の場合の内付け建具 ・適用しない ・適用する

⑤ 網戸等

(16.2.3)

種類	材種	線径	網目
⊙防虫網	※合成樹脂製 ⊙ｶﾞﾗｽ繊維入り合成樹脂製 ・ｽﾃﾝﾚｽ（SUS316）製	※0.25mm以上 ・	※16～18ﾒｯｼｭ ・
・防鳥網	ｽﾃﾝﾚｽ（SUS304）線材	1.5mm	網目寸法 15mm

6 樹脂製建具

性能等級 (16.2.2、5)（16.3.2～5）（表16.3.1～3）
外部に面する建具の種別（ｺﾝｸﾘｰﾄ系下地及び鉄骨下地）
・A種 （ 建具符号 ： ※建具表による ・ ）
・B種 （ 建具符号 ： ※建具表による ・ ）
・C種 （ 建具符号 ： ※建具表による ・ ）

外部に面する建具の種別（木下地）
・D種 （ 建具符号 ： ※建具表による ・ ）
・E種 （ 建具符号 ： ※建具表による ・ ）

上記によらない場合
耐風圧性の等級 （ ）
気密性の等級 （ ）
水密性の等級 （ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）

防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
・適用する 遮音性の等級 （ ・T-1 ・T-2 ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない

断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ G
・適用する 断熱性の等級 （ ・H-4 ・H-5 ・H-6 ・ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない

外部に面する建具の日射熱取得性の等級 ・

枠の見込み寸法 ・建具表による ・

材料
ｶﾞﾗｽ ※複層ｶﾞﾗｽ（組合せは建具表による） ・
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ ・HL ・

形状及び仕上げ
表面色 ・標準色 ・特注色

工法
水切り板、ぜん板 ※図示 ・
木下地の場合の内付け建具 ・適用しない ・適用する

⑦ 鋼製建具

性能等級 (16.2.2)（16.4.2～4）（表16.4.2）
簡易気密型ﾄﾞｱｾｯﾄ
・適用する （ 建具符号 ・建具表による ・ ）
⊙適用しない

外部に面する建具の耐風圧性
⊙S-4 （ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・S-5 （ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・S-6 （ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・

防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
・適用する 遮音性の等級 （ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
⊙適用しない

断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ G
・適用する 断熱性の等級 （ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
⊙適用しない

耐震ﾄﾞｱ
・適用する 面内変形追随性の等級 （ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
⊙適用しない

耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ・SUS304、SUS340J1L、又はSUS443J1 ・
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ ・HL ・

鋼板類の厚さ ⊙標準仕様書表16.4.2 ・
使用箇所 ⊙図示

標準型鋼製建具の形式及び寸法 ・建具表による ・

8 鋼製軽量建具

性能等級
簡易気密型ﾄﾞｱｾｯﾄ
・適用する
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない (16.2.2)（16.5.2～4）

防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
・適用する 遮音性の等級 （ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない

断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ G
・適用する 遮熱性の等級 （ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない

耐震ﾄﾞｱ
・適用する 面内変形追随性の等級 （ ）
（ 建具符号 ・建具表による ・ ）
・適用しない

耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:1 A3版 1:1.50	佐賀県競馬組合
図面名	特記仕様書（建築新営）その6	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号

図面番号 A-07

⑯ 続き

8　続き

鋼板　※亜鉛めっき鋼板　・ｶﾗｰ鋼板　・ﾋﾞﾆﾙ被膜鋼板　・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　・SUS304、SUS340J1L、又はSUS443J1　・
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ　・HL　・

鋼板の厚さ　※標準仕様書表16.5.1による　・

召合せ、縦小口包み板の材質　・鋼板　※ｽﾃﾝﾚｽ鋼板

9　ｽﾃﾝﾚｽ製建具

性能等級　(16.2.2) (16.4.2) (16.6.2～5)
簡易気密型ﾄﾞｱｾｯﾄ
・適用する
(　建具符号　・建具表による　・　)
・適用しない

外部に面する建具の耐風圧性
・S-4　(　建具符号　・建具表による　・　)
・S-5　(　建具符号　・建具表による　・　)
・S-6　(　建具符号　・建具表による　・　)
・

防音ﾄﾞｱ、防音ｻｯｼ
・適用する　遮音性の等級　(　)
(　建具符号　・建具表による　・　)
・適用しない

断熱ﾄﾞｱ、断熱ｻｯｼ　G
・適用する　遮熱性の等級　(　)
(　建具符号　・建具表による　・　)
・適用しない

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　・SUS304、SUS340J1L、又はSUS443J1　・
ｽﾃﾝﾚｽ製のくつずりの仕上げ　・HL　・

表面仕上げ　・HL程度　・鏡面仕上げ　・

ｽﾃﾝﾚｽ鋼板の曲げ加工
・普通曲げ　・角出し曲げ　(　・a角　・b角　・c角　)

⑩　木製建具

建具材の加工、組立時の含水率　※B種　・A種　(16.7.2～4)(表16.7.1)

建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※F☆☆☆☆　・

⊙ﾌﾗｯｼｭ戸　表面材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
・改修標準仕様書5.7.2(2)(ｲ)(a)による　・

表面材の合板の種類

合板の種類	規格	備考
※普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り (　※ﾗﾜﾝ程度　・　) 不透明塗料塗り (　※しな程度　・　) 板面の品質　(　) 接着の程度　(　・1級　・2級　)	
・天然木 化粧合板	樹名　(　) 接着の程度　(　・1級　・2級　)	
・特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 (　・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装　) 接着の程度　(　・1級　・2級　)	
・MDF		

表面板の厚さ　※標準仕様書表16.7.6による　・

引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用　・適用しない　・適用する

・かまち戸　かまち樹種　(　)
鏡板樹種　(　)
見込み寸法　※36mm　・建具表による　・

・ふすま
張りの種別　(　・Ⅰ型　・Ⅱ型　)
上張り（押入等の裏側以外）　・鳥の子　・新鳥の子又はﾋﾞﾆﾙ紙程度
・押入等の裏側は雲花紙程度
縁仕上　・塗り縁　生地縁（素地）
・生地縁（ｳﾚﾀﾝｸﾘﾔｰ塗装）
見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・

・戸ぶすま　(　表面材の仕上げ　・建具表による　)
(　見込み寸法　※30mm　・建具表による　・　)

・紙張り障子　(　見込み寸法　※30mm　・建具表による　・　)

枠、くつずりの材料　・建具表による

11　建具用金物

(16.8.2～4) (表16.8.1)
・ﾏｽﾀｰｷｰ　※製作する　(　※新規　・既存にあわせる　)
鍵の製作本数　※各室3本1組（室名札付き）　・

※ｼﾘﾝﾀﾞｰ箱錠
※ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ　材質　※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金　・ｽﾃﾝﾚｽ　・黄銅
座金　※丸座　・長座
・握り玉　材質　※ｽﾃﾝﾚｽ

・本締り錠　(品質、性能、試験方法)　建築材料等品質性能表による

・空錠
※ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ　材質　※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金　・ｽﾃﾝﾚｽ　・黄銅
座金　※丸座　・長座
・握り玉　材質　※ｽﾃﾝﾚｽ

・ｸﾞﾚﾓﾝ錠
ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙの材質　※亜鉛合金　・ｽﾃﾝﾚｽ
製造所　※図示

・ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ
ｶﾊﾞｰ部の材質　・亜鉛合金　※ｽﾃﾝﾚｽ

・ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ　・Grade1　※Grade2
ｶﾊﾞｰ部の材質　※ｽﾃﾝﾚｽ

・ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ（丁番型）
材質　・鋼（焼付け塗装）

・ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ（ﾋﾟﾎﾞｯﾄ型）
材質　・鋼（焼付け塗装）

・ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ　・Grade1　※Grade2
材質　※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金

・押棒、押板
材質　・ｽﾃﾝﾚｽ　・黄銅　・合成樹脂

・ｱｰﾑｽﾄｯﾊﾟｰ
材質　・鋼（ｸﾛｰﾑめっき）　※ｽﾃﾝﾚｽ

・戸当り
材質　※亜鉛合金程度　・ｽﾃﾝﾚｽ　・黄銅
あおり止め（ﾌｯｸ）付き　・適用する　・適用しない

・ｸﾚｾﾝﾄ
材質　※建具製造所の仕様による

・排煙ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ　(　※埋込　・露出　)

・樹脂製建具に使用する丁番　※標準仕様書表16.8.3　・

12　自動ドア開閉装置

・引き戸用駆動装置　(16.9.2、3)
性能値
※標準仕様書表16.9.1による
(　防錆　・適用しない　・適用する　)
・以下による
種類、開閉方式　(　)　耐電圧　(　)
温度上昇　(　)　耐久性（ｻｲｸﾙ）　(　)
防錆　(　)　電源　(　)

・車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書表16.9.2による
(　防錆　・適用しない　・適用する　)
・以下による
耐電圧　(　)　温度上昇　(　)
耐久性（ｻｲｸﾙ）　(　)　防錆　(　)
電源　(　)

・引き戸用検出装置
性能値
※標準仕様書表16.9.3による
(　防錆　・適用しない　・適用する　)
・以下による
放射無線周波数電磁界耐性　(　)
耐電圧　(　)　防錆　(　)
防滴　(　)　電源　(　)

引き戸用検出装置の種類　・建具表による　・　(表16.9.4)
ﾀｯﾁｽｲｯﾁの種類　・無線式ﾀｯﾁｽｲｯﾁ　・光線式ﾀｯﾁｽｲｯﾁ
車椅子使用者用便房ｽｲｯﾁの種類　・大形押しﾎﾞﾀﾝｽｲｯﾁ　・非接触ｽｲｯﾁ

凍結防止措置　・適用する　・適用しない

13　自閉式上吊り引戸装置

性能　※標準仕様書 表16.10.1 による　(16.10.3) (表16.10.1)
・以下による
手動開き力　(　)
手動閉じ力　(　)
閉じ速度の調整　(　)
制動区間　(　)
開閉繰返し　(　)
耐衝撃性　(　)

14　重量ｼｬｯﾀｰ

(16.11.2～4)

ｼｬｯﾀｰの種類	耐風圧強度	備考
・管理用ｼｬｯﾀｰ	(　)　Pa	※障害物感知装置 （自動閉鎖型）
・外壁用防火ｼｬｯﾀｰ	(　)　Pa	※危害防止機構
・屋内用防火ｼｬｯﾀｰ		
・防煙ｼｬｯﾀｰ		

開閉機能による種類　※上部電動式（手動併用）

電動ｼｬｯﾀｰにおける急降下制動装置、急降下停止装置の設置箇所
※図示による

電動式にｼｬｯﾀｰおける障害物感知装置の設置箇所
※図示による

屋内用防火ｼｬｯﾀｰもしくは防煙ｼｬｯﾀｰにおける危害防止機構
標準仕様書16.11.2(4)(a)かつ(b)による
(　設置箇所　・建具表による　・　)

ﾘﾓｺﾝの有無　・無　・有（　・建具表による　・ﾘﾓｺﾝ個数（　）個　）

電動式の場合の電源
※三相200V　0.75kw以下（過電流保護装置付）

管理用ｼｬｯﾀｰのｼｬｯﾀｰｹｰｽ
・設ける　・設けない

ｽﾗｯﾄ及びｼｬｯﾀｰｹｰｽ用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量　※Z12又はF12　・

ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のｶﾊﾞｰ、雨掛りに用いるｽｲｯﾁﾎﾞｯｸｽ類のふたの材質
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板　・SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1　・

15　軽量ｼｬｯﾀｰ

開閉方式　(16.12.2～4)
※手動式　・上部電動式（手動併用）

ｼｬｯﾀｰｹｰｽ　・設ける　・設けない

安全装置
電動ｼｬｯﾀｰの障害物感知装置
(　設置箇所　・建具表による　・　)

耐風圧強度　(　)　Pa

ｽﾗｯﾄの材質
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっき付着量　(　※Z06又はF06　・　)
・JIS G 3322（塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっき付着量　(　※AZ90　・　)

ｽﾗｯﾄの形状　・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ形　・ｵｰﾊﾞｰﾗｯﾋﾟﾝｸﾞ形

ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ　・座板の材質　・ｽﾃﾝﾚｽ（SUS304）
・溶融亜鉛めっき鋼板

電動式の場合の危害防止機構　※有（障害物感知装置自動閉鎖型）

電動式の場合の電源　※単相100V（過電流保護装置付）　・

16　ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ

(16.13.2、3)

ｾｸｼｮﾝ材料による区分	耐風圧区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙの材質
※ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ ・ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ ・ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	・125 ・100 ・75 ・50	※ﾊﾟﾗｼｽ式 ・ﾁｪｰﾝ式 ・電動式	・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形 ・ﾛｰﾍｯﾄﾞ形 ・ﾊｲﾘﾌﾄ形 ・ﾊﾞｰﾁｶﾙ形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ※ｽﾃﾝﾚｽ鋼板

ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱの障害物感知装置
(　設置箇所　・建具表による　・　)

⑰　ｶﾞﾗｽ

(9.7) (16.14.2～4) (表16.14.1)
⊙ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽの品質及び厚さの呼びによる種類
※建具表による

⊙型板ｶﾞﾗｽの厚さによる種類　※建具表による

・網入り板ｶﾞﾗｽ及び線入り板ｶﾞﾗｽの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
※建具表による

・合わせｶﾞﾗｽ
材料の板ｶﾞﾗｽの種類及び厚さの組合せ並びにｶﾞﾗｽの合計厚さによる種類
※建具表による
形状による種類　・平面合わせｶﾞﾗｽ　・曲面合わせｶﾞﾗｽ
落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類　・Ⅱ類　・Ⅱ-2類　・Ⅲ類

・強化ｶﾞﾗｽ
形状による種類及び材料板ｶﾞﾗｽ種類による名称　※建具表による
破片の状態及びｼｮｯﾄﾊﾞｯｸ衝撃特性による種類　・Ⅰ類　・Ⅲ類

・熱線吸収板ｶﾞﾗｽ
板ガラスによる種類、厚さによる種類　・建具表による
性能による種類　・1種　・2種

・複層ｶﾞﾗｽ
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
・建具表による
断熱性による区分
・T1　・T2　・T3　・T4　・T5　・T6
日射取得性、日射遮蔽性による区分
・G　・S
乾燥気体の種類
・空気　・ｱﾙｺﾞﾝ

・熱線反射ｶﾞﾗｽ
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
・建具表による
日射熱遮蔽性による区分
・1種　・2種　・3種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が２種の場合）
・A種　・B種
映像調整　・行わない　・行う

・倍強度ｶﾞﾗｽ
材料板ｶﾞﾗｽの種類及び厚さによる種類
※建具表による

ｶﾞﾗｽの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ｶﾞﾗｽ留め材	ｶﾞﾗｽ溝の大きさ(mm)
ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材（SR-1） ・ｶﾞｽｹｯﾄ ・ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾁｬﾝﾈﾙ形 ・	※建具の製造所の仕様による ・図示
鋼製及び鋼製軽量	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材（SR-1） ・	※建具の製造所の仕様による ・図示
ｽﾃﾝﾚｽ製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材（SR-1） ・	※建具の製造所の仕様による ・図示
樹脂製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材（SR-1） ・ｶﾞｽｹｯﾄ ・ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾁｬﾝﾈﾙ形 ・	※建具の製造所の仕様による ・図示

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

18　ｶﾞﾗｽ用ﾌｨﾙﾑ

種類	記号		その他性能等
	内貼り用	外貼り用	
・日射調整ﾌｨﾙﾑ	・SC-1	・SC-2	
・低放射ﾌｨﾙﾑ	・LE	–	
・衝撃破壊対応ｶﾞﾗｽ飛散防止ﾌｨﾙﾑ	・GI-1	・GI-2	
・相関変位破壊対応ｶﾞﾗｽ飛散防止ﾌｨﾙﾑ	・GD-1	・GD-2	
・ｶﾞﾗｽ貫通防止ﾌｨﾙﾑ	・DF		

品質はJIS A 5759による

19　衝突防止表示

形状、寸法、材質　※図示　(20.2.11)

設計変更年月日
1回　年　月　日
2回　年　月　日
3回　年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事
図面名　特記仕様書（建築新営）その７
縮尺　A1版 1:1　A3版 1:1.50
設計　年　月　日
佐賀県競馬組合
１級建築士登録　第　号
図面番号　A-08

17 カーテンウォール工事

1 取付方法、性能等

取付方法 (17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)
・層間方式 ・柱・梁方式
・方立方式 ・ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ方式 ・

性能

耐震性能		耐風圧性	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性
水平方向 (kH)	垂直方向 (kV)						
							・30分 ・1時間

耐温度差性 ・80℃ ・70℃ ・60℃

耐風圧性
1章 適用区分による風圧力の の風圧力に対応した工法 (・1.0 ・1.15 ・1.3)

主要部材の耐風圧性能(ガラスを除く)

支点間距離(h)	耐風圧性能	状態
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ 絶対量20mm以下であること ・	部材の脱落、ｶﾞﾗｽの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
4mを超える	・	

耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

性能の確認及び判定方法
・性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督職員の承諾を受ける

2 ﾒﾀﾙｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ

金属系材料の種類 (17.2.2～5)
※ｱﾙﾐﾆｳﾑ材 ・鋼材 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼材

ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類（目地等）
種類及びすき法等 ・図示 ・

ｶﾞﾗｽの取付け材料
・ｼｰﾘﾝｸﾞ 種類 ・SR-2 ・SR-1
支持方法 ・4辺支持 ・
・構造ｶﾞｽｹｯﾄ 施工箇所 ・図示 ・
材質 ・ｸﾛﾛﾌﾟﾚﾝ系 ・
寸法(mm) ・H型 ・Y型 ・C型
ｶﾞﾗｽ板厚 ( )
支持枠の厚さ ( )
ｳｪﾌﾞの寸法 ( )

断熱材 G
種類 ・
厚さ(mm) ・
施工箇所 ・図示 ・

製品の寸法許容差
・標準仕様書表17.2.1による

見え掛かり部の仕上げ
ｱﾙﾐﾆｳﾑ材の場合
規格等 標準仕様書16.2.3による
種別 (標準仕様書表14.2.1による) ・
着色 ・標準色 ・特注色
鋼材及びｽﾃﾝﾚｽ鋼材の場合 ・

ｶﾞﾗｽ溝の寸法、形状等
※ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ製造所の仕様による

ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅 ・±3mm ・
目地の心の通り ・0～2mm ・
目地両側の段差 ・0～2mm ・
各階の基準墨から各部材までの距離 ・±3mm ・

耐火処理
適用部位 ・図示 ・
材料、種別 ・図示 ・

3 PCｶｰﾃﾝ ｳｫｰﾙ

ｺﾝｸﾘｰﾄ (17.3.2?5) (表17.3.1～2)
種類 ・普通ｺﾝｸﾘｰﾄ ・軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ ・
品質 設計基準強度Fc ※30N/mm2 ・
スランプ ※12cm ・
気乾単位容積質量
・軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの場合 1.8t/m3を超え2.1t/m3以下
・普通ｺﾝｸﾘｰﾄの場合 2.1t/m3を超え2.5t/m4以下
単位水量の最大値 ※185kg/m2

鉄筋 種類の記号 ※SD295 (・ ・)

補強鉄線 径(mm) ※3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0
継目寸法 ・

ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類（目地等）
種類及び寸法等 ・

耐火目地材 ・

断熱材 G 種類 ・
厚さ(mm) ・
施工箇所 ・

ｶﾞﾗｽの取付け材料
・構造ｶﾞｽｹｯﾄ 施工箇所 ・図示 ・
材質 ・ｸﾛﾛﾌﾟﾚﾝ系 ・EPDM系
・ｼﾘｺｰﾝ系
寸法(mm) ・H型 ・Y型 ・C型

先付けの材料
・表面仕上材 (・ｾﾗﾐｯｸﾀｲﾙ ・石材)
・建具枠
・ｺﾞﾝﾄﾞﾗ用ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ 大理石 ・)

耐火処理
適用部位 ・図示 ・
材料、種別 ・図示 ・

製品の見え掛かり部の寸法許容差
辺長 ・±3mm ・
対角線長の差 ・0～5mm ・
版厚 ・±2mm ・
開口部内法寸法 ・±2mm ・
ねじれ、反り ・0～5mm ・
曲がり ・0～3mm ・
面の凹凸 ・0～3mm ・
先付け金物の位置 ・0～5mm ・

PCｶｰﾃﾝｳｫｰﾙの仕上げ ・

構造ｶﾞｽｹｯﾄを用いる場合のｱﾝｶｰ溝の寸法及び寸法許容差(mm)
・図示 ・

配筋 ・図示

躯体付金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向 ・±10mm ・
水平方向 ・±25mm ・

ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅 ・±5mm ・
目地の心の通り ・±0～3mm ・
目地両側の段差 ・0～4mm ・

各階の基準墨から各部材までの距離 ・±5mm ・

ｶﾞﾗｽの取付け方法
・ｶﾞﾗｽの取付け材が構造用ｶﾞｽｹｯﾄで複層ｶﾞﾗｽ等を使用する場合は、排水機能の設置及びｶﾞﾗｽの封着処理の強化を行う

18 塗装工事

① 材料

内部に使用する塗料は、原則水性系のものとする (18.1.3)

屋内で使用する塗料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※F☆☆☆☆ ・

防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・次の箇所を除き防火材料とする (箇所 :)

② 素地ごしらえ (18.2.2?7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・B種
	透明塗りの場合	※B種 ・A種
鉄鋼面（DP以ｸﾘ）		※C種 ・A種 ・B種
鉄鋼面（DPのみ）		・A種 ・B種 ・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種 ・B種
ﾓﾙﾀﾙ面及びせっこうﾌﾞﾗｽﾀｰ面		※B種 ・A種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DP以ｸﾘ）、ALCﾊﾟﾈﾙ面		※B種 ・A種
押出成形ｾﾒﾝﾄ板面		・A種 ・B種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面（DPのみ）		・A種 ・B種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面	目地 : 継目処理工法	※A種 ・B種
及びその他ﾎﾞｰﾄﾞ面	目地：継目処理工法以外	※B種 ・A種

③ 錆止め塗料塗り (18.3.2、3)

下地面等			工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	SOP	見え掛り部分	※A種 ・B種	A種
		見え隠れ部分	※B種 ・A種	
	DP	-	標準仕様書表18.3.4	C種及びD種
	EP-G	見え掛り部分	※A種 ・B種	※B種 ・A種
		見え隠れ部分	※B種 ・A種	
亜鉛めっき鋼面	SOP	鋼製建具	※A種 ・B種	※A種 ・B種
		鋼製建具以外	※B種 ・A種	
	DP	-	標準仕様書表18.3.6	B種
	EP-G	鋼製建具	※A種 ・B種	C種
		鋼製建具以外	※B種 ・A種	

④ 塗装 (18.4.2?18.14.2)

塗装		種別	塗料の種別
⊙合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り(SOP)	木部屋外	※A種 ・B種	
	木部屋内	※B種 ・A種	
	鉄鋼面	※B種 ・A種	
	亜鉛めっき鋼面	-	
・ｸﾘｱﾗｯｶｰ(CL)		※B種 ・A種	-
・ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		※B種 ・A種	-
⊙耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	-	上塗り等級 ( )級
	亜鉛めっき鋼面	-	上塗り等級 ( )級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種 ・C種 ⊙B種	-
⊙つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面等	※B種 ・A種	-
	屋内の鉄鋼面	※B種 ・A種	-
・合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP)		※B種 ・A種	-
・ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り(UC)		※B種 ・A種	?
・ｽﾃｲﾝ塗り ・ﾋﾟｸﾞﾒﾝﾄｽﾃｲﾝ塗り ・ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り(OS)		? 	?
⊙自然保護塗料塗り(OC)		※B種 ・A種	-

高日射反射率塗料 G
・適用する（屋上又は屋根面の金属面） ・適用しない
屋根用高日射反射率塗料（JIS K 5675）
種類 ・2種 ・
等級 ( ) 級
塗付け量(kg/㎡) ・塗料製造所の仕様による

ｸﾘｱﾗｯｶｰ塗り(CL)A種の工程2の適用
・適用する (着色剤 ・溶剤系着色剤 ・油性染料着色剤)
・適用しない

ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り(UC)の工程1の適用 ・適用する ・適用しない

ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗りの工程等 ・

5 ﾌｯ素樹脂塗装

打放しｺﾝｸﾘｰﾄ面保護工法
（下塗材） 水性 浸透性吸水防止材
（上塗材） ・水性ﾌｯ素樹脂ｸﾘｱｰ ・水性ﾌｯ素樹脂ｶﾗｰｸﾘｱｰ

6 焼付塗装

素材	焼付種別	仕上げ	ｺｰﾄ	ﾍﾞｰｸ	部位
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ	・ﾌｯ素樹脂 ・ｳﾚﾀﾝ樹脂 ・ｱｸﾘﾙ樹脂	・ｿﾘｯﾄﾞ ・ﾒﾀﾘｯｸ			
・ｽﾃﾝﾚｽ	・ﾌｯ素樹脂 ・ｳﾚﾀﾝ樹脂 ・ｱｸﾘﾙ樹脂	・ｿﾘｯﾄﾞ ・ﾒﾀﾘｯｸ			
・亜鉛めっき鋼板	・ﾌｯ素樹脂 ・ｳﾚﾀﾝ樹脂 ・ｱｸﾘﾙ樹脂	・ｿﾘｯﾄﾞ ・ﾒﾀﾘｯｸ			

19 内装工事

① 接着剤

ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ、ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ、ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ用接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 (19.2.2)
※F☆☆☆☆ ・

接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする

施行箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示 ・

2 下地の工法

標準仕様書19.2.3(ｱ)?(ｳ)以外の下地の工法 (19.2.3)
・図示 ・

③ ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ G (19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ mm	備考
※FS（複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ）	・無地 ⊙ﾏｰﾌﾞﾙ柄 ・柄物	※2.0 ・	

接合部の処理 ・熱溶接工法 ・

4 ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ G (19.2.2、3)

種類の記号	色柄	寸法	厚さ mm	備考
・TT（単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FT（複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ※KT（ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FOA（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FOB（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500 ・	※2 ・	

5 特殊機能床材 (19.2.2)

種類	厚さ mm	寸法	性能	形状	備考
・帯電防止床ｼｰﾄ ( )	・	-	・	-	
・帯電防止床ﾀｲﾙ ( )	・	・	・	-	
・視覚障害者用床ﾀｲﾙ ( )	-	-	-	・	
・耐動荷重性床ｼｰﾄ ( )	・	-	-	-	
・防滑性床ｼｰﾄ ( )	・	-	-	-	
・防滑性床ﾀｲﾙ ( )	・	・	-	-	

⑥ ﾋﾞﾆﾙ幅木

材質の種類 ※軟質 ・硬質 (19.2.2)
高さ(mm) ※60 ・75 ・100
厚さ(mm) ※1.5以上 ・

7 ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ

種類 ・単層品 ・積層品 (19.2.2)
色柄 ( )
厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0
寸法(mm) ( )

8 ｶｰﾍﾟｯﾄ 敷き G

(19.3.2)(表19.3.1)(表19.3.2)
・織じゅうたん

織り方	ﾊﾟｲﾙ形状
・ｳｨﾙﾄﾝｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾀﾞﾌﾞﾙﾌｪｰｽｶｰﾍﾟｯﾄ ・ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰｶｰﾍﾟｯﾄ	・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ/ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ

色柄 ・模様のない無地 ・

ﾊﾟｲﾙ糸の種類等
・無地の織りじゅうたんの種別 (・A種 ・B種 ・C種)
・

帯電性 ・適用する ・適用しない

織じゅうたんの接合方法 ・ﾋｰﾄﾎﾞﾝﾄﾞ工法 ・つづり縫い

下敷き材 ・反毛ﾌｪﾙﾄ(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ8mm
・

ﾀｯﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ

ﾊﾟｲﾙ形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・5?7 ・	・全面接着工法	・適用する
・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	・4?6 ・	・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・適用しない
・ｶｯﾄ・ﾙｰﾌﾟ併用			

下敷き材（ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法の場合）
・反毛ﾌｪﾙﾄ(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ8mm
・

ﾀｯﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ用接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※F☆☆☆☆ ・

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事
図面名 特記仕様書（建築新営）その8
縮尺 A1版 1:1 A3版 1:1.50
設計 年 月 日
佐賀県競馬組合
1級建築士登録 第 号
図面番号 A-09

⑲ 続き

8 続き

・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ

ﾊﾟｲﾙ形状	種別	施工場所	寸法	総厚さ	備考
※ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	帯電防止及び防汚加工品
・ ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	
・ ｶｯﾄ/ﾙｰﾌﾟ併用	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500 ・	※ 6.5 ・	

色柄　※ 無地　・ 柄物

ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ用接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・

ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄの敷き方
平場　※ 市松敷き　・ 模様流し　・
階段部分　※ 模様流し　・ 市松敷き　・

見切り、押え金物　材質（　　）　種類（　　）
形状等　・ 図示　・

9 合成樹脂塗床

(19.4.2、3)(表 19.4.17⑧)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・ 厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
・ 厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・ 薄膜流しのべ工法 ・ 厚膜流しのべ工法 ・ 樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ
・ 薄膜型塗床材			・ 平滑仕上げ

塗床材のﾎﾙﾑﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・

⑩ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張り G

単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ　(19.5.2～5)(表 19.5.1～6)

種類	工法	樹種	厚さ mm	大きさ	仕上塗装	間伐材等の適用
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ1等	・ 釘留め工法（根太張り）	※ なら ・	15	板幅75以上 板長さ400以上	・ 塗装品 ※ 無塗装品	・
	・ 釘留め工法（直張り）	※ なら ・	・ 12以上 ・			・
	・ 接着工法	※ なら ・	・ 8以上 ・			・
・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ1等	・ 接着工法	※ なら ・	・	・	・ 塗装品 ※ 無塗装品	・

複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ　(19.5.2?5)(表 19.5.1?6)

種類	工法	樹種	厚さ(mm)/大きさ	種別	防湿処理	仕上塗装	間伐材等の適用
天然木化粧	・ 釘留め工法（根太張り）	※ なら ・		・ A種 ・ B種 ※ C種	・ 適用する ・ 適用しない	・ 塗装品 ※ 無塗装品	・
	・ 釘留め工法（直張り）						
	・ 接着工法	※ なら ・		–			・

ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ 標準仕様書19.5.2　・

各工法に使用する接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量等　※F☆☆☆☆　・

接着工法の場合の不陸緩和材　※ 合成樹脂発泡ｼｰﾄ　・

現場塗装仕上げ　※ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り
・ ｵｲﾙｽﾃｲﾝの上、ﾜｯｸｽ塗り
・ 生地のままﾜｯｸｽ塗り

11 畳敷き

種別　・ A種　・ B種　・ C種　・ D種　(19.6.2)(表 19.6.1)
（ 畳床：・ KT-Ⅰ　・ KT-Ⅱ　・ KT-Ⅲ　・ KT-K　・ KT-N ）

下地の種類　・ 標準仕様書 表12.6.1による床組
・ ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ床下地（ﾉﾝﾌﾛﾝ） G
・

畳表及び畳床はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ｱｾﾄﾞｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

衝撃緩和型畳　（ 畳表　・ C1　・ C2 ）

⑫ せっこうﾎﾞｰﾄﾞその他ﾎﾞｰﾄﾞ及び合板張り

(19.7.2、3)(表 19.7.1)

規格名称	種類	厚さ等
・ 木毛系ｾﾒﾝﾄ板	※ 図示　・	※ 図示　・
・ 繊維強化ｾﾒﾝﾄ板	※ 図示　・	※ 図示　・
・ 火山性ｶﾞﾗｽ質複層板	※ 図示　・	※ 図示　・
・ 繊維板	※ 図示　・	※ 図示　・
⊙ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	※ 図示　・	※ 図示　・
⊙吸音材料	※ 図示　・	※ 図示　・
⊙せっこうﾎﾞｰﾄﾞ製品	※ 図示　・	※ 図示　・

・ 普通合板 G
表板の樹種名　・
板面の品質　・
厚さ　※ 図示　・
防虫処理　・ 行う　・ 行わない

・ 天然木化粧合板 G
化粧板の樹種名　・
厚さ　※ 図示　・
防虫処理　・ 行う　・ 行わない

・ 特殊加工化粧合板 G
化粧加工の方法　・ ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ ﾌﾟﾘﾝﾄ　・ 塗装　・
表面性能　・
厚さ　※ 図示　・
防虫処理　・ 行う　・ 行わない

せっこうﾎﾞｰﾄﾞの目地工法
目地工法の種類　⊙仕上げ表による
突付け工法及び目透し工法のｴｯｼﾞ　・ ﾍﾞﾍﾞﾙｴｯｼﾞ　・ ｽｸｴｱｴｯｼﾞ

・ 遮音ｼｰﾙ材　※ｱｸﾘﾙ系またはｳﾚﾀﾝ系ｼｰﾘﾝｸﾞ材
・ ｼﾞｮｲﾝﾄｺﾝﾊﾟｳﾝﾄﾞ(JIS A6914)

MDF、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・
合板のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　・ 標準仕様書19.7.2(2)(ｲ)　・
接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・

天井ﾎﾞｰﾄﾞ（ﾛｯｸｳｰﾙ吸音板を除く）の重ね張りを行う場合　※ 図示

合板類の張付け　※ B種　・ A種

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ 規制対象外　・　(19.8.2、3)

施工箇所	紙	繊維	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他	防火種別	商品名（程度）
⊙図示	・	・	・	・	・	⊙不燃 ・ 準不燃	
・図示	・	・	・	・	・	・ 不燃 ・ 準不燃	
	・	・	・	・	・	・ 不燃 ・ 準不燃	

ﾓﾙﾀﾙ・せっこうﾌﾟﾗｽﾀｰ面の素地ごしらえ　※ B種　・ A種

ｺﾝｸﾘｰﾄ面の素地ごしらえ　※ B種　・ A種

せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面の素地ごしらえ　※ B種　・ A種

⑬ 壁紙張り

⑭ 断熱材 G

ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※F☆☆☆☆　・
開口部等補修のための張付け用の接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※F☆☆☆☆　・

・ 断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	備考
・ ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材	・	
・ 押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材（ｽｷﾝ層なし）	・	
⊙硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材	⊙50 ⊙30	
・ ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材	・	

施工箇所
・ 床版（　・ 屋根ｽﾗﾌﾞ下　・ 接地床(標準詳細図7-01-2)　⊙図示　）
・ 壁　・ 外壁内側部分(標準詳細図7-01-2) 但し、下記を除く
倉庫、便所、設備室、湯沸室、車庫、書庫、（　　）
・（　　）

・ 断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※ A種1　⊙A種1H
厚さ(mm)　※ 25　・ 30　⊙図示
施工箇所　⊙図示
※ 窓廻り等の断熱材補修部分、ルーフドレン廻りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所
（品質・性能・試験方法）　建築材料等品質性能表による

⑮ 床下地材

※ 乾式遮音二重床用床下地材(樹脂製支柱式)　・ 断熱性床下地材

BL認定及び建築物の遮音性能基準と設計指針(第2版)(日本建築学会)で規定する「床衝撃音レベルに関する適用等級」2級程度を有するものとし、製造所の仕様による

施工箇所	床仕上材天端高さ	遮音性能(スラブ厚150mm)	
		軽量床衝撃音	重量床衝撃音
・ 畳下地	・ 150　・ 180	※ LL-50	※
⊙ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ類下地	⊙（ 200 ）	・	・

16 化粧塩ビシート

下記に示す製造所の商品程度とする
（　　）

17 システム天井

種別		Tバーの材質	備考
・ ｸﾞﾘｯﾄﾞﾀｲﾌﾟ		・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ 鋼製	
・ ﾗｲﾝﾀｲﾌﾟ	・ ｼﾝｸﾞﾙ		
	・ ﾀﾞﾌﾞﾙ		
・ ﾛ型ﾀｲﾌﾟ			

下記に示す製造所の商品程度とする
（　　）

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

18 浴室天井材

材質	幅	備考
※ 硬質塩ビ製 ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製(準不燃品) ・	※ 300 ・ 100 ・	断熱材を裏打ちしたもの 付属品の材料は主製造所の仕様による

⑳ ユニット及びその他工事

1 ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ

(20.2.2)

施工箇所	寸法 mm	高さ mm	所定荷重 N	表面仕上げ材	備考
	・ 450角以上 ・ 600角以下 ・	・ 100 ・ 120 ・	・ 3000 ・ 5000 ・	・ 帯電防止床ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	
	・ 450角以上 ・ 600角以下 ・	・ 100 ・ 120 ・	・ 3000 ・ 5000 ・	・ 帯電防止床ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	
	・ 450角以上 ・ 600角以下 ・	・ 100 ・ 120 ・	・ 3000 ・ 5000 ・	・ 帯電防止床ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	

適用地震時水平力
1階及び地階　※ 0.6G以上
中間階（　?　階）　※ 0.6G以上　・ 1.0G以上
最上階（　?　階）　※ 1.0G以上

帯電防止床ﾀｲﾙ　・ 置敷ﾀｲﾌﾟ　・ ﾊﾟﾈﾙ一体ﾀｲﾌﾟ
(ﾊﾟﾈﾙ一体ﾀｲﾌﾟ以外の仕上げ材は別途内装工事とする)

寸法精度
※ 標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c)による
・ 以下による
ﾊﾟﾈﾙの長さの寸法精度　（　　）
ﾊﾟﾈﾙの平面形状（角度）の寸法精度　（　　）
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの高さの寸法精度　（　　）

ﾛｰﾘﾝｸﾞﾛｰﾄﾞ性能　・ 適用する　適用室（　　）
※ 適用しない

ﾛｰﾘﾝｸﾞﾛｰﾄﾞ試験
所定荷重1,000N（5,000Nの積載荷重は1,000N以上（任意））による
繰り返し試験後、残留変形3.0mm以下であること
（パネル面に目視による著しいわだち及び損傷がないこと。かつ、使用上有害ながたつきがないこと）

帯電防止性能　・ 評価値(U)≧0.6以上　・ 評価値(U)≧1.2以上

感電防止性能　漏えい抵抗?≧1×10?Ω

（品質・性能・試験方法）　建築材料等品質性能表による

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

耐火性性能　・ 標準仕様書20.2.2(2)(a)　・

耐衝撃性能　・ 標準仕様書20.2.2(2)(b)　・

耐燃焼性能　・ 標準仕様書20.2.2(2)(d)　・

・ 2重床用複合ｱｳﾄﾚｯﾄ用開口
適用室（　　）
開口の数　ﾌﾛｱ面積8㎡につき1ヶ所かつ予備開口を14㎡につき1ヶ所
開口の大きさ
ｺﾝｾﾝﾄ（電源）：2P15A接地極付×2
情報用ﾓｼﾞｭﾗｰｼﾞｬｯｸ（電話）：8極8芯×1
の入ったｱｳﾄﾚｯﾄが納まる大きさ
取付方法　ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ製造所の仕様とする

2 可動間仕切

(20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類 ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ	総厚さ mm	ﾊﾟﾈﾙ表面仕上げ	防火性能
・ ｽﾀｯﾄﾞ式（内蔵） ・ ｽﾀｯﾄﾞ式（露出） ・ ﾊﾟﾈﾙ式 ・ ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式				・ ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付 ・ ｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・ 壁紙張り	・ 不燃

中心周波数500HZの音についての透過損失(dB)　・ 36未満　・ 36以上

ﾊﾟﾈﾙ内に取付ける建具　・ あり（　※ 図示　・　　）　・ なし

表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による

ｶﾞﾗｽ留め材　※ｶﾞｽｹｯﾄ　・ ｼｰﾘﾝｸﾞ

ﾊﾟﾈﾙ材料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上

設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

1級建築士　内田　要
大臣登録　第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事
図面名　特記仕様書（建築新営）その9
縮尺　A1版 1:1　A3版 1:1.50
設計　年　月　日
佐賀県競馬組合
1級建築士登録　第　号
図面番号　A-10

⑳ 続き

3 移動間仕切

(20.2.4)

構造形式	操作方法	圧縮装置の操作方法	総厚さ mm	表面仕上材 材質	表面仕上材 ﾊﾟﾈﾙ表面仕上げ	遮音性 db/500Hz
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ・ﾊﾝﾄﾞﾙ式	・60程度 ・100程度	・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り	・36未満 ・36以上

ﾊﾟﾈﾙ表面仕上げの壁紙張りの品質、性能　標準仕様書19章による

遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする

ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙの取付け下地の補強
　※ 取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
　・ 図示

移動間仕切の壁面当たり枠　※ 適用する（製造所の仕様による）
　・

ﾊﾟﾈﾙをﾗﾝﾅｰに取り付ける部品
　※ ﾗﾝﾅｰに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの

ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ、ﾗﾝﾅｰ
　ﾊﾟﾈﾙ重量の5倍の荷重をﾊﾟﾈﾙ1枚に使用するﾗﾝﾅｰ数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障がないものとする

4 ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ

(20.2.5)

表面材の種類	色柄	脚部 形状	ﾄﾞｱｴｯｼﾞ、形状 形状	ﾄﾞｱｴｯｼﾞ、形状 材質
※ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板 ・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板	※ 無地 ・ 柄物	※ 幅木ﾀｲﾌﾟ ・	※ 標準 ・R	・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・ 製造所の仕様

吊り方式　※ 中心吊、戸当たり付　・

ﾊﾟﾈﾙ材料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※ JIS A 6512によりF☆☆☆☆以上

5 視覚障害者用床ﾀｲﾙ

(11.2.2)(19.2.2)

施工箇所		種類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内		・塩化ﾋﾞﾆﾙ製	※ 300×300　・	・7.0　・
		・ｾﾗﾐｯｸﾀｲﾙ	※ 300×300　・	※ 17程度
		・ﾚｼﾞﾝｺﾝｸﾘｰﾄ製	※ 300×300　・	・30　・
屋外		・ｾﾗﾐｯｸﾀｲﾙ	※ 300×300　・	※ 17程度
		・ﾚｼﾞﾝｺﾝｸﾘｰﾄ製	※ 300×300　・	・30　・
		・ｺﾝｸﾘｰﾄ製	・300×300	・60

視覚障碍者用ﾌﾞﾛｯｸ等の突起の形状およびその配列は JIS T 9251 による

・ 樹脂系点字鋲（ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ用）
　寸法　・300角　・500角
　色　※ 黄色　・

樹脂系点字鋲の留付は、両面からの挟込みﾎｯｸ式または接着式

⑥ 階段滑り止め

(20.2.7)

材種	形状	幅（mm）	取付け工法	端部ﾌﾗｯﾄｴﾝﾄﾞ
※ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304) ・黄銅製押出形材 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製押出形材	・ﾀｲﾔ型（ｺﾞﾑ又は合成樹脂） ・ﾀｲﾔﾚｽ型	※ 35程度 ・40程度 ・50程度	・接着工法 ・埋込み工法	※ あり ※ﾋﾞﾆﾙ製 ｽﾃﾝﾚｽ製 ・なし

7 床目地棒

床仕上げの異なる箇所には目地棒を入れる　(20.2.8)
　※ ｽﾃﾝﾚｽ製　口型(幅40程度　ｱ1.5)（標準詳細図4-31-1）
　・ ｽﾃﾝﾚｽ製 6×12（標準詳細図4-31-2）
　・ 黄銅製 6×12（標準詳細図4-31-2）

8 手すり

・ 集成材手すり　(20.2.6)

形式	径		材料	仕上
・1段	・35φ	※45φ　・	※ タモ	※ CL
※2段	※35φ	・	・	・

・ 既製手すり（樹脂製）

形式	径	ﾌﾞﾗｹｯﾄ	備考
・0段（1段）	※40φ　・	※ｱﾙﾐ合金製（心材共）	指づめ
※0段（2段）	※34φ　・	・	防止材等

点字表示板　（　　）　箇所
　JIS T 0921に基づく点字の表示原則及び点字表示方法による
　※ﾎﾟﾘｶﾎﾞﾈｰﾄﾞ製　大きさ　120×150程度　厚み　0.1程度
　・ 塩ビ製　大きさ　100×125程度　厚み　0.1程度

9 黒板及びﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ G

(20.2.9)

種類	種類	寸法(mm)	色彩	形式	
・黒板	※ 焼付け ・	・鋼製 ・ほうろう	※ 緑 ・黒	・平面 ・曲面	・ｽｸﾘｰﾝ付引分 ・
・ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ			白	※ 平面 ・曲面	・ｽｸﾘｰﾝ付引分 ・

10 鏡

(20.2.10)

取付箇所　・
寸法(mm)　・ 図示　・
厚さ(mm)　※5　・

11 表示

(20.2.11)

衝突防止表示
　・ 設置する　（　設置箇所　・図示　・　）
　　形状・寸法　・30φ　・
　　材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・
　・ 設置しない

誘導標識、非常用進入口等の表示
　・ 消防法に適合する市販品　・

室名札、ﾋﾟｸﾄｸﾞﾗﾌ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等（案内用図記号は、JIS Z 8210による）
　・ 図示による

12 煙突ﾗｲﾆﾝｸﾞ

(20.2.13)

・ 煙突用成形ﾗｲﾆﾝｸﾞ材
　適用安全使用温度　・400℃まで　・650℃まで　・

工法　・ 鋼製ﾕﾆｯﾄ煙突（煙突用成形ﾗｲﾆﾝｸﾞ材）　・

・ ｷｬｽﾀﾌﾞﾙ耐火材
　煙突用成形ライニング材の製造所の指定する製品とする

13 ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ

(20.2.14)

形式	操作方法	種類	ｽﾗｯﾄの材種	ｽﾗｯﾄ幅 mm	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	寸法・取付箇所
・横形	・手動	※ｷﾞｱ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 G ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示 ・
	・電動	?				
・縦形	・手動	※2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・1本操作ｺｰﾄﾞ式	※ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ ・	・80 ・100	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・図示 ・
	・電動	?				

ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ　焼付け塗装仕上げ

ｸﾛｽｽﾗｯﾄ　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合　G

14 ﾛｰﾙｽｸﾘｰﾝ

(20.2.15)

ｽｸﾘｰﾝの材種	操作方法	幅、高さ(mm)	取付箇所	品質等
・ｶﾞﾗｽ繊維製 ・合成・天然繊維製 ・木製	・電動式 ・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・	・図示 ・	・図示 ・	

巻取りﾊﾟｲﾌﾟ、ｳｪｲﾄﾊﾞｰ、操作ｺｰﾄﾞ又は操作ﾁｪｰﾝその他の材料
　※ 製造所の仕様による　・

ｽｸﾘｰﾝの仕様
　消防法で定める防炎性能の表示があるもの
　ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は G とする

15 ｶｰﾃﾝ

(20.2.16)(表20.2.1)

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所
・ｼﾝｸﾞﾙ ・ﾀﾞﾌﾞﾙ	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・ﾌﾗﾝｽひだ ・箱ひだ、つまひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ、片ひだ		・図示
・ｼﾝｸﾞﾙ ・ﾀﾞﾌﾞﾙ	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・ﾌﾗﾝｽひだ ・箱ひだ、つまひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ、片ひだ		・図示

生地の仕様
　消防法で定める防炎性能の表示があるもの
　使用される繊維のうち、ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用する製品については G とする

暗幕ｶｰﾃﾝの両端、上部及び召合せの重なり　※ 300mm以上　・

⑯ ｶｰﾃﾝﾚｰﾙ

材料　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製及びｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の押出し成型材　(20.2.14)
　⊙ｽﾃﾝﾚｽ製

ｶｰﾃﾝの形式　・ｼﾝｸﾞﾙ　⊙ﾀﾞﾌﾞﾙ
　・片引き　・引分け

ﾚｰﾙ及びﾌﾞﾗｹｯﾄの強さによる区分　※ 10-90　・

仕上げ　※ ｱﾙﾏｲﾄ　・

形状　※ 角形　・

ﾌｯｸ（ひるかん）　※ 鋼製　・ 樹脂製

17 ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞﾎﾞｯｸｽ及びｶｰﾃﾝﾎﾞｯｸ

溝型×深さ（mm）　・90×150　・120×80　・120×150
　・150×80　・ 図示

材質　・ 集成材（　仕上げ　：　）
　・ 図示
　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　押出し型材（市販品）
　　種別（標準仕様書表14.2.1）
　　・BC-1　・BC-2
　　色合い
　　・ 標準色（　）
　　・ 特注色（　）
　・ 鋼製（　仕上げ　：　）

18 ｺｰﾅｰﾋﾞｰﾄﾞ（壁ﾎﾞｰﾄﾞ出隅保護金物）

材質　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ押出形材差込型　・
　※ ｼﾙﾊﾞｰ　・ 焼付　・

施工箇所　※ 図示

⑲ 天井見切縁

材質　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ押出形材　⊙塩化ﾋﾞﾆﾙ製

施工箇所　※ 仕上表による　・

20 ﾋﾟｸﾁｬｰﾚｰﾙ

材質　※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ押出形材
　※ ﾌｯｸ　耐荷重30kg程度　2個/m

㉑ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
⊗ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・	⊗450×450 ・600×600 ・	⊗一般型	・屋内外用 ⊗屋内用	⊗額縁ﾀｲﾌﾟ ・目地ﾀｲﾌﾟ	⊗額縁ﾀｲﾌﾟ ・目地ﾀｲﾌﾟ
		・気密型			

（品質・性能・試験方法）　建築材料等品質性能表による

㉒ 床点検口

材種	寸法	形式		備考
※ 鋼製 ※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ⊗ｽﾃﾝﾚｽ製	・450×450 ※600×600 ・	※ 一般型 ・密閉型 ・結露防止型	・屋内外用 ※ 屋内用	・鍵付き ※ 鍵無し

密閉型とは、ﾎﾞﾙﾄ、ﾅｯﾄ等ﾒｶﾆｶﾙ構造にﾊﾟｯｷﾝを装着したものとする

（品質・性能・試験方法）　建築材料等品質性能表による

㉓ 造作家具

合板類、MDF、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ、接着剤及び塗料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量
　※ 規制対象外　・ 第三種品

24 消火器ﾎﾞｯｸｽ

※ 市販品（埋込みタイプ）　・

材種	仕上	寸法	扉	表示
※ 鋼製 ・	※ 焼付塗装 ・	※ W300×H900程度 ・	※ 有り ・	※ 絵・文字表示 ・

25 くつふきﾏｯﾄ

材種	受け枠	備考
・塩化ﾋﾞﾆﾙ又はｺﾞﾑ製 ・硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ※ ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)製（ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ型）	※ ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)製 ・硬質ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金 ・	

㉖ ｽﾃﾝﾚｽ流し台

※ 優良住宅部品(ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ)　・

上板及びｼﾝｸ底部はｽﾃﾝﾚｽ製、単槽ｼﾝｸ、ﾄﾗｯﾌﾟ付

寸法	開戸	引き出し	備考
⊙W1200×D550?600×H800	※ 3枚　・	※ 1段　・	ｻｲﾄﾞﾊﾟﾈﾙ付
・W1500×D550?600×H800	※ 4枚　・	※ 1段　・	
⊙W1800×D550?600×H800	※ 4枚　・	※ 1段　・	

㉗ ｺﾝﾛ台

※ 優良住宅部品(ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ)　・

ﾃｰﾌﾞﾙﾄｯﾌﾟはｽﾃﾝﾚｽ製、ﾊﾞｯｸｶﾞｰﾄﾞ　（　※ 有り　・無し　）

寸法	開戸
・W700×D550～600×H620	・2枚　・
⊙W600×D550～600×H620	・1枚または2枚　・

㉘ 吊戸棚

※ 優良住宅部品(ｾｸｼｮﾅﾙｷｯﾁﾝ)　・

寸法	開戸	棚板
⊙W900×D350～450×H500	※ 2枚　・	※1段　・
・W600×D350～600×H620	※ 2枚　・	※2段　・

29 水切棚

※ 既製品　ｽﾃﾝﾚｽ製一般型　・

㉚ ﾌｰﾄﾞ

※ 市販品（ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ）　（　参考商品名　：　）
・ 標準詳細図6-11-2　ｽﾃﾝﾚｽ板厚　※0.4　・1.0

31 旗竿

材種	形式	高さ（mm）	操作方法	固定方法
※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・ﾃｰﾊﾟｰ式 ・同一断面式 ・		・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・ﾛｰﾌﾟ式	・埋込式 ・ﾍﾞｰｽ式 ・ﾊﾝﾄﾞ式

32 旗竿受金物

材種　※ ｽﾃﾝﾚｽ製（SUS304）
　・

33 車止め支柱

形式		材種	柱径、肉厚 mm	高さ mm
・上下式鎖内臓式	・標準品 ・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式	・ｽﾃﾝﾚｽ製	・	・
・				

34 ﾌｪﾝｽ

ﾌｪﾝｽの種類及び形状
　・ﾋﾞﾆﾙ被覆ｴｷｽﾊﾟﾝﾄﾞﾌｪﾝｽ　（　高さ　・図示　・　）
　　（　参考品名　：　）
　・ 樹脂塗装ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　（　高さ　・図示　・　）
　　（　参考品名　：　）
　・ 鋼管ﾌｪﾝｽ　（　高さ　・図示　・　）
　　（　参考品名　：　）
　・ ｱﾙﾐﾌｪﾝｽ　（　高さ　・図示　・　）
　　（　参考品名　：　）

35 屋内掲示板

形状　・幅（　）×高さ（　）　・図示
仕様　・ 下記に示す製造所の商品程度とする
　　（　　）
　　・ 以下による
　　枠の材質　・ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　・
　　表面の材質　・ 塩ﾋﾞ発泡ｼｰﾄ張り　・

36 敷地境界標

・ ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ製の市販品程度
・ 金属製（真ちゅう製50角　ｱﾝｶｰ共）

37 耐震ｽﾘｯﾄ

方向	ﾀｲﾌﾟ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向 ・水平方向	※ 完全（全貫通型）	・耐火壁 ・非耐火壁	・有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ｼｰﾘﾝｸﾞ（見え掛かりのみ） ・	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（見え掛かりのみ） ・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（内外共）
目地寸法（幅m×深さm）	・20×10　・	・20×10　・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.2による

38 打継止水材

適用箇所　・ EVﾋﾟｯﾄ　・
　・ 水膨張性ｺﾝｸﾘｰﾄ打継止水材　寸法：幅20×厚10

39 ｴｷｽﾊﾟﾝｼｮﾝ・ｼﾞｮｲﾝﾄ金物

耐震性能　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

40 ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ

ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度　(20.3.3～4)
　※ 水ｾﾒﾝﾄ比55%以下、単位ｾﾒﾝﾄ量の最小値300kg/㎥を満足する調合強度
　・ 図示

配筋　※ 配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
　・ 図示

取付方法　※ 図示

41 間知石及びｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ積み

(20.4.2～3)

材種		種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	-	-	
・ｺﾝｸﾘｰﾄ間知ﾌﾞﾛｯｸ	-		・A　・B	

積み方　※ 谷積み　・ 布積み

目塗り　・ 図示　・ 伸縮目地

伸縮調整目地　材種　・ 図示　・
　　厚さ　・ 図示　・

設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

1級建築士　内田　要
大臣登録　第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:1 A3版 1:1.50	佐賀県競馬組合
図面名	特記仕様書（建築新営）その10	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号

図面番号 A-11

20 続き

42 洗面ｶｳﾝﾀｰ

材種
・ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板張り（心材：集成材）
・人工大理石

奥行き(mm)
・約450　・約600　・図示

43 防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ	高さ	備考
・網入り磨き板ｶﾞﾗｽ	・6.8	・500	ｱﾙﾐ製枠付き
・線入り磨き板ｶﾞﾗｽ	・		

・可動式

種類	材質	高さ	備考
・垂直下降式（巻取り式）	・不織布（不燃認定品）・	・500 ・800 ・	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ ・固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転下降式	鋼板製又はｱﾙﾐ製	・500 ・800 ・	表面仕上げ ・天井材張り ・

下降機構
煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

44 屋外掲示板

形状　・幅（　）×高さ（　）　・図示

照明器具　・有り　・無し

施錠　・有り　・無し

製造所　下記に示す製造所の商品程度とする
（　　）

21 排水工事

① 屋外雨水排水

排水管用材料　(21.2.1、2)(表 21.2.1、2)

材料	管の種類	形状	呼び径
・遠心力鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ管	※外圧管（1種）	・B形状 ・	※図示 ・
⊙硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	※VP		※図示　・
	・VU		※図示　・
	・RS-VU　G		※図示　・

基床の厚さ　・図示　・
・呼び径300以下は100mm、呼び径300を超える場合は150mm

基床の種類　・図示　・砂地業　※砂利地業

硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管の継手に用いる材料　※接着剤　・

側塊の形状及び寸法　・図示　・

排水桝の種類　・図示　・

砂地業に用いる材料　・ｼﾙﾄ　・山砂　・川砂　・砕砂

砂利地業に用いる材料　・再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ G
・切込砂利又は切込砕石

・現場打ちの場合のｺﾝｸﾘｰﾄ材料
設計基準強度　※18N/mm2　・

・現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD295

・現場打ちの場合の足金物　※標準仕様書21.2.2(6)(オ)
材質　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・鋼製　・合成樹脂被覆加工されたもの

凍土抑制層に用いる材　・
砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない

鋳鉄製ふた　(21.2.1)
形状及び寸法等　※図示

ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ　(21.2.1)
形状及び寸法等　※図示
（品質・性能・試験方法）　建築材料等品質性能表による

② 街きょ、縁石、側溝

種類、形状及び寸法等　※図示　(21.3.1、2)(表21.3.1)

地業の材料　・ｼﾙﾄ　・山砂　・川砂　・砕砂

砂利地業に用いる材料　・再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ G
・切込砂利又は切込砕石

砂利地業の厚さ　※100(mm)　⊙図示

・現場打ちの場合のｺﾝｸﾘｰﾄ材料
設計基準強度　※18N/mm2　・

・現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　・SD295

6 埋戻し土

表3.2.1「埋戻し及び盛土の種別」による　(21.2.1)
※B種　・

22 舗装工事

1 路床

路床の材料　(22.2.2～5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　※B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	※図示
・凍土抑制層	・適用する　・適用しない （　厚さ　・　）	※図示
・ﾌｨﾙﾀｰ層	・標準仕様書22.2.3(3)	※図示

路床の構成及び仕上り　・図示　・

凍土抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験
・行う　・行わない

・路床安定処理
安定処理の方法　・置き換え工法　・安定処理工法
路床安定化処理用添加材料
種類　・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
・高炉ｾﾒﾝﾄB種
・生石灰　（　・特号　・1号　）
・消石灰　（　・特号　・1号　）
添加量　・（　　）kg/m³
（　目標CBR　・3以上　・　　）

・ｼﾞｵﾃｷｽﾀｲﾙ
単位面積質量　・60g/m²以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数　・1.5×10??cm/sec以上　・

試験
路床土の支持力比（CBR）試験　・行う　・行わない
路床締固め度の試験　・行う　・行わない
現場CBR試験　・行う　・行わない

2 路盤

路盤の構成及び厚さ　・図示　・　(22.3.2～5)(表22.3.1)

路盤材料　・砕石
・再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ G RC-40
・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞ G CS-40
・図示　・

試験
路盤締固め度の試験　※行う　・行わない

3 ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装

ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装の構成及び厚さ　※図示　・

材料
ｱｽﾌｧﾙﾄ　※再生ｱｽﾌｧﾙﾄ G（　種類　・60～80　・80～100　）
骨材　・ｽﾄﾚｰﾄｱｽﾌｧﾙﾄ
・道路用砕石
※ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ再生骨材 G

加熱ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の種類

区分	地域	種類
表層	・一般地域	・密粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13) ・細粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物(13)

ｼｰﾙｺｰﾄ乳剤の種別　・PK-1　・PK-2

試験
ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

4 ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装

ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装の厚さ　(22.5.2～4、6)(表22.5.1、3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装	車路及び駐車場	・図示	・図示　・150　・
	歩行者用通路	・図示	・図示　※70　・

材料
ｺﾝｸﾘｰﾄ　種類　・
設計基準強度　・
所定のｽﾗﾝﾌﾟ　※8
粗骨材の最大寸法　・
※普通ｺﾝｸﾘｰﾄ、標準仕様書表22.5.1による

早強ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　・使用する　・使用しない

注入目地材料　※低弾性ﾀｲﾌﾟ　・高弾性ﾀｲﾌﾟ

目地
種類、間隔、構造　※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による
・図示

溶接金網　※使用する

試験
ｺﾝｸﾘｰﾄ版厚さの試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度

5 ｶﾗｰ舗装

(22.6.2～4)(表22.6.1)
種類　・加熱系　・常温系

加熱系ｶﾗｰ舗装
構成及び厚さ　※図示　・
加熱系混合材の結合材　※図示　・

常温系カラー舗装
工法　・ﾆｰﾄ工法　・塗布工法
着色部の下部　・ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装　・ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装

材料
添加する材料　・着色骨材（　　）
・自然石（　　）

舗装の平たん性　※通行の支障となる水たまりを生じない程度

配合
結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量
・

ﾆｰﾄ工法及び塗布工法の配合等
・

6 透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装

開粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装の構成及び厚さ　(22.7.2、3、6)
※図示　・

材料　骨材　※道路用砕石
・ｱｽﾌｧﾙﾄｺﾝｸﾘｰﾄ再生骨材 G（表22.4.1）
（　種類　・60～80　・80～100　）

試験
透水性アスファルト混合物等の抽出試験
※行う　・行わない

舗装の平たん性　※著しい不陸がないもの
・

7 ﾌﾞﾛｯｸ系舗装

・ｺﾝｸﾘｰﾄ平板舗装??　(22.8.2、3)

種類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材	備考
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	※300角 ・	※60	※砂 ・ﾓﾙﾀﾙ	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

ｸｯｼｮﾝ材　※砂　・空練りﾓﾙﾀﾙ

普通平板は G(再生材料を用いた舗装用ブロック)、
透水平板は G(透水性コンクリート）とする。
ただし、調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。

仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、ｺﾝｸﾘｰﾄ平板間の段差は3mm以内
・

・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装??　(22.8.2、3)

種類	厚さ（mm）	形状寸法	曲げ強度 N/mm2	備考
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	車路 ※80 ・	・図示 ・	※5.0 ・	表面加工 ・ ・
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	歩行者用通路 ※60 ・	・図示 ・	※3.0 ・	張り方 ※ﾍﾘﾝﾎﾞﾝﾎﾞﾝﾄﾞ ・ｽﾄﾚｯﾁｬｰﾎﾞﾝﾄﾞ ・図示

ｸｯｼｮﾝ材　※砂　・空練りﾓﾙﾀﾙ

歩道部に使用する普通ﾌﾞﾛｯｸは G(再生材料を用いた舗装用ﾌﾞﾛｯｸ)とする
透水性ﾌﾞﾛｯｸは G(透水性コンクリート）とする。
ただし、調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。

仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、ﾌﾞﾛｯｸ間の段差は3mm以内
・

設計変更年月日
1回　年　月　日
2回　年　月　日
3回　年　月　日

1級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事
図面名　特記仕様書（建築新営）その１１
縮尺　A1版 1:1　A3版 1:1.50
設計　年　月　日

佐賀県競馬組合
1級建築士登録　第　号

図面番号　A-12

22 続き

7 続き

・舗石舗装

種類	形状 寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基層
※小舗石 （花こう岩） ・	・割石 ・図示	・	※うろこ張り ・	※ｺﾝｸﾘｰﾄ版 ※70mm ・ ・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物 ※50mm ・

ｸｯｼｮﾝ材　※砂　・空練りﾓﾙﾀﾙ

仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、ｺﾝｸﾘｰﾄ平板間の段差は3mm以内

8 砂利敷き

種別
・A種 （ 施工範囲 ： ・図示 ・通路 ・ ）
・B種 （ 施工範囲 ： ・図示 ・建物周囲 ・ ）

9 路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
・1種??	常温	液状	※白	・150	・1.5
・2種??	加熱		・	・100	・
※3種1号	溶融	粉体状			

G 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

10 車止め

車止め用既製ｺﾝｸﾘｰﾄ　W200×L600×H120　小型反射板付き

全面接着アンカー併用固定（彫込み30mm埋込み65mm以上）

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等

土壌の水素ｲｵﾝ濃度（pH）試験　・行う　・行わない　(23.1.3)

水溶性塩類（EC）の試験　・行う　・行わない

2 植栽基盤の整備　(23.2.2)

植栽	工法	有効土層の厚さ	整備範囲	土壌改良費
・樹木	※A種	樹高12m以上	・葉張り部分	・適用する
	・B種	（※100 ・120 ・150 ）	・植栽部分	・適用しない
	・C種	樹高7m以上～12m未満	※図示	
	・D種	（※80 ・100 ）	・	
	・	樹高3m以上～7m未満 （※60 ・80 ）		
		樹高3m未満 （※50 ・60 ）		
※芝、地被類	※B種	※20	・植栽部分 ※図示 ・	・適用する ・適用しない

但し、現状地盤より高さが上がる場合はD種とする

植栽基盤の排水設備　・設ける （ ※図示 ・ ）
・設けない

3 植込み用土

※現場発生土の良質土　・客土

4 土壌改良材

・適用する （ 施工箇所 ※図示 ）

・バーク堆肥 G

使用量	：	植栽基盤面積1m2あたり （ ・50L ・ ）
有機物の含有率（乾物）	：	70% 以上
炭素窒素比（C/N比）	：	35 以下
陽イオン交換容量（乾物）	：	70meq/100g 以上
pH	：	5.5～7.5
水分	：	55～65%
幼植物試験の結果	：	生育阻害その他の異常が認められない
窒素全量（現物）	：	0.5% 以上
りん酸全量（現物）	：	0.2% 以上
加里全量（現物）	：	0.1% 以上

施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合、及び調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。

・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト） G

「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。

使用量	：	植栽基盤面積1m2あたり （ ・10L ・ ）
有機物の含有率（乾物）	：	35% 以上
炭素窒素比（C/N比）	：	20以下
pH	：	8.5 以下
水分	：	50% 以下
窒素全量（現物）	：	0.8% 以上
りん酸全量（現物）	：	1.0% 以上
アルカリ分（現物）	：	15% 以下 （ただし、土壌の酸度を矯正する目的で使用する場合はこの限りではない）

施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質から使用が不適な場合、及び調達困難な場合は監督職員と協議を行うものとする。

5 樹木　(23.3.2)

※さがの樹　樹種、寸法、株立数等　※図示 ・

・県内産苗木　樹種、寸法、株立数等　※ ・

・上記以外の樹種、寸法、株立数等　※ ・

6 支柱　(23.3.2、3)

支柱材　※丸太（間伐材） G　・真竹

防腐処理方法　※加圧式防腐処理丸太材　・

形式　・図示 ・

7 幹巻き用材料

材料　(23.3.2)
※幹巻き用テープ　・わら及びこも

8 芝

種類　※ｺｳﾗｲｼﾊﾞ　・ﾉｼﾊﾞ　・　(23.4.2～3)

芝張りの工法
平地　※目地張り　・べた張り
法面　・目地張り　※べた張り

9 吹付けは種　(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）
※洋芝類 （採取後2年以内）	※発芽率80%以上	

10 地被類　(23.4.2)

樹種	ｺﾝﾃﾅ径	単位面積当たりのｺﾝﾃﾅ数	芽立数
・ ・			

11 屋上緑化 G

植栽基盤及び材料　(23.5.2、3)

・屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・図示 ・
排水層　・軽量骨材 （ 層の厚さ ： ）
・板状成型品
植込み用土　※改良土　・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等
※図示 ・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
※図示 ・
（品質・性能・試験方法）　建築材料等品質性能表による

・屋上緑化軽量システム
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等
※図示 ・
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等
※図示 ・
（品質・性能・試験方法）　建築材料等品質性能表による

支柱　・設置する （ 形式 ・図示 ・ ）

かん水装置　※設置する （ 種類 ・ ）

12 樹木札

樹木札図

13 新植樹木、芝及び地被類の枯補償

・引渡しの日から1年とする　(23.5.5)

別表-1　設備工事との工事区分表　○印は本工事範囲とする

工事内容				本工事	電気設備工事	機械設備工事
機器の基礎	電気関係	配電盤・制御盤の基礎	屋内			
			屋外			
			屋上			
		ﾃﾚﾋﾞｱﾝﾃﾅ基礎				
		避雷針の基礎				
		特記した基礎				
	機械関係	屋内設備				
		屋上設備（架台、ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄを除く）				
		屋外設備（ 〃 ）				○
		架台・ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ				○
		特記した基礎				○
開口部	梁、床、壁	補強を要するもの		○		
	貫通ｽﾘｰﾌﾞ	補強を要しないもの			○	○
	梁、床、壁	補強を要するもの		○		
	貫通部型枠	補強を要しないもの			○	○
	軽量鉄骨下地	補強を要するもの		○		
	壁・天井ﾎﾞｰﾄﾞ類の切込	補強を要しないもの（ｱｳﾄﾚｯﾄﾎﾞｯｸｽは除く）			○	○
	埋込形分電盤、	補強を要するもの		○		
	端子盤等の型枠	補強を要しないもの			○	
	上記開口部の墨出し				○	
	上記開口部の補強				○	
	ｽﾘｰﾌﾞの穴埋め（型枠の穴埋めを含む）				○	
	OAﾌﾛｱｰ配線器具用					
点検口	床、壁、天井			○		
外部取付ｶﾞﾗﾘ	ﾀﾞｸﾄ、ﾁｬﾝﾊﾞｰの接続用ﾌﾗﾝｼﾞを含む					
防油堤	ｵｲﾙｻｰﾋﾞｽﾀﾝｸの防油堤、ﾀﾝｸ基礎					
床下水槽のﾏﾝﾎｰﾙふた						
ｶﾞｽ漏れ検知器						
消火栓組込み機器収納箱内配線整理用端子板						
湯沸室の排気ﾌｰﾄﾞ						
換気扇	本体					○
	取付枠					○
流し台	本体（排水ﾄﾗｯﾌﾟ共）			○		
	水栓					○
浴槽						
身障者用便所手摺り						
	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）				○	
	機器付属の制御盤への電源供給配線				○	
	自動制御盤と動力盤との電源供給の渡り配管配線					○
	自動制御盤と動力盤との操作回路の渡り配管配線				○	
	機器と付属操作ｽｲｯﾁ等との渡り配線				○	
	機器と付属操作ｽｲｯﾁ等との渡り配管					○
電	機器と付属操作ｽｲｯﾁ				○	
気	機器と付属操作ｽｲｯﾁの埋込ﾎﾞｯｸｽ					
配	煙感知器から連動制御盤を経て					
管	防煙ﾀﾞﾝﾊﾟｰ及び排煙口に至る配管配線					
配	小便器用節水装置制御盤以降の配管配線					
線	自動ﾄﾞｱ及び電動ｼｬｯﾀなどの制御部への電源供給					
	自動ﾄﾞｱ及び電動ｼｬｯﾀなどの制御部と操作ｽｲｯﾁ間の配管配線及び操作ｽｲｯﾁ					
	防火扉ﾚﾘｰｽﾞ					
	電極棒					
	配線ﾋﾟｯﾄ及びふた					
	別途機器などへの接続					
ｼｽﾃﾑ天井	ﾎﾞｰﾄﾞ・Tﾊﾞｰ					
	照明ﾗｲﾝ設備ﾌﾟﾚｰﾄ					
	空調ﾗｲﾝ設備ﾌﾟﾚｰﾄ					
電気錠	電気錠及び通電金具					
	ﾃﾝｷｰ及び制御盤					
浄化槽	杭工事					
	土工事					
	基礎工事					
	電気工事					
水道ﾘﾓｰﾄﾒｰﾀｰの配線						
水道ﾘﾓｰﾄﾒｰﾀｰの配線の結線と調査						

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士　内田 要
大臣登録 第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名　特記仕様書（建築新営）その12

縮尺　A1版 1:1　A3版 1:1.50

設計　年 月 日

佐賀県競馬組合

1級建築士登録 第 号

図面番号　A-13

別表-2

品目	対象材料名
床型枠用鋼製ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	標準仕様書、6章8節に規定する床型枠鋼製ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄを対象
鉄骨柱下無収縮ﾓﾙﾀﾙ	標準仕様書、7章2節に規定する無収縮ﾓﾙﾀﾙを対象
無収縮ｸﾞﾗｳﾄ材	改修標準仕様書、8章2節に規定する無収縮ｸﾞﾗｳﾄ材とし、 ﾌﾟﾚﾐｯｸｽ形及び現場調合形を対象
乾式保護材(防水立上部)	標準仕様書、9章2節に規定する乾式保護材を対象
既製調合ﾓﾙﾀﾙ(ﾀｲﾙ工事用)	標準仕様書、11章2節に規定する既製調合ﾓﾙﾀﾙを対象
既製調合目地材	標準仕様書、11章2節に規定する既製調合目地材とし、 主として外装用を対象
ﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝ	標準仕様書、13章5節に規定するﾙｰﾌﾄﾞﾚﾝとし、ｺﾝｸﾘｰﾄ打ち込みﾀｲﾌﾟを対象
吸水調整材(ﾓﾙﾀﾙ用)	標準仕様書、15章3節に規定する吸水調整材を対象
ｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具	標準仕様書、16章2節に規定するｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具とし、一般的なﾋﾞﾙ用 建具を対象 新たに形材を製作するものや金属ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ及び防音ｻｯｼは対象外 但し、断熱ｻｯｼについては③(C種におけるH-3以上)を対象 ① 70-200-8-35 (A種) ② 70-240-8-35 (B種) ③ 100-280-2-50 (C種)
鋼製建具	標準仕様書、16章4節に規定する鋼製建具(標準型鋼製建具を含む) を対象とし、建具の分類は下記による ① 鋼製建具(簡易気密型を除く) ② 鋼製建具(簡易気密型)
鋼製軽量建具	標準仕様書、16章5節に規定する鋼製軽量建具 (標準型鋼製軽量建具 を含む)を対象とし、建具の分類は下記による ① 鋼製軽量建具(簡易気密型を除く) ② 鋼製軽量建具(簡易気密型)
鋼製軽量建具	標準仕様書、16章5節に規定する鋼製軽量建具 (標準型鋼製軽量建具 を含む)を対象とし、建具の分類は下記による ① 鋼製軽量建具(簡易気密型を除く) ② 鋼製軽量建具(簡易気密型)
ｽﾃﾝﾚｽ製建具	標準仕様書、16章6節に規定するｽﾃﾝﾚｽ製建具を対象とし、簡易気密型は対象外
錠前類	標準仕様書、16章8節に規定する錠前類及び標準型建具用のﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ を対象とし、下記による ① ｼﾘﾝﾀﾞ箱錠(ｼﾘﾝﾀﾞ箱錠) 標準型建具用を含む (ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ) 標準型建具用を含む ② ｼﾘﾝﾀﾞ本締り錠
ｸﾛｰｻﾞｰ類	標準仕様書、16章8節に規定するｸﾛｰｻﾞｰ類を対象とし、下記による ① ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ(標準型建具用を含む) ② ﾋﾝｼﾞｸﾛｰｻﾞｰ ③ ﾌﾛｱﾋﾝｼﾞ
自動ﾄﾞｱ機構	標準仕様書、16章9節に規定する自動ﾄﾞｱ開閉装置(引き戸用)を対象 とし、分類は湯沸室のフードの配管工事下記による
自閉式上吊り引戸機構 (手動開き式)	標準仕様書、16章10節に規定する自閉式上吊り引戸装置とし、主として 身体障がい者等が使用する一般庁舎等の事務室の出入口、屋内用、 屋外用の身体障がい者用便 所の出入口を対象
重量ｼｬｯﾀｰ	標準仕様害、16章11節に規定する重量ｼｬｯﾀｰを対象とし、種類は下記による ① 用途による種類：管理用ｼｬｯﾀｰ、外壁用防火ｼｬｯﾀｰ、屋内用防火ｼｬｯﾀｰ を対象とし防炎ｼｬｯﾀｰは対象外 ② 開閉機能による種類：上部電動式(手動併用)及び上部手動式を対象 ③ ｽﾗｯﾄの形式による種類：ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ形を対象とし、ｵｰﾊﾞｰﾗｯﾋﾟﾝｸﾞ形 は対象外
軽量ｼｬｯﾀｰ	標準仕様書、16章12節に規定する軽量ｼｬｯﾀｰを対象とし、開閉形式による 種類は上部電動式(手動併用)、手動式を対象
ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ	ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ標準仕様書、16章13節に規定するｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱを対象とし、 JIS A 4715「ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ構成部材」による種類は下記による。 ① ｾｸｼｮﾝ材料による区分：ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ、ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ、ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟを対象 ② 開閉方式による区分：ﾊﾞﾗﾝｽ式、ﾁｪｰﾝ式、電動式を対象 ③ 強さによる区分：強さの区分50、75、100、125を対象 ④ 収納形式による区分：ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形、ﾛｰﾍｯﾄﾞ形、ﾊｲﾘﾌﾄ形、ﾊﾞｰﾁｶﾙ形を対象
防水剤	標準仕様書、15章3節に規定する建具廻り等に使用するﾓﾙﾀﾙに 混入する防水剤を対象
現場発泡断熱材	標準仕様書、19章9節に規定する現場発泡断熱材でノンフロンを対象
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ	標準仕様書、20章2節に規定するﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱとし、使用用途は一般庁舎等の 高さ600mm以下を対象とし、分類は下記による ① 3000N ② 5000N
可動間仕切	可動間仕切標準仕様書、20章2節に規定する可動間仕切を対象とし 国土交通省大臣認定の「耐火構造間仕切」及び構造形式の空間の 仕切り方のうち床置き形は対象外
移動間仕切(ｽﾗｲﾃﾞｨﾝｸﾞﾄﾞｱ)	標準仕様書、20章2節に規定する移動間仕切を対象とし、使用用途は 主として一般庁舎用を対象
ﾄｲﾚﾌﾞｰｽ	標準仕様書、20章2節に規定するﾄｲﾚﾌﾞｰｽを対象とし、使用用途は 主として一般庁舎用を対象
煙突用ﾗｲﾆﾝｸﾞ材	標準仕様書、20章2節に規定する煙突用成形ﾗｲﾆﾝｸﾞ材とし、 ｺﾝｸﾘｰﾄ打込みを対象
天井点検口	標準仕様書、14章4節に規定する軽量鉄骨天井下地等に 取付ける天井点検口を対象 また外部軒天井に使用する場合は、その対応が可能なものを対象とする
床点検口	一般庁舎等の屋内及び外部玄関ﾎﾟｰﾁ部分の歩行用としｺﾝｸﾘｰﾄ床ｽﾗﾌﾞ用を 対象とし、寸法は600角程度までとする
ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ	標準仕様書、21章2節に規定するものとし、一般庁舎の構内に使用する ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞとしている。材質、用途による分類は下記による ① 材質による分類：鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ、ｽﾃﾝﾚｽ製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞを対象とする ② 用途による種類：溝ふた(横断用、側溝用)、ますふた用、かさあげ用、 U字側溝を対象とし、大ｽﾊﾟﾝ用及び荷重種別T-25用並びに床板用は対象外

品目	対象材料名
屋上緑化ｼｽﾃﾑ	標準仕様書、23章5節屋上緑化及び改修標準仕様書9章6節に規定する 屋上緑化改修工事を主とし、区分は下記による ① 屋上緑化ｼｽﾃﾑ(板状成形品ﾀｲﾌﾟ) ② 屋上緑化軽量ｼｽﾃﾑ
ﾄｯﾌﾟﾗｲﾄ	一般庁舎の屋上に単体で設置するもので、ｶﾞﾗｽ等を採光部に用いた小規模の 既製金属部材による製品(開口部は最大2,000mm角または、長辺が3,000mm以下 のもの)とし30分以上の耐火性能を有するものを対象 また、耐火性の無い、透光性の合成樹脂系成形ﾄﾞｰﾑ等を持つ製品であっても、 下部に網入りｶﾞﾗｽを用い、30分以上の耐火性能を有するものは対象 ただし、大型のｱﾄﾘｳﾑや、特別の形状を持つ特注品及び上部に人が乗ることを 想定したものは対象外
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ	改修標準仕様書、4章2節に規定するﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙを対象
鋳鉄製ふた (ﾏﾝﾎｰﾙふた、弁桝ふた)	公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)の当該事項に規定する ﾏﾝﾎｰﾙふた・弁桝ふたを対象

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名 特記仕様書（建築新営）その13

縮尺 A1版 1:1 A3版 1:1.50

設計 年 月 日

佐賀県競馬組合

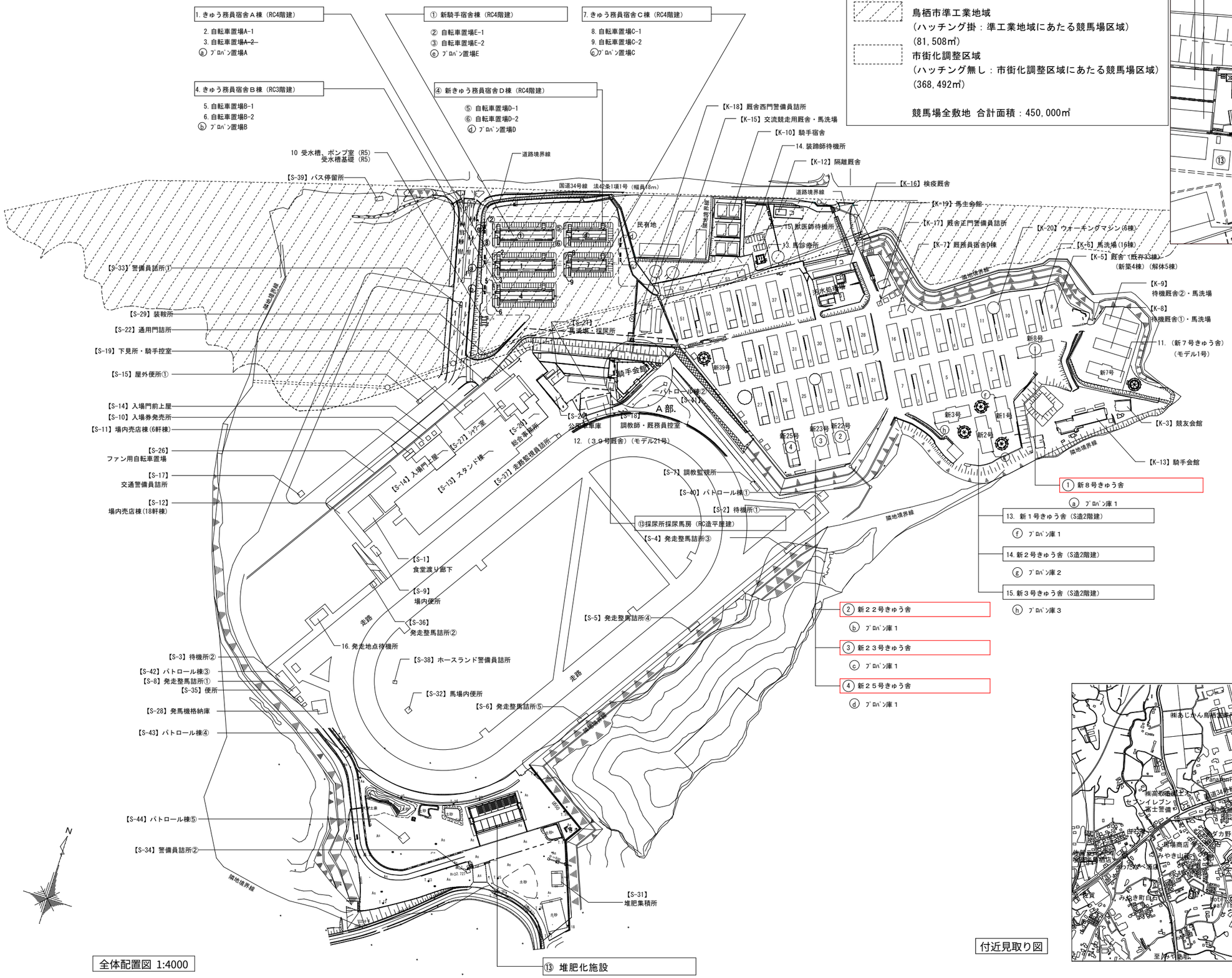
1級建築士登録 第 号

図面番号 A-14

凡例

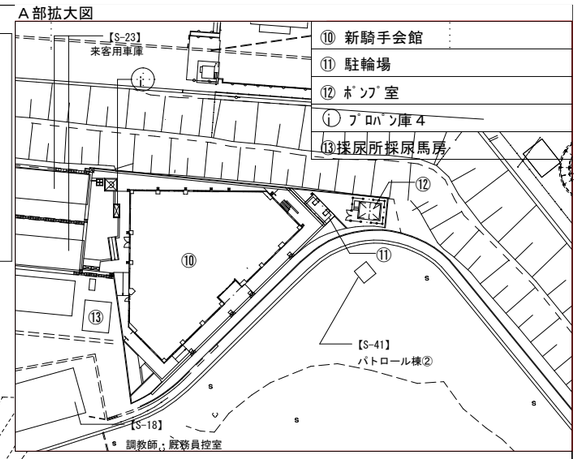
鳥栖市準工業地域
（ハッチング掛：準工業地域にあたる競馬場区域）
（81,508㎡）
市街化調整区域
（ハッチング無し：市街化調整区域にあたる競馬場区域）
（368,492㎡）

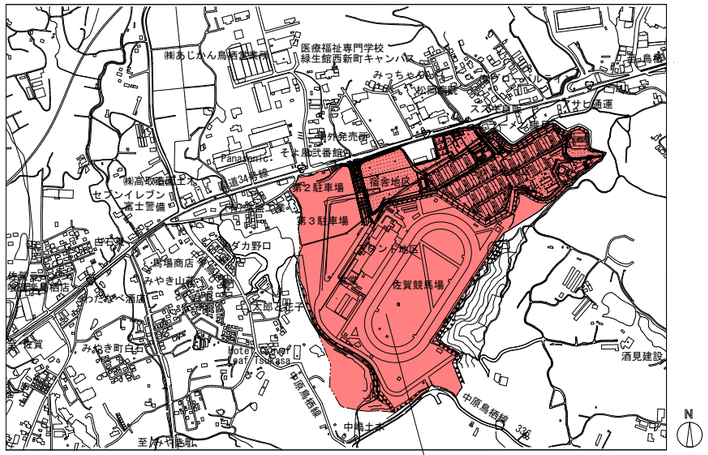
競馬場全敷地 合計面積：450,000㎡



全体配置図 1:4000

A部拡大図





付近見取り図

佐賀競馬場：鳥栖市江島町宇西谷3256-228

	設計変更年月日
	1回 年 月 日
	2回 年 月 日
	3回 年 月 日

１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:2000 A3版 1:4000	佐賀県競馬組合
図面名	全体配置図・付近見取り図	設計 年 月 日	１級建築士登録 第 号

図面番号 A-15

棟数	記号	建物名	階	建築面積	延床面積
		（既存建物）			
1	K-3	競友会館	1	148.03	148.03
2	K-5	厩舎（33棟）	2		
～					
34				13,644.84	15,530.68
35	K-6	馬洗い場（16棟）	1		
～					
50				1,565.40	1,565.40
51	K-7	厩務員宿舎D棟	2	196.32	355.36
52	K-8	待機厩舎①・馬洗い場	1	431.62	431.62
53	K-9	待機厩舎②・馬洗い場	1	458.02	458.02
54	K-10	騎手宿舎	2	876.54	1,299.54
55	K-12	隔離厩舎	1	60.70	60.70
56	K-13	騎手会館	2	610.10	1,121.55
57	K-15	交流競走用厩舎・馬洗い場	2	371.90	610.39
58	K-16	検疫厩舎	1	401.00	401.00
59	K-17	厩舎正門警備員詰所	1	9.00	9.00
60	K-18	厩舎西門警備員詰所	1	4.75	4.75
61	K-19	馬主会館	2	88.35	167.34
62	K-20	ウォーキングマシン（6棟）	1		
～					
67				334.16	334.16
68	S-1	食堂渡り廊下	1	150.00	150.00
69	S-2	待機所①	1	114.00	114.00
70	S-3	待機所②	1	120.00	120.00
71	S-4	発走整馬詰所③	1	36.00	36.00
72	S-5	発走整馬詰所④	1	21.30	21.30
73	S-6	発走整馬詰所⑤	1	18.90	18.90
74	S-7	調教監視所	1	46.00	46.00
75	S-8	発走整馬詰所①	1	41.72	41.72
76	S-9	場内便所	1	85.43	85.43
77	S-10	入場券発売所	1	80.00	80.00
78	S-11	場内売店棟（6軒棟）	1	31.20	31.20
79	S-12	場内売店棟（18軒棟）	1	924.04	924.04
80	S-13	スタンド棟	3	7,043.94	17,215.57
81	S-14	入場門前上屋	1	620.00	620.00
82	S-15	屋外便所①	1	12.00	12.00
83	S-17	交通警備員詰所	1	26.60	26.60
84	S-18	調教師・厩務員控室	2	230.68	368.59
85	S-19	下見所・騎手控室	2	52.78	91.62
86	S-20	総合事務所	3	694.80	1,331.83
87	S-21	採尿所・馬洗い場	1	227.50	227.50
88	S-22	通用門詰所	1	6.00	9.00
89	S-24	公用車車庫	1	216.00	231.00
90	S-26	ファン用自転車置場	1	239.11	239.11
91	S-27	シャワー室	1	34.51	34.51
92	S-28	発馬機格納庫	1	211.40	211.40
93	S-29	装鞍所	1	205.50	205.50
94	S-31	堆肥集積所	1	120.00	120.00
95	S-32	馬場内便所	1	9.30	9.30
96	S-33	警備員詰所①	1	3.42	3.42
97	S-34	警備員詰所②	1	3.42	3.42
98	S-35	便所	1	3.68	3.68
99	S-36	発走整馬詰所②	1	9.75	9.75
100	S-37	走路監視員詰所	1	4.75	4.75
101	S-38	ホースランド警備員詰所	1	4.75	4.75
102	S-39	バス停留所	1	30.00	30.00
103	S-40	パトロール棟①	1	9.00	9.00
104	S-41	パトロール棟②	1	9.00	9.00
105	S-42	パトロール棟③	1	9.00	9.00
106	S-43	パトロール棟④	1	9.00	9.00
107	S-44	パトロール棟⑤	1	9.00	9.00
		計		30,924.21	45,224.43

棟数	記号	建物名	階	建築面積	延床面積
		（令和５年度新築建物）			
108	1	新きゅう務員宿舎Ａ棟	4	725.44	1,848.90
109	2	自転車置場 A-1	1	13.04	13.04
110	3	自転車置場 A-2	1	17.79	17.79
	ⓐ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ置場 A	1	3.60	3.60
111	4	新きゅう務員宿舎Ｂ棟	3	725.44	1,394.17
112	5	自転車置場 B-1	1	13.04	13.04
113	6	自転車置場 B-2	1	17.79	17.79
	ⓑ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ置場 B	1	3.60	3.60
114	7	新きゅう務員宿舎Ｃ棟	4	461.74	1,121.12
115	8	自転車置場 C-1	1	13.04	13.04
116	9	自転車置場 C-2	1	17.79	17.79
	ⓒ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ置場 C	1	3.60	3.60
117	10	受水槽ﾎﾟﾝﾌﾟ室	1	15.00	15.00
118	11	(1号) 7 号きゅう舎	2	524.92	637.99
119	12	(21号) 3 1 号きゅう舎	2	524.92	637.99
120	13	馬診療所	1	71.31	71.31
121	14	装蹄師待機所	1	116.75	108.00
122	15	獣医師待機所	1	77.75	72.00
123	16	発走地点待機所	1	118.40	118.40
		令和５年度新築建物　計		3,464.96	6,128.17
123		令和６年度既存建物 計		34,389.17	51,352.60
		（令和６年度新築建物）			
124	①	新騎手宿舎	4	725.44	1,850.70
125	②	自転車置場 E-1	1	13.04	13.04
126	③	自転車置場 E-2	1	17.79	17.79
	ⓔ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ置場 E	1	3.00	3.00
127	④	新きゅう務員宿舎Ｄ棟	4	495.32	1,298.72
128	⑤	自転車置場 D-1	1	13.04	13.04
129	⑥	自転車置場 D-2	1	17.79	17.79
	ⓓ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ置場 D	1	3.00	3.00
130	⑦	新１号きゅう舎	2	524.93	637.98
	①	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫 1	1	1.17	1.17
131	⑧	新２号きゅう舎	2	524.93	637.98
	⑨	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫 2	1	1.17	1.17
132	⑨	新３号きゅう舎	2	524.93	637.98
	ⓗ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫 3	1	1.17	1.17
132		令和６年度新築建物　計		2,866.72	5,134.53
		計画変更（追加）建物			
133	⑩	新騎手会館	3	795.13	1,817.27
134	⑪	駐輪場	1	11.98	11.98
	①	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫 4	1	1.62	1.62
135	⑫	ﾎﾟﾝﾌﾟ室	1	6.00	6.00
136	⑬	堆肥化施設	1	1,358.50	1,265.00
		計画変更（追加）建物　計		2,173.23	3,101.87
		令和６年度新築建物　合計		5,039.95	8,236.40
136		既存建物合計		39,429.12	59,589.00

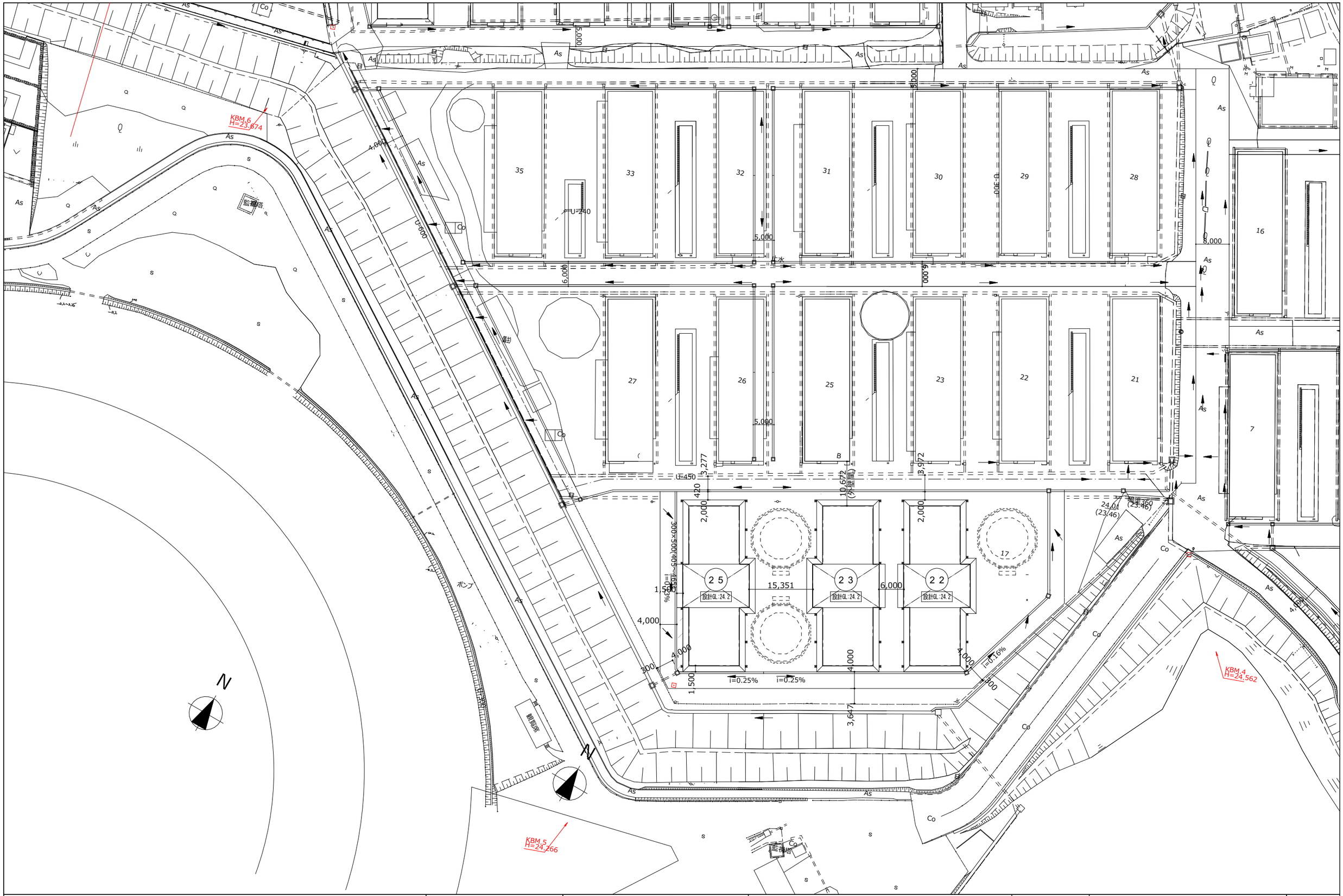
棟数	記号	建物名	階	建築面積	延床面積
		（令和７年度解体建物）			
		18号きゅう舎	2	-413.48	-471.80
		19号きゅう舎	2	-413.48	-471.80
		20号きゅう舎	2	-413.48	-471.80
		1号きゅう舎	2	-231.37	-289.69
		17号きゅう舎	2	-231.37	-289.69
		きゅう舎計		-1,703.18	-1,994.78
		馬洗い場 9	1	-91.80	-91.80
		馬洗い場 8	1	-46.80	-46.80
		馬洗い場 10	1	-46.80	-46.80
		馬洗い場　計		-185.40	-185.40
	S-23	来客用車庫		-316.50	-427.50
	S-25	従業員自転車置場		-160.20	-160.20
	S-30	予想新聞販売所		-32.63	-32.63
	S-16	屋外便所②		-12.00	-12.00
		（令和７年度新築建物）			
137		採尿所採尿馬房	1	31.20	31.20
		前回申請分		31.20	31.20
138	①	新８号きゅう舎	2	524.93	637.98
	ⓐ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫 8		1.17	1.17
139	②	新２２号きゅう舎	2	524.93	637.98
	ⓑ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫 22		1.17	1.17
140	③	新２３号きゅう舎	2	524.93	637.98
	ⓒ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫 23		1.17	1.17
141	④	新２５号きゅう舎	2	524.93	637.98
	ⓓ	ﾌﾟﾛﾊﾟﾝ庫 25		1.17	1.17
		今回申請分		2,104.40	2,556.60
141		令和７年度新築建物　計		2,135.60	2,587.80
141		STEP３完了時　合計		41,564.72	62,176.80

設計変更年月日	
１回	年　月　日
２回	年　月　日
３回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮 A1版 尺 A3版	佐賀県競馬組合
図面名	全体面積表	設計 年 月 日	１級建築士登録　第　号

図面番号 A-16



設計変更年月日			
1回	年	月	日
2回	年	月	日
3回	年	月	日

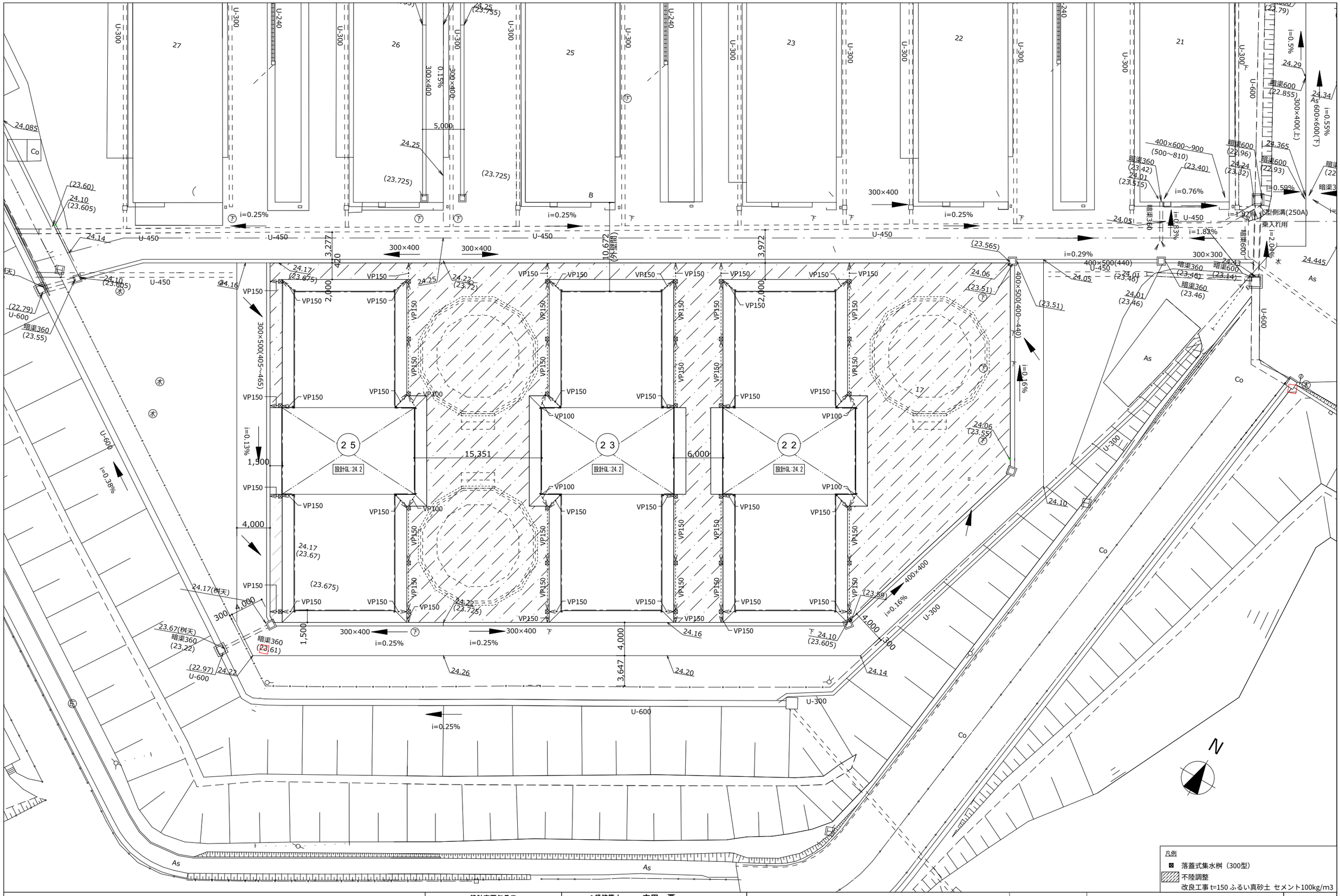
１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版 1:400 A3版 1:800
図面名	部分配置図	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

図面番号 A-17



凡例

⊠ 落蓋式集水桝（300型）

▨ 不陸調整

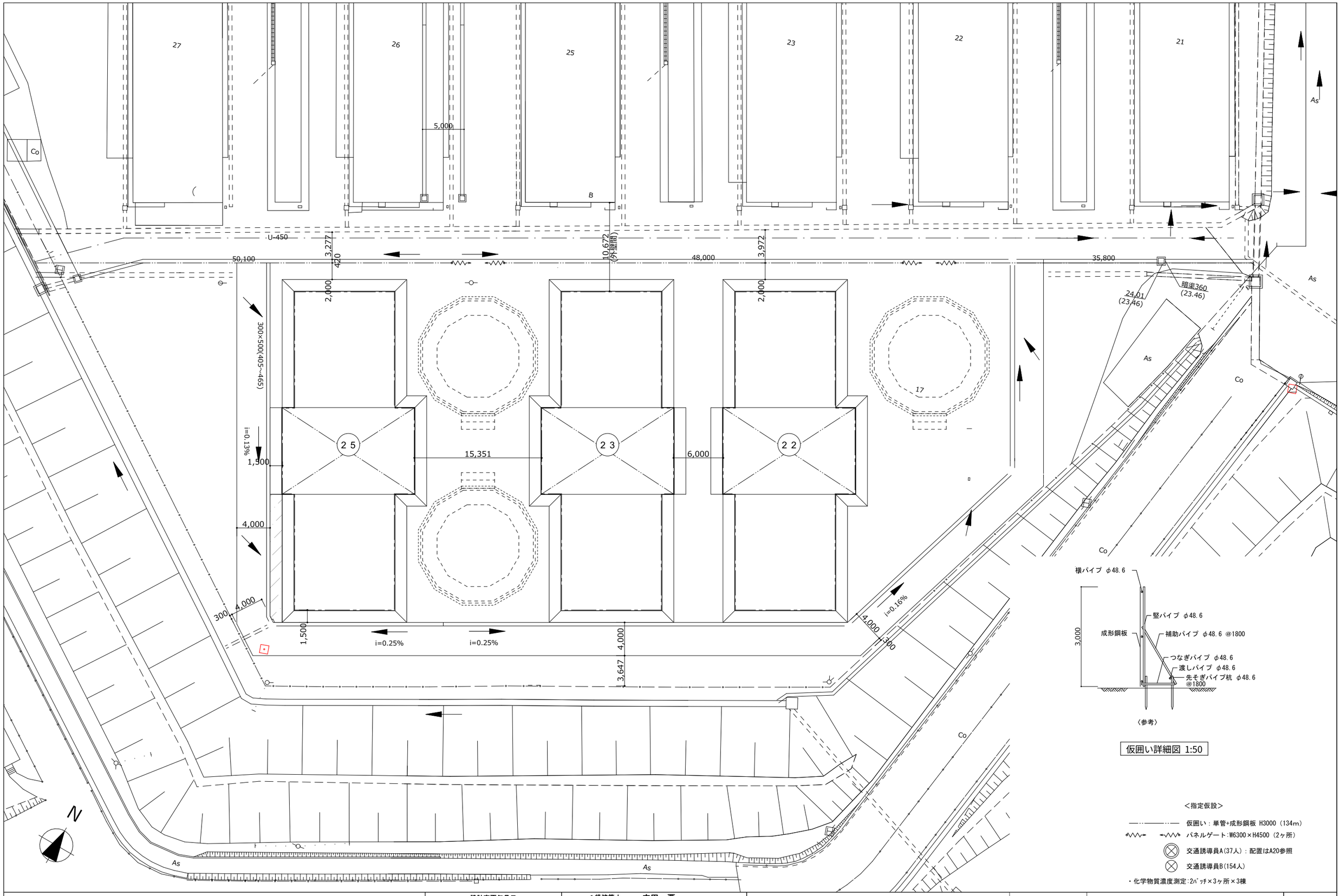
改良工事 t=150 ふるい真砂土 セメント100kg/m3

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:200 A3版 1:400	佐賀県競馬組合
図面名	部分配置詳細図	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号

図面番号 A-18

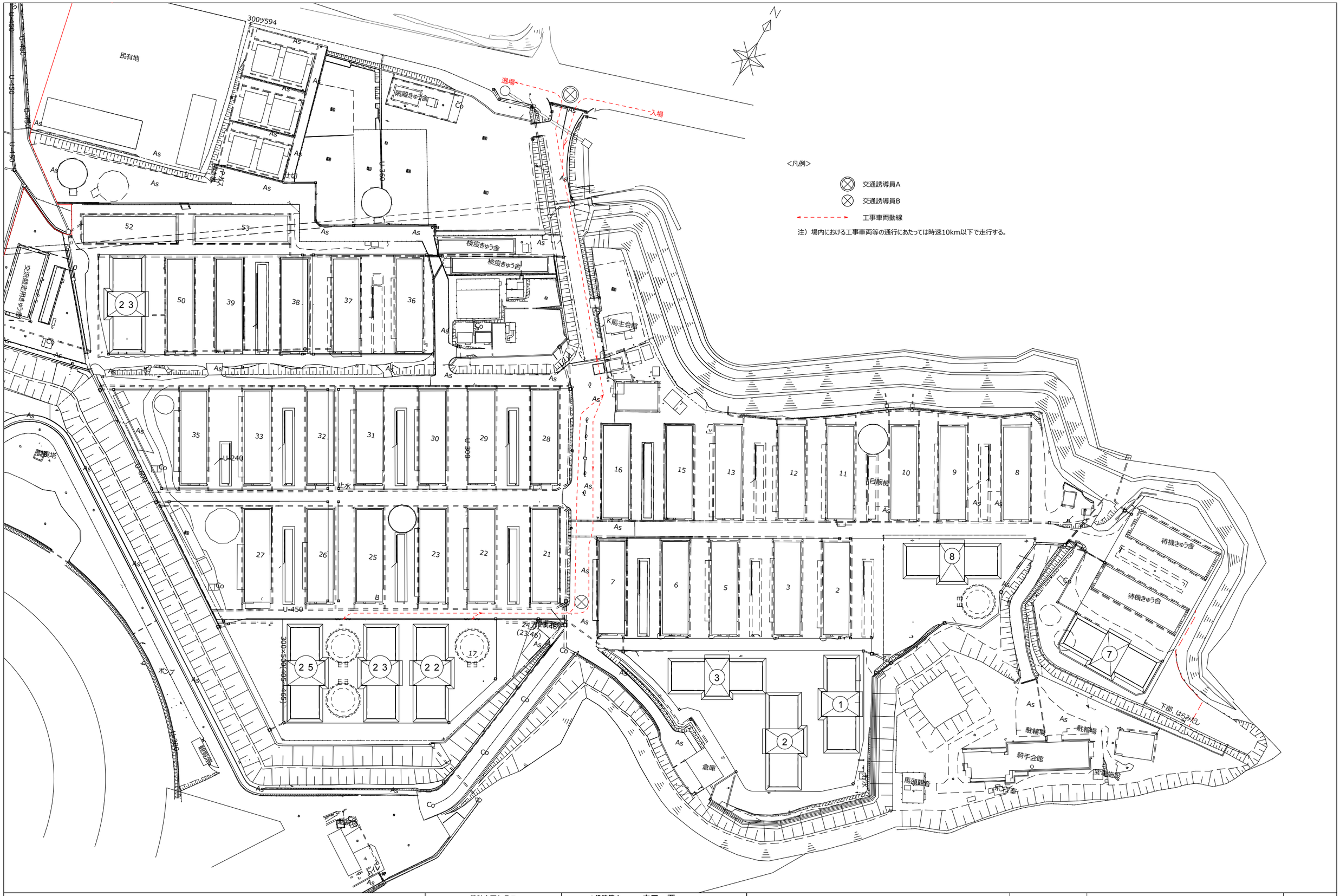


設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:200, 1:50 / A3版 1:400, 1:100	佐賀県競馬組合
図面名	仮設計画図	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号

図面番号 A-19



設計変更年月日			
1回	年	月	日
2回	年	月	日
3回	年	月	日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:700 A3版 1:1400	佐賀県競馬組合
図面名	工事車両搬入経路図	設計 年 月 日	１級建築士登録　第　　号

図面番号 A-20

工事概要

工事名称	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	用途	畜舎	用途地域	市街化調整区域一部準工業地域	床面積	637.99m2/棟
建設地	佐賀県鳥栖市大字江島町字西谷3256番地228	構造	鉄骨造	防火地域	指定なし	前面道路	国道34号線__15.0m
建築主	佐賀競馬組合	工事種別	改築	敷地面積	450,000m2		
建築主住所	佐賀県鳥栖市大字江島町字西谷3256番地228	工期	ー	建築面積	524.92m2/棟		

外部仕上表

屋根	タテハゼ葺き(嵌合式)：ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板 t0.5+改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ t1.0 +硬質野地板 t25+吹硬 t50	外壁1	窯業ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ t16+通気金具 t15+防湿透水ｼｰﾄ t0.17+吹硬 t30(A種Ⅰ ﾉﾝﾌﾛﾝ)	ベランダ	床：改質ｱｽﾌｧﾙﾄ防水+保護ﾏｯﾄ 手摺壁:窯業ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ t16+通気金具 t15+防湿透水ｼｰﾄ t0.17		
庇		外壁2					
樋	軒樋：ｶﾗｰ塩ビ既製品-前高165(角型) 竪樋：ｶﾗｰ硬質塩ビ管_φ100、φ75	外壁3					
その他		軒天	EP-G+FK t6.0				

室名	下地	床仕上	巾木 仕上	巾木 高さ	腰壁・壁 下地	腰壁・壁 仕上 腰壁	腰壁・壁 仕上 壁	天井 下地	天井 仕上	廻縁	天井高	備考
1階												
馬房	C	Cこて+ﾗﾊﾞｰﾏﾄ_t=12.0貼り	ﾗﾊﾞｰﾏｯﾄ_t=12+ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修	300	LGS100	ﾗﾊﾞｰﾏｯﾄ_t=12 (H=1200)+自然保護塗料+構造用合板_t=12(2枚張)	OC+構造用合板_t=12(2枚張)	LGS	屋根下地あらわし	ー	ー	飼葉桶・水飲み桶用吊り棒、馬繋丸環
馬洗い場	C	Cこて+ﾗﾊﾞｰﾏﾄ_t=12.0貼り一部Cこて	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修	300	LGS100	ー	OC+構造用合板_t=12	LGS	EP-G+FK_t=6.0_目透し	塩ビ製	3,000	馬繋丸環・ｺｰﾅｰｶﾞｰﾄﾞ
飼糧倉庫	C	Cこて	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修	300	LGS100	ー	OC+構造用合板_t=12	LGS	EP-G+FK_t=6.0_目透し	塩ビ製	3,000	
脱衣室	C	VS_t=2.0+乾式二重床_H60(ﾊﾟﾗﾌｨﾝﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)	VB	60	LGS100	ー	ｸﾛｽ+GB-S_t=12.5	LGS	EP-G+FK_t=6.0_目透し;ｸﾛｽ+GB-S_t=9.5	塩ビ製	2,005	床下点検口(ｽﾃﾝﾚｽ600角)、ｼｬﾜｰﾕﾆｯﾄ0812ｻｲｽﾞ
敷料倉庫	C	Cこて	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修	300	LGS100	ー	OC+構造用合板_t=12	LGS	EP-G+FK_t=6.0_目透し	塩ビ製	3,000	
ﾄｲﾚ	C	Cこて	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修	300	LGS100	ー	EP-G+FK_t=8_目透し+GB-R_t=9.5	LGS	EP-G+FK_t=6.0_目透し	塩ビ製	2,400	手洗器・化粧鏡(設備工事)
通路	C	VS_t=2.0	ﾗﾊﾞｰﾏｯﾄ_t=12+ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修	60	LGS100	ー	OC+構造用合板_t=12	LGS	EP-G+FK_t=6.0_目透し	ー	ー	
2階												
階段室	C	VS_t=2.0	鉄骨ｻｻﾗ桁;VB	300・60	LGS65	ー	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5	LGS	EP-G+FK_t=6.0_目透し	塩ビ製	2,400	
休憩室１	C	VS_t=2.0	VB	60	LGS65	ー	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5;ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=12.5	LGS	ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=9.5	塩ビ製	2,400	流し台(L1200)・ｺﾝﾛ台(L600)・吊戸棚(L1200)・SUSｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(W)
事務室	C	VS_t=2.0	VB	60	LGS65	ー	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5	LGS	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5	塩ビ製	2,400	SUSｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(W)
玄関	C	100角磁器質ﾀｲﾙ	100角磁器質ﾀｲﾙ	130	LGS65	ー	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5	LGS	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5	塩ビ製	2,560～2,590	下足入れ
休憩室２～４	C	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)	VB	60	LGS65	ー	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5	LGS	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5	塩ビ製	2,700	SUSｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(W)
ｷｯﾁﾝ	C	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟﾗﾌｨﾝﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)	VB	60	LGS65	ー	ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=12.5;不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板_t=3+GB-S_t=12.5	LGS	ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=9.5	塩ビ製	2,700	流し台(L1800)・ｺﾝﾛ台(L600)・吊戸棚(L900+900)・天井点検口(ｱﾙﾐ450角)
ﾀﾞｲﾆﾝｸﾞ	C	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)	VB	60	LGS65	ー	ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=12.5	LGS	ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=9.5	塩ビ製	2,700	SUSｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(W)
ﾎｰﾙ	C	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)	VB	60	LGS65	ー	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5	LGS	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5	塩ビ製	2,400	
洗面・脱衣室	C	VS_t=2.0+乾式二重床_H200(ﾗﾜﾝ合板T1_t=12+ﾊﾟﾗﾌｨﾝﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)	VB	60	LGS65	ー	ｸﾛｽ+GB-S_t=12.5	LGS	ｸﾛｽ+GB-S_t=9.5	塩ビ製	2,400	手洗器・化粧鏡・洗濯機防水ﾊﾟﾝ(設備工事)
浴室	C	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ユニットバス：1418ﾀｲﾌﾟ
ﾄｲﾚ	C	VS_t=2.0+乾式二重床_H200(ﾗﾜﾝ合板T1_t=12+ﾊﾟﾗﾌｨﾝﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)	VB	60	LGS65	ー	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5	LGS	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5	塩ビ製	2,400	
物入１	C	VS_t=2.0	雑巾摺	15	LGS65	ー	EP-G+GB-R_t=12.5	LGS	EP-G+GB-R_t=9.5_突き付け	塩ビ製	ー	中段棚
物入２	C	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)	雑巾摺	15	LGS65	ー	EP-G+GB-R_t=12.5	LGS	EP-G+GB-R_t=9.5_突き付け	塩ビ製	ー	中段棚

略語

(下地)		(仕上)								(塗装)		(その他)	
C	コンクリート面	Cこて	コンクリート直均し仕上	VS	ビニル床シート	吹付	複層仕上塗材E（内装用）	GB-D	化粧せっこうボード	EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り	Ca	カーテン
M	モルタル面	C面	コンクリート打放し仕上	VT	ビニル床タイル	塗膜	塗膜防水	FK	ケイ酸カルシウム板	FE	フタル酸樹脂エナメル塗り	CaB	カーテンボックス
W	木製軸組	Mこて	モルタル塗り金こて仕上	TC	タイルカーペット	GB-R	せっこうボード	DR	ロックウール化粧吸音板	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	Ls	カーテンレール(ｼﾝｸﾞﾙ)
木床	木製床組	塗床A	ケイ酸塩素表面硬化剤塗布	VB	ビニル幅木	GB-R-H	普通硬質せっこうボード	クロス	ビニルクロス（無機質壁紙）	CL(クリア)	クリアラッカー塗り	Lw	カーテンレール(ﾀﾞﾌﾞﾙ)
LGS	軽量鉄骨	塗床B	無溶剤系エポキシ樹脂系塗床（防滑工法）	WB	木製幅木	GB-NC	不燃積層せっこうボード	GW-M	グラスウールボード（額縁）張り	NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り	B	ブラインド
OA	OAﾌﾛｱ H=100	塗床C	無機質系合金骨材入塗床（モノリシック工法）	薄仕	薄付仕上塗材	GB-S	耐水せっこうボード	ALZｎ鋼板	アルミ・亜鉛合金メッキ鋼板（カラー）	WP	木材保護塗料塗り	BB	ブラインドボックス
樹脂床	樹脂製床組	塗床D	軟質ビニルエステル樹脂系塗床（平滑工法）			GB-F	強化せっこうボード	吹硬	吹付硬質ウレタンフォーム(A種Ⅰ ﾉﾝﾌﾛﾝ)	OC	自然保護塗料塗り		

防火認定番号

せっこうボード（GB-R）t＝12.5	不燃	NM-8619	グラスウールボード（額縁）t＝50	不燃	NM-8606
せっこうボード（GB-R）t＝9.5	準不燃	QM-9828	ロックウール化粧吸音板	不燃	NM-8599
不燃積層せっこうボード（GB-NC）t＝9.5（不燃）	不燃	NM-1864	連続支持合成スラブ	床 1時間耐火	FP060FL-9095
			ALC板 t＝125	外壁 1時間耐火	告示1399号
耐水せっこうボード（GB-S）t＝12.5（不燃）	不燃	NM-9639	繊維混入ケイ酸カルシウム板+ALC板合成被覆/鋼管柱	柱 1時間耐火	FP060CN-9445
耐水せっこうボード（GB-S）t＝9.5、12.5	準不燃	QM-9826	繊維混入ケイ酸カルシウム板合成被覆/鋼管柱	柱 1時間耐火	FP060CN-9414
ケイ酸カルシウム板（FK）t＝6、8	不燃	NM-8578	せっこうボード（上）t＝12.5 +せっこうボード（下）t＝9.5（両面張り）/軽量鉄骨間仕切壁	間仕切壁 45分準耐火	告示1358号
化粧ケイ酸カルシウム板（FK）t＝6	不燃	NM-8579			

ホルムアルデヒド放散量

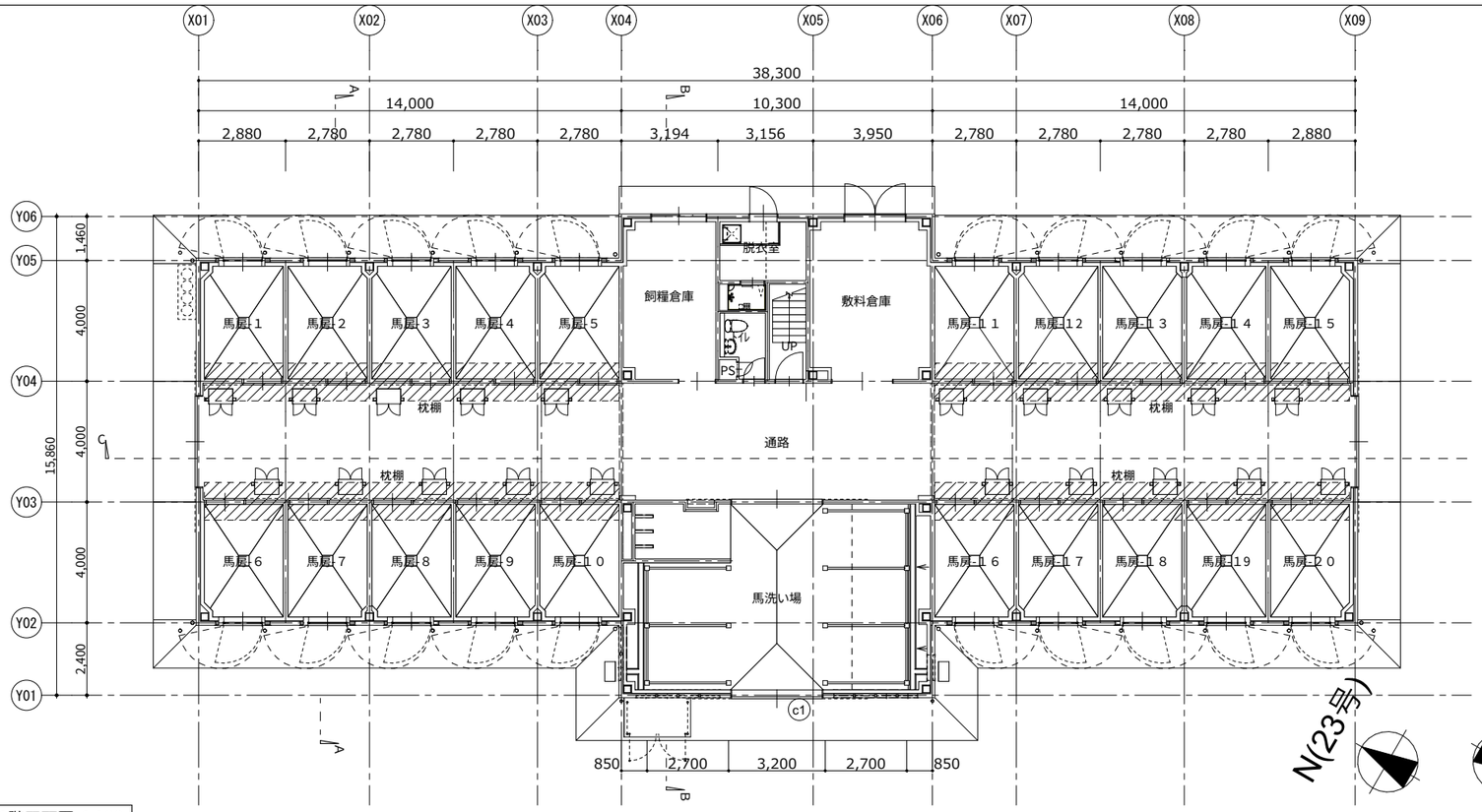
ビニル床シート、ビニル床タイル タイルカーペット用接着剤	F☆☆☆☆
単層フローリング	F☆☆☆☆
合板	F☆☆☆☆
グラスウールボード	F☆☆☆☆
合成樹脂調合ペイント塗り	F☆☆☆☆

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

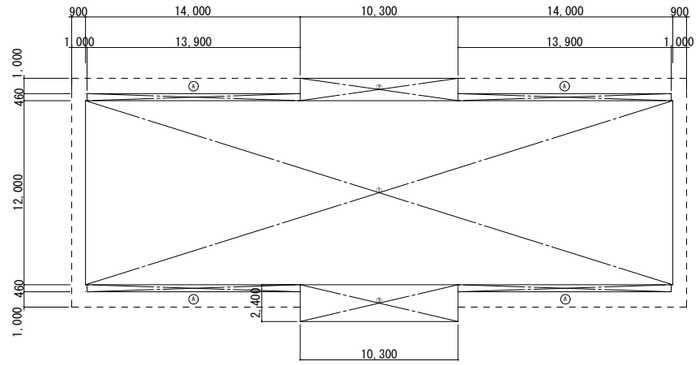
１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮 A1版 尺 A3版	佐賀県競馬組合
図面名	仕上げ表	設計 年 月 日	１級建築士登録 第 号

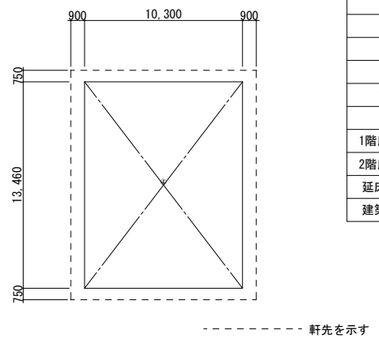
図面番号 A-21



1階平面図 1:100



1階求積図 1:200



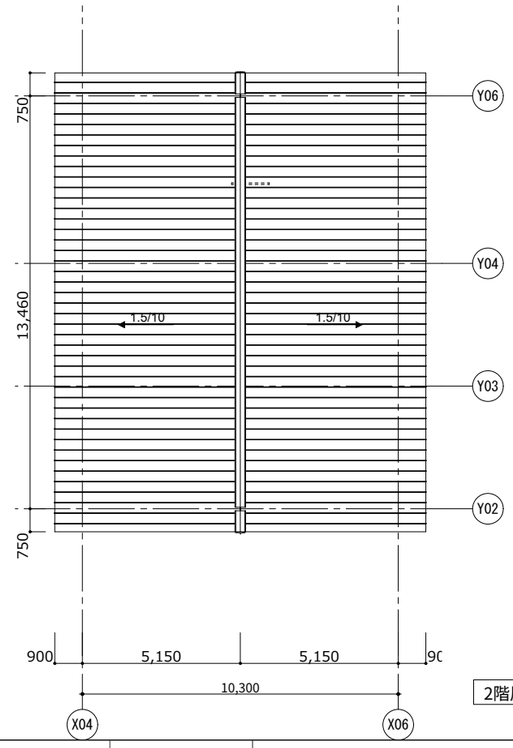
2階求積図 1:200

面積表		
No	計算式	面積(m2)
①	38.30 × 12.00	459.600
②	10.30 × 1.46	15.038
③	10.30 × 2.40	24.720
④	10.30 × 13.46	138.638
A	13.90 × 0.46	6.394
1階床面積	①～③	499.35
2階床面積	④	138.63
延床面積	①～④	637.98
建築面積	①～③+Ａ×4ヶ所	524.93

N(23号)

N(22/25号)

2階平面図 1:100



2階屋根伏図 1:100

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名 平面図・屋根伏図・求積図・求積表

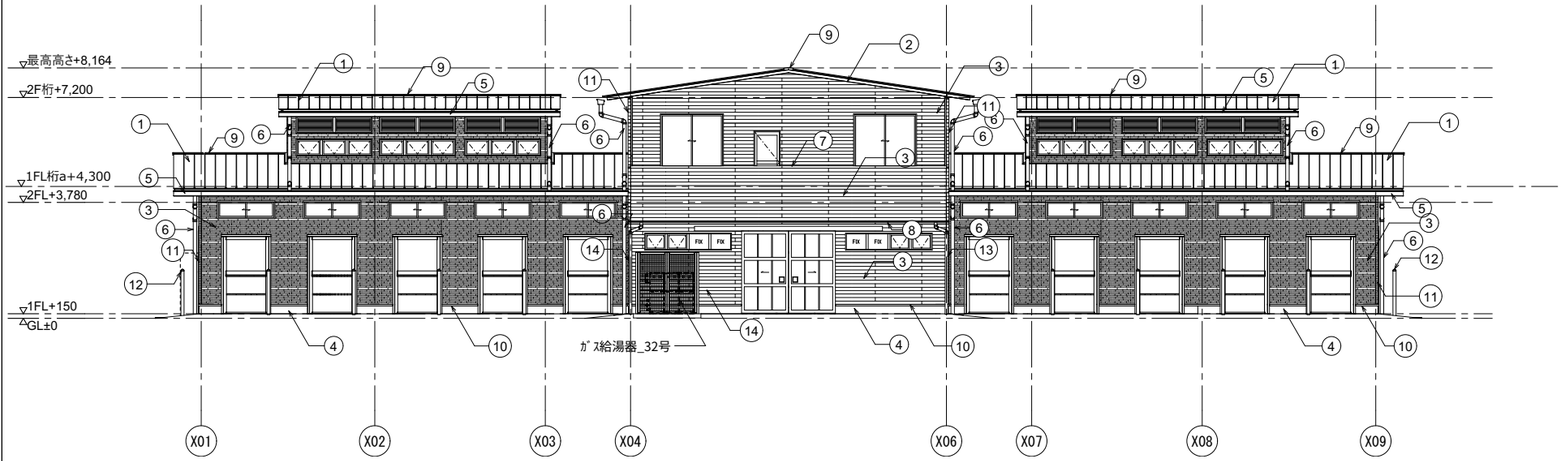
縮尺 A1版 1:100, 1:200 / A3版 1:200, 1:400

設計 年 月 日

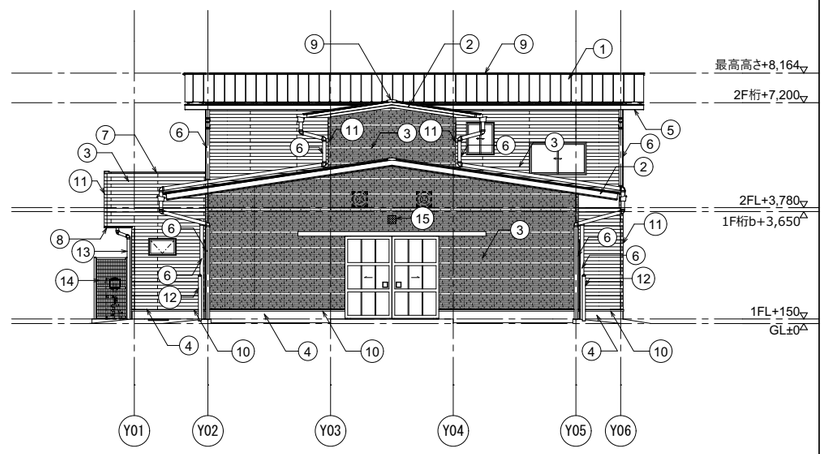
佐賀県競馬組合

１級建築士登録 第 号

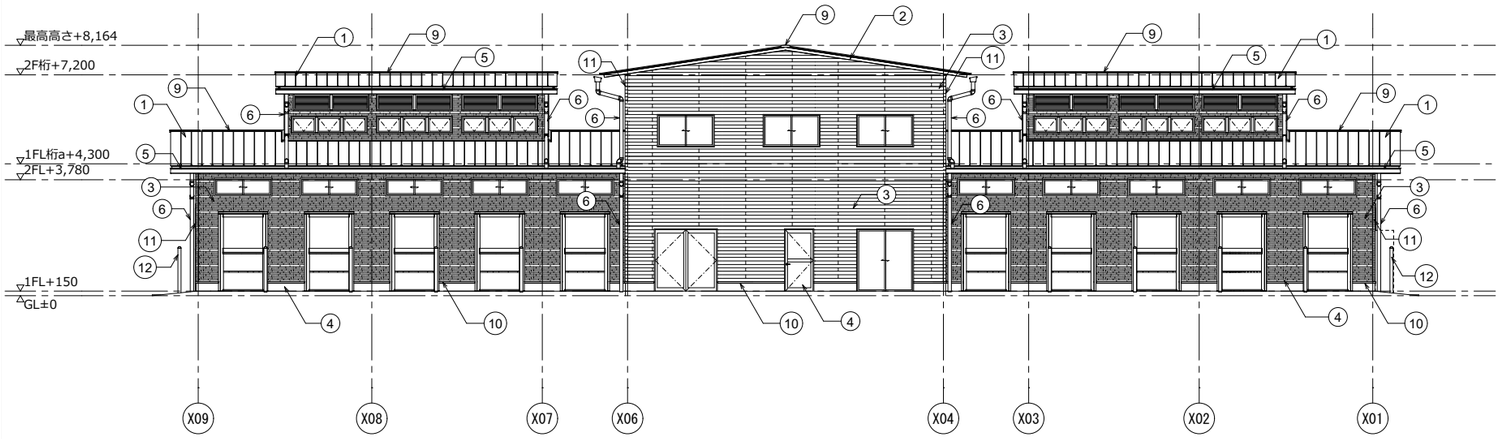
図面番号 A-22



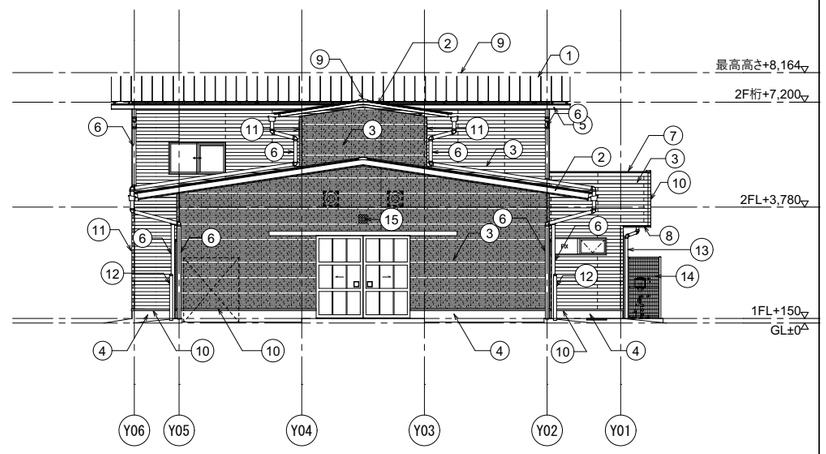
東立面図(22,25号)・西立面図(23号) 1:100



北立面図(22,25号)・南立面図(23号) 1:100



西立面(22,25号)・東立面図(23号) 1:100



南立面図(22,25号)・北立面図(23号) 1:100

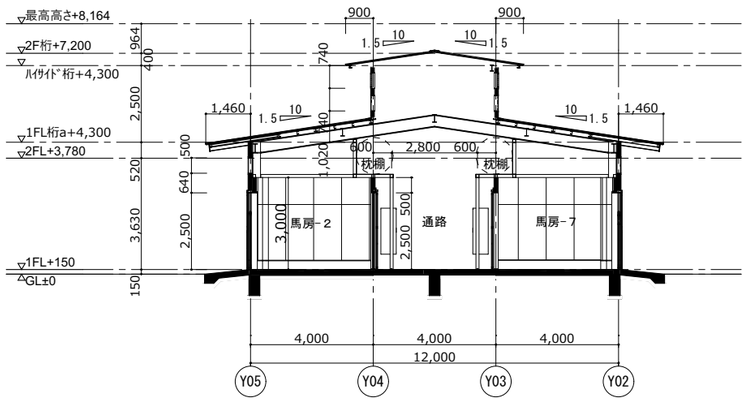
立面図凡例	
1	屋根：タテハゼ葺き（嵌合式）ｶﾞﾙﾊﾞﾘｭｳﾑ鋼板 t=0.5
2	破風･鼻隠し：DP+窯業系ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ t=16.0(無塗装既製品)H240
3	外壁：窯業系ﾃﾞｻﾞｲﾝｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ t=16.0+防湿透水ｼｰﾄ t=0.17+吹硬 t=30（A種 ﾉﾝﾌﾛﾝ）
4	立上り：複層塗材Ｅ+打放し補修
5	軒樋：ｶﾗｰ塩ビ製既製品 前高165（角型）
6	竪樋：ｶﾗｰ硬質塩ビ管 φ100
7	ｱﾙﾐ笠木（既製品）：W200
8	ｱﾙﾐ見切り（既製品）：W200
9	棟押え：ｶﾞﾙﾊﾞﾘｭｳﾑ鋼板 t 0.6
10	土台水切り：ｶﾞﾙﾊﾞﾘｭｳﾑ鋼板 t 0.4
11	出隅同質役物：90×90 t16
12	戸当たり柱：90A.溶融亜鉛メッキ仕上げ.H1800
13	竪樋：ｶﾗｰ硬質塩ビ管 φ75
14	ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ H2000
15	棟番号：ステンレス切り文字焼付塗装 t 5.0-注入方式接着系アンカー

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

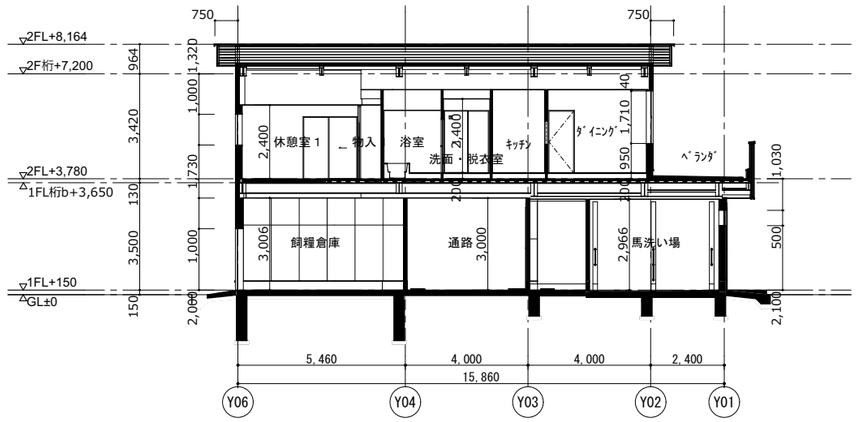
１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:100 A3版 1:200	佐賀県競馬組合
図面名	立面図	設計 年 月 日	１級建築士登録 第 号

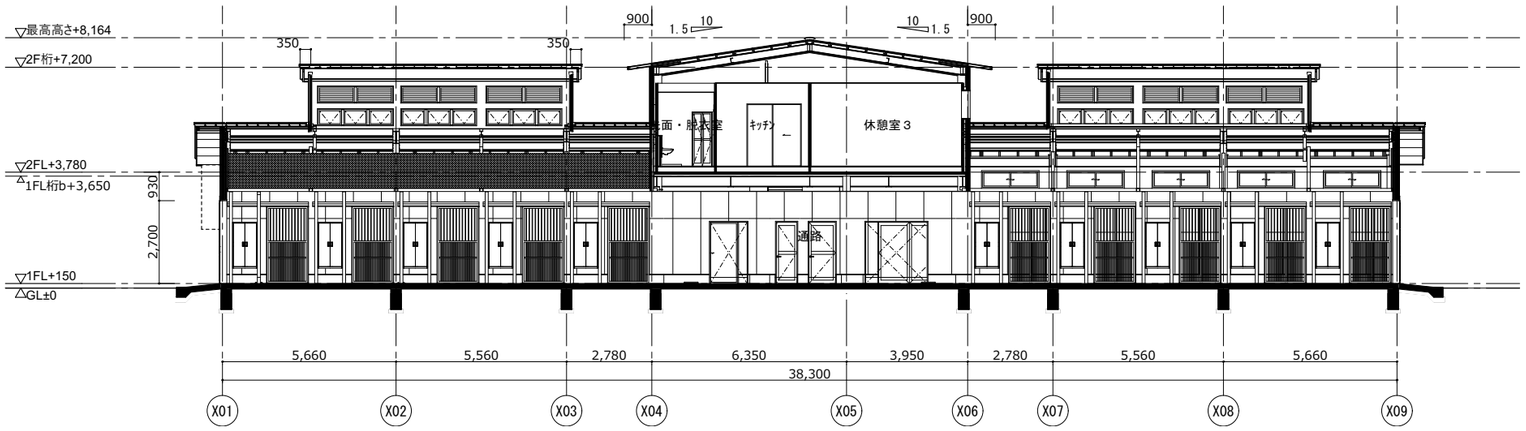
図面番号 A-23



断面図__A 1:100



断面図__B 1:100



断面図__C 1:100

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名 断面図

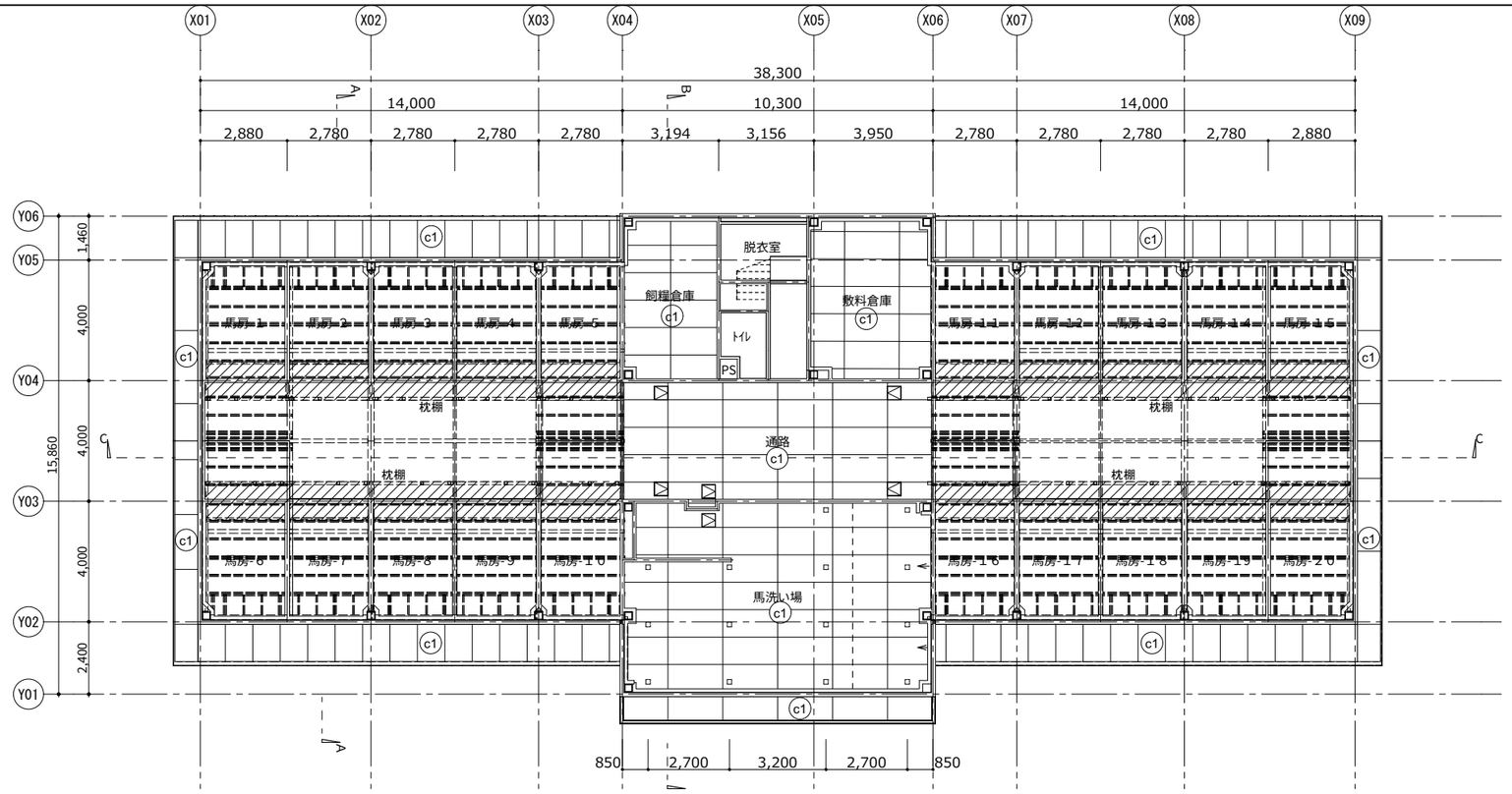
縮尺 A1版 1:100 A3版 1:200

設計 年 月 日

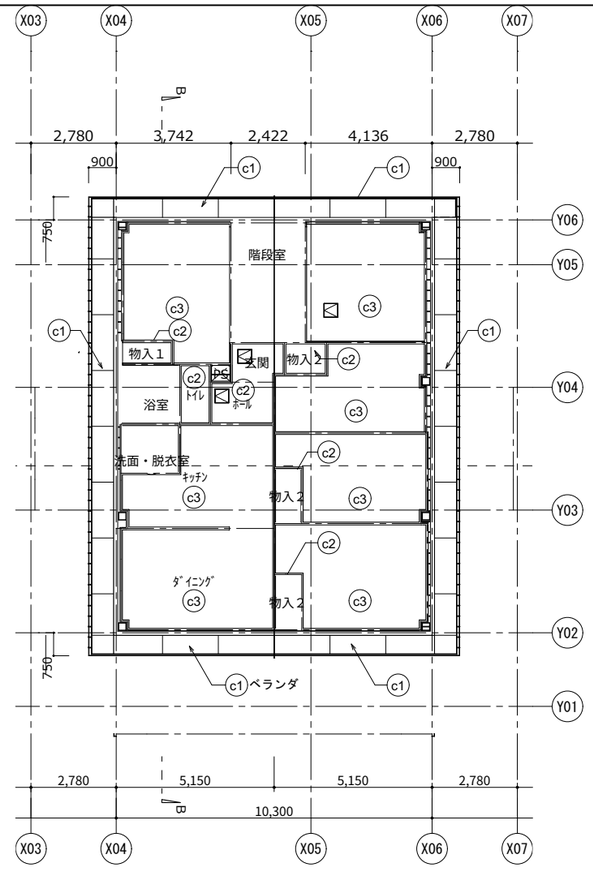
佐賀県競馬組合

１級建築士登録 第 号

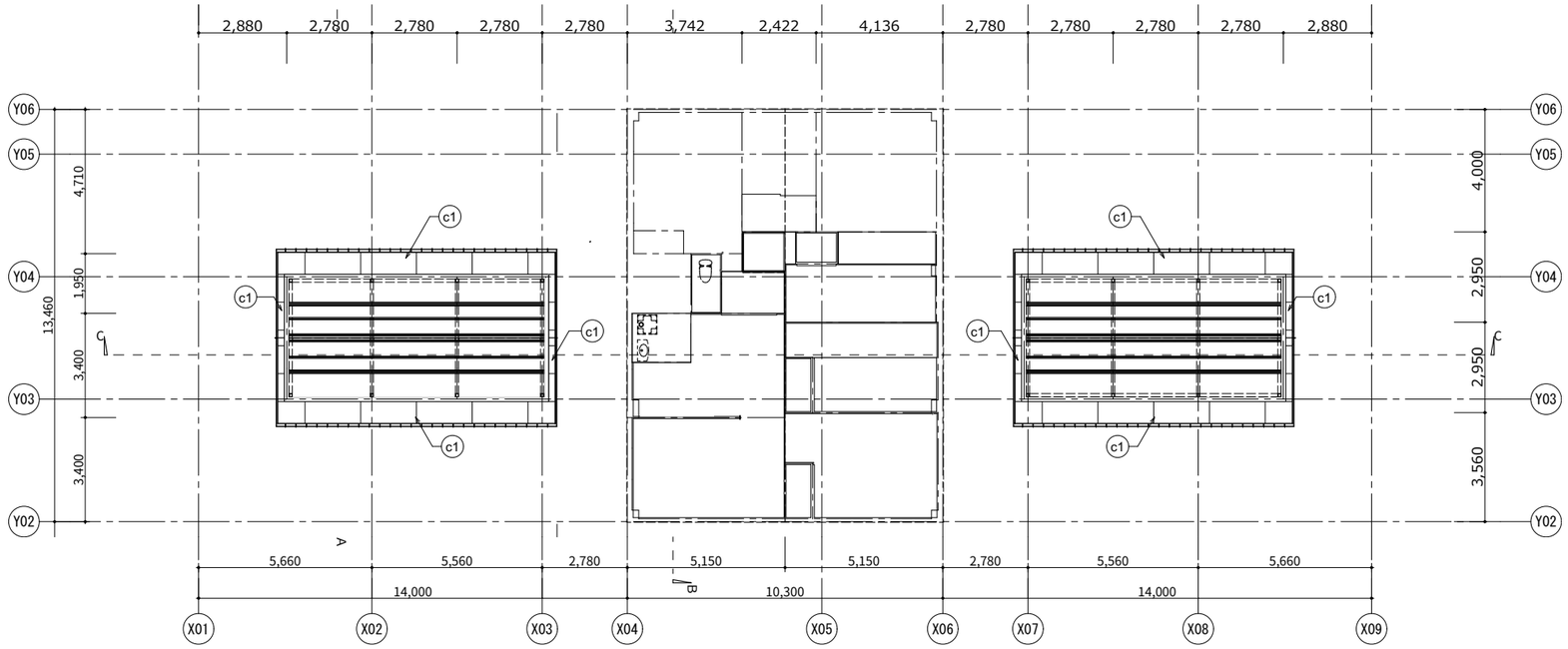
図面番号 A-24



1階天井伏図 1:100



2階天井伏図



ハイサイド天井伏図 1:100

天井伏図凡例	
c1	EP-G+FK t=6.0目透し
c2	EP-G+GB-R t=9.5
c3	クロス+GB-R t=9.5
c4	クロス+FB-S t=9.5
c5	クロス+GB-S t=9.5

天井点検口:アルミ製 450角

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名 天井伏図

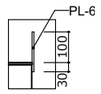
縮尺 A1版 1:100 A3版 1:200

設計 年 月 日

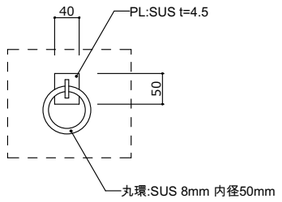
佐賀県競馬組合

１級建築士登録 第 号

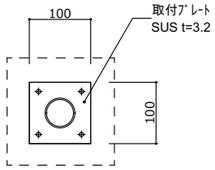
図面番号 A-25

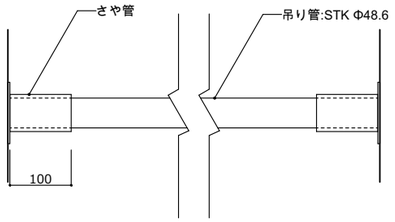


D-01詳細図 1:10

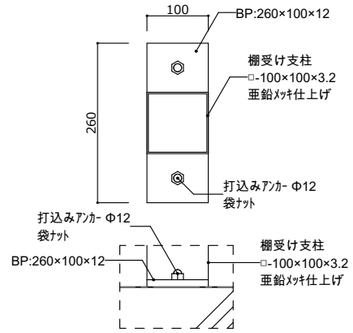


D-02詳細図 1:5

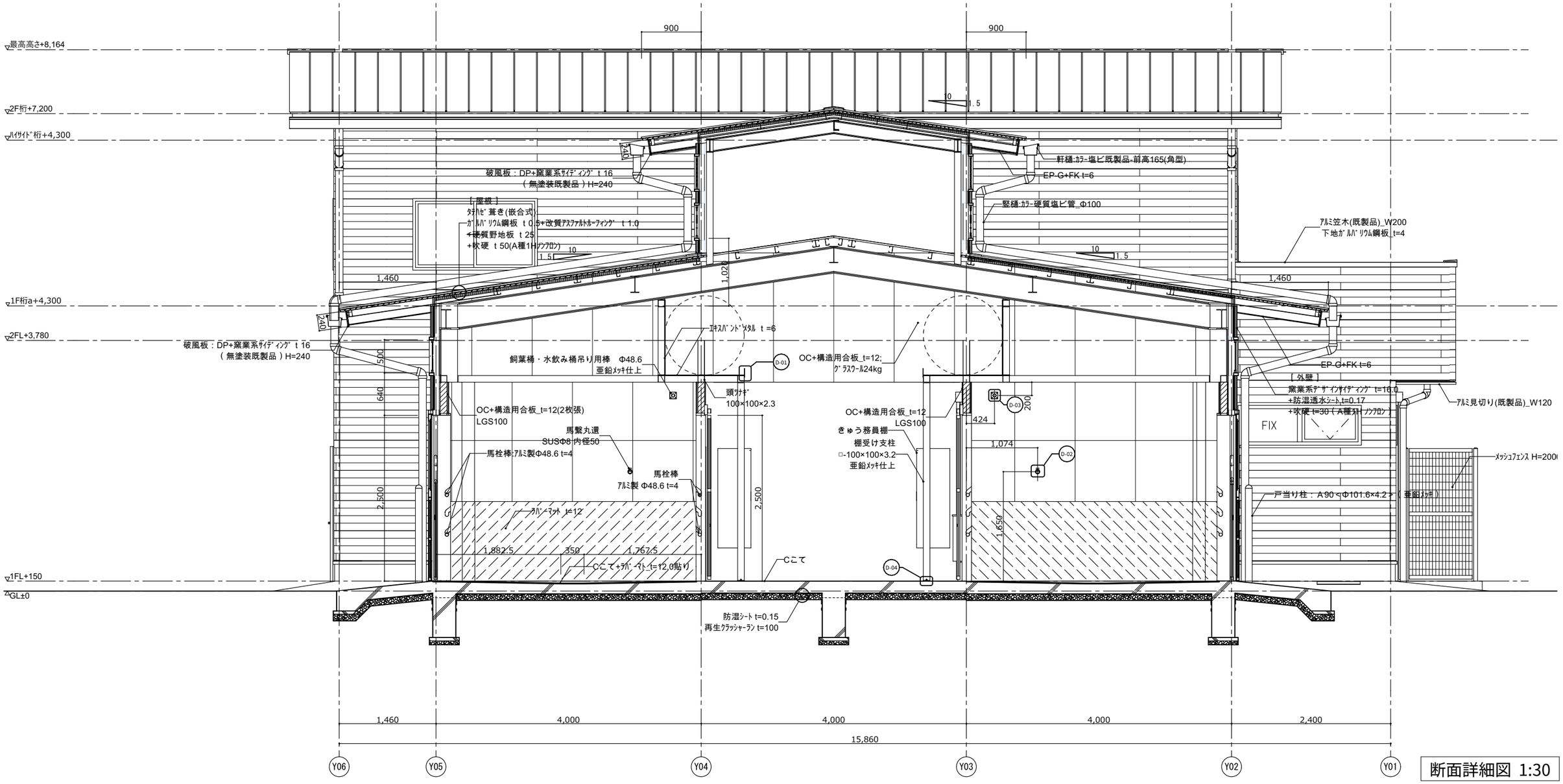




D-03詳細図 1:5



D-04詳細図 1:5



断面詳細図 1:30

	設計変更年月日		
	1回	年	月 日
	2回	年	月 日
	3回	年	月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名 断面詳細図＜A-A＞

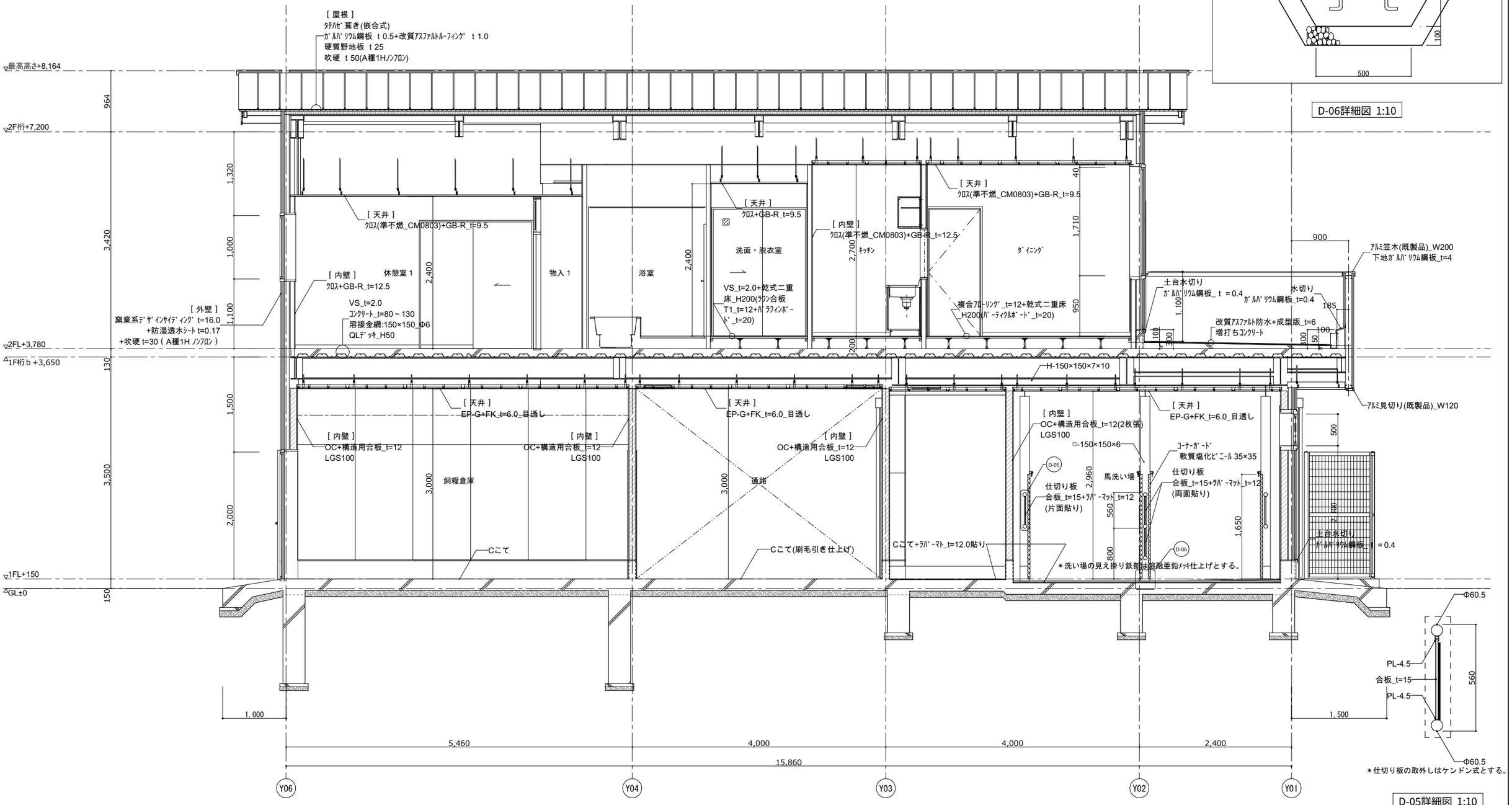
縮尺 A1版 1:30, 1:10, 1:5 / A3版 1:60, 1:20, 1:10

設計 年 月 日

佐賀県競馬組合

1級建築士登録 第 号

図面番号 A-26



D-06詳細図 1:10

D-05詳細図 1:10

断面詳細図 1:30

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

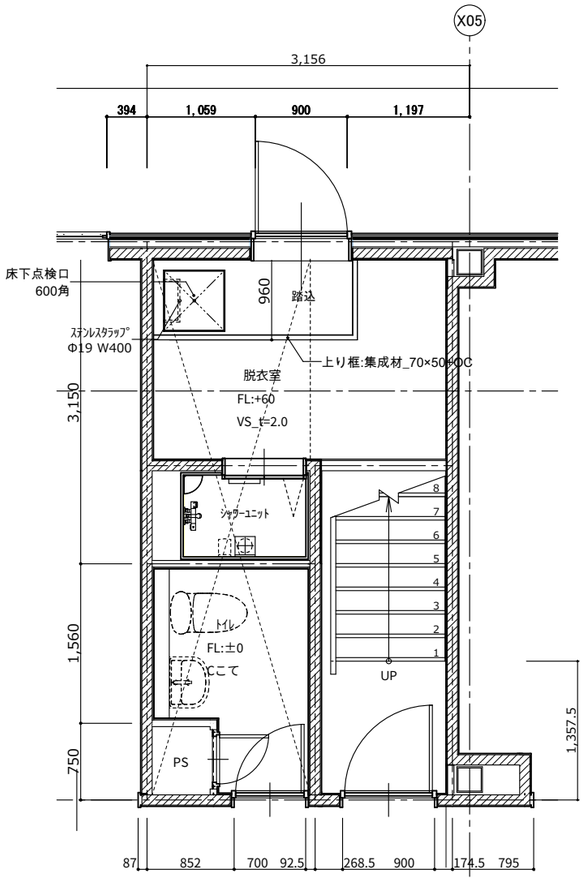
1級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版 1:30 A3版 1:60
図面名	断面詳細図＜B-B＞	設計	年 月 日

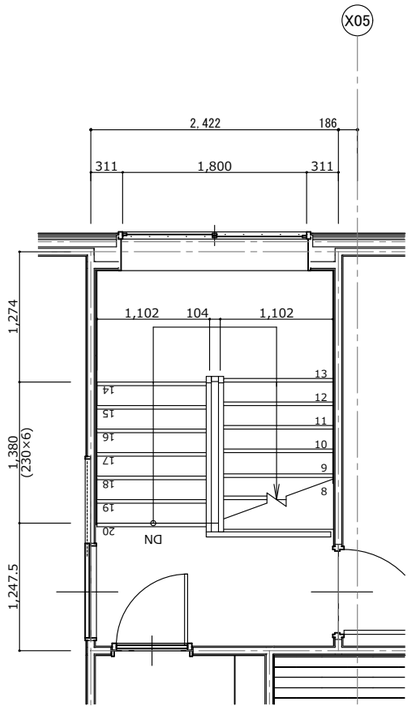
佐賀県競馬組合

1級建築士登録 第 号

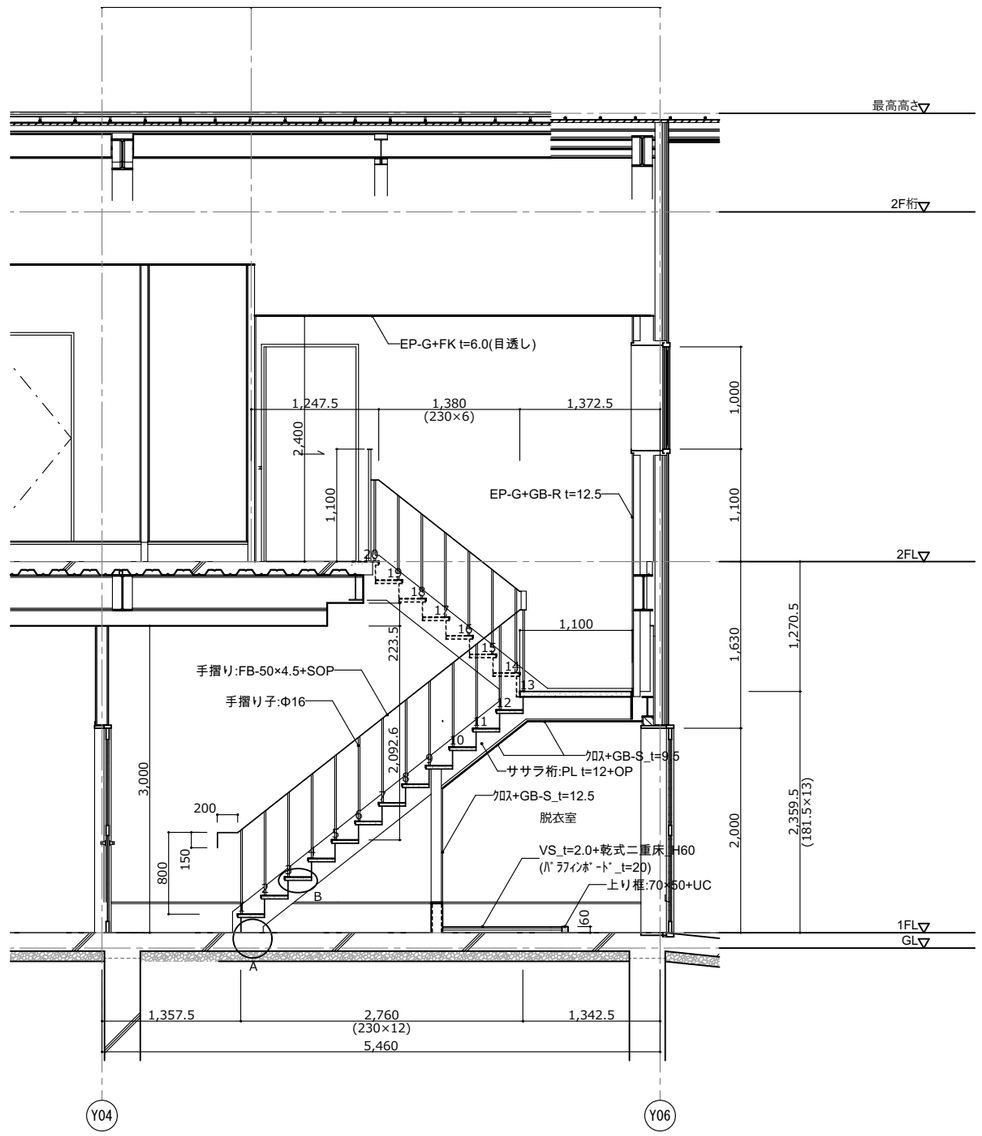
図面番号 A-27



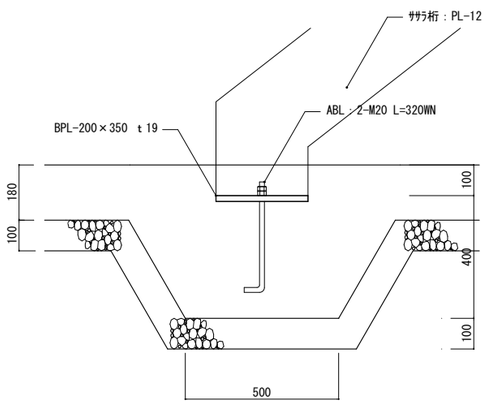
1階平面詳細図 1:30



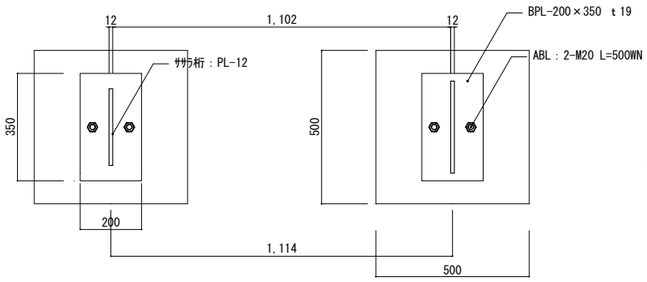
2階平面詳細図 1:30



断面詳細図 1:30

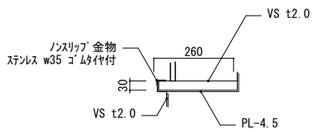


＜断面図＞



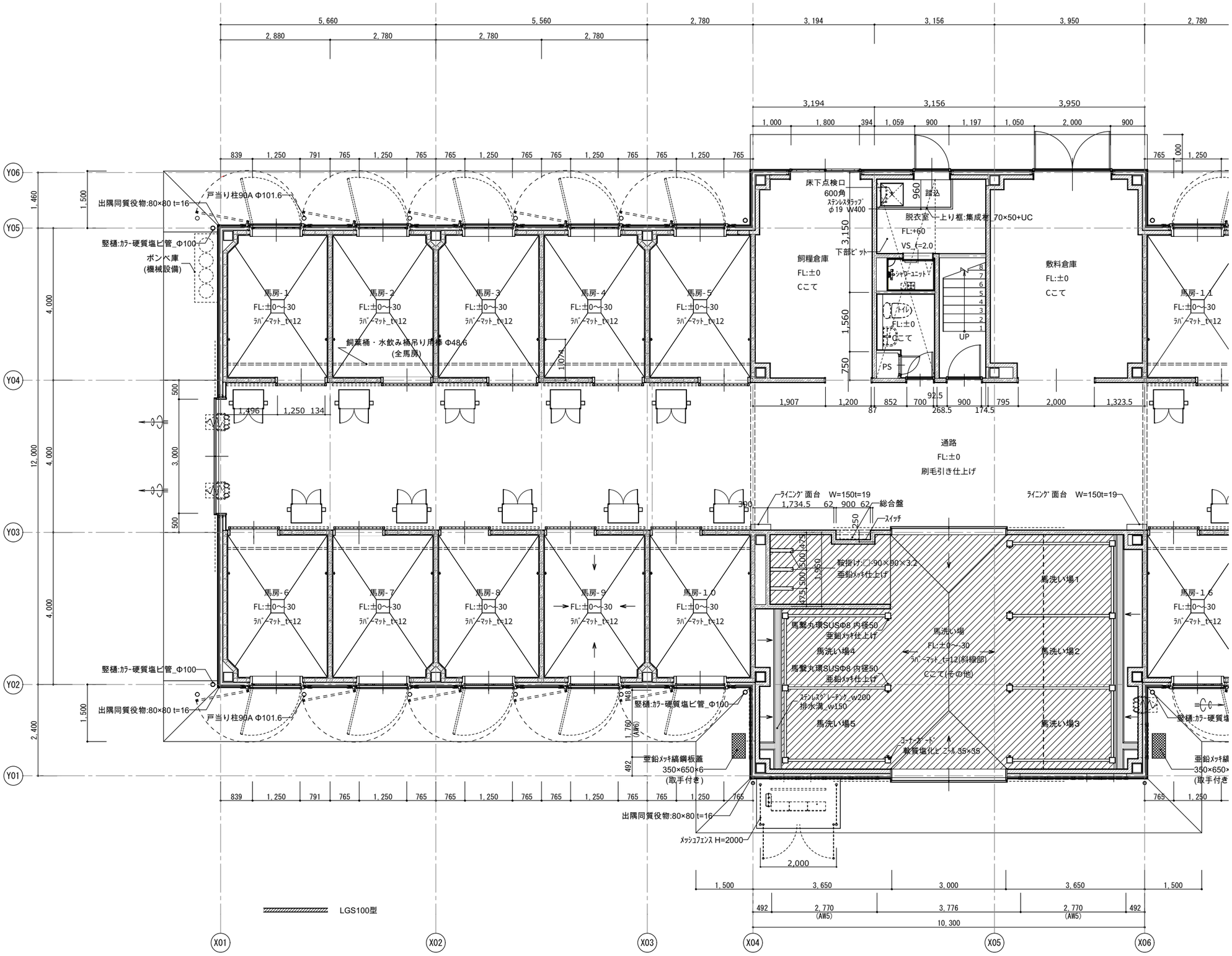
＜平面図＞

A部詳細図 1:10



B部詳細図 1:10

設計変更年月日 1回 年 月 日 2回 年 月 日 3回 年 月 日	1級建築士 内田 要 大臣登録 第１８９２９４号 株式会社渋江建築設計事務所 佐賀市多布施四丁目３番５０号 TEL 0952-24-7211	工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事 図面名 階段詳細図	縮尺 A1版 1:30, 1:10 A3版 1:60, 1:20 設計 年 月 日	佐賀県競馬組合 1級建築士登録 第 号	図面番号 A-28



設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名: 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名: 1階平面詳細図 __1

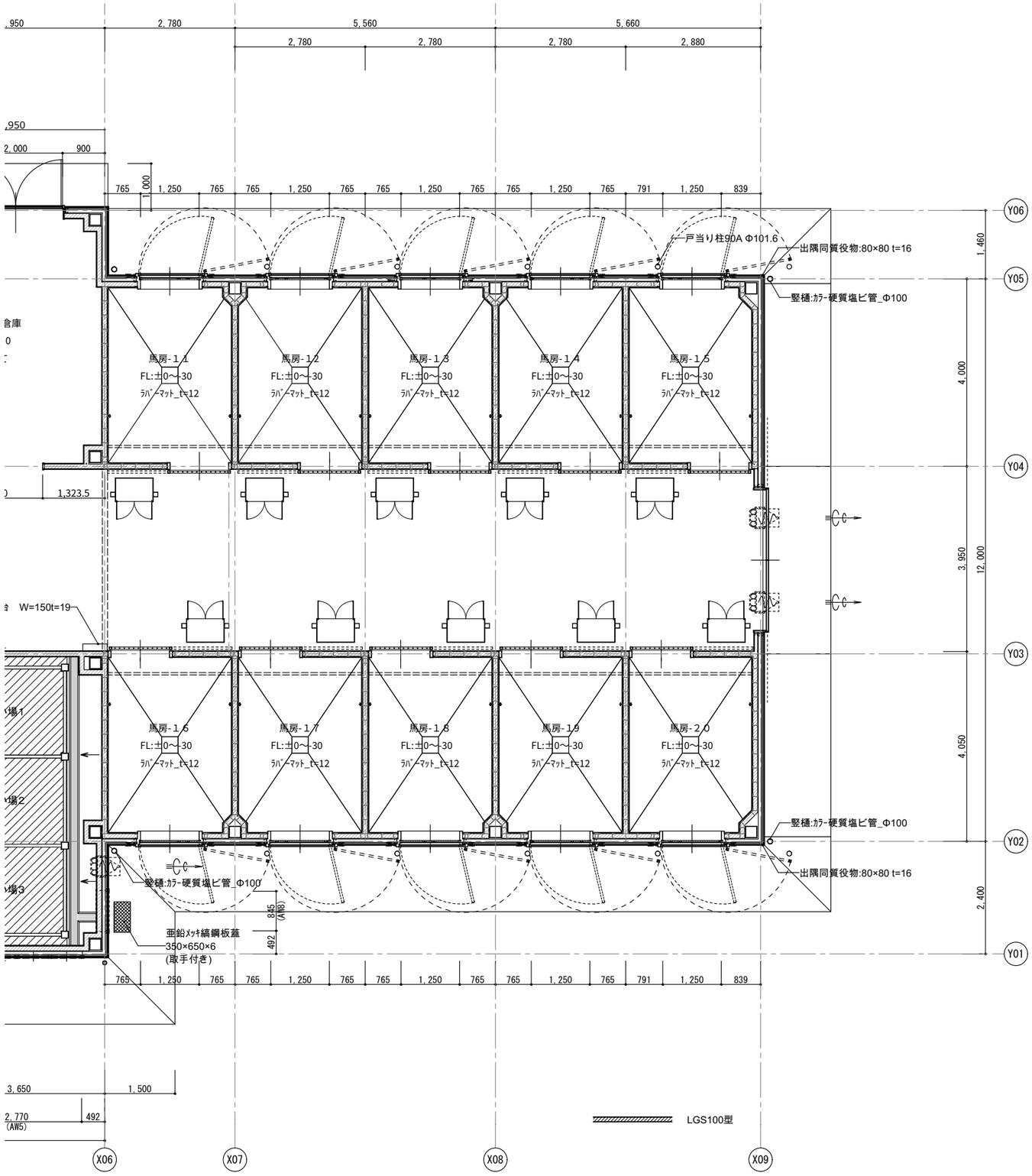
縮尺: A1版 1:50 / A3版 1:100

設計: 年 月 日

佐賀県競馬組合

1級建築士登録 第 号

図面番号: A-29

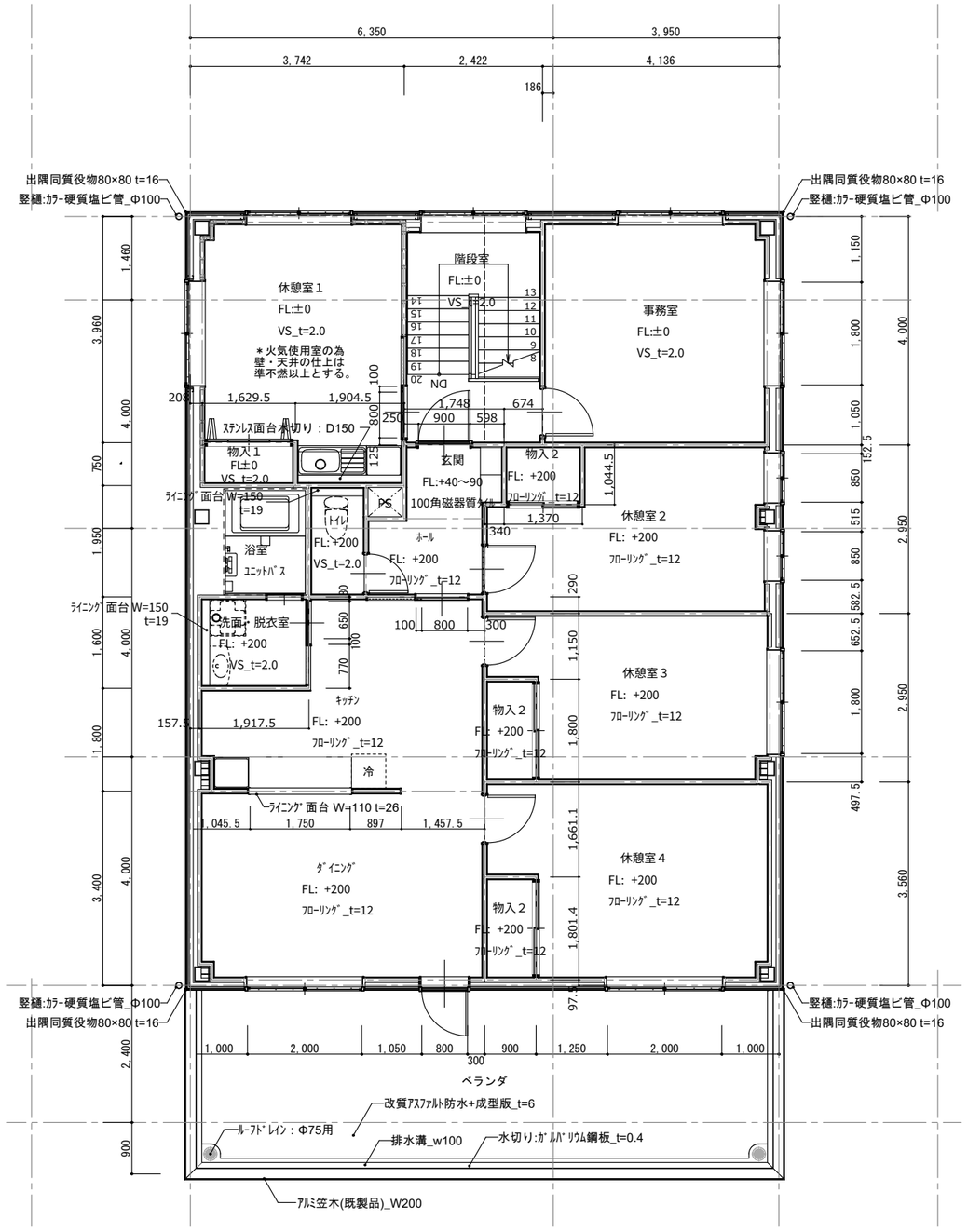


	設計変更年月日			
	1回	年	月	日
	2回	年	月	日
	3回	年	月	日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:50 A3版 1:100	佐賀県競馬組合
図面名	１階平面詳細図 ＿2	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号

図面番号 A-30

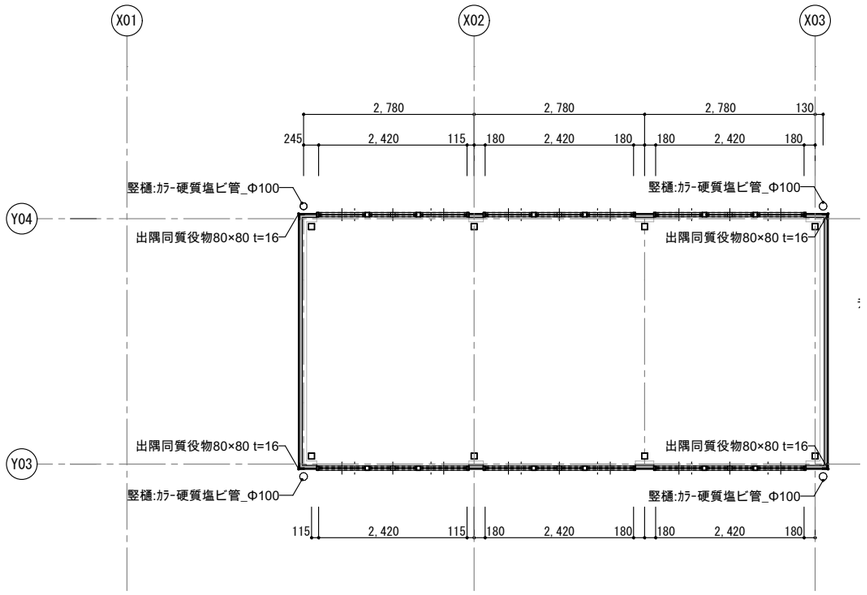


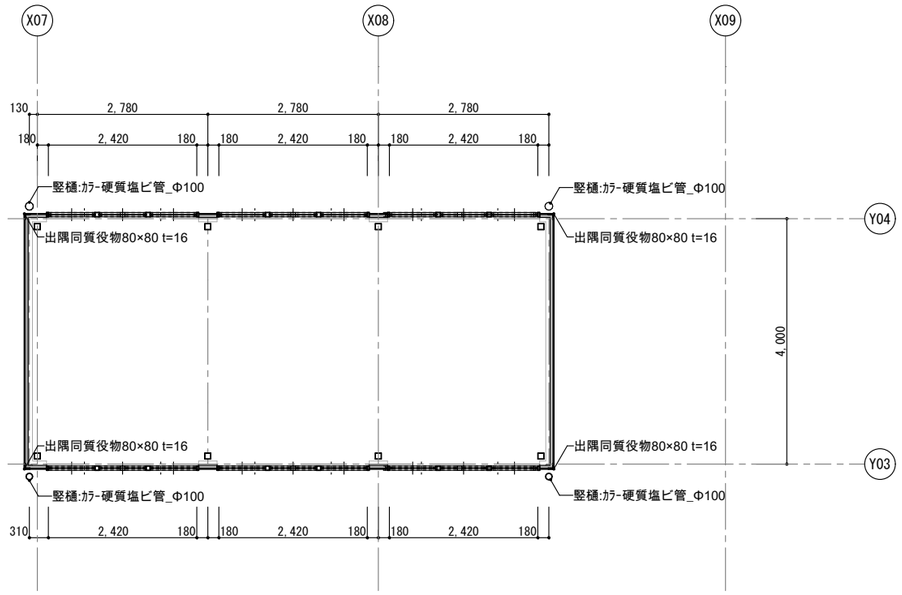
	設計変更年月日		
	１回	年	月	日
	２回	年	月	日
	３回	年	月	日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:50 A3版 1:100	佐賀県競馬組合
図面名	２階平面詳細図	設計 年 月 日	１級建築士登録 第 号

図面番号 A-31





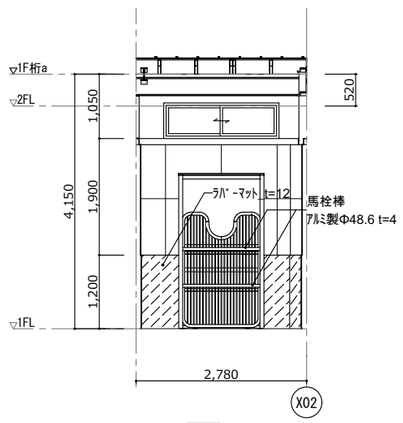
	設計変更年月日
	1回　年　月　日
	2回　年　月　日
	3回　年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

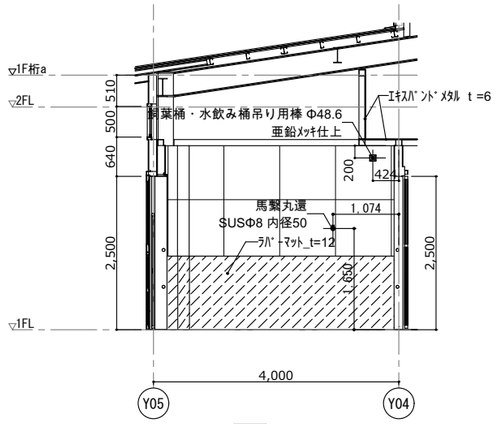
工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:50 A3版 1:100	佐賀県競馬組合
図面名	ハイサイド平面詳細図	設計　年　月　日	１級建築士登録　第　号

図面番号 A-32

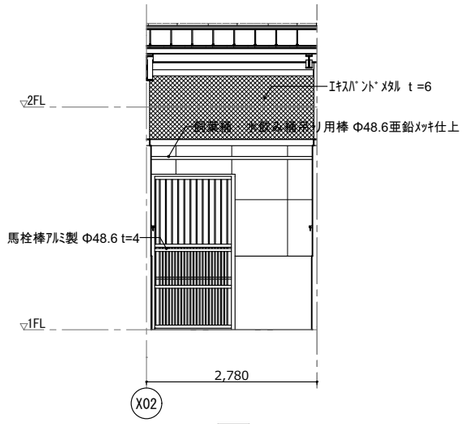
室名	馬房
床	Cこて+ﾗﾊﾞｰﾏｯﾄ_t=12.0貼り
巾木	ﾗﾊﾞｰﾏｯﾄ_t=12+ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修
腰壁	ﾗﾊﾞｰﾏｯﾄ_t=12+自然保護塗料+構造用合板_t=12(2枚張)
壁	OC+構造用合板_t=12(2枚張)
天井	屋根下地あらわし
備考	飼葉桶・水飲み桶用吊り棒、馬繋丸環



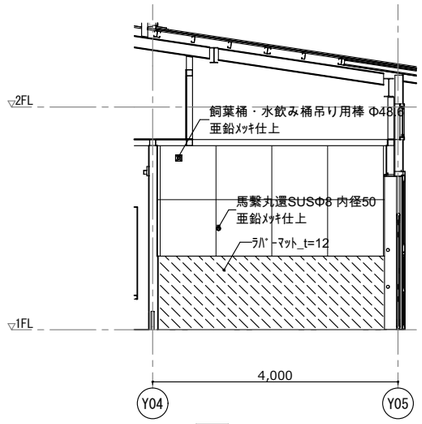
A面



B面

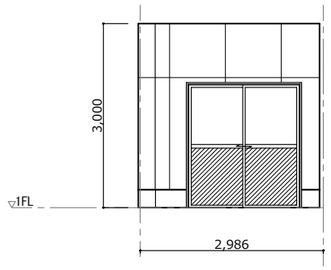


C面

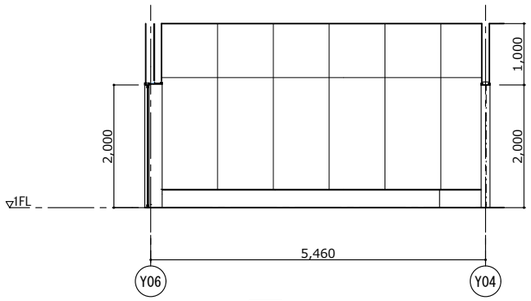


D面

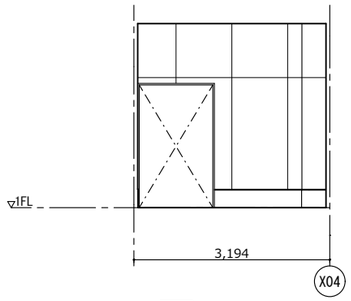
室名	飼糧倉庫
床	Cこて
巾木	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修
腰壁	―
壁	OC+構造用合板_t=12
天井	EP-G+FK_t=6.0_目透し
備考	



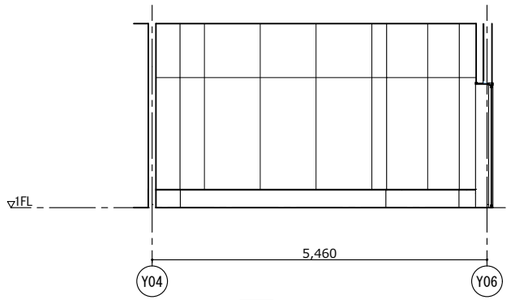
A面



B面

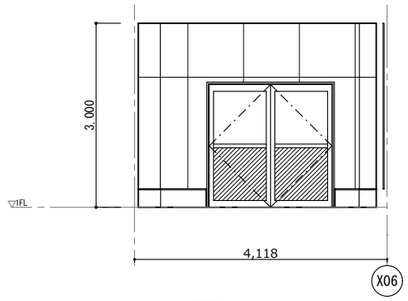


C面

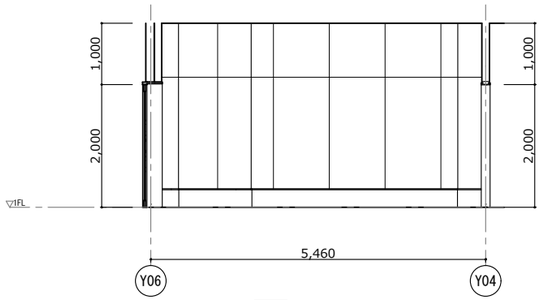


D面

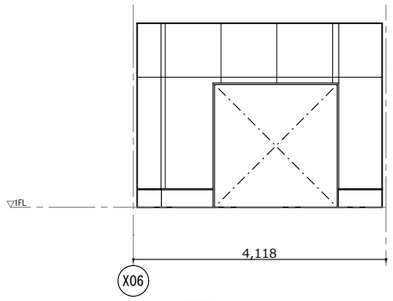
室名	敷料倉庫
床	Cこて
巾木	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修
腰壁	―
壁	OC+構造用合板_t=12
天井	EP-G+FK_t=6.0_目透し
備考	



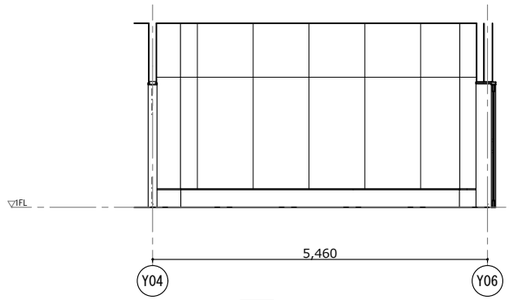
A面



B面

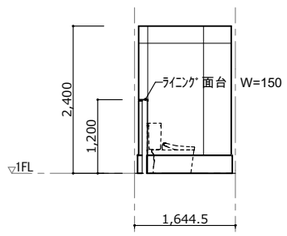


C面

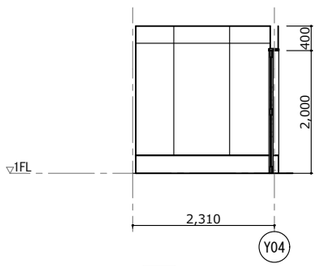


D面

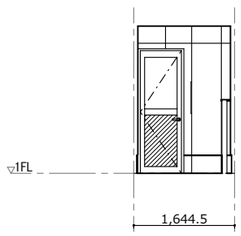
室名	ﾄｲﾚ
床	Cこて
巾木	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修
腰壁	―
壁	EP-G+FK_t=8_目透し+GB-R_t=9.5
天井	EP-G+FK_t=6.0_目透し
備考	手洗器・化粧鏡(設備工事)



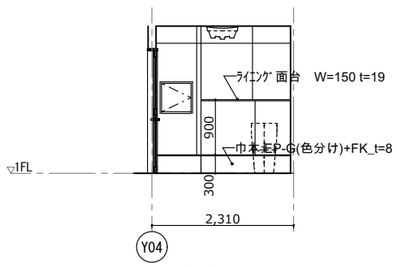
A面



B面



C面



D面

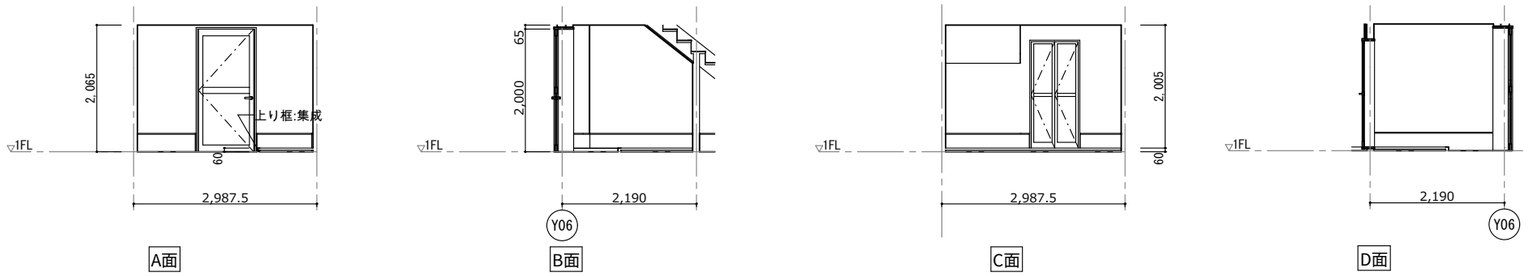
設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

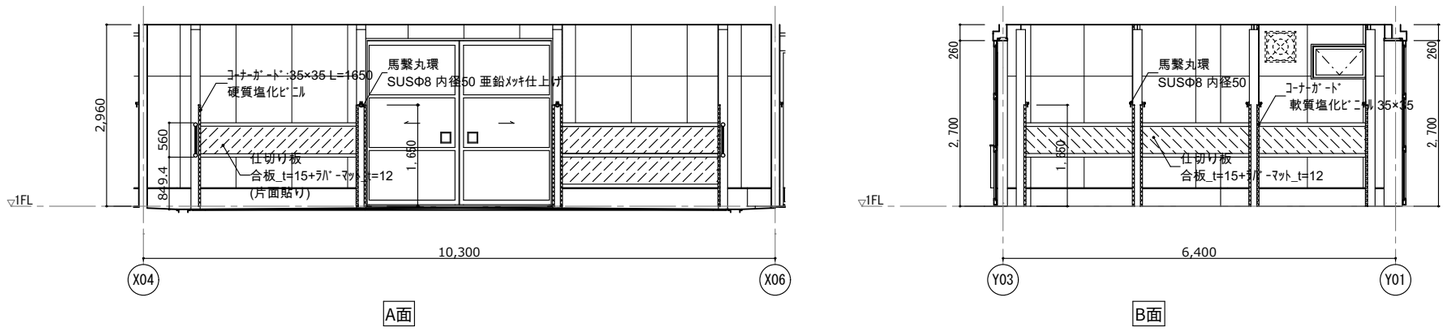
工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:50, 1:1 A3版 1:100, 1:2	佐賀県競馬組合
図面名	展開図__1	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号

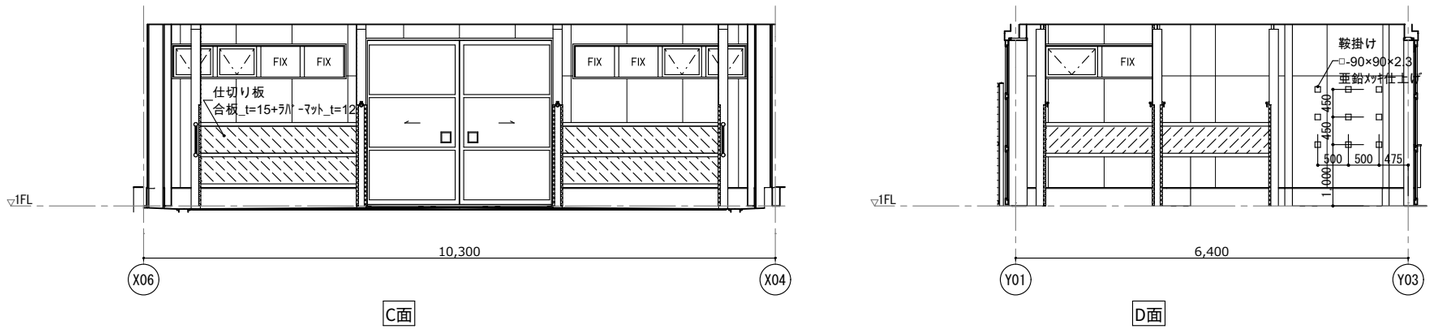
図面番号 A-33

室名	脱衣室
床	VS_t=2.0+乾式二重床_H60(ﾊﾟﾗﾌｨﾝﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-S_t=12.5
天井	EP-G+FK_t=6.0_目透し;ｸﾛｽ+GB-S_t=9.5
備考	床下点検口(ｽﾃﾝﾚｽ 600角)、ｼｬﾜｰﾕﾆｯﾄ0812ｻｲｽﾞ

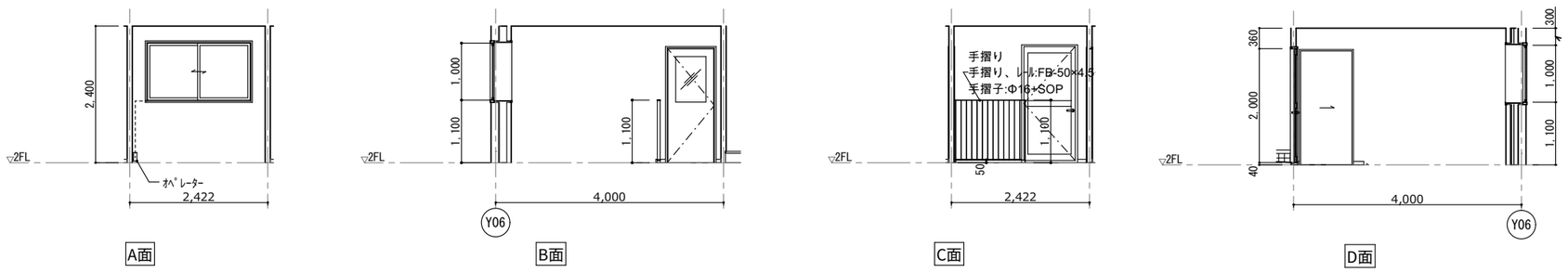


室名	馬洗い場
床	Cこて+ﾗﾊﾞｰﾏﾄ_t=12.0貼り一部Cこて
巾木	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修
腰壁	―
壁	OC+構造用合板_t=12
天井	EP-G+FK_t=6.0_目透し
備考	馬繋丸環・ｺｰﾅｰｶﾞｰﾄﾞ





室名	階段室
床	VS_t=2.0
巾木	鉄骨ｻｻﾗ桁;VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5
天井	EP-G+FK_t=6.0_目透し
備考	

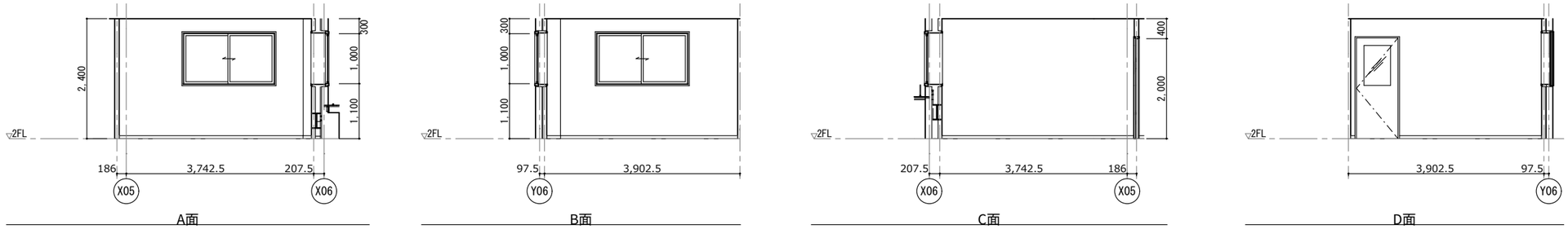


設計変更年月日			
1回	年	月	日
2回	年	月	日
3回	年	月	日

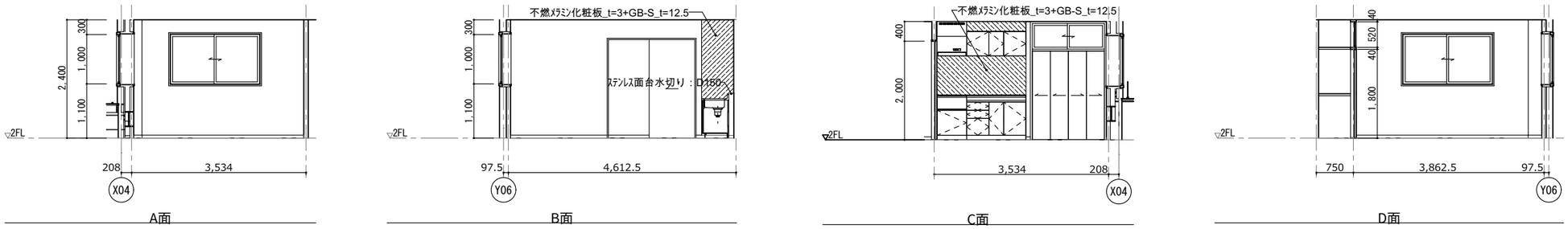
1級建築士　内田　要
大臣登録　第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:1, 1:50 A3版 1:2, 1:100	佐賀県競馬組合
図面名	展開図__2	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号
図面番号	A-34		

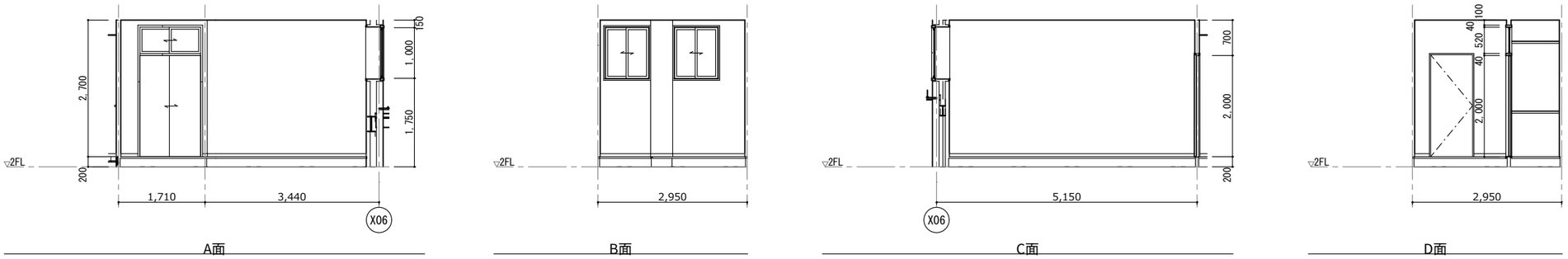
室名	事務室
床	VS_t=2.0
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5
天井	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5
備考	SUSｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(W)



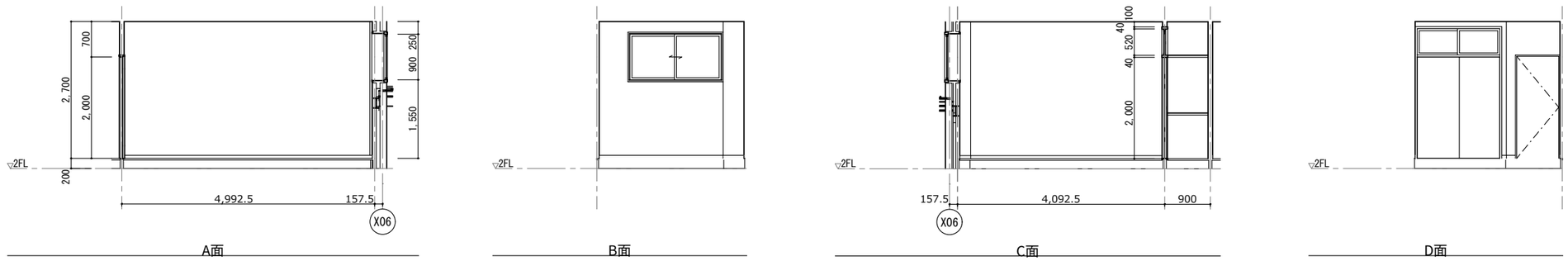
室名	休憩室１
床	VS_t=2.0
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5; ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=12.5
天井	ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=9.5
備考	流し台(L1200)・ｺﾝﾛ台(L600)・吊戸棚(L1200)・SUSｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(W)



室名	休憩室２
床	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5
天井	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5
備考	SUSｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(W)



室名	休憩室３
床	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5
天井	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5
備考	SUSｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(W)



設計変更年月日	
１回	年　月　日
２回	年　月　日
３回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

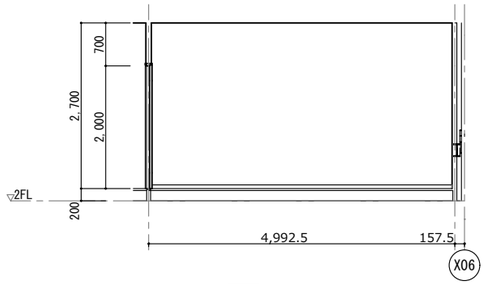
工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版 1:50 A3版 1:100
図面名	展開図＿３	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合

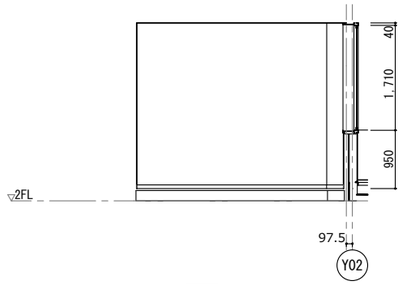
１級建築士登録　第　　号

図面番号 A-35

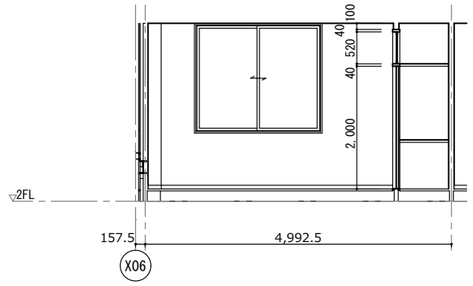
室名	休憩室４
床	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5
天井	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5
備考	SUSｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(W)



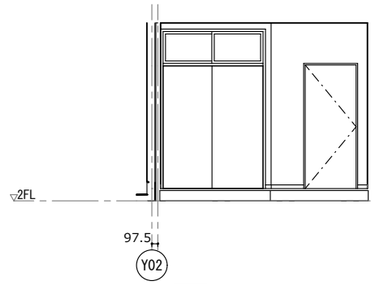
A面



B面

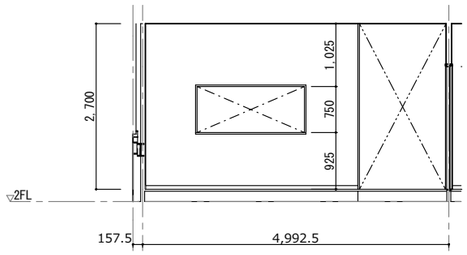


C面

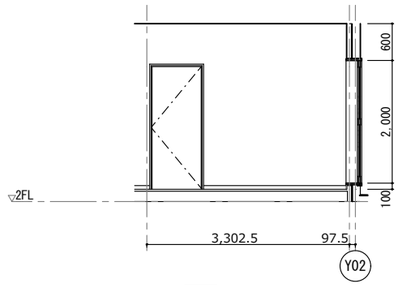


D面

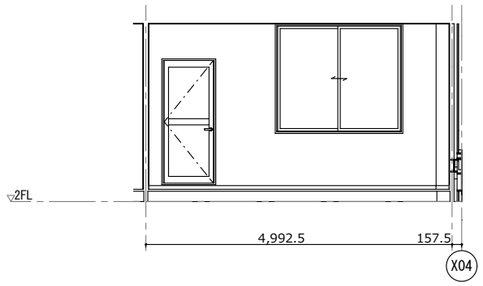
室名	ﾀﾞｲﾆﾝｸﾞ
床	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=12.5
天井	ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=9.5
備考	SUSｶｰﾃﾝﾚｰﾙ(W)



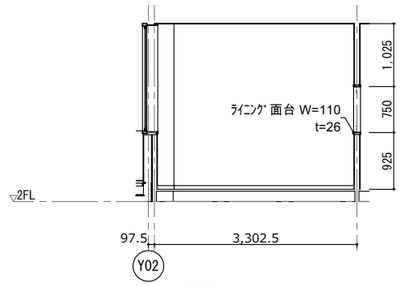
A面



B面

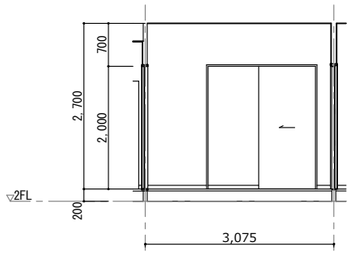


C面

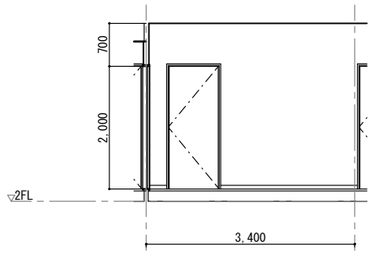


D面

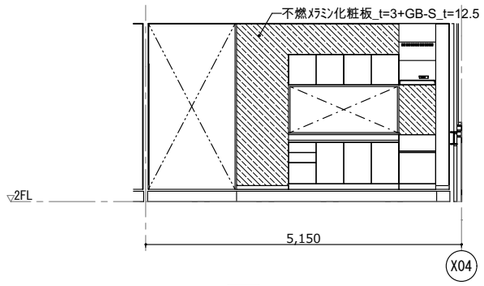
室名	ｷｯﾁﾝ
床	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟｰﾗﾌｨﾝﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=12.5; 不燃ﾒﾗﾐﾝ化粧板_t=3+GB-S_t=12.5
天井	ｸﾛｽ(準不燃_CM0803)+GB-R_t=9.5
備考	流し台(L1800)・ｺﾝﾛ台(L600)・吊戸棚(L900+900)・天井点検口(ｱﾙﾐ450角)



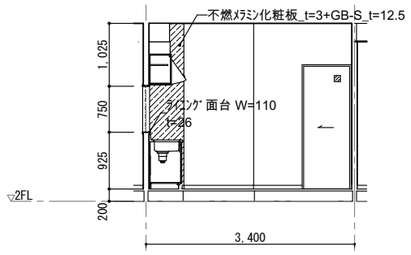
A面



B面

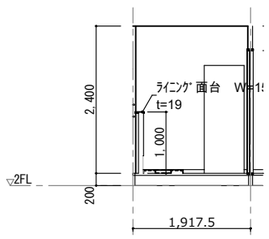


C面

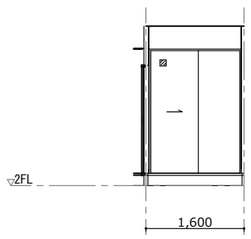


D面

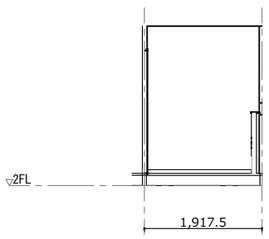
室名	洗面・脱衣室
床	VS_t=2.0+乾式二重床_H200(ﾗﾜﾝ合板T1_t=12+ﾊﾟﾗﾌｨﾝﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-S_t=12.5
天井	ｸﾛｽ+GB-S_t=9.5
備考	手洗器・化粧鏡・洗濯機防水ﾊﾟﾝ(設備工事)



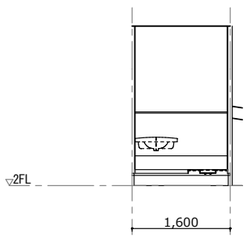
A面



B面



C面



D面

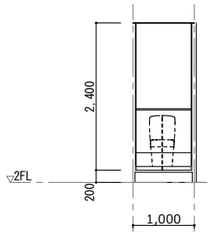
設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

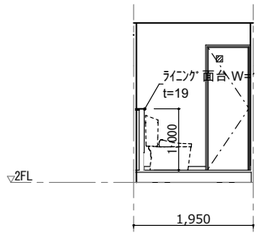
工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:50 A3版 1:100	佐賀県競馬組合
図面名	展開図＿４	設計 年 月 日	１級建築士登録　第　号

図面番号 A-36

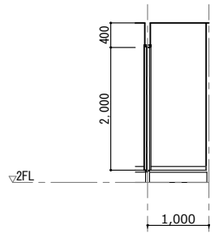
室名	ﾄｲﾚ
床	VS_t=2.0+乾式二重床_H200(ﾗｳﾝ合板 T1_t=12+ﾊﾟﾗﾌｨﾝﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5
天井	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5
備考	



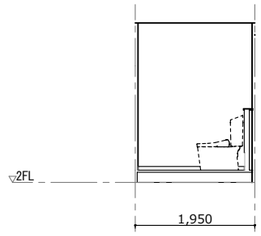
A面



B面

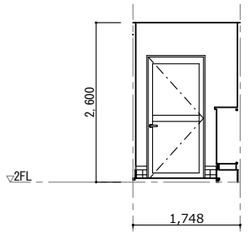


C面

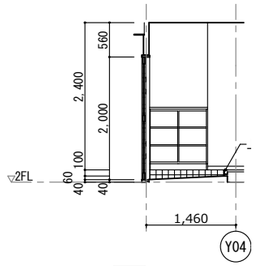


D面

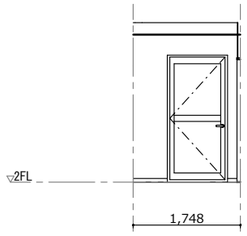
室名	玄関
床	100角磁器質ﾀｲﾙ
巾木	100角磁器質ﾀｲﾙ
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5
天井	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5
備考	下足入れ



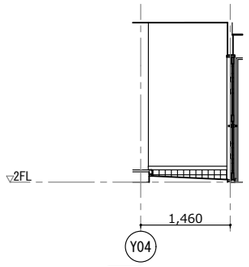
A面



B面

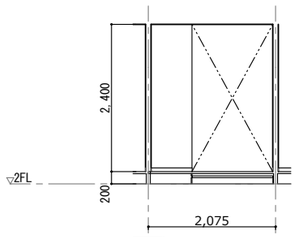


C面

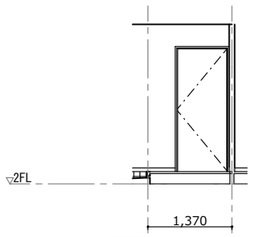


D面

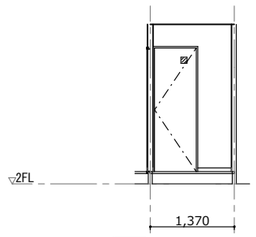
室名	ﾎｰﾙ
床	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ_t=12+乾式二重床_H200(ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ_t=20)
巾木	VB
腰壁	―
壁	ｸﾛｽ+GB-R_t=12.5
天井	ｸﾛｽ+GB-R_t=9.5
備考	



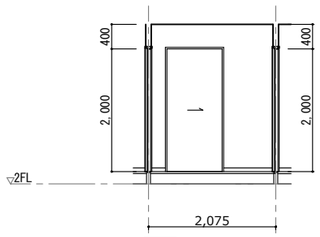
A面



B面



D面



C面

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名 展開図＿５

縮尺 A1版 1:50 A3版 1:100

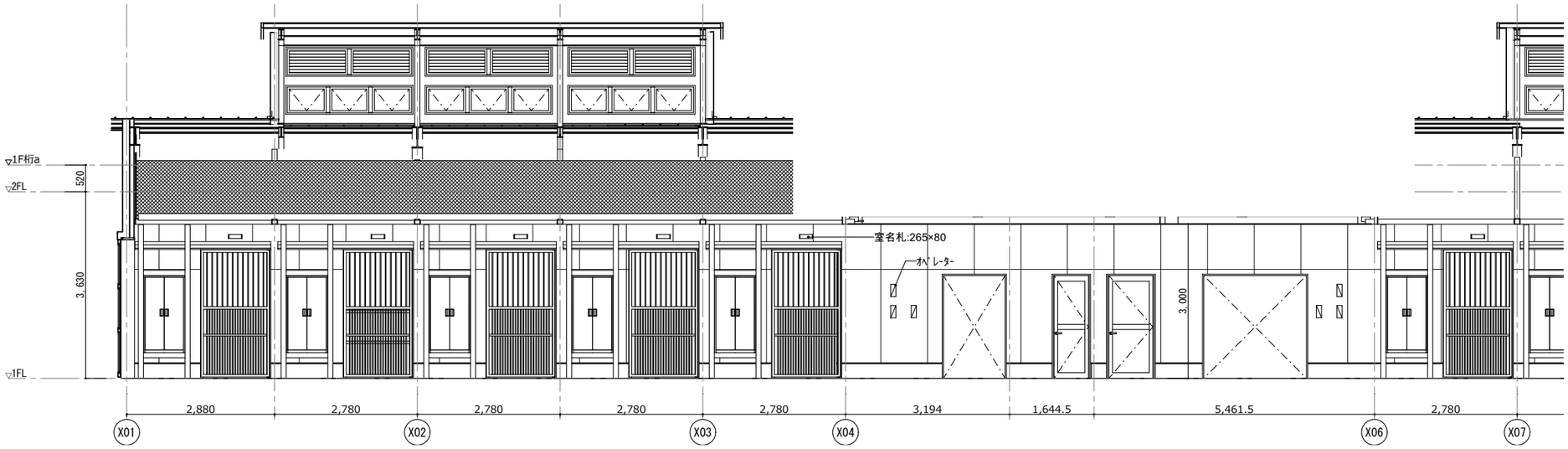
設計 年 月 日

佐賀県競馬組合

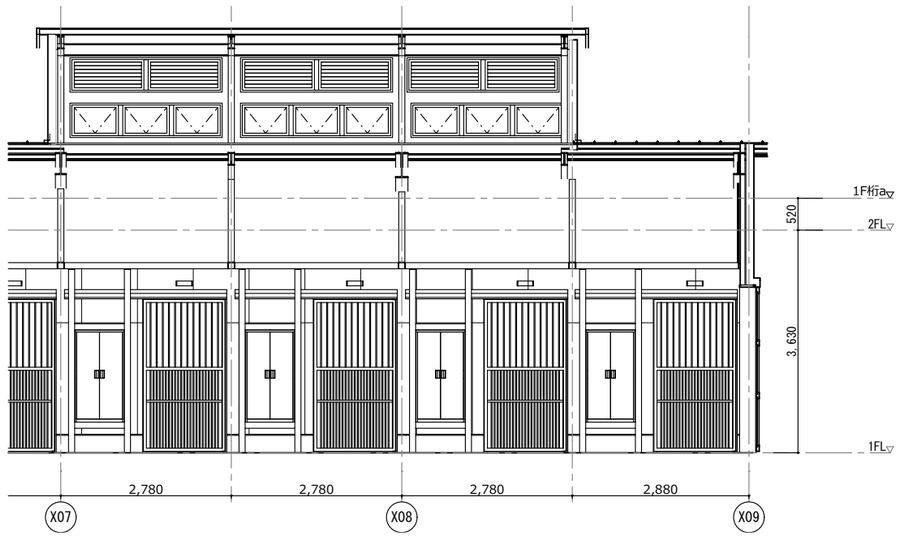
１級建築士登録 第 号

図面番号 A-37

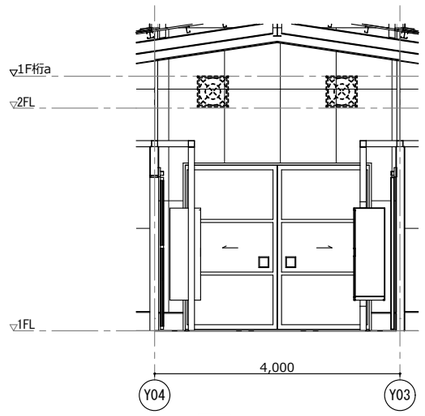
室名	通路
床	VS_t=2.0
巾木	ﾗﾊﾞｰﾏｯﾄ_t=12+ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修
腰壁	—
壁	OC+構造用合板_t=12
天井	EP-G+FK_t=6.0_目透し
備考	



A面



A面



B面

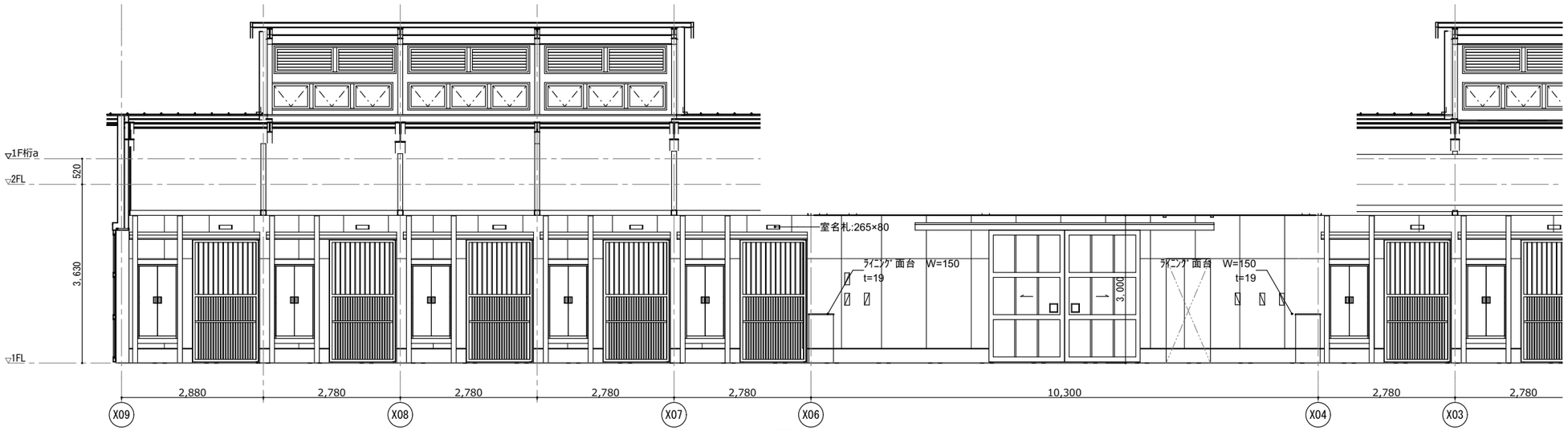
設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

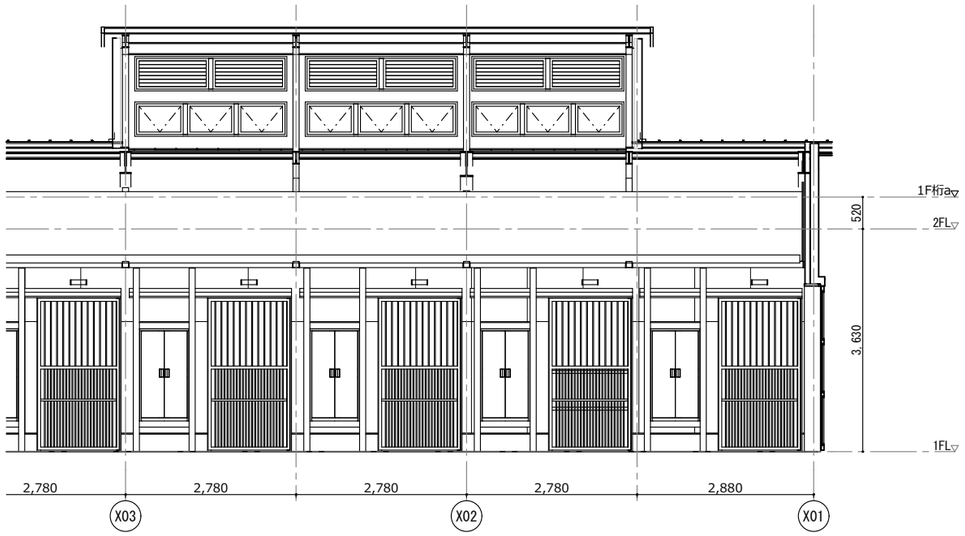
工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:50 A3版 1:100	佐賀県競馬組合
図面名	展開図＿６	設計 年 月 日	１級建築士登録 第 号

図面番号 A-38

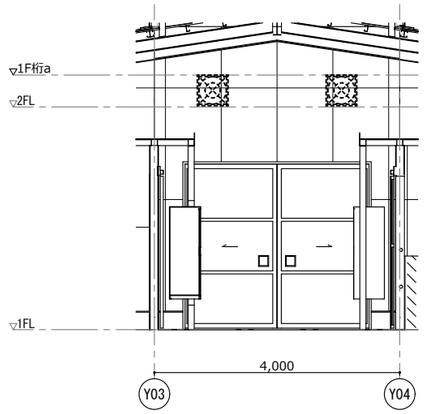
室名	通路
床	VS_t=2.0
巾木	ﾗﾊﾞｰﾏｯﾄ_t=12+ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修
腰壁	—
壁	OC+構造用合板_t=12
天井	EP-G+FK_t=6.0_目透し
備考	



C面



C面



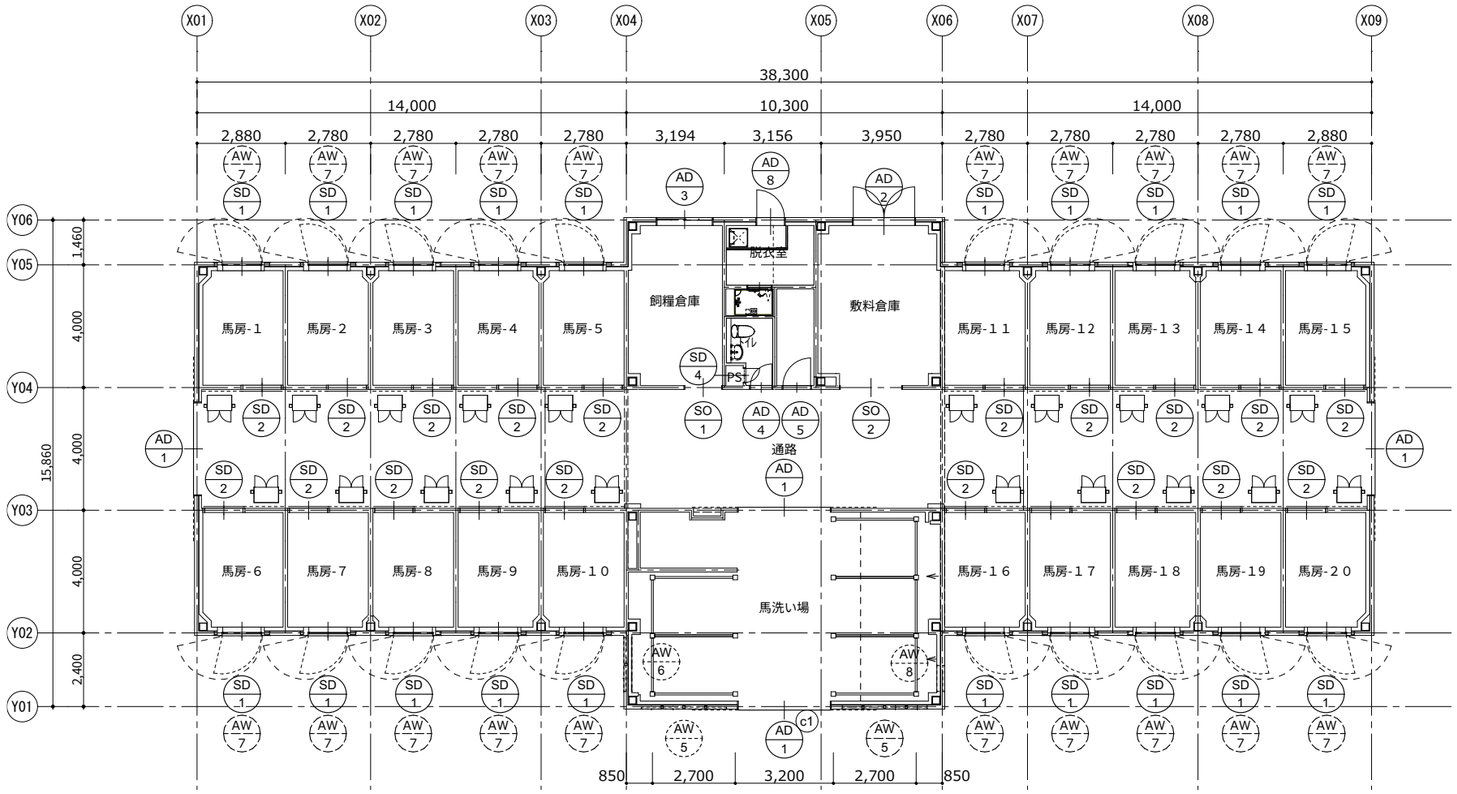
D面

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

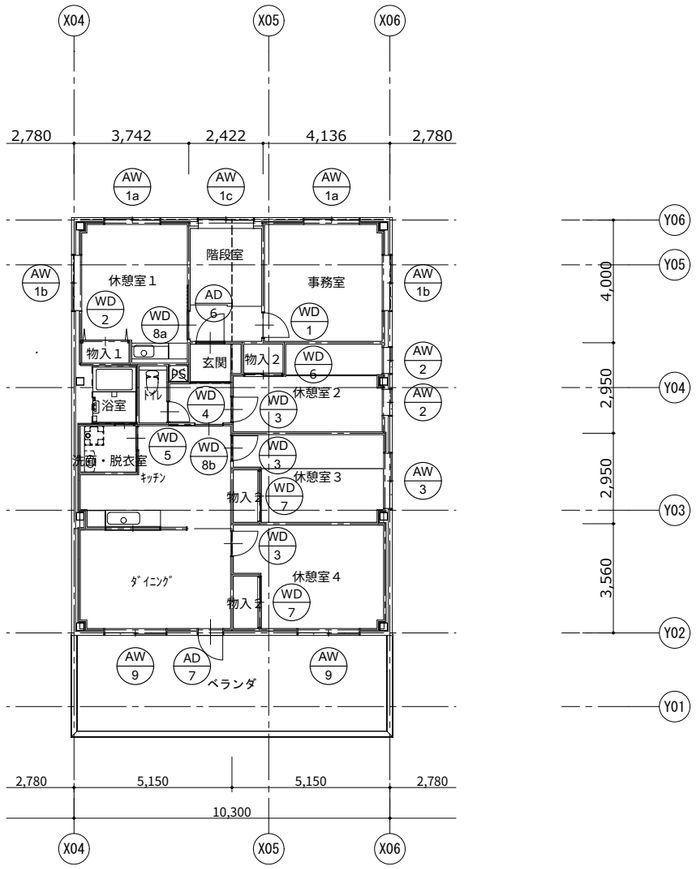
１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:50 A3版 1:100	佐賀県競馬組合
図面名	展開図＿７	設計 年 月 日	１級建築士登録 第 号

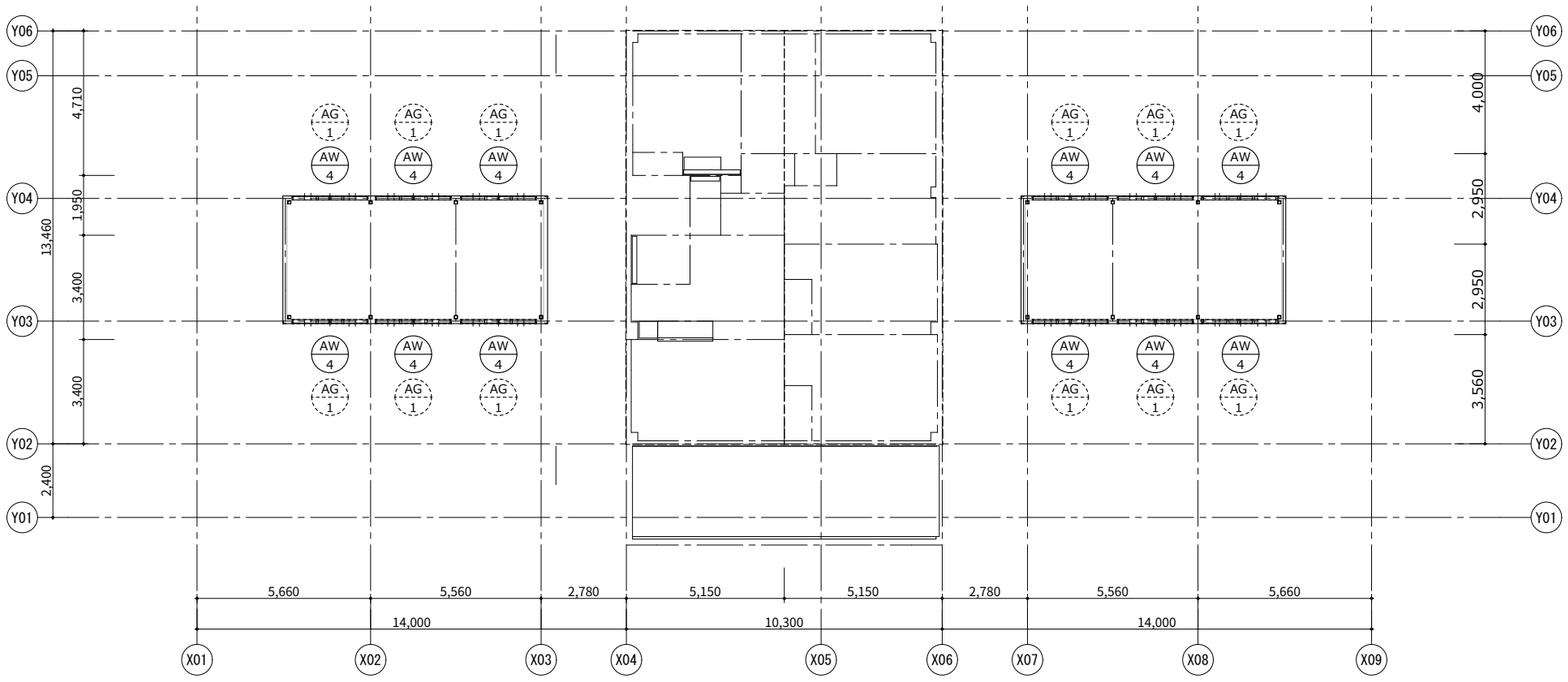
図面番号 A-39



1階建具配置図 1:100

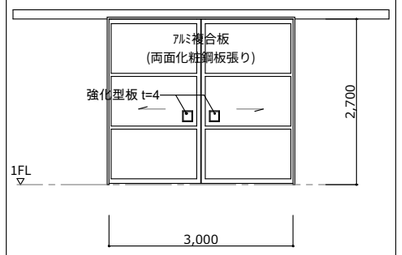
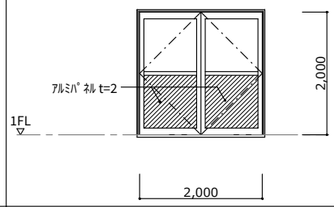
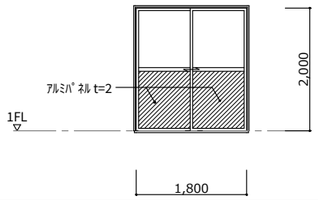
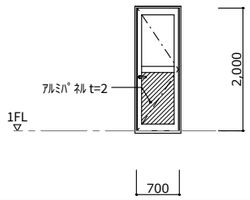
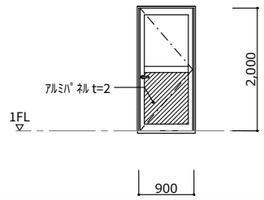


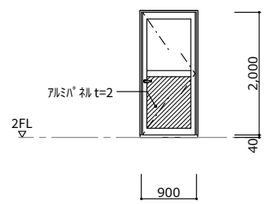
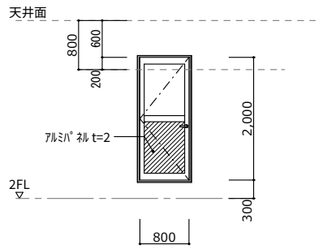
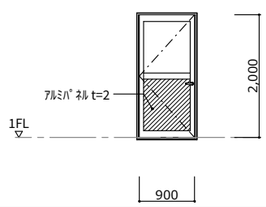
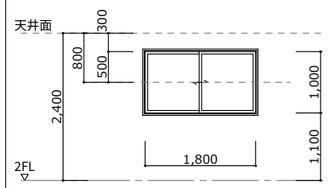
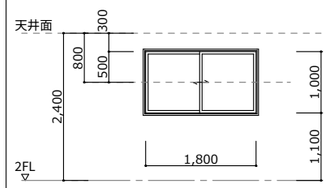
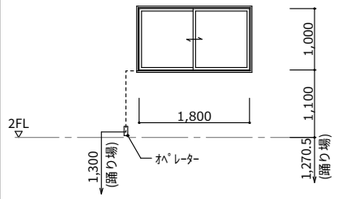
2階建具配置図 1:100

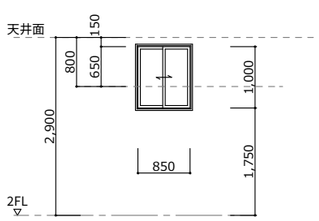
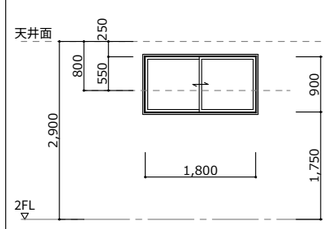
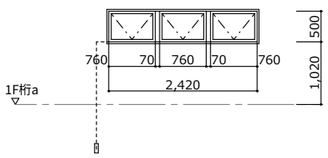
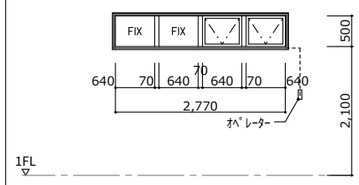
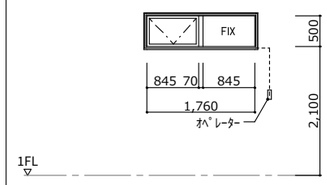
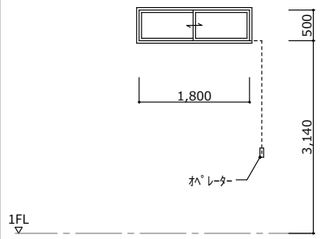


ハイサイド建具配置図 1:100

	設計変更年月日				
	1回 年 月 日	1級建築士 内田 要	工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮 A1版 1:100 尺 A3版 1:200	佐賀県競馬組合	図面番号 A-40
	2回 年 月 日	大臣登録 第１８９２９４号	図面名	建具配置図	設計 年 月 日	1級建築士登録 第 号	
	3回 年 月 日	株式会社渋江建築設計事務所					
		佐賀市多布施四丁目３番５０号					
		TEL 0952-24-7211					

符号	AD 1	SD 4	AD 2	AD 3	AD 4	AD 5
形状	引分け戸	片開き戸	両開き戸	引違い戸	片開き戸	片開き戸
位置	通路, 馬洗い場	1階ﾄｲﾚ	敷料倉庫	飼糧倉庫	1階トイレ	1階階段室
数量	4	1	1	1	1	1
姿図						
枠見込/扉厚		70	70	70	70	70
仕上	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	SOP塗装	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)
ガラス	強化型板 t=4	ー	強化ﾌﾛｰﾄ t=4	強化ﾌﾛｰﾄ t=4	強化ﾌﾛｰﾄ t=4	強化ﾌﾛｰﾄ t=4
金物	ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(内部ｻﾑﾀｰﾝ)・引手・付属金物一式	ｹｰｽﾊﾝﾄﾞﾙ錠・付属金物一式	ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(内部ｻﾑﾀｰﾝ)・付属金物一式	ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(内部ｻﾑﾀｰﾝ)・付属金物一式	表示錠・付属金物一式	ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(内部ｻﾑﾀｰﾝ)・付属金物一式
備考	ｽﾁｰﾙ三方枠(溶融亜鉛ﾒｯｷ)・その他詳細図による		ｱﾙﾐ額縁(三方)	ｱﾙﾐ額縁(三方)	ﾌﾗｯﾄ框・ｱﾙﾐ額縁(三方)	ﾌﾗｯﾄ框・ｱﾙﾐ額縁(三方)

符号	AD 6	AD 7	AD 8	AW 1a	AW 1b	AW 1c
形状	開き戸	片開き戸	片開き戸	引違い窓	引違い窓	引違い窓
位置	玄関	ダイニング	脱衣室	休憩室1, 事務室	休憩室1, 事務室	2階階段室
数量	1	1	1	2	2	1
姿図						
枠見込/扉厚	70	70	70	70	70	70
仕上	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)
ガラス	型板 t=4	ﾌﾛｰﾄ t=6	強化ﾌﾛｰﾄ t=4	ﾌﾛｰﾄ t=3	ﾌﾛｰﾄ t=3	ﾌﾛｰﾄ t=3
金物	ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(内部ｻﾑﾀｰﾝ)・付属金物一式	ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(内部ｻﾑﾀｰﾝ)・付属金物一式	ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(内部ｻﾑﾀｰﾝ)・付属金物一式			開閉ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ
備考	ｱﾙﾐ額縁(三方)	ｱﾙﾐ額縁(三方)・網戸(ｶﾞﾗｽ繊維入り)	ｱﾙﾐ額縁(三方)・網戸(ｶﾞﾗｽ繊維入り)	ｱﾙﾐ額縁(四方)・網戸(ｶﾞﾗｽ繊維入り)	ｱﾙﾐ額縁(四方)・網戸(ｶﾞﾗｽ繊維入り)	ｱﾙﾐ額縁(四方)・網戸(ｶﾞﾗｽ繊維入り)

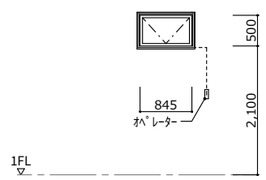
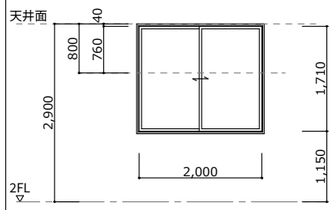
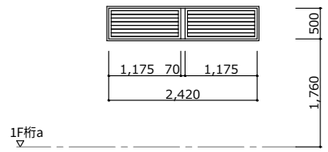
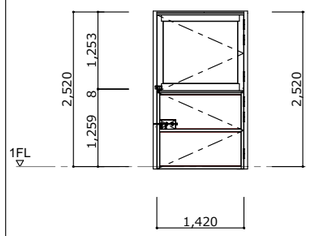
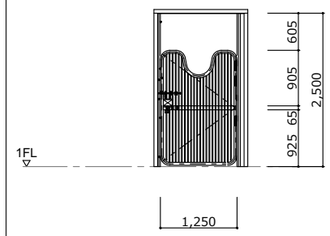
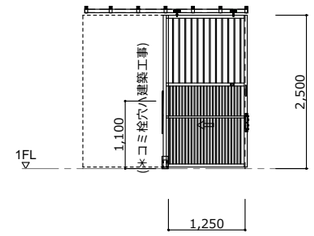
符号	AW 2	AW 3	AW 4	AW 5	AW 6	AW 7
形状	引違い窓	引違い窓	3連内倒し窓	2連FIX窓2連外倒し窓	FIX窓付外倒し窓	引違い窓
位置	休憩室２	休憩室3	通路	馬洗い場	馬洗い場	馬房
数量	2	1	12	2	1	20
姿図						
枠見込/扉厚	70	70	70	70	70	70
仕上	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)
ガラス	ﾌﾛｰﾄ t=3	ﾌﾛｰﾄ t=3	ﾌﾛｰﾄ t=3	強化ﾌﾛｰﾄ t=4	強化ﾌﾛｰﾄ t=4	ﾌﾛｰﾄ t=3
金物			開閉ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ	開閉ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ	ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(内部ｻﾑﾀｰﾝ)・付属金物一式	開閉ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ
備考	ｱﾙﾐ額縁(4方)・網戸(ｶﾞﾗｽ繊維入り)	ｱﾙﾐ額縁(4方)・網戸(ｶﾞﾗｽ繊維入り)	網戸(ｶﾞﾗｽ繊維入り)	網戸(ｶﾞﾗｽ繊維入り)	網戸(ｶﾞﾗｽ繊維入り)	

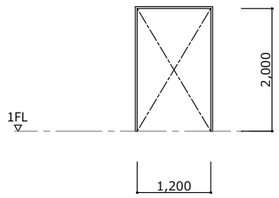
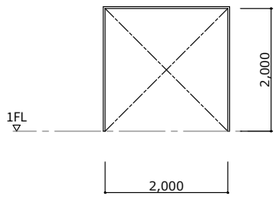
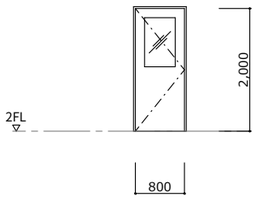
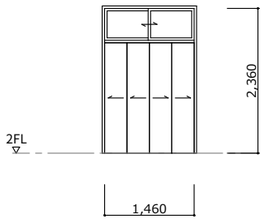
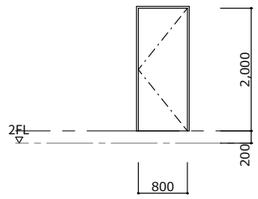
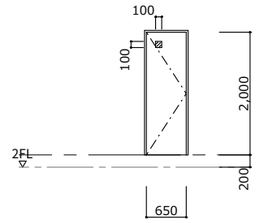
設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

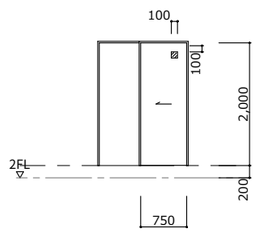
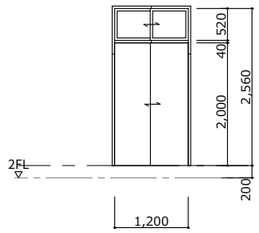
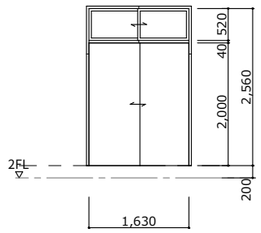
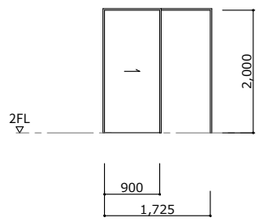
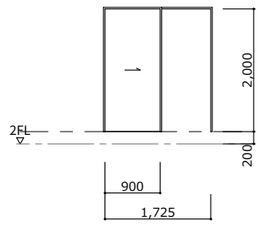
１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:50 A3版 1:100	佐賀県競馬組合
図面名	建具表__１	設計 年 月 日	１級建築士登録　第　号

図面番号 A-41

符号	AW 8	AW 9	AG 1	SD 1a	SD 1b	SD 2
形状	外倒し窓	引違い窓	ガラリ	上下2段片開き戸	片開き格子戸	片引きﾊﾝｶﾞｰ格子戸
位置	馬洗い場	ダイニング, 休憩室4	通路	馬房	馬房	馬房
数量	1	2	12	20	20	20
姿図						
枠見込/扉厚	70	70	70	40		
仕上	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	外部:GL鋼板 t=0.2・内部:合板 t=12	溶融亜鉛ﾒｯｷ	溶融亜鉛ﾒｯｷ
ガラス	強化ﾌﾛｰﾄ t=４	ﾌﾛｰﾄ t=3	―			
金物	開閉ｵﾍﾞﾚｰﾀｰ	ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(内部ｻﾑﾀｰﾝ)・付属金物一式		ｶﾝﾇｷ、ｱｵﾘ止め受け、ﾌﾗﾝｽ落とし		
備考			防虫ﾈｯﾄ	詳細図による	詳細図による	詳細図による

符号	SO 1	SO 2	WD 1	WD 2	WD 3	WD 4
形状	開口枠(3方)	開口枠(3方)	片開き戸	2枚折戸(ランマ:引違い戸)	片開き戸	片開き戸
位置	飼糧倉庫	敷料倉庫	事務室	休憩室1	休憩室2, 休憩室3, 休憩室4	2階トイレ
数量	1	1	1	1	3	1
姿図						
枠見込/扉厚	144	144	40	40	40	40
仕上	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ｱﾙﾐ型材(ｶﾗｰ)	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ
ガラス	強化型板 t=4	強化型板 t=4	ﾌﾛｰﾄ t=3	―	―	型板 t=4
金物			ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠(内部ｻﾑﾀｰﾝ)・付属金物一式			表示錠・付属金物一式
備考						

符号	WD 5	WD 6	WD 7	WD 8a	WD 8b	* *
形状	型引き戸	ランマ付引違い戸	ランマ付引違い戸	片開き戸	片開き戸	
位置	洗面・脱衣室	休憩室2	休憩室3, 休憩室4	休憩室1	ｷｯﾁﾝ	
数量	1	1	2	1	1	
姿図						
枠見込/扉厚	40	40	40	40	40	
仕上	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ	ﾎﾟﾘ合板ﾌﾗｯｼｭ	
ガラス	型板 t=4	―	―	―	―	
金物	表示錠・付属金物一式					
備考	吊り戸、両側ｿﾌﾄｸﾛｰｽﾞ仕様			吊り戸、両側ｿﾌﾄｸﾛｰｽﾞ仕様	吊り戸、両側ｿﾌﾄｸﾛｰｽﾞ仕様	

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名 建具表＿２

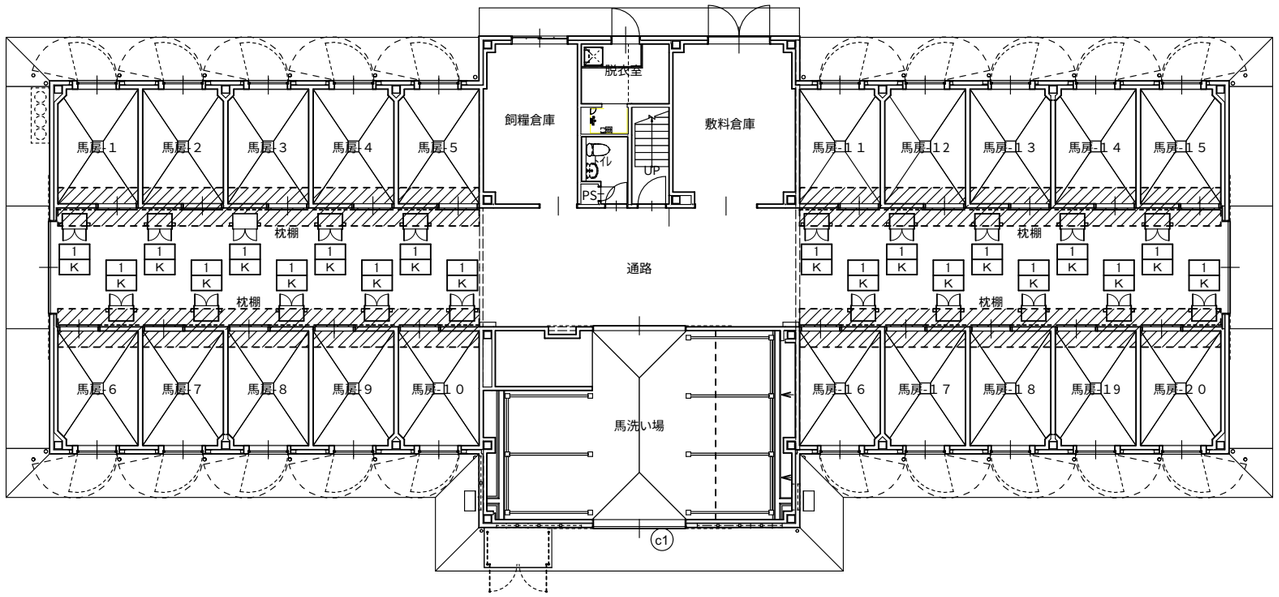
縮尺 A1版 1:50 A3版 1:100

設計 年 月 日

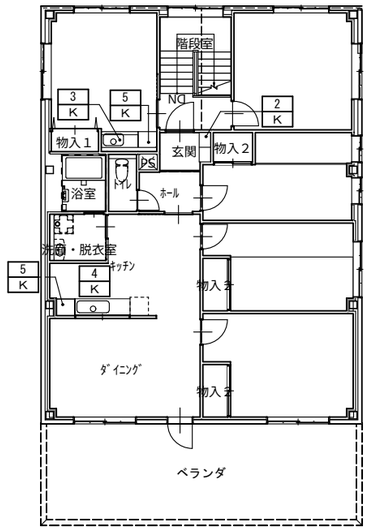
佐賀県競馬組合

１級建築士登録 第 号

図面番号 A-42



1階家具配置図 1:100

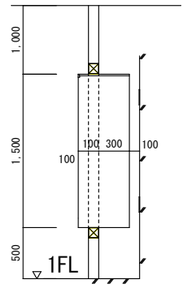


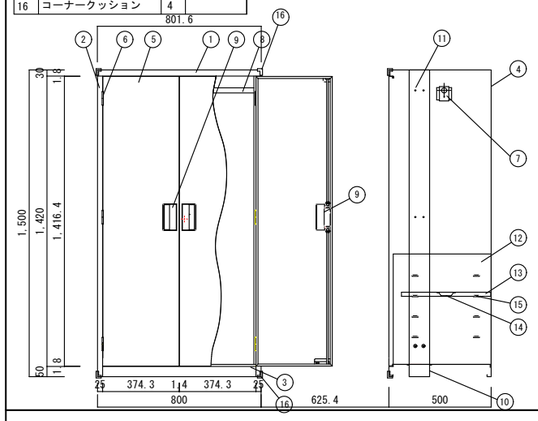
2階家具配置図 1:100

1 K　きゅう務員棚　/通路　/20ヶ所　/縮尺：1/30

仕様　仕様　※本体：アクリル焼付塗装

番号	部品名	数	摘要
1	天　板	1	t=1.0
2	側　板	2	
3	底　板	1	ボンデ鋼板
4	後　板	1	
5	扉	2	
6	蝶　番	6set	
7	ハンガーパイプ受け	2	
8	ハンガーパイプ	1	C25 ステンレス巻き
9	錠	1	DH-2000
10	底 板 補 強	1	
11	側板補強　t = 1.6	2	※ビス穴φ6
12	棚 受 け	4	
13	棚　板	1	
14	棚 板 補 強	1	
15	棚 爪（T型）	4	
16	コーナークッション	4	

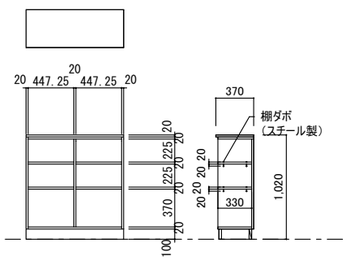




2 K　下足入れ　/玄関　/1ヶ所　/縮尺：1/30

仕様

天板	メラミン化粧板貼　ポストフォーム加工
本体主材	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口：樹脂シートt=1.0mm貼
中棚	樹脂コート化粧パーティクルボード 木口：樹脂シートt=1.0mm貼
台輪	ポリ合板貼

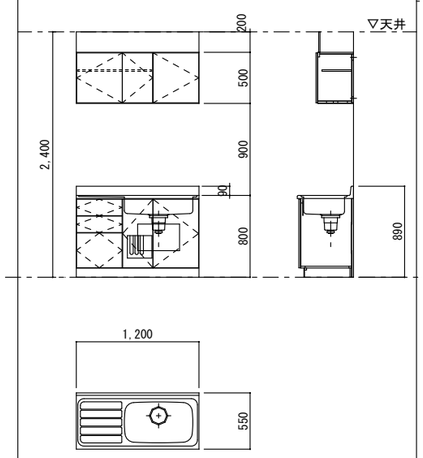


3 K　流し+吊戸棚　/休憩所１　/1ヶ所　/縮尺：1/30

仕様

流し台(ﾄｯﾌﾟ)	ｽﾃﾝﾚｽ
扉	EBｺｰﾄｱｸﾘﾙ系化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ

LIXIL:ｾｸｼｮﾅﾙｼﾘｰｽﾞ_木製ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ_GSｼﾘｰｽﾞ同等品以上

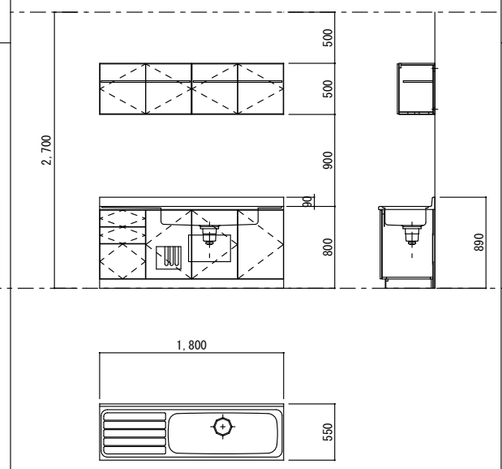


4 K　流し+吊戸棚　/Ｄ．Ｋ　/1ヶ所　/縮尺：1/30

仕様

流し台(ﾄｯﾌﾟ)	ｽﾃﾝﾚｽ
扉	EBｺｰﾄｱｸﾘﾙ系化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ

LIXIL:ｾｸｼｮﾅﾙｼﾘｰｽﾞ_木製ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ_GSｼﾘｰｽﾞ同等品以上

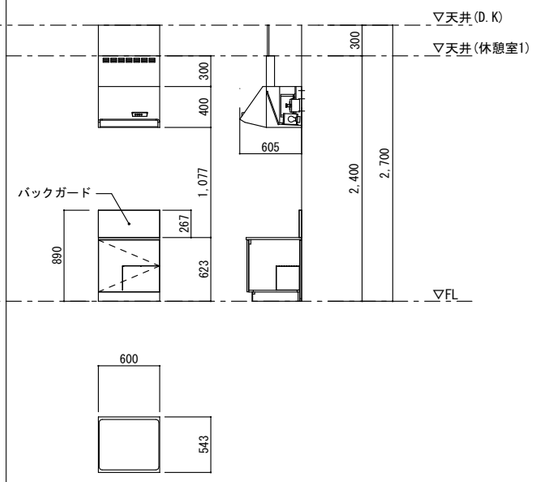


5 K　ガス台+ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ/休憩所１・Ｄ．Ｋ　/2ヶ所　/縮尺：1/30

仕様

ｺﾝﾛ台	ｺﾝﾛ台(ﾄｯﾌﾟ)	ｽﾃﾝﾚｽ
	扉	EBｺｰﾄｱｸﾘﾙ系化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ
ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ	ﾌｧﾝ	ｼﾛｯｺﾌｧﾝ

LIXIL:ｾｸｼｮﾅﾙｼﾘｰｽﾞ_木製ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ_GSｼﾘｰｽﾞ同等品以上



設計変更年月日			
1回	年	月	日
2回	年	月	日
3回	年	月	日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名　家具配置図・詳細図

縮尺　A1版 1:30, 1:100　A3版 1:60, 1:200

設計　年　月　日

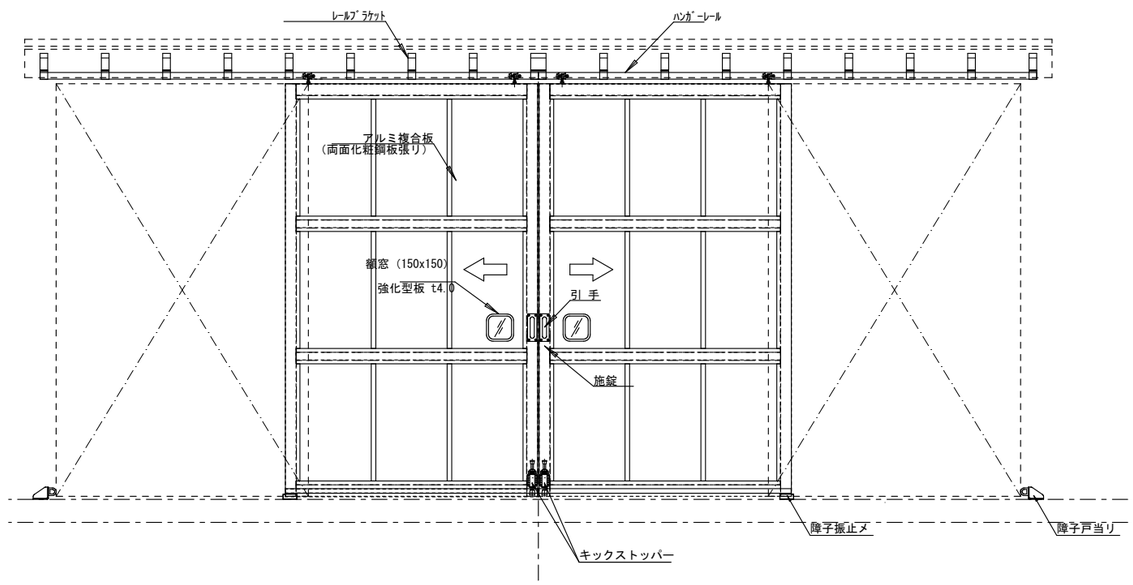
佐賀県競馬組合

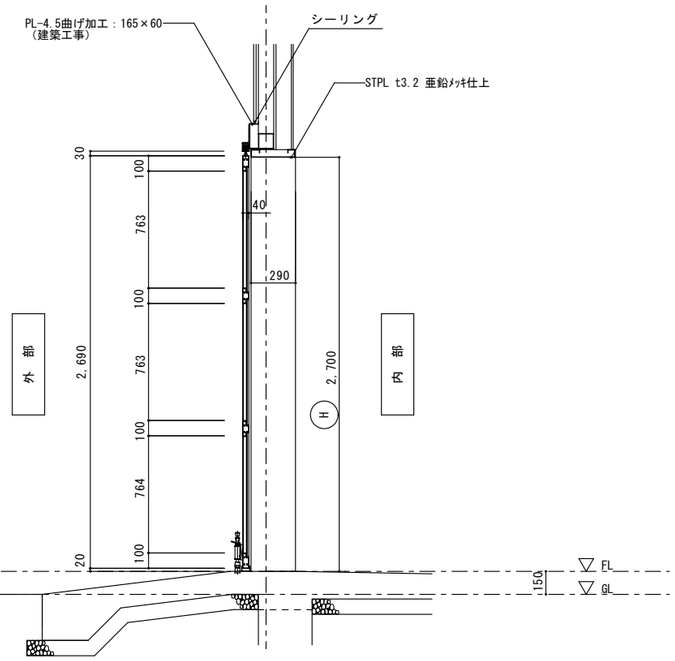
１級建築士登録　第　号

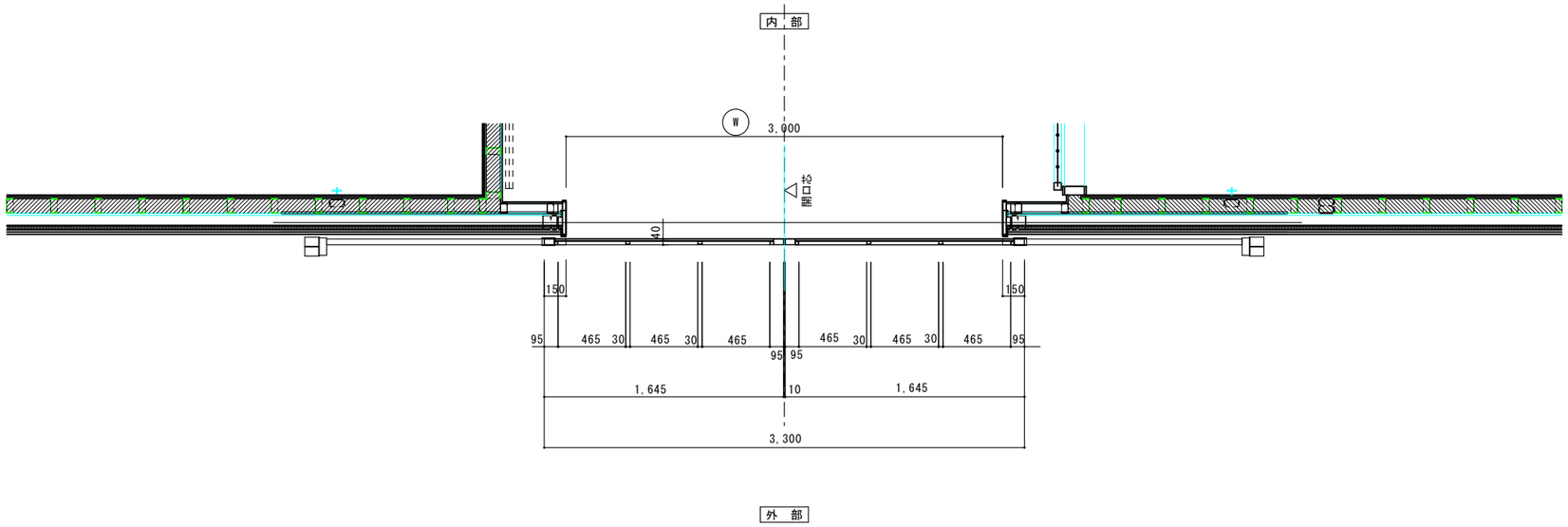
図面番号　A-43

製品明細					
1 AD	数量	4	形式	アルミ引分け引戸	仕上 アルマイト仕上げ
取付場所	通路出入り口 馬洗い場出入口				
マスターキー：一有 □無					
(仕様)					

金物明細	
金物名称	部品番号
ハンガーレール	ステンレス (2B)
レールブラケット	ステンレス (2B)
吊車	
吊車ストッパー	ステンレス (2B)
引手	ステンレス (2B)
施錠	ステンレス
障子振れ止め	ステンレス (2B)
障子戸当り	ステンレス (2B)
キックストッパー	900-A(三価クロム)







設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名 新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名 建具詳細図__1

縮尺 A1版 1:20 A3版 1:40

設計 年 月 日

佐賀県競馬組合

1級建築士登録 第 号

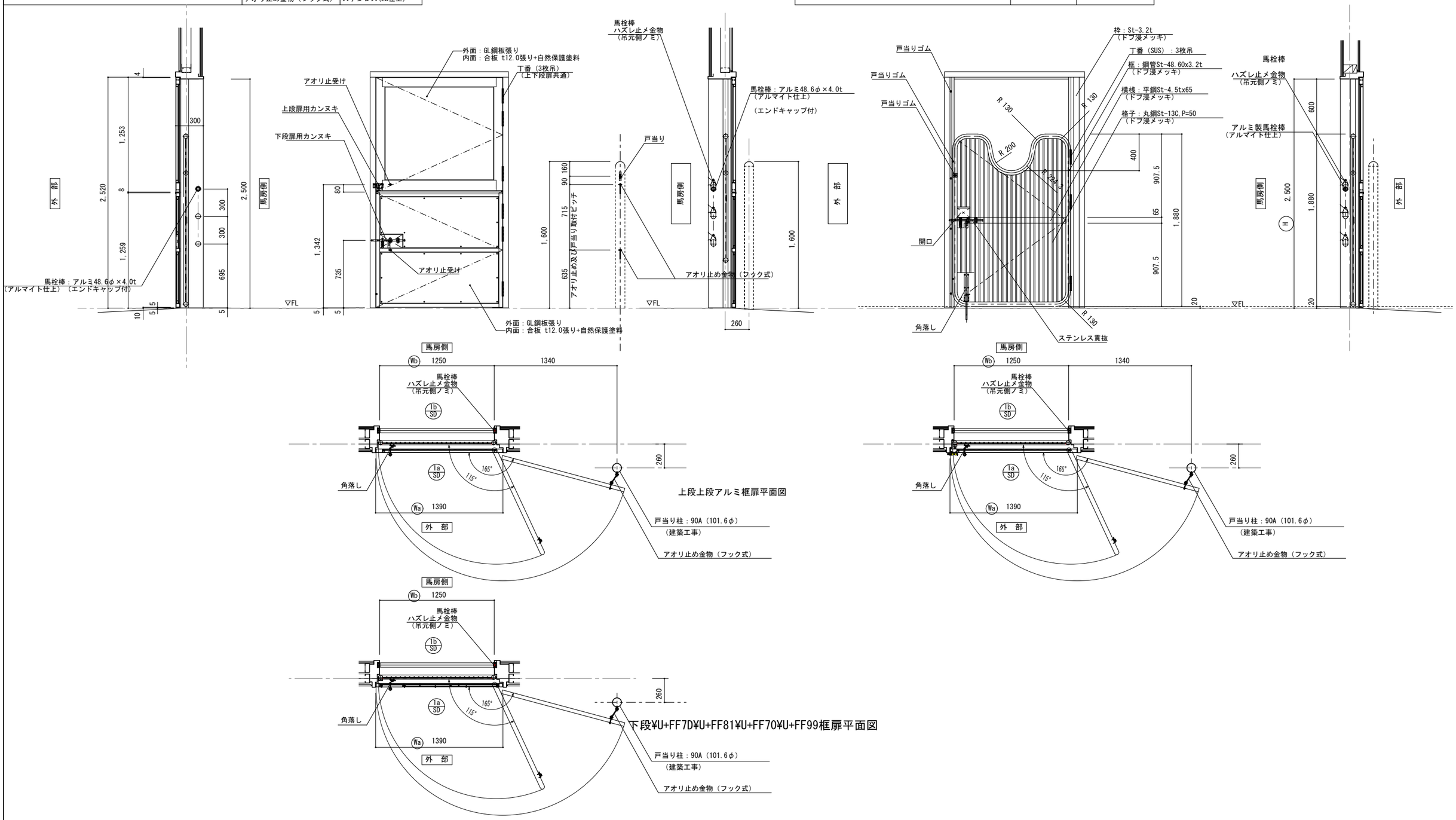
図面番号 A-44

製品明細							
1a SD	数量	20	形式	片開き2段ドア（上段：ｱﾙﾐ框、下段：ｽﾁｰﾙ框）	仕上	溶融亜鉛メッキ（ドブ浸けメッキ）	
取付場所	馬房						
マスターキー：□有 □無							
（仕様）							

金物明細	
金物名称	部品番号
上段扉	
丁番	6KJ-4t-A（ステンレス）
カンヌキ	ステンレス(電解研磨)
アオリ止め金物（フック式）	ステンレス(2B仕上)
戸当り	ステンレス(2B仕上)
下段扉	
丁番	6KJ-4t-A（ステンレス）
カンヌキ	ステンレス(電解研磨)
アオリ止め金物（フック式）	ステンレス(2B仕上)

製品明細							
1b SD	数量	20	形式	片開きスチールパイプドア	仕上	溶融亜鉛メッキ（ドブ浸けメッキ）	
取付場所	馬房						
マスターキー：□有 □無							
（仕様）							

金物明細	
金物名称	部品番号
丁番	6インチ（SUS）
カンヌキ	ステンレス
アオリ止め金物受	M8アイボルト（SUS）
戸当りゴム	EPDM 黒色
馬栓棒	アルミ製(外径48.6φ)
角落し	ステンレス



設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

1級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版 1:20 A3版 1:40
図面名	建具詳細図＿２	設計	年 月 日

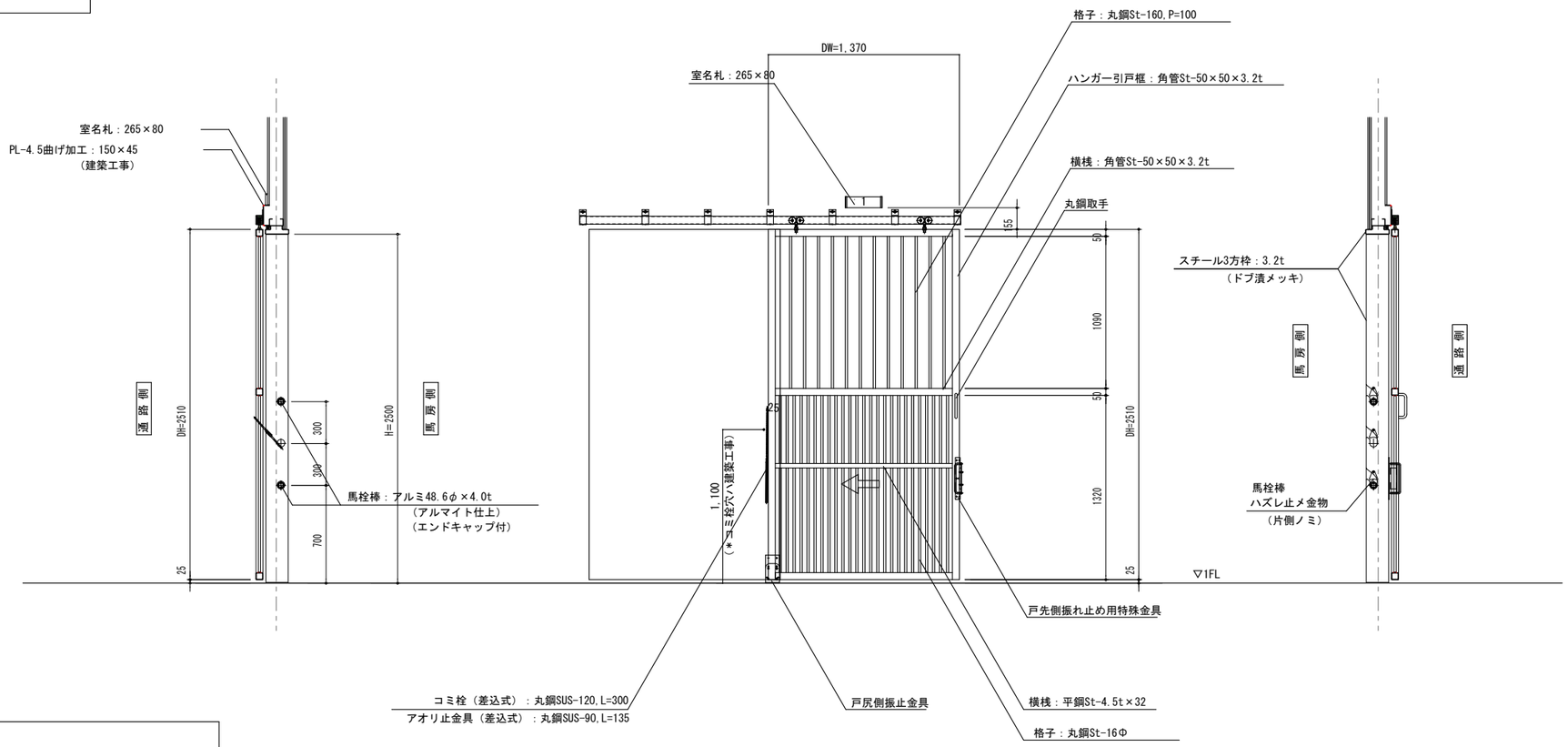
佐賀県競馬組合

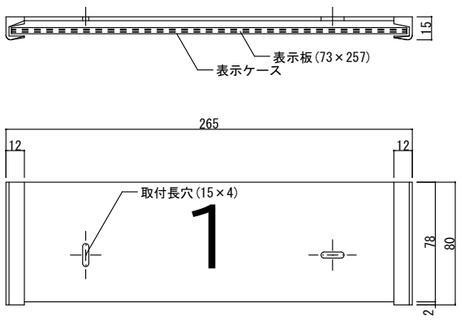
1級建築士登録 第 号

図面番号 A-45

製品明細						
2/30	数量	20	形式	片引きハンガー格子扉	仕上	溶融亜鉛メッキ（ドブ浸けメッキ）
取付場所	馬房					
マスターキー：□ 有 □ 無						
（仕様）						

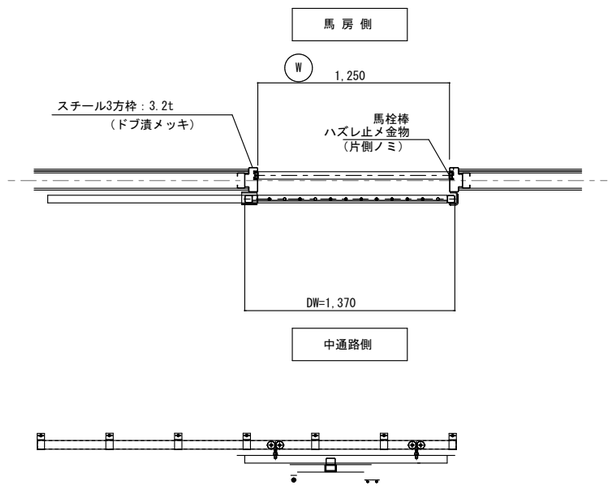
金物明細	
金物名称	部品番号
ハンガーレール	ステンレス(2B仕上)
ハンガーブラケット	ステンレス(2B仕上)
吊車	スチール（ベアリング無し）
ストッパー	ステンレス(2B仕上)
レールエンド	ステンレス(2B仕上)
コミ栓	ステンレス(2B仕上)
馬栓棒(アルミ製)	外径48.6φ





仕様	材質	仕上
平付型	表示ケース：アクリル樹脂(透明) 表示板　：塩ビ(乳白)1.0mm 支持具　：亜鉛	シート張

SK-607　一般室名札(平付・ケース型)

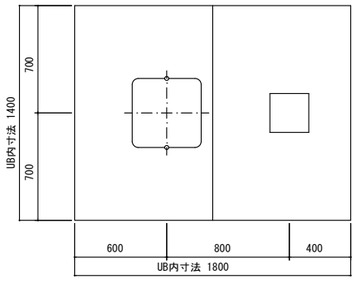


設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

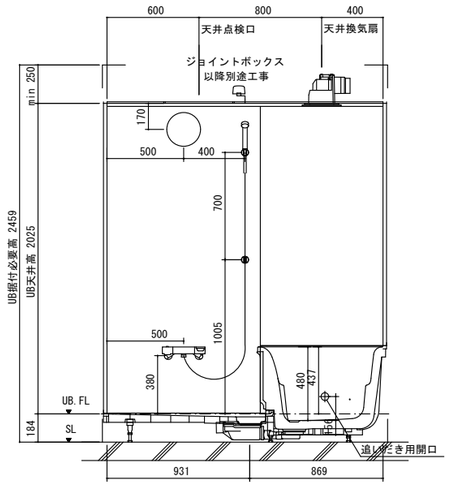
1級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:20, 1:2 / A3版 1:40, 1:4	佐賀県競馬組合
図面名	建具詳細図＿３	設計 年　月　日	1級建築士登録　第　号

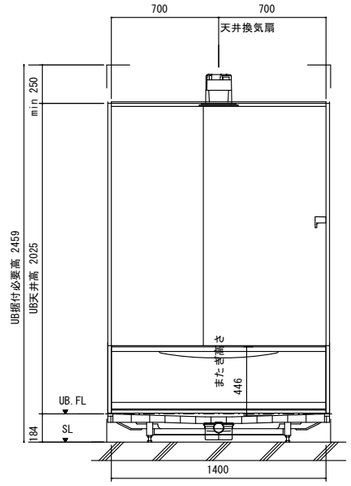
図面番号 A-46



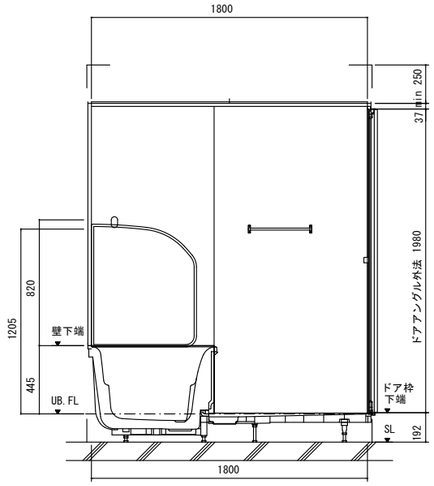
[天井伏図]



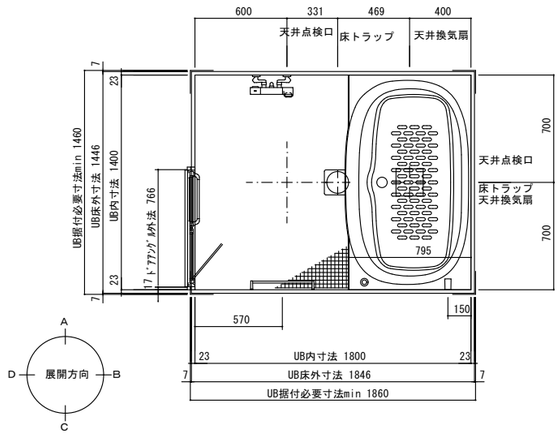
[A面]



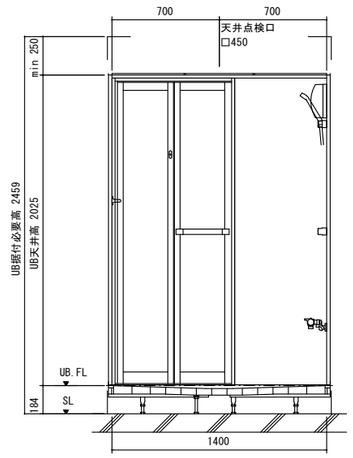
[B面]



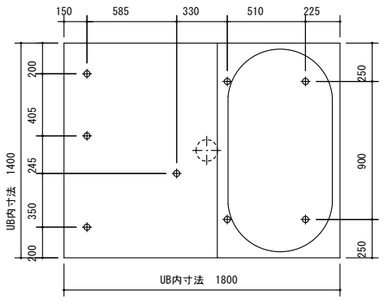
[C面]



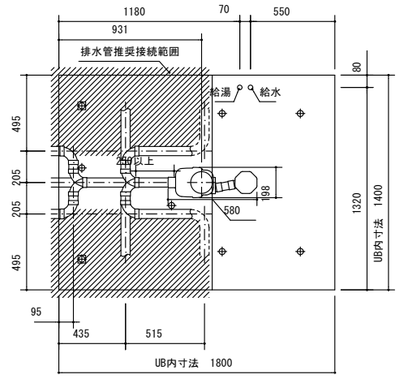
[平面図]



[D面]



[床指示位置図]



⊕：ボルト脚箇所

[配管接続位置図]

※UB据付必要寸法はドア部の寸法を含みません。ドア部の寸法は詳細図のドア取合をご確認ください。
※取付ける機器により、UB据付必要寸法は異なります。
　詳しくは、カタログの「工務店さまへ（取付け前の確認事項）」をご確認ください。

※雑排水管の接続については、別紙「排水管経路条件図」をご参照ください。

部位／項目	仕様（寸法単位：mm）	備考（色柄・品番等）	壁穴
据付必要寸法	1460D×1860W×2459H		
内寸法	1400D×1800W×2025H		
床	FRP　キレイサーモフロア　単色 パッとくるりんポイ排水口		
壁	Lパネル(ハイクラス)		
天井	化粧鋼板複合パネル	UE103	
ドア	折り戸：アルミアルマイト処理（キレイドア） 面　材：型板調樹脂板	VDY-8002006R(73)	
浴槽	ルフレトーン ミナモ浴槽(浴槽内法 1331W×802D×480H) プッシュワンウェイ排水栓(ホワイト) サーモバスS(浴槽保温材・薄型保温2枚組蓋<ホワイト>) 組蓋フック<ホワイト> エプロン		現場

部位／項目	仕様（寸法単位：mm）	備考（色柄・品番等）	壁穴
水栓金具	洗い場側：壁付サーモ水栓(クロマーレS) シャワー：エコフルシャワー(ホワイト)	BF-WM147TKX-PU BF-SD6BP(1.7)-PU	
ｼｬﾜｰﾌｯｸ	樹脂製(ホワイト)　2個	BF-30E-PU/N85	現場
照明	ネオサークル照明(防湿型) LEDランプ 1灯 VVFケーブル2芯1.5m付	LDA-G1-1A	
タオル掛	アルミパイプ L400　ブラケット：樹脂製	TB-400E-K	現場
換気扇	天井換気扇 UF-27A		
トラップ	ABS樹脂製 封水50mm		
給水管	G1/2　フレキ管袋ナット止		
給湯管	G1/2　フレキ管袋ナット止		
雑排水管	塩ビ管　VP50		
追いだき	浴槽・浴槽パン穴加工+ﾌﾞｯｼﾝｸﾞ(循環ｱﾀﾞﾌﾟﾀｰ現場手配) 浴槽穴加工φ50		

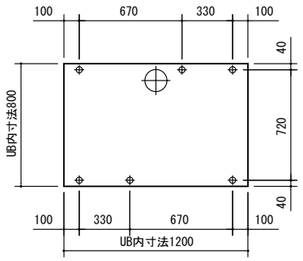
※「壁穴」欄の「現場」は壁パネルの穴加工が現場開口であることを示します。

設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

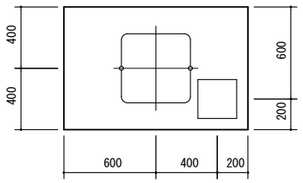
1級建築士　内田　要
大臣登録　第189294号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目3番50号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:20 A3版 1:40	佐賀県競馬組合
図面名	ユニットバス詳細図(参考図)	設計 年　月　日	1級建築士登録　第　号

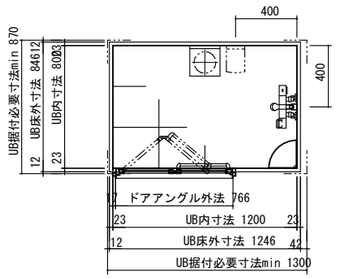
図面番号 A-47



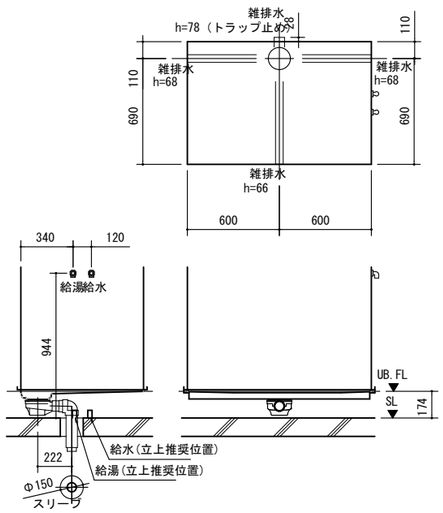
床支持位置



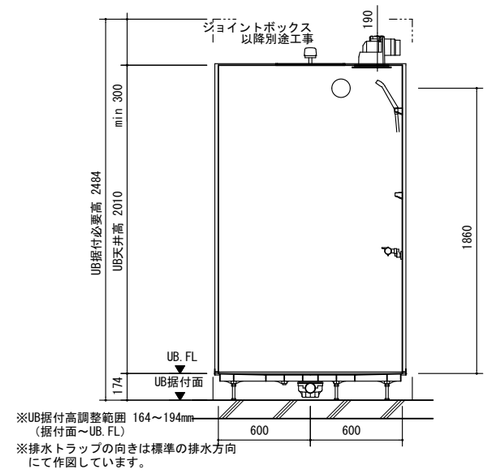
天井見上げ図



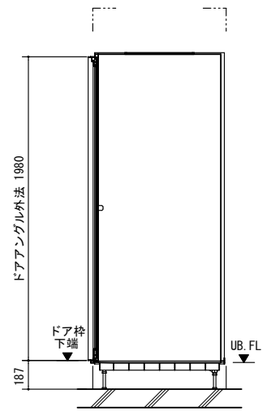
※UB据付必要寸法はドア部の寸法を含みません。ドア部の寸法は詳細図のドア取合をご確認ください。



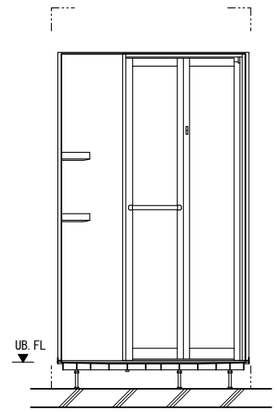
配管持出し方向



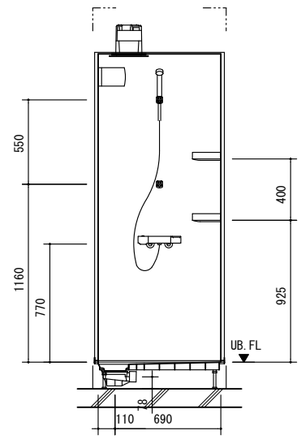
B面



A面



E面



C面

部位／項目	仕様（寸法単位：mm）	備考（色柄・品番等）	壁穴加工
床	FRP　単色 模様付	N86	
壁	Lパネル(ベーシッククラス)	LE301	
天井	化粧鋼板複合パネル	UE103	
ドア	折り戸：アルミアルマイト処理（キレイドア） 面　材：型板調樹脂板	VDY-8002006L(79)/W	
水栓金具	壁付サーモ水栓(クロマーレS) シャワー専用 シャワー：エコフルシャワー<ホワイト>	BF-KA247TX-F12PU、A-1859-3-PU BF-SD6BP-PU	
シャワーフック	樹脂製<ホワイト> 2個	BF-30C-PU	現場開口
照明	スリム照明(防湿型) LEDランプ 1灯	LDA-C1-2A	
収納	コーナー棚<ホワイト>2段　樹脂製	NT-180A/W91	現場開口
換気扇	天井換気扇	UF-27A	
トラップ	ABS樹脂製 封水50mm		
給水管	Rc1/2　めねじ止		
給湯管	Rc1/2　めねじ止		
雑排水管	塩ビ管　VP50		

設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名　シャワーユニット詳細図(参考図)

縮尺　A1版 1:20　A3版 1:40

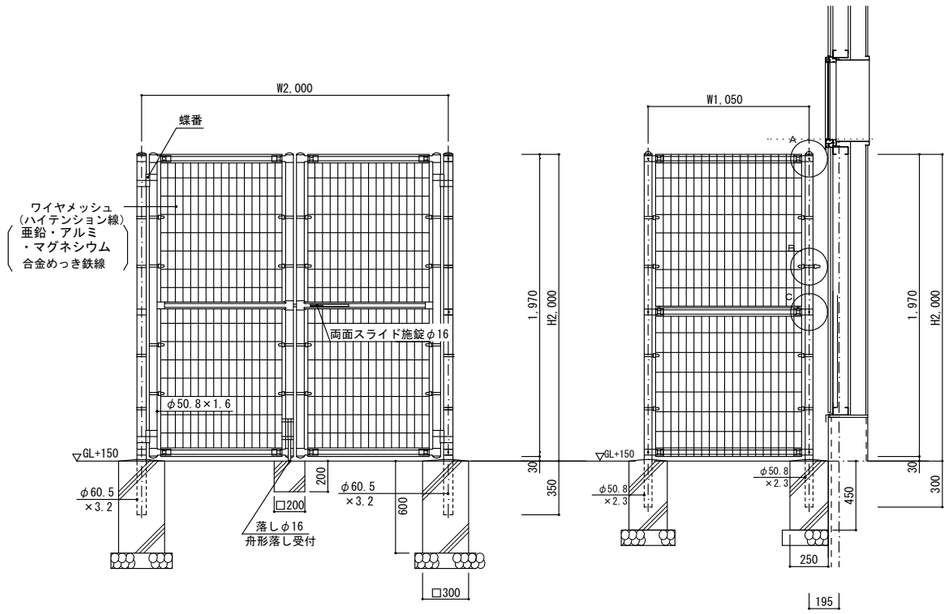
設計　年　月　日

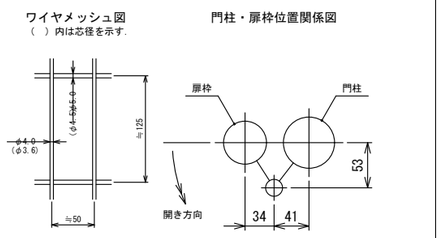
佐賀県競馬組合

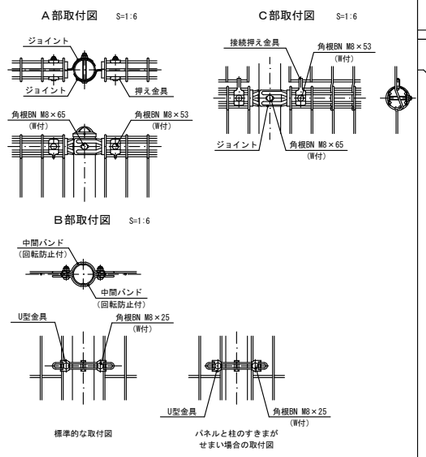
１級建築士登録　第　　号

図面番号　A-48

メッシュフェンス　S=1/20







設計条件

設計荷重・・・昭和５７年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力に依る。

基礎条件・・・長期許容地耐力　９８ｋＮ／㎡（１０ｔ／㎡）

備考

1．外装について

・門　柱、枠　体
ジョイント
押え金具
ワイヤメッシュ　・・・亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装

・バ　ン　ド　・・・亜鉛・アルミ合金めっきの上高耐候性樹脂粉体塗装

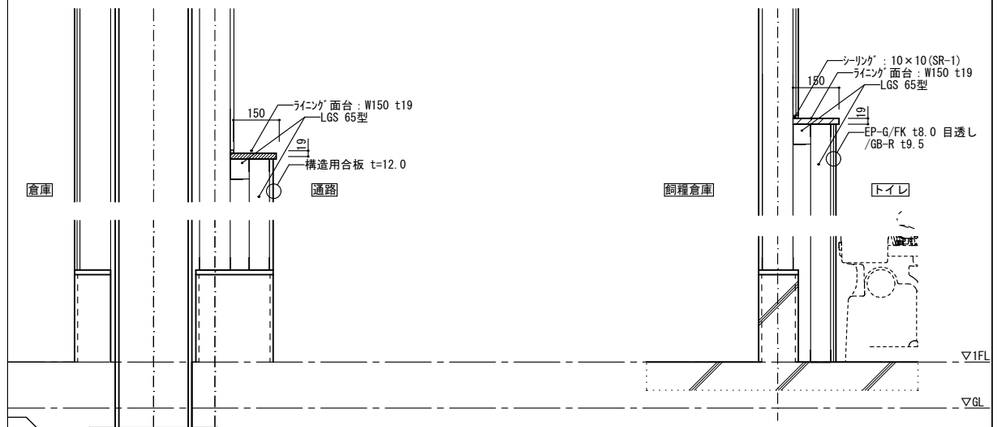
・Ｕ　型　金　具　・・・亜鉛・アルミ・マグネシウム合金めっきの上防錆着色処理

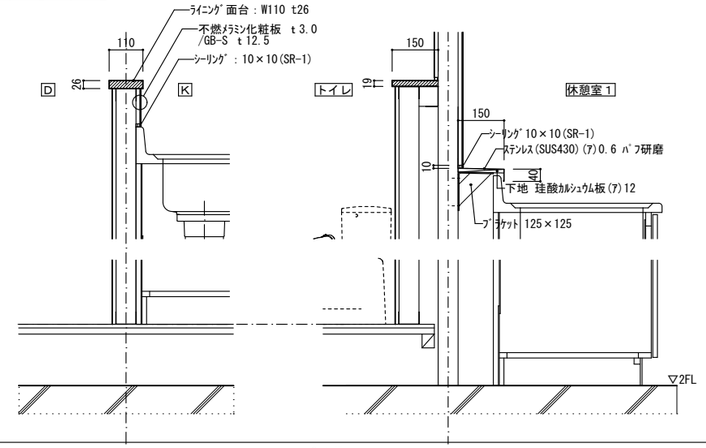
・ボルト、ナット　・・・溶融亜鉛めっきの上防錆着色処理

・施錠装置、落し　・・・溶融亜鉛めっきのみ

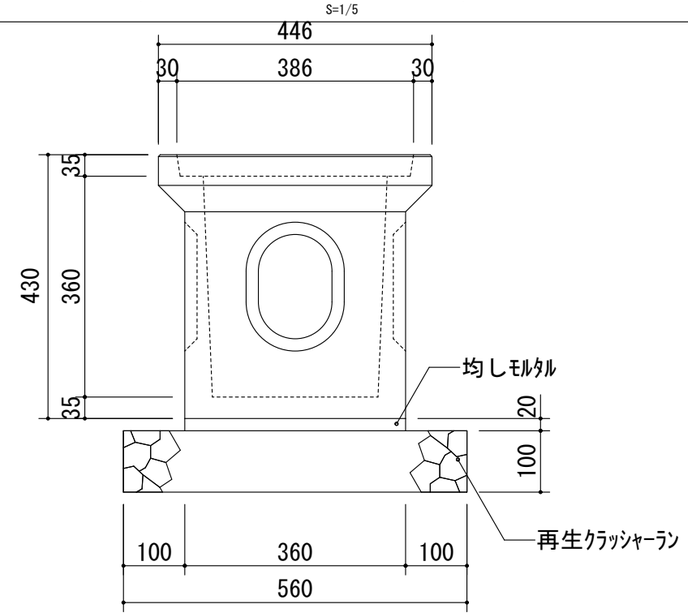
2．本図門扉は片側１８０°開きとする。

ﾗｲﾆﾝｸﾞ面台詳細図　S=1/10

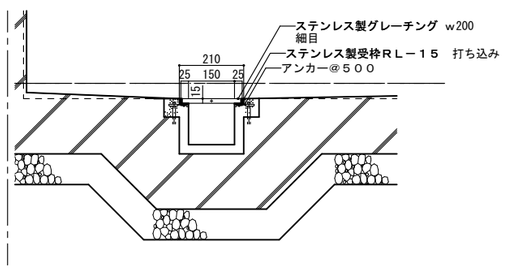




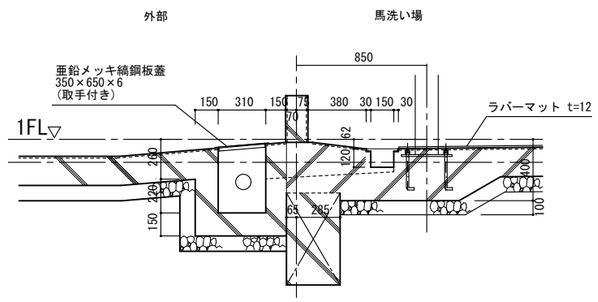
落蓋式集水桝　S=1/5



馬洗い場排水溝詳細図　S=1/10・1/20



＜排水溝部　S=1:10＞



＜集水桝部　S=1:20＞

設計変更年月日			
1回	年	月	日
2回	年	月	日
3回	年	月	日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名　外構詳細図・雑詳細図

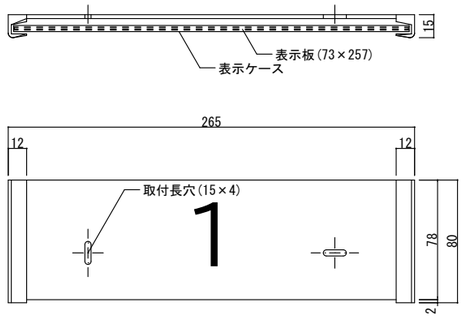
縮尺　A1版 1:20, 1:10, 1:5　A3版 1:40, 1:20, 1:10

設計　年　月　日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

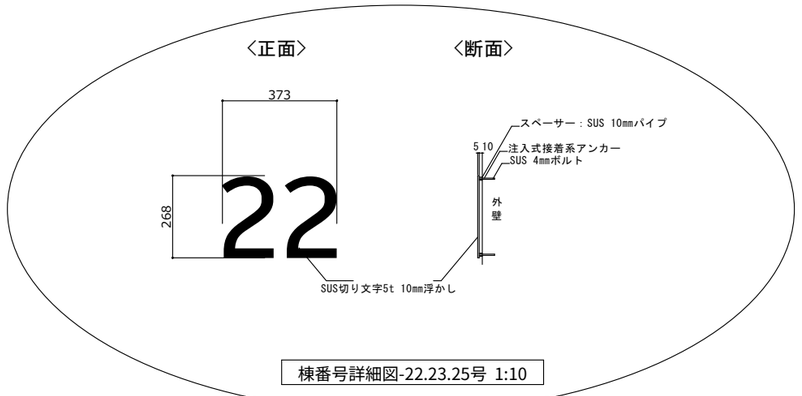
図面番号　A-49



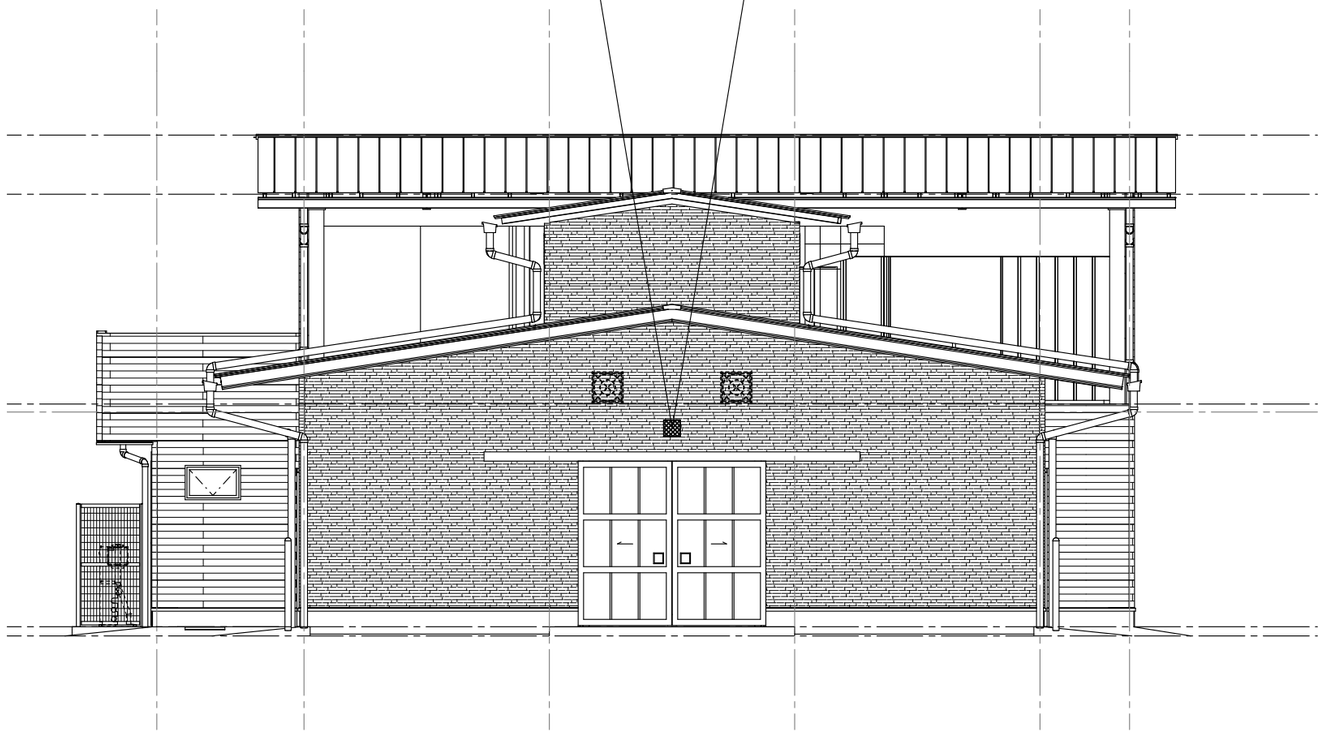
仕様	材質	仕上
平付型	表示ケース：アクリル樹脂(透明) 表示板　　：塩ビ(乳白)1.0mm 支持具　　：亜鉛	シート張

SK-607　一般室名札(平付・ケース型)

馬房室名札 1:2



棟番号詳細図-22.23.25号 1:10



東立面 1:50

	設計変更年月日
	1回　年　月　日
	2回　年　月　日
	3回　年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

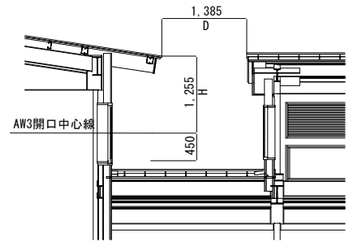
工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 A3版	佐賀県競馬組合
図面名	サイン詳細図	設計　年　月　日	１級建築士登録　第　号

図面番号 A-50

階	室名	床面積 (S)	対象開口部					採光の検討									換気の検討						排煙の検討						
								必要面積	d	h	補正係数	補正	有効面積計算			判定	必要面積	有効面積計算				判定	必要面積	有効面積計算					判定
			符号	W	H	数量	面積（A）	(S/7)			計算	係数	A	係数	面積		(S/20)	W	H	倍数	面積		(S/50)	W	有効高さ	倍数	数量	面積	
2	事務室	16.54	AW1a	1.8000	1.0000	1	1.8000	2.37				3	3.6000	3	10.80		0.83	1.8000	1.0000	0.5	0.90		0.34	1.8000	0.5000	0.5	1	0.45	
			AW1b	1.8000	1.0000	1	1.8000											1.8000	1.0000	0.5	0.90			1.8000	0.5000	0.5	1	0.45	
			計				3.6000	計							10.80	OK	計				1.80	OK	計					0.90	OK
	休憩室１	16.25	AW1a	1.8000	1.0000	1	1.8000	2.33				3	3.6000	3	10.80		0.82	1.8000	1.0000	0.5	0.90		0.33	1.8000	0.5000	0.5	1	0.45	
			AW1b	1.8000	1.0000	1	1.8000											1.8000	1.0000	0.5	0.90			1.8000	0.5000	0.5	1	0.45	
			計				3.6000	計							10.80	OK	計				1.80	OK	計					0.90	OK
	休憩室２	13.41	AW2	0.8500	1.0000	2	1.7000	1.92	1.385	1.255	10	3	1.7000	3	5.10		0.68	0.8500	1.0000	0.5	0.85		0.27	0.8500	0.6500	0.5	2	0.55	
			計				1.7000	計							5.10	OK	計				0.85	OK	計					0.55	OK
	休憩室３	13.57	AW3	1.8000	0.9000	1	1.6200	1.94	1.385	1.255	10	3	1.6200	3	4.86		0.68	1.8000	0.9000	0.5	0.81		0.28	1.8000	0.5500	0.5	1	0.49	
			計					計							4.86	OK	計				0.81	OK	計					0.49	OK
	休憩室４	16.62	AW9	2.0000	1.7100	1	3.4200	2.38				3	3.4200	3	10.26		0.84	2.0000	1.7100	0.5	1.71		0.34	2.0000	0.7600	0.5	1	0.76	
								計							10.26	OK					1.71	OK	計					0.76	OK
	ﾀﾞｲﾆﾝｸﾞ・ｷｯﾁﾝ	31.70	AW9	2.0000	1.7100	1	3.4200	4.53				3	3.4200	3	10.26		1.59	2.0000	1.7100	0.5	1.71		0.64	2.0000	0.7600	0.5	1	0.76	
			AD7	0.8000	2.0000	1	1.6000											0.8000	2.0000	1	1.60			0.8000	0.2000	0.5	1	0.08	
			計				5.0200	計							10.26	OK	計				3.31	OK	計					0.84	OK

※ハイサイドと隣接するAW/2・AW3以外は
隣地境界線、隣棟間が十分離れているので、
採光補正係数は3とする。

※AW3の採光補正係数の算定
用途地域　指定のない地域：D/H　×　10-1
1.385×1.255×10-1＝10.03
∴AW2・AW3共３とする。



※消防法による無窓階判定

１階　必要開口面積　499.36m2　／　30　＝　16.65

設計開口面積

AD-1	3	×	2.7	×	1	×	3ヶ所	=	24.30
AD-2	2	×	2	×	1	×	1ヶ所	=	4.00
AD-3	1.8	×	2	×	1	×	1ヶ所	=	3.60
							計		31.90

∴　16.65　＜　31.9　無窓階ではない

２階　必要開口面積　138.63m2　／　30　＝　4.63

設計開口面積

AW-1b	1.8	×	1	×	0.5	×	4ヶ所	=	3.60
AW-9	2	×	1.56	×	0.5	×	1ヶ所	=	1.56
AD-7	0.8	×	2	×	1	×	1ヶ所	=	1.60
							計		6.76

∴　4.63　＜　6.76　無窓階ではない

設計変更年月日	
１回	年　月　日
２回	年　月　日
３回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名　法チェック図

縮尺　A1版 1:50　A3版 1:100

設計　年　月　日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　号

図面番号　A-51

4 地業工事

① 地盤調査の結果

調査位置、柱状図、地層構成、地下水位
(・)図示による　(　　)
・

② 支持地盤

・杭基礎　(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4、5)(4.4.4)(4.5.5、6)
支持地盤の種類及び位置(基礎ぐいの先端の位置含む)
・図示による　(　　)
・

・直接基礎
支持地盤の種類及び位置(基礎底部の位置含む)
・図示による　(　　)
・

長期設計支持力度
・(　　)　kN/m2

試験掘(根切り底)による支持地盤の確認　(3.2.1)
(・)行う　位置等は図示による　(　　)
・行わない

・地盤の載荷試験　(4.2.4)
・行う　試験の位置、方法等は図示による　(　　)
・行わない

3 既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業

種類　(4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)～(4.3.6)(4.3.8)
・遠心力高強度ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ杭(PHC杭)
・外殻鋼管付きｺﾝｸﾘｰﾄ杭(SC杭)
SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490
・ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄ鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ杭(PRC杭)
・

試験掘
・あり　孔径はｵｰｶﾞｰ径とする
位置等は図示による　(　　)
・なし

(4.2.2)(4.3.3)
杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分(種別)、寸法、継手の箇所数等

		種類 種別	ｺﾝｸﾘｰﾄ強度 N/mm2	杭径 mm	杭長 mm	継手数	長期設計 支持力 kN/本
試験杭	上杭						
	中杭						
	下杭						
本杭	上杭						
	中杭						
	下杭						

試験杭の施工　※本杭の施工に先立ち行う　(4.2.2)
・

試験杭の位置、本数　※最初の一本　(4.3.3)
・図示による　(　　)

杭先端部形状
・開放形　・半開放形　・閉そく形　・

施工方法　(4.3.4、5)
・ｾﾒﾝﾄﾐﾙｸ工法　(4.3.4)
ｱｰｽｵｰｶﾞｰの支持地盤への掘削深さ
・図示による　・
杭の支持地盤への根入れ長さ
・図示による　・
杭の精度
水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下
・
杭の傾斜　・1/100以内
・

・特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
α＝250を採用できる工法
図示による　(　　)
・上記以外の特定埋込杭工法
図示による　(　　)

4 鋼杭地業

工法
・ﾌﾟﾚﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ拡大根固め工法
・中掘り拡大根固め工法
・

杭周固定液
・使用する　・使用しない

杭の支持層への根入れ長さ
・図示による　(　　)　・評定等の評価内容による

杭の精度　水平方向の位置ずれ　・評定等の評価内容による
・
杭の傾斜　・評定等の評価内容による
・

杭継手工法
・ｱｰｸ溶接継手　(4.3.2、6)(7.2.5)
・標準仕様書4.3.6による　・
溶接材料　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による
・図示による
・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
工法　※評定等を受けた工法　(　図　による　)
検査　※評定等により定められた項目　(　図　による　)
・
施工　※評定等をされた施工管理基準による
(　図　による　)

杭頭の処理　(4.3.8)
・行う　処理方法（切断を伴う補強方法含む）
・図示による　(　　)
・
・行わない

杭頭の中詰め材料　(4.3.8)
※基礎のｺﾝｸﾘｰﾄと同調合のもの
・

種類の記号　・SKK400　・SKK490　(4.2.2)(4.4.3)～(4.4.6)

杭の種類、寸法、継手等

		種類	ｺﾝｸﾘｰﾄ強度 N/mm2	杭径 mm	杭長 mm	継手数	長期設計 支持力 kN/本
試験杭	上杭						
	中杭						
	下杭						
本杭	上杭						
	中杭						
	下杭						

試験杭の施工　※本杭の施工に先立ち行う
・

試験杭の位置、本数　※最初の一本
・図示による　(　　)

施工方法
・特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
α＝250を採用できる工法
図示による　(　　)
・上記以外の特定埋込杭工法
図示による　(　　)

工法
・ﾌﾟﾚﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ拡大根固め工法
・中掘り拡大根固め工法
・鋼管ｿｲﾙｾﾒﾝﾄ杭工法
・回転杭工法

杭の根入れ長さ
・評定等の評価内容による　・

杭の精度　水平方向の位置ずれ　・評定等の評価内容による
・
杭の傾斜　・評定等の評価内容による
・

5 場所打ちｺﾝｸﾘｰﾄ杭地業

杭の現場継手
・ｱｰｸ溶接継手　(4.4.5)
形状　・JIS A 5525による　・
溶接材料　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による
・図示による　(　　)
・
・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
工法　※評定等を受けた工法　(　図　による　)
検査　※評定等により定められた項目　(　図　による　)
施工　※評定等をされた施工管理基準による
(　図　による　)

杭頭の処理　(4.4.6)
・行う　処理方法（切断を伴う補強方法含む）
・図示による　(　　)
・
・行わない

杭頭の中詰め材料　(4.4.6)
※基礎のｺﾝｸﾘｰﾄと同調合のもの
・

杭径、長さ、仕様等　・図示による　(　　)
・

材料その他
帯筋の加工及び組立
・図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)6.2帯筋(b)(3)?(ﾛ))
・
鉄筋かごの補強　※4.5.4(1)(ｲ)(c)による　・

鉄筋の最小かぶり厚さ　・図示による　(　　)　・

組み立てた鉄筋の節ごとの継手
・重ね継手
重ね継手の長さ　・図示による　(　　)　・
・

主筋の基礎底盤への定着長さ　・図示による　(　　)　・

ｾﾒﾝﾄの種類　(4.5.4)(6.3.1)
・高炉ｾﾒﾝﾄB種　G　・

ｺﾝｸﾘｰﾄの種別　・A種　・B種　(4.5.4)(表4.5.1)
・評定等の評価内容による

ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度(Fc)　(　　)　N/mm2　(4.5.4～6)

ｽﾗﾝﾌﾟ　※18cm　・21cm

構造体強度補正値(S)　・3N/mm2　(4.5.4)
・評定等の評価内容による
・

掘削工法　(4.5.1)(4.5.5、6)
・ｱｰｽﾄﾞﾘﾙ工法
安定液　・使用する　・使用しない
・ﾘﾊﾞｰｽ工法
・ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ工法
孔内の水張り　・行う　・行わない

併用する工法
・場所打ち鋼管ｺﾝｸﾘｰﾄ杭工法　図示による　(　　)
鋼管巻き材料　・SKK400　・SKK490
・拡底杭工法　図示による　(　　)
安定液　・使用する　・使用しない
・

試験杭　(4.2.2)(4.5.5、6)
試験杭の施工　※本杭の施工に先立ち行う
・

試験杭の位置、本数　※最初の一本　・図示による　(　　)

孔壁測定　(4.5.5、6)
・行う　測定方法、測定箇所
・図示による　(　　)
・行わない

杭の支持層への根入れ長さ
・図示による　・

杭の精度　水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下
・評定等の評価内容による
杭の傾斜　・1/100以内
・評定等の評価内容による

⑥ 地盤改良(ｾﾒﾝﾄ系固化材を用いた工法による改良)

工法
・浅層混合処理工法
適用範囲、仕様及び計測、試験　・図示による　(　　)
長期設計支持力　・(　　)kN/m2　・

(・)深層混合処理工法
適用範囲、仕様及び計測、試験　(・)図示による　(　　)
長期設計支持力　・(　250　)kN/m2　・

7 置換ｺﾝｸﾘｰﾄ地業(ﾗｯﾌﾟﾙｺﾝｸﾘｰﾄ地業)

形状、支持地盤、仕様
・図示による　(　　)　・

長期設計支持力
・(　　)kN/m2　・

ｾﾒﾝﾄの種類　(6.3.1)
・高炉ｾﾒﾝﾄB種　G　・

ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度　(　　)kN/m2

構造体強度補正値(S)　(　　)kN/m2

8 液状化対策

工法　・(　　)
仕様、範囲、計測、試験等
・図示による　(　　)　・

⑨ 砂利地業

材料　(4.6.2)
※再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ　G　・切込砂利及び切込砕石

厚さ及び使用範囲　(4.6.3)

厚さ	使用範囲
※60	基礎ｽﾗﾌﾞ下、基礎梁下、土間ｺﾝｸﾘｰﾄ下、土に接するｽﾗﾌﾞ下
・100	耐圧板

⑩ 捨ｺﾝｸﾘｰﾄ地業

ｺﾝｸﾘｰﾄの仕様　(4.6.4)(6.14.1～3)
※無筋ｺﾝｸﾘｰﾄによる(6.14.1、6.14.2、6.14.3)
・

ｾﾒﾝﾄの種類　(6.3.1)
※高炉ｾﾒﾝﾄB種　G　・

厚さ及び使用範囲

厚さ	使用範囲
※50	基礎ｽﾗﾌﾞ下、基礎梁下、土に接するｽﾗﾌﾞ下
・	

⑪ 床下防湿層

施工範囲　(4.6.2、5)
(・)建物内の土間ｽﾗﾌﾞ及び土間ｺﾝｸﾘｰﾄ下(ピット下を除く)
・

材料　(・)ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ厚さ0.15mm以上
・

防湿層の位置　・図示による　(　　)　・

設計変更年月日	
1回　年　月　日	
2回　年　月　日	
3回　年　月　日	

江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版：－ A3版：－
図面名	特記仕様書（建築構造）その１	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合
１級建築士登録　第　　号

図面番号 S/01

5 鉄筋工事

① 鉄筋の種類

鉄筋の種類 (5.2.1)(表5.2.1)

種類の記号	呼び名（mm）	備考
⊙SD295	・D16以下	
⊙SD345	・D19以上	
・		

② 溶接金網

形状等 (5.2.2)

種類　種類の記号　網目の形状、寸法、鉄線の径（mm）　使用部位

⊙溶接金網

・鉄筋格子

③ 鉄筋の継手

加工 (5.3.2)

90°未満の折曲げ内法直径　・

継手方法等 (5.5.2～3)

部位	継手方法	呼び名（mm）
柱、梁の主筋	※ｶﾞｽ圧接　・機械式継手　・溶接継手 ・	
耐力壁の鉄筋	※ 重ね継手	
その他の鉄筋 （　　）	※ 重ね継手	

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4)

⊙図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

・図示による　（　　）

継手位置図

⊙図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

・図示による　（　　）

柱及び梁主筋の継手の長さ

・図示による　（　　）　・

④ 鉄筋の定着の方法及び長さ

鉄筋の定着方法

⊙図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

・図示による　（　　）

鉄筋の定着長さ (5.3.4)（表5.3.4～5)

⊙図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

・図示による　（　　）

機械式定着工法

・適用する

適用箇所　・図示による　（　　）　・

種類　・摩擦圧接接合　・螺合ｸﾞﾗｳﾄ固定

・嵌合ｸﾞﾗｳﾄ固定

工法　・第三者機関の評定等を取得している工法とする

必要定着長さ　・評定等の評価内容による

品質確認　・評定等の評価内容による

検査　・評定等の評価内容による

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網を含む）

最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う) (5.3.5)（表5.3.6)

⊙図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

・図示による　（　　）

柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無

・有り　適用箇所　（　　）

最小かぶり厚さ

・鉄筋径の1.5倍以上

・

⊙無し

軽量ｺﾝｸﾘｰﾄを適用する場合

・無し

・有り　適用箇所　（　　）

・図示による（構造関係共通図（配筋標準図））に加える

厚さ　（　　）mm

・

耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等)

⊙無し

・有り　適用箇所　（　　）

・図示による（構造関係共通図（配筋標準図））に加える

厚さ　（　　）mm

・

鉄筋相互のあき(特殊な鉄筋を除く) (5.3.5)（図5.3.6)

⊙図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

・図示による　（　　）

6 機械式継手

使用箇所 (5.5.2)

・図示による　（　　）　・

性能(H12建告第1463号に適合するもの) (5.5.2)

・A級　・

種類 (5.5.2)

・ねじ式鉄筋継手

充填方式

・無機ｸﾞﾗｳﾄ方式　・有機ｸﾞﾗｳﾄ方式　・

・端部ねじ加工継手

・ﾓﾙﾀﾙ充填継手

・

機械式継手の工法 (5.5.2)

・第三者機関の評定等を取得している工法

・図示による　（　　）

鉄筋相互のあき (5.3.5)

・図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

・（　　）

品質の確認方法 (5.5.2)

・図示による　（　　）　・評定等の評価内容による

検査

・評定等の評価内容による

施工完了後の継手部の試験

・外観試験

試験対象　・全数

試験項目　・評定等の評価内容による　・

試験方法　・評定等の評価内容による　・

・超音波測定試験

試験対象

・抜取り

ﾛｯﾄ　・１組の作業班が１日に行った継手箇所で、最大２００箇所程度とする

・

試験の箇所数　1ﾛｯﾄに対して　（　　）箇所

・全数

試験項目　・挿入長さ

試験方法　・JIS Z 3064（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準）による

不良となった継手の修正方法等 (5.5.2)

・図示による　（　　）　・

7 溶接継手

使用箇所 (5.6.3)

・図示による　（　　）　・

性能(H12建告第1463号に適合するもの) (5.6.3)

・A級　・

溶接継手の工法　（　　） (5.6.3)

鉄筋相互のあき (5.6.3)

・標準仕様書5.3.5(4)による

・評定等の評価内容による

・図示による（構造関係共通図（配筋詳細図

・

施工完了後の継手部の試験

・外観試験

試験対象　・全数

試験項目　・評定等の評価内容による　・

試験方法　・評定等の評価内容による　・

・超音波探傷試験

試験対象

・抜取り

ﾛｯﾄ　・１組の作業班が１日に行った継手箇所で、最大２００箇所程度とする

・

試験の箇所数　1ﾛｯﾄに対して　（　　）箇所

・全数

試験項目　・内部欠陥の検出

試験方法　・JIS Z 3063（鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準）による

品質の確認方法 (5.6.3)

・図示による　（　　）　・

不良となった継手の修正方法等 (5.6.3)

・図示による　（　　）　・

⑧ 各部配筋

各部配筋 (5.3.7)

※ 図示による（構造関係共通図(配筋標準図)）

⊙（　図示　）

⑨ 圧接完了後の試験

外観試験 (5.4.10)

※ 行う　（全数）

抜取試験

※ 超音波探傷試験

・引張試験

試験ﾛｯﾄ　：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。

なお、200箇所を超えるときは200箇所ごとととする

⑩ 帯筋

組立の形の種別

⊙図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

・H形　・（　　）形

・図示による　（　　）

11 最上階柱頭補強

補強方法

・図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

・図示による　（　　）

12 片持ちｽﾗﾌﾞの出隅部の補強配筋（出隅受け部分の補強筋を含む）

配筋方法

・図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

・図示による　（　　）

出隅部分及び出隅受け部の補強筋

・図示による　（　　）

・

13 壁開口部の補強

一般壁

・図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

（　・A形　・B形　）

・図示による　（　　）

耐震壁

・図示による　（　　）

⑭ 梁貫通孔の補強

補強形式

⊙図示による　（　　）

・図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

配筋種別

⊙図示による　（　　）

・図示による（構造関係共通図（配筋標準図））

（　・H形　・　）

梁貫通孔径（部材記号含む）及び配筋種別リスト

・図示による　（　　）

⑮ 基礎梁主筋の継手

⊙図示による（構造関係共通図（配筋標準図）(b)）

（　・全て　・　）

・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）(c)）

（　・全て　・　）

・図示による（構造関係共通図（配筋標準図）(d)）

（　・全て　・　）

・図示による　（　　）

16 機械吊上げ用ﾌｯｸ

種別

・図示による　（　　）

6 コンクリート工事

① ｺﾝｸﾘｰﾄの種類及び強度

普通ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度 (6.2.2)

設計基準強度（N/mm2）	適用箇所
⊙21	捨てコンを除く　上部躯体、基礎躯体
・24	
・27	
・	

構造体強度補正値（S）　※標準仕様書表6.3.2による

・

軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度 (6.2.2)

設計基準強度（N/mm2）	適用箇所
・24	
・	

ｽﾗﾝﾌﾟの位置（cm） (6.2.4)（表6.2.2)

打込み箇所	基礎、基礎梁、土間ｽﾗﾌﾞ	柱、梁、ｽﾗﾌﾞ、壁
所要ｽﾗﾝﾌﾟ	15、18	18

② ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄの種類

類別 (6.2.1)（表6.2.1)

※ Ⅰ類　・Ⅱ類

ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ製造工場の選定 (6.4.1)

※ 全国生ｺﾝｸﾘｰﾄ品質管理監査会議に 適 ﾏｰｸを承認された工場

・図示

③ ｾﾒﾝﾄ

種類 (6.3.1)(表6.3.1)

⊙普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ又は高炉ｾﾒﾝﾄA種、ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種

普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする。

施工箇所　（　　）

・高炉ｾﾒﾝﾄB種　G

施工箇所　（　　）

・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種　G

施工箇所　（　　）

・

④ 骨材

ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 (6.3.1)

※ A　・B

⑤ 混和材料

⊙混和剤 (6.3.1)

混和剤の種類

※ 標準仕様書6.3.1(4)(a)による

・

・混和剤 (6.3.1)

混和剤の種類

※ 標準仕様書6.3.1(4)(b)による

・

⑥ 気乾単位容積質量

普通ｺﾝｸﾘｰﾄ (6.2.3)(6.10.2)

⊙2.3t/m3程度　・

軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ

・1種(1.8～2.1t/m3)　・2種(1.4～1.8t/m3)

7 軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ

種類 (6.10.1、2)(表6.10.1)

・1種　・2種

適用箇所

・図示による　（　　）　・

ｽﾗﾝﾌﾟ　※ 21cm　・

8 ﾏｽｺﾝｸﾘｰﾄ

ｾﾒﾝﾄの種類 (6.13.1～2)

・高炉ｾﾒﾝﾄB種　G

・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ

・中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ

・低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ

・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種　G

・ｼﾘｶｾﾒﾝﾄ

適用箇所

・図示による　（　　）　・

混和材料 (6.13.2)

・混和剤　混和剤の種類

・標準仕様書6.13.2(2)(ｱ)による

・

・混和材　混和材の種類

・標準仕様書6.13.2(2)(ｲ)による

・

ｽﾗﾝﾌﾟ　※ 15cm　・（　　） (6.13.2)

構造体強度補正値（S）　※ 標準仕様書表6.13.1による (6.13.2)

・

設計変更年月日	
1回　年　月　日	
2回　年　月　日	
3回　年　月　日	

江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号

一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美

構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版：－　A3版：－
図面名	特記仕様書（建築構造）その２	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

図面番号 S／02

6 続き

⑨ 無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ

ｺﾝｸﾘｰﾄの種類 (6.14.1)
※ 普通ｺﾝｸﾘｰﾄ
・

適用箇所 (6.14.1)
・ 標準仕様書6.14.1(4)による箇所
・ 標準仕様書6.14.1(4)以外の箇所
⊙図示による ( ) ・

設計基準強度 (6.14.1)
※ 18N/mm2 ・

ｽﾗﾝﾌﾟ
※ 15cm又は18cm ・

10 流動化ｺﾝｸﾘｰﾄ

適用箇所 (6.15.1)
・ 図示による ( ) ・

⑪ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継ぎの位置 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
⊙標準仕様書6.6.4(1)による ・ 図示による ( )

目地寸法
・ 標準仕様書9.7.3による ・ 図示による ( )

間隔、位置、形状
・ 図示による ( ) ・

⑫ ｺﾝｸﾘｰﾄの仕上り

部材の位置及び断面寸法の許容差 (6.2.5)(表6.2.3)
※ 標準仕様書 表6.2.3による
・

合板せき板を用いるｺﾝｸﾘｰﾄの打放し仕上げ (6.2.5)(6.8.2)(表6.2.4)
※ ｺﾝｸﾘｰﾄの打放し仕上げ種別と適用箇所は図示による
・

ｺﾝｸﾘｰﾄの仕上がりの平たんさ

種別	適用箇所
・ a種	
・ b種	
・ c種	

13 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

(6.8.2)
・ 打放し仕上げ(仕上塗材、塗装等の仕上げを行う部分を含む)の打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
・ 20mm ・

・ 打放し仕上げ(仕上塗材、塗装等の仕上げを行う部分を含む)の打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・

・ 外壁ﾀｲﾙ張りで、MCR工法又は目荒らし(高圧水洗)工法を行う場合は外部側に20mmの打増しを行う

⑭ 型枠

せき板の材料 (6.8.2)
⊙合板 G ・

せき板の厚さ
⊙12mm ・

断熱材の兼用 (6.8.3)
・ 行う 適用箇所 ( )
・ 行わない

ｽﾘｰﾌﾞの材種・規格等 (6.8.3)
※ 標仕6.8.2(9)(ｱ)(ｲ)による
・

⑮ ｺﾝｸﾘｰﾄの単位水量測定

実施要領 (6.5.1)
⊙図示による（構造関係共通図(構造関係共通事項)
構-2.1.ｺﾝｸﾘｰﾄの単位水量測定）
・

⑯ 打継止水材

適用箇所
※ ﾋﾞｯﾄ
・

材質
※ 水膨張性ｺﾝｸﾘｰﾄ打継止水材 寸法w20×t10

⑰ 構造体ｺﾝｸﾘｰﾄ

※ 表6.9.2による (6.9.2～5)(表6.9.2)

7 鉄骨工事

① 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力 (7.1.3)
※ 建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める( )ｸﾞﾚｰﾄﾞとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・監督職員の承諾する工場(標仕7.1.1以外の適用範囲に限る。)

② 鉄骨製作工場における施工管理技術者

⊙適用する (7.1.4)
・ 適用しない

③ 鋼材

材質等 (7.2.1)(表7.2.1)

種類の記号	適用箇所	規格	材質、形状及び寸法
BCR295	※ 図示による ( )	※ JISによる ・ 大臣認定による ・	※ 図示による ( )
SN400B	※ 図示による ( )	※ JISによる ・ 大臣認定による ・	※ 図示による ( )
SS400	※ 図示による ( )	※ JISによる ・ 大臣認定による ・	※ 図示による ( )
STKR400	※ 図示による ( )	※ JISによる ・ 大臣認定による ・	※ 図示による ( )

有効細長比(圧縮材に限る)
※ 図示による ・

④ 高力ﾎﾞﾙﾄ

ﾎﾞﾙﾄの区分 (7.2.2)(7.3.2)(7.4.1?9)
※ ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ
・ IS形高力ﾎﾞﾙﾄ
セットの種類 ・ 2種(F10T) ・

高力ﾎﾞﾙﾄの径
※ 図示による ( )

ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄ間隔、ｹﾞｰｼﾞ等 (7.3.2)
⊙図示による(構造関係共通事項 構造関係共通図(鉄骨標準図)
1-1縁端距離及びﾎﾞﾙﾄ間隔)
・

摩擦面の処理
・

すべり係数試験
※ 行わない
・ 行う
試験方法等 ・ 図示による ( )
・

⑤ 普通ﾎﾞﾙﾄ

ﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄの材料 (7.2.3)(7.3.2)(7.3.8)
※ 標準仕様書7.2.3(JIS附属書品)による
・ 標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は、JIS本体規格品(ISO規格)による。(JIS本体規格品による場合は、ﾎﾞﾙﾄの種類を呼び径六角ﾎﾞﾙﾄ又は全ねじ六角ﾎﾞﾙﾄ、強度区分を4.6又は4.8の鋼製とし、ﾅｯﾄの種類を六角ﾅｯﾄ-Cの鋼製とする。なお、呼び径六角ﾎﾞﾙﾄの軸径の最大寸法は、ﾎﾞﾙﾄの径の値以下とする。)

座金
・ 標準仕様書7.2.3(4)による
・

ﾎﾞﾙﾄの径
・ 図示による ( ) ・

ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄ間隔、ｹﾞｰｼﾞ等
・ 図示による(構造関係共通事項 構造関係共通図(鉄骨標準図)
1-1縁端距離及びﾎﾞﾙﾄ間隔)
・

⑥ 溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄ

ｾｯﾄの種類
・ 1種(F8T相当) ・

溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄの径
・ 図示による ( ) ・

溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄのめっき前の孔径
・ 大臣認定を受けた内容による
・

ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄ間隔、ｹﾞｰｼﾞ等
・ 図示による(構造関係共通事項 構造関係共通図(鉄骨標準図)
1-1縁端距離及びﾎﾞﾙﾄ間隔による)
・

摩擦面の処理 (7.12.5)
・ ﾌﾞﾗｽﾄ処理(表面粗度50μmRz以上)又はリン酸塩処理
ﾘﾝ酸塩処理とした場合はすべり係数値の確認を行う
・ すべり係数試験
試験方法
・「高力ﾎﾞﾙﾄ接合設計施工ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ(日本建築学会)」

⑦ ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ

適用 (7.2.4)(表7.2.3)(7.10.3)
⊙構造用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
・ ABR400 ｾｯﾄの種類 (JIS B 1220)
・ ABR490 ｾｯﾄの種類 (JIS B 1220)
・ SNR400B ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの公差域ｸﾗｽ及び仕上げの程度
・ 標準仕様書 表7.2.3による ・
形状、寸法 ⊙図示による ( ) ・

・ 建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ
材質
・ SS400 ・
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
仕上げの程度
・ 標準仕様書 表7.2.3による
・
形状、寸法
・ 図示による ( ) ・

ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄ間隔、ｹﾞ-ｼﾞ等 (7.3.2)
・ 図示による ( ) ・

⑧ 溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
※ 標準仕様書7.2.5(1)(2)による。
・ 標準仕様書7.2.5(1)(2)以外の溶接材料
材料及び使用箇所 ・ 図示による ( )

⑨ ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ

種類
建築用ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ胴
⊙割枠式 ・
建築用ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙﾎﾞﾙﾄ
⊙羽子板ﾎﾞﾙﾄ ・
ねじの呼び
⊙図示による ( )
・

⑩ 床構造用ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ

材質、形状及び寸法 (6.8.2)(7.2.7)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・ ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ単独の構法	２階床	QL99-50-12	
・ ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄとｺﾝｸﾘｰﾄとの合成ｽﾗﾌﾞとする構法			

床型枠用を使用する場合において受注者は、施工に先立ち施工の安全性を確認すること

開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む。)
・ 図示による ( )
・

ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄを鉄骨部材に溶接する場合の工法(合成スラブ除く) (7.7.8)
・ ｱｰｸｽﾎﾟｯﾄ溶接又は隅肉溶接
・

ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄを鉄骨部材に溶接する場合の工法(合成スラブ)
⊙焼抜き栓溶接 ・ ｽﾀｯﾄﾞ ・

耐火認定
・ 有り
耐火時間 ・ 図示による ( )
⊙無し

11 ｽﾀｯﾄﾞ

材質、形状及び寸法 (7.2.8)
※ 頭付きｽﾀｯﾄﾞ JIS B 1198
・

呼び名等

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・ 16		
・ 19		
・ 22		

⑫ 柱底均し モルタル

ﾓﾙﾀﾙの種類 (7.2.9)
・ 標準仕様書7.2.9(1)による
※ 無収縮ﾓﾙﾀﾙ
無収縮モルタルの材料、調合等
材料、調合等 ※ 準仕様書7.2.9(2)による
・
品質及び試験方法 ※ 標準仕様書 表7.2.5による
・

⑬ 工作図

監督職員による現寸検査 (7.3.2)
⊙行わない
・ 行う

増築工事等を含め、既存建築物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上作成を行う

⑭ 鉄骨の製作精度

※ 標準仕様書7.3.3による (7.3.3)

溶接ずれ及び食い違い
・ 溶接部はH12建告示1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること
・ 溶接ずれ及び食い違いはH12建告示1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り。
図示 ( )
補強方法 ・「突き合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査ﾏﾆｭｱﾙ(建築研究所監修)」による。
・

15 鉄骨の仮組

・ 行わない (7.3.10)
・ 行う
仮組を行う範囲
・ 図示による ( ) ・

16 溶接技能者の技量付加試験

試験の要領及び付加試験を要する溶接箇所 (7.6.3)
・ 図示による ( )
・

⑰ 溶接接合

開先の形状 (7.6.4)
⊙図示による ( )
・ 図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-2)
・

ｽｶﾗｯﾌﾟの形状 (7.6.7)
⊙図示による ( )
・ 図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4)
・

ｴﾝﾄﾞﾀｸﾞの切除する部分
・ 全て
⊙見え掛り部となる部分
・ 切除する部分なし
・

切断する範囲
⊙鋼製ｴﾝﾄﾞﾀｸﾞ、裏あて金等は、梁ﾌﾗﾝｼﾞの端から直線状に切断する。
その際の残し寸法は5mm以下とする。
なお、切断面が交差する場合は交差部をﾌｰﾙ状に加工する。
・

切断面の仕上げ
⊙標準仕様書7.6.7(1)(ｶ)(b)?による
・

溶接部の余盛り高さ (7.6.7)
⊙JASS6付則6「鉄骨精度検査基準」付表3[溶接]による
・

低応力高ｻｲｸﾙ疲労を受ける部位
・ 図示による
・

	設計変更年月日
	1回 年 月 日
江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号	2回 年 月 日
一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美	3回 年 月 日
構造設計一級建築士 第 4894 号 江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版： ― A3版： ―	佐賀県競馬組合
図面名	特記仕様書（建築構造）その３	設計	年 月 日	１級建築士登録 第 号

図面番号 S/03

7 続き

⑱ 現場溶接の有無

⊙無し
・有り
適用箇所　・図示による　（　　）
・

⑲ 入熱、ﾊﾟｽ間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件　(7.6.7)(7.6.10)
・図示による　（　　）
⊙図示による(構造関係共通図(鉄骨標準図)1-4)
・

適用箇所
・図示による　（　　）
⊙柱、梁、ﾌﾞﾚｰｽのﾌﾗﾝｼﾞ端部の完全溶け込み溶接部

⑳ 溶接部の試験

浸透探傷試験又は磁粉探傷試験　(7.6.12)(表7.6.2)(表7.6.3)
・行わない
※行う
・工場溶接の場合
・全数検査
⊙抜取検査

AOQL(%)	※4.0	・2.5	
節	・全て	・	・
検査基準	※第6水準	・	・

・工事現場溶接の場合
⊙全数検査
・計数連続生産型抜取検査
AOQL(%)　※4.0　・2.5

突き合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査
「突き合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・ﾏﾆｭｱﾙ
(建築研究所監修)」による
・抜き取り検査1
※抜き取り検査2

JASS 6　付則6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
・JASS 6　10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。
ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

㉑ 錆止め塗装

塗料の種別
⊙鉄鋼面の錆止め塗料
屋外　⊙標準仕様書18.3.2 表18.3.1　（　　）種
・
屋内　⊙標準仕様書18.3.2 表18.3.1　（　　）種
・

・亜鉛めっき鉄面の錆止め塗料
・標準仕様書18.3.2 表18.3.2　（　　）種
・

・鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造の鋼製ｽﾘｰﾌﾞの内面(鉄骨に溶接されたものに限る)
・標準仕様書18.3.2 表18.3.1　（　※A種　・　）
・

・耐火被覆材の接着する面への塗装
・行わない
・行う
適用箇所
・図示による　（　　）　・
塗料の種別
・標準仕様書18.3.2 表18.3.1　（　　）種
・標準仕様書18.3.2 表18.3.2　（　　）種

22 耐火被覆

種別　(7.9.2?7.9.7)

種別	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ ・半乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ ・湿式ﾛｯｸｳｰﾙ ・ ・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸ｶﾙｼｳﾑ板 ・		
・耐火材巻付け	・高断熱ﾛｯｸｳｰﾙ ・		
・ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り	–		
・耐火塗料			

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性能	適用箇所(部位・部分)
・30分耐火	
・1時間耐火	
・2時間耐火	
・3時間耐火	

㉓ 建方精度

※(社)日本建築学会「JASS6鉄骨工事」付則6[鉄骨精度基準]　(7.10.2)
付表[工事現場]による

㉔ ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの設置等

建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法　(7.10.3)(表7.10.1)
種別　・A種　・B種

構造用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及び構造用ｱﾝｶｰﾌﾚｰﾑの形状及び寸法
種別　⊙図示による　（　　）　・

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別　(7.10.3)(表7.10.2)
※標準仕様書 表7.10.2
・A種　モルタル厚さ　（　　）
・B種　モルタル厚さ　（　　）

25 軽量形鋼構造

ボルトの接合方法　(7.11.2)
・普通ボルト接合

もや、胴縁類の取付け用ﾎﾞﾙﾄを普通ﾎﾞﾙﾄ接合とする場合は、
二重ﾅｯﾄとする

26 溶融亜鉛めっき(構造耐力上主要な部分)

種別等　(7.12.4)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材料	適用部位
A種	最小板厚6.0mm以上の形鋼、鋼板	
B種	最小板厚3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
C種	普通ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄ類、ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ類 最小板厚2.3mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

素地ごしらえは、JIS H 8641による

適用箇所
※図示による　（　　）　・

27 梁貫通孔の補強

補強方法
・補強ﾄﾗｽ法
・補強ﾌﾟﾚｰﾄ法

適用箇所
※図示による　（　　）　・

	設計変更年月日
	1回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	2回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	3回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版：－ A3版：－
図面名	特記仕様書（建築構造）その４	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合
1級建築士登録　第　　号

図面番号 S/04

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

１．一般事項

（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

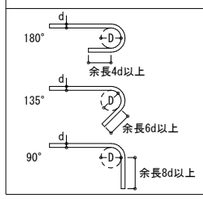
d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径）　　D･･･部材の成、又は鉄筋内法直径

@･･･間隔　　r･･･半径　　℄･･･中心線　　ℓo･･･部分間の内法距離　　ｈｏ･･･部材間の内法高さ

ＳＴＰ･･･あばら筋　　ＨＯＯＰ･･･帯筋　　Ｓ．ＨＯＯＰ･･･補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
	90°	SD490	D25以下	
			D29～D41	6d以上

［注］（１）dは呼び名に用いた数値とする。

（２）スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。

（３）片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。

（４）スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。

（５）折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

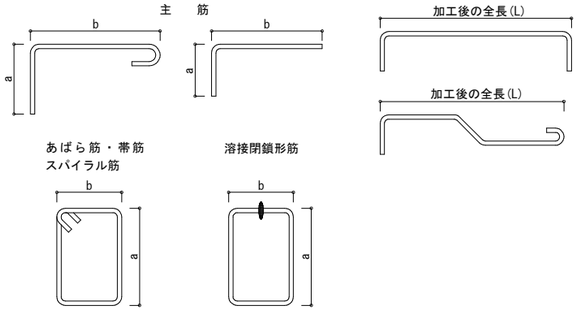
（６）SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差

(mm)

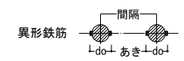
項目			符号	許容差
各加工寸法(1)	主筋	D25以下	a，b	± 15
		D29以上D41以下	a，b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a，b	± 5
加工後の全長			L	± 20

［注］（１）各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋

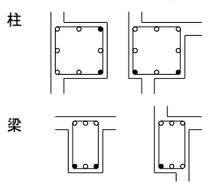
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

c. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分
および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)

d. 単純梁の下端筋

e. その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



（５）定着長さ　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

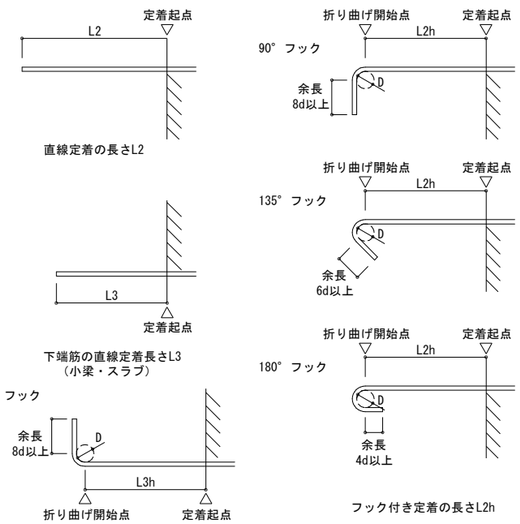
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	定着の長さ 一般 L2（フックなし）	一般 L2h（フックあり）	一般 La(3)	一般 Lb	小梁下端筋 L3（フックなし）	小梁下端筋 L3h（フックあり）	スラブ下端筋 L3（フックなし）
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD345	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
SD390	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
	48～60	35d	25d	20d	—			

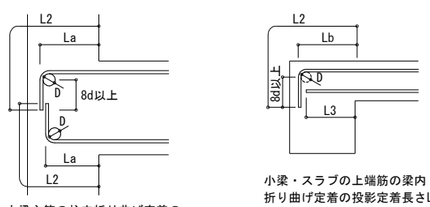
［注］（１）フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。

（２）フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。

（３）梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。

（４）耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着L2とする。





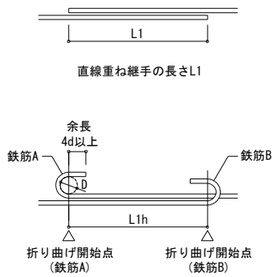
大梁主筋の柱内折り曲げ定着の投影定着長さLa

小梁・スラブの上端筋の梁内折り曲げ定着の投影定着長さLb

（６）継手

■重ね継手　（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	重ね継手長さ L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
SD490	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d



［注］（１）表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。

（２）直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。

（３）フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意点

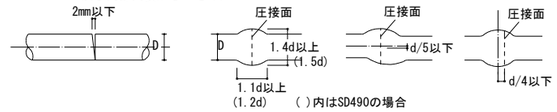
1．継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。

2．D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。

3．鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。

4．ガス圧接接手の形状、および継手の配置は下図による。

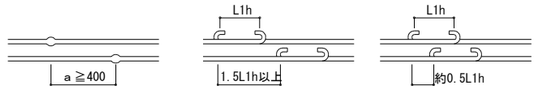
・ガス圧接形状(平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの)



（ ）内はSD490の場合

・圧接継手

・重ね継手（下図のいずれかとする）フックなしの場合はL1hはL1



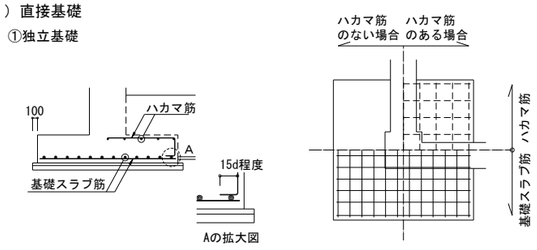
5．溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。

6．非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

３．杭・基礎　（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

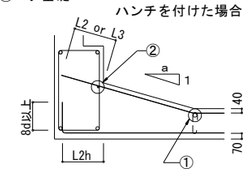
（１）直接基礎

①独立基礎



②ベタ基礎

ハンチを付けた場合（ａ≧3）



1．耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上筋と下筋を読みかえる

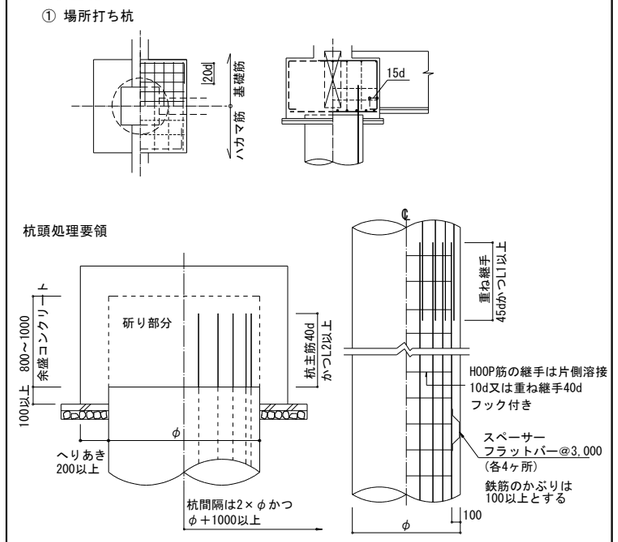
2．① の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする

3．② の鉄筋はD13以上

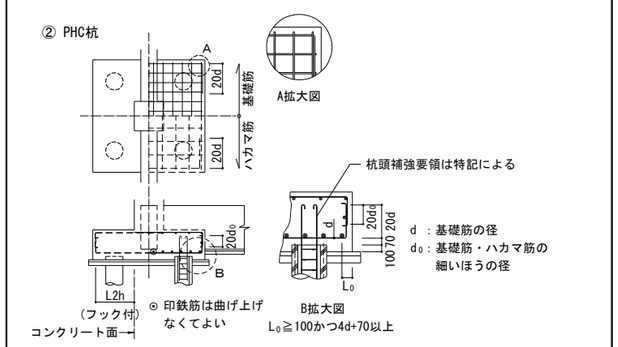
4．埋戻し土のある場合は40を70とする

（２）杭基礎

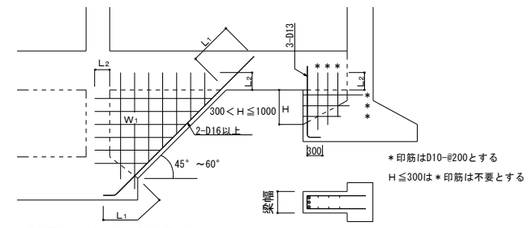
① 場所打ち杭



② PHC杭



（３）基礎接合部の補強



W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、
配筋は同厚の壁リストにならう

	設計変更年月日
	1回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	2回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	3回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	佐賀県競馬組合
図面名	配筋標準図１	設計　年　月　日	１級建築士登録　第　号

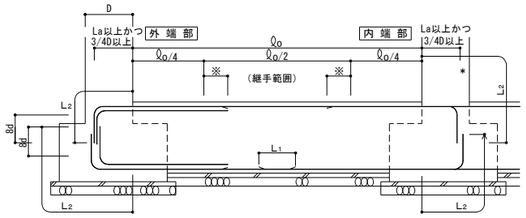
図面番号 S 05

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（２）

４．地中梁

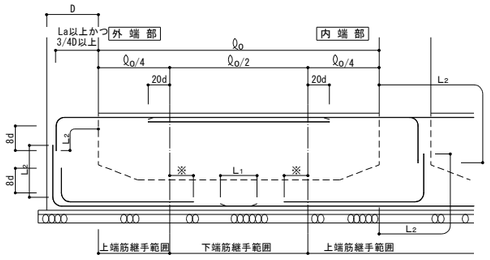
（１）独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）

（長期荷重が支配的な場合の継手は6.(2)大梁継手位置とする。）



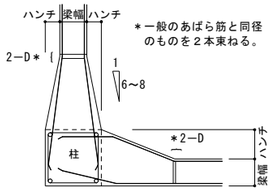
※主筋のカットオフ長さはℓ_o/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（２）布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）

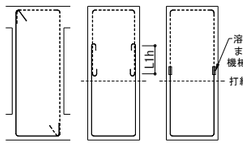


※主筋のカットオフ長さはℓ_o/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の項の表6-1による。

（３）水平ハンチの場合のあばら筋加工要領　（４）せいの高い梁のはばら筋加工要領図



＊一般のあばら筋と同径のものを２本束ねる。

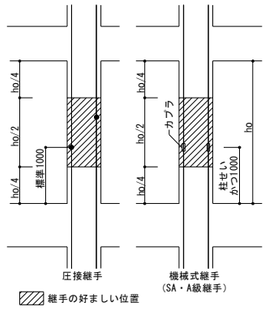


［注］（イ）で、└ を使用してよいが、└ は使用してはいけない。

（ロ）では、あばら筋の継手は180°フック付きとする。

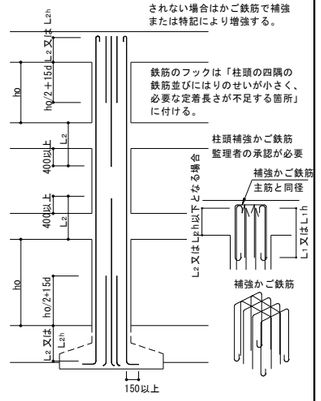
５．柱

（１）柱主筋の継手位置



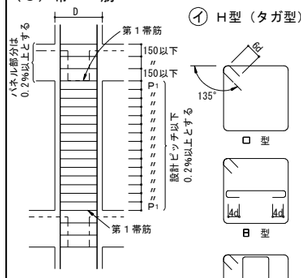
（２）柱主筋の定着

柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強または特記により増強する。

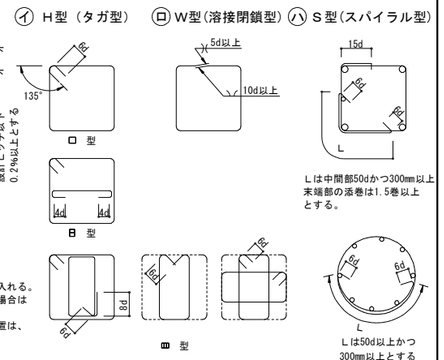


鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びにはりのせいが小さく、必要な定着長さが不足する箇所」に付ける。

（３）帯　筋



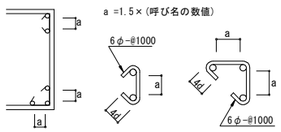
注 1．第１帯筋は、梁づらに入れる。
注 2．W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注 3．フックおよび継手の位置は、交互とする。



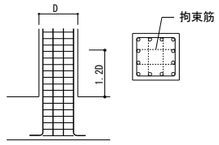
Lは中間部50dかつ300mm以上
末端部の添巻は1.5巻以上とする。

Lは50d以上かつ300mm以上とする

（４）寄せ筋の保持



（５）柱脚部の補強



1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する。

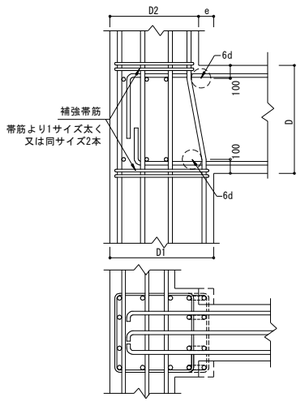
拘束筋は以下による。

□帯筋と同径・同ピッチ、X・Y 2巻づつ

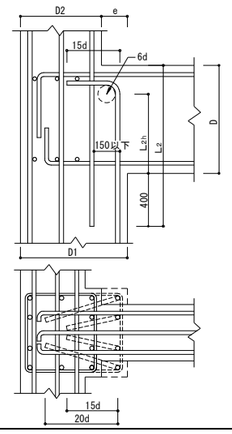
□図示による

（６）絞り

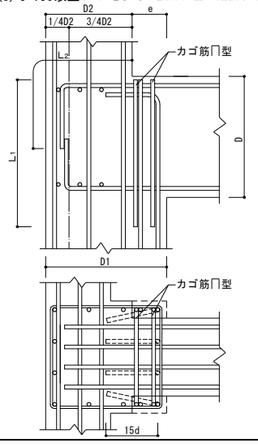
(a) e≦D/6かつ150



(b) 150≧e>D/6



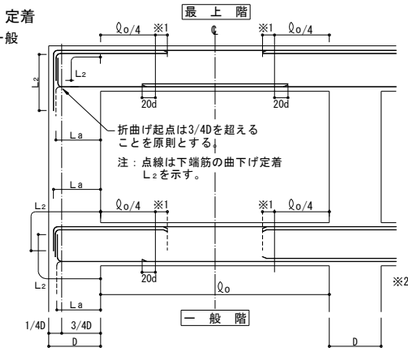
(c) e=150以上(下図を参考に設計図書に追記する。)



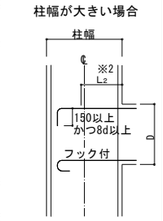
６．大梁

（１）定着

ⓐ一般



柱幅が大きい場合



※2 柱幅が大きくて、直線部だけでL2がとれる場合でも柱中心線を超えて中間折曲げテール長150以上又は180°フック付とする。

※1 主筋のカットオフ長さはℓ_o/4 + 15dを基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による。

ⓑハンチがある場合

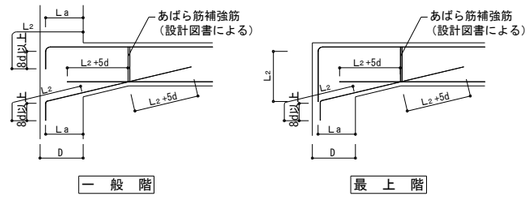
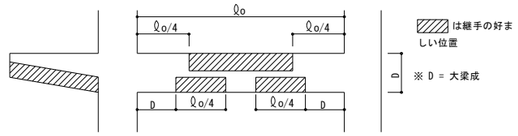


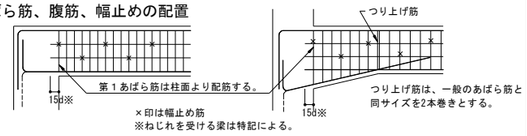
表6-1　特別なカットオフ長さを要する部材　(mm)

部材名	ℓ_o/4 に加える長さ	部材名	ℓ_o/4 に加える長さ

（２）大梁主筋の継手　（SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。）

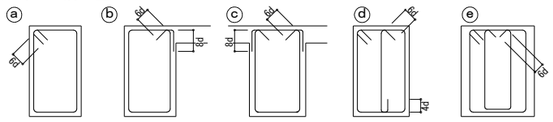


（３）あばら筋、腹筋、幅止めの配置



×印は幅止め筋
※ねじれを受ける梁は特記による。

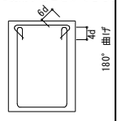
（４）あばら筋の型　（注、床版がない場合は135°以上のフックとする。）



（イ）原則としてⓐのフック先曲とする。片側床版付（L型）梁でⓑ、両側床版付（T型）梁でⓒ又はⓑとすることができる。

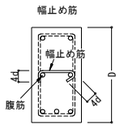
（ロ）フックの位置はⓐにあっては交互、ⓑにあってはスラブ付側とする。

ⓕ梁成の大きい場合やSRC造のあばら筋の納まりに使用することができる。



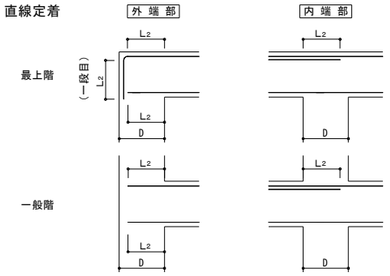
（５）幅止め筋の本数、加工

腹筋	D＜600 不要	
	600≦D＜900	2−D10 1段
	900≦D＜1200	4−D10 2段
	1200≦D	D10@300以内
	1200以上	D13@300以内
幅止め筋	D10@1000以内で割り付ける	

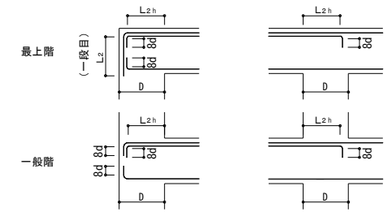


（６）梁主筋の定着

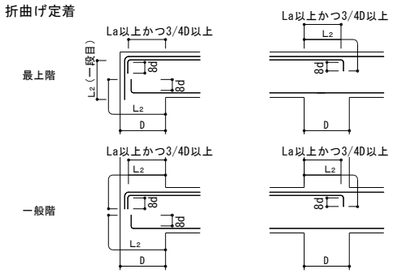
① 直線定着



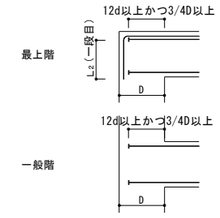
② 90° フック付き直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



※最上階 L型接合部における上端筋の一段目の定着にプレート定着を用いてはならない。

※プレート定着には性能証明等を取得した材料を用い、その工法の適用範囲と仕様を確認する。

	設計変更年月日
	１回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	２回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	３回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

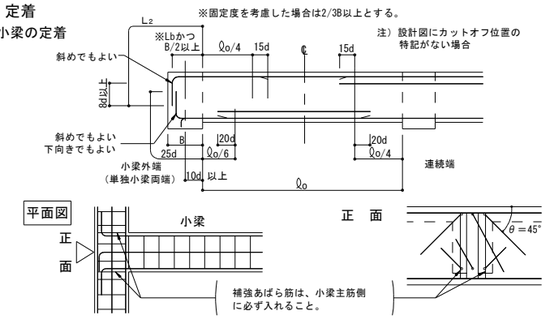
工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	佐賀県競馬組合	図面番号 S/06
図面名	配筋標準図２	設計　年　月　日	１級建築士登録　第　号	

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（３）

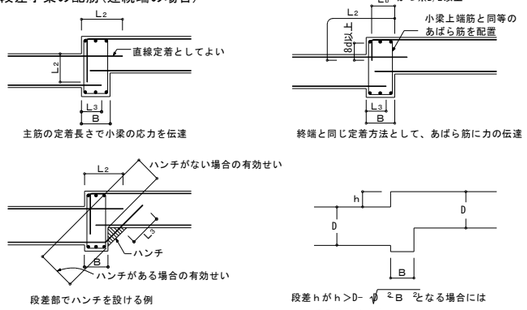
７．小梁、片持梁

（１）定着

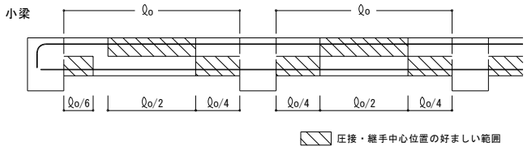
ⓐ 小梁の定着



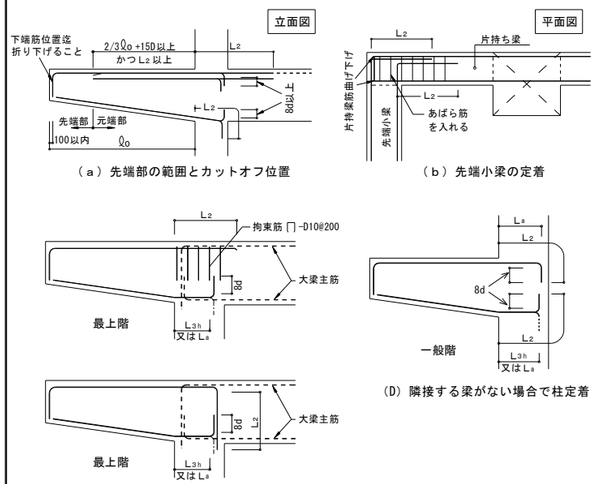
ⓑ 段差小梁の配筋（連続端の場合）



ⓒ 小梁筋の継手位置



ⓓ 片持梁の定着　注）上端筋の柱内への定着は3/4D以上とすること。



（ａ）先端部の範囲とカットオフ位置

（ｂ）先端小梁の定着

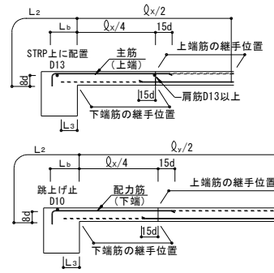
（Ｄ）隣接する梁がない場合で柱定着

（ｃ）隣接する梁がある場合で柱定着
又は、隣接する梁へ定着する場合

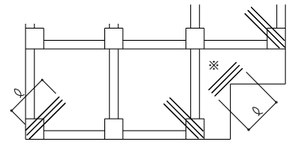
８．床　　版

（１）定着および継手

一般床スラブ（四辺固定）



（２）屋根スラブの補強

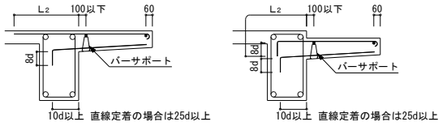


ⓐ 補強筋は各3-D13又はスラブ主筋の同一径で ℓ=1500とし、上端筋の上に配筋する。配筋の際かぶり厚に注意すること。

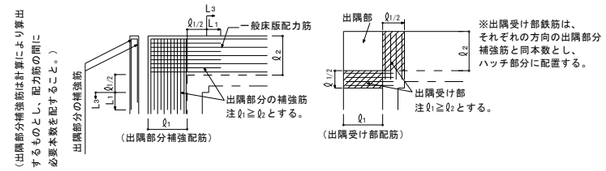
ⓑ ※の個所（入隅）は各階補強する。

（３）片持床スラブ定着及び出隅部補強

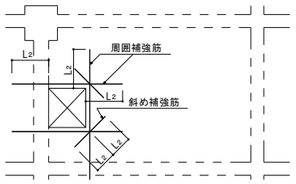
ⓐ 片持床スラブ定着



ⓑ 片持スラブ出隅部補強　注）L₁は上端筋、L₃は下端筋の定着長



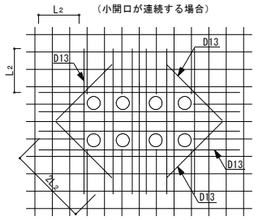
（４）床版開口部の補強（開口の径600以下程度の場合）



床版厚さD	周　囲	斜　め
D ≦ 150	上・下各 2-D13	1-D13
150 ＜ D ≦ 300	上・下各 2-D13	1-D13
300 ＜ D ≦ 500	上・下各 2-D19	1-D16

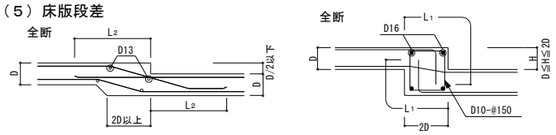
周囲、斜め補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同径、同本数鉄筋を開口横に配筋する。

（小開口が連続する場合）



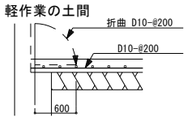
注）設備の小開口が連続してあく場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。
孔と孔のへりあき100以上

（５）床版段差

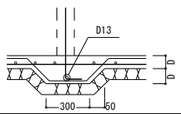


（６）土間コンクリート

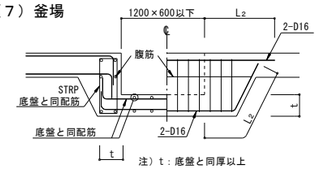
ⓐ 軽作業の土間



ⓑ 間仕切壁との交叉部



（７）釜場

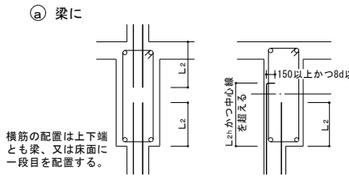


注）t：底盤と同厚以上

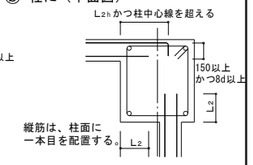
９．壁

（１）定着

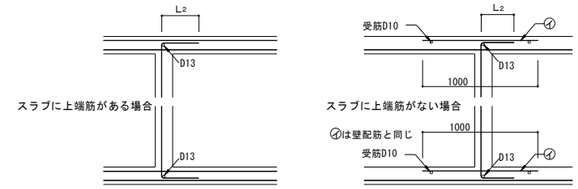
ⓐ 梁に



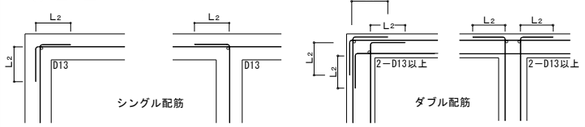
ⓑ 柱に（平面図）



ⓒ 床に（非耐力壁とスラブが取り合う場合）

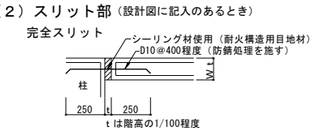


ⓓ 壁と壁（平面図）

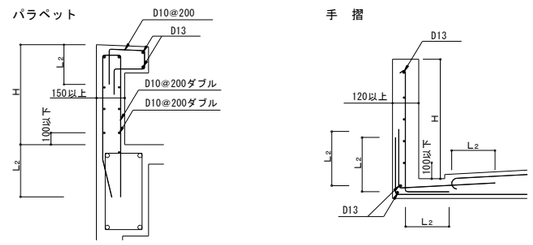


（２）スリット部（設計図に記入のあるとき）

完全スリット



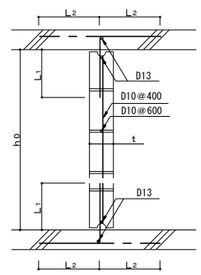
（３）手摺、パラペット



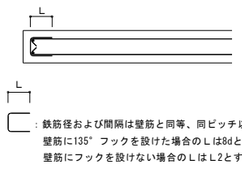
（但し、Ｈ＞８００以上の場合、設計図による）

（４）コンクリートブロック帳壁

一般の場合



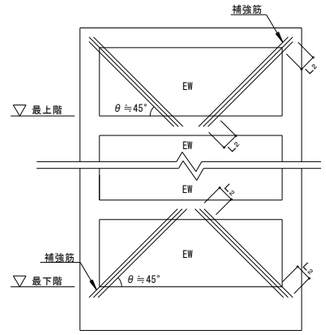
（５）耐震壁端部の納まり



：鉄筋径および間隔は壁筋と同等、同ピッチ以上とし、壁筋に135°フックを設けた場合のＬは8dとする。
壁筋にフックを設けない場合のＬはＬ2とする。

注）ｈo≦25ｔかつ3500以下とする。但し直交方向25ｔ以内に壁、又は柱がある場合は除く
注）ｈはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦ｈ≦400
注）継手部は必ずモルタルを充填すること。

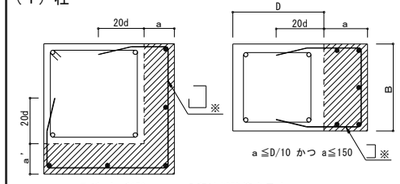
（６）連層耐震壁乾燥収縮の補強筋



注）補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
EW180～200の場合4-D13@100シングル
EW250以上の場合4-D16@100ダブルとする。

10．柱、梁増打コンクリート補強（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

（１）柱



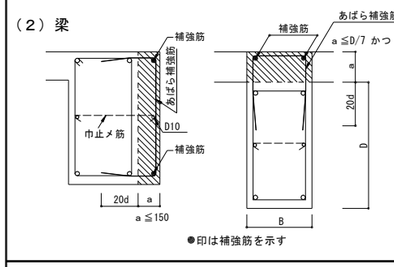
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- ハッチ部分の面積 A cm²

補強タテ筋

A＜500	500≦A＜1000
3-D16	4-D16

- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。
- ※柱HOOPと同径、同ピッチとする。

（２）梁

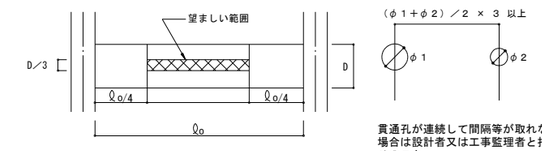


- 補強筋は、梁主筋の１段落し径（D16以上）とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合せる。
- B≧400の場合は補強筋を３本とする。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
- 150以上の増打ちは図示による。
- 増打ち50以下は補強なし。

11．梁貫通孔補強　（開口補強筋については計算により確認すること）

（１）設置可能範囲

梁端部（スパンℓ／１０以内かつ２D以内）は原則として避ける



貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

（２）既製品（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

口製品名

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

設計変更年月日			
１回	年	月	日
２回	年	月	日
３回	年	月	日

江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	佐賀県競馬組合	図面番号	S
図面名	配筋標準図３	設計 年 月 日	１級建築士登録 第 号		07

鉄 骨 構 造 標 準 図（1）

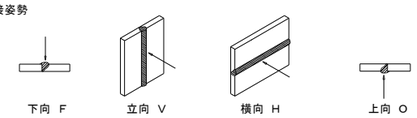
１．一般事項

（１）材料及び検査
(a) 新構造設計特記仕様その1による。
(b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。
但し、ベースプレートの厚さは除く。
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。

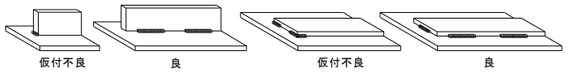
（２）工作一般
(a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る。
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
(a) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。

（３）高力ボルト接合
(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
(b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径２倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。
(b) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

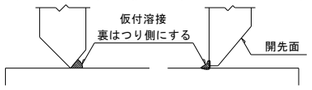
（４）溶接接合
(a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
(b) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適応するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
(c) 溶接機器
（イ）交流アーク溶接機 300A～500A　（ニ）炭酸ガスアーク半自動溶接機
（ロ）アークエアーガウジング期(直流)　（ホ）溶接電流を測定する電流計
（ハ）セルフシールドアーク溶接機　（ヘ）溶接棒乾燥器
(d) 溶接方法
被覆アーク溶接(アーク手溶接、ＭＣ、ＭＰ)　ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、ＧＣ、ＧＰ)
セルフシールドアーク溶接（半自動溶接、ＮＧＣ）　アークエアーガウジング（ＡＡＧ）
(e) 溶接姿勢



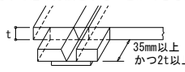
(f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
（イ）仮付位置
組立溶接は溶接の始,終端,隅角部など強度上,工作上,問題となり易い箇所は避ける。



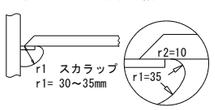
（ロ）完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。



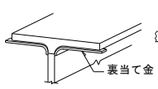
(g) 溶接施工
（イ）エンドタブ
・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
・エンドタブの材質は,母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監理者の承認を受けて他の方法とすることができる。
・エンドタブの長さは、ＭＣ:35mm以上
ＮＧＣ,ＧＣ:40mm以上とし特記のない場合は、
溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、
グラインダー仕上げとする。

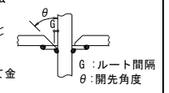


・ブレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る。
（ロ）裏当て金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。
但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる。
（ハ）スカラップ半径はr1=30～35mmとr2=10mmのダブルアールとする。
但し梁成が D=150mm未満の場合のスカラップはr1=20mmとする。



（ニ）ノンスカラップ工法



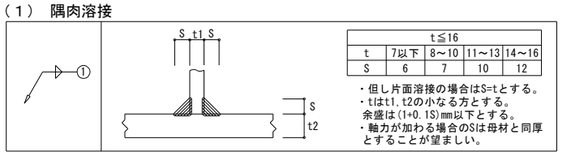


（ホ）裏はつり
規準図の溶接においてＡＡＧと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。
（ヘ）現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又,開先部を傷めない様に養生を行う。

（５）塗 装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

２．溶接規準図 （注）f:余盛　G:ルート間隔　R:フェーズ　S:脚長 （単位mm）

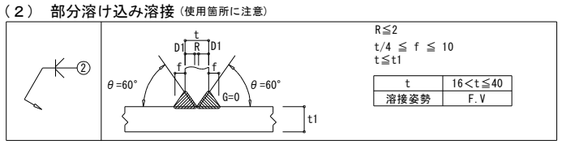
（１） 隅肉溶接



	t≦16			
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS=tとする。
・tはt1,t2の小なる方とする。
余盛は(1+0.1S)mm以下とする。
・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

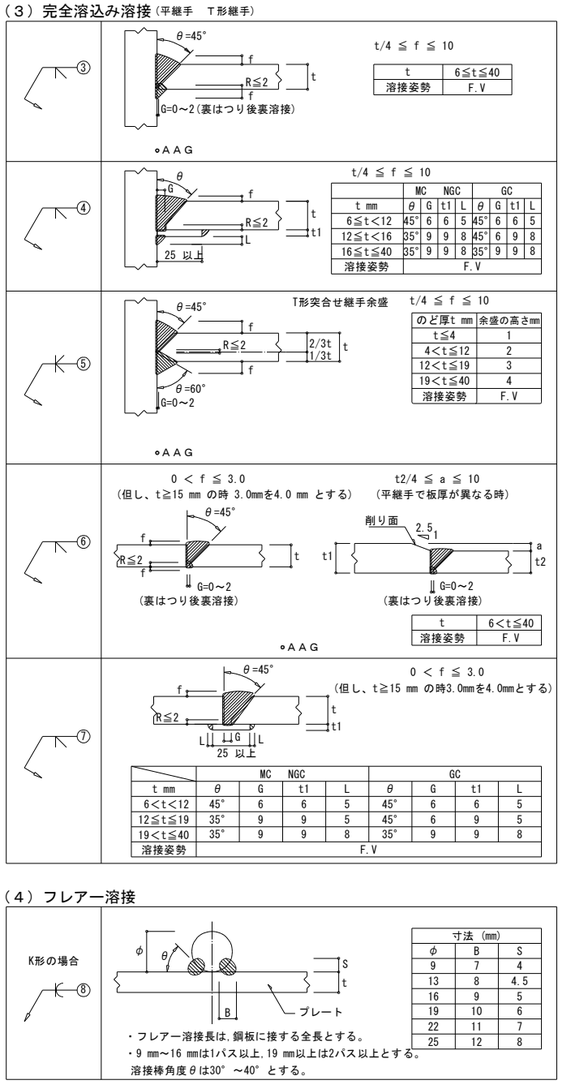
（２） 部分溶け込み溶接（使用箇所に注意）



R≦2
t/4 ≦ f ≦ 10
t≦t1

t	16＜t≦40
溶接姿勢	F.V

（３）完全溶込み溶接（平継手　Ｔ形継手）



t/4 ≦ f ≦ 10

t	6≦t≦40
溶接姿勢	F.V

t/4 ≦ f ≦ 10

	MC			NGC			GC		
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L	
6≦t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5	
12≦t＜16	35°	9	9	8	45°	6	9	8	
16≦t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8	
溶接姿勢	F.V								

T形突合せ継手余盛　t/4 ≦ f ≦ 10

のど厚t mm	余盛の高さmm
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
19＜t≦40	4
溶接姿勢	F.V

∘ＡＡＧ

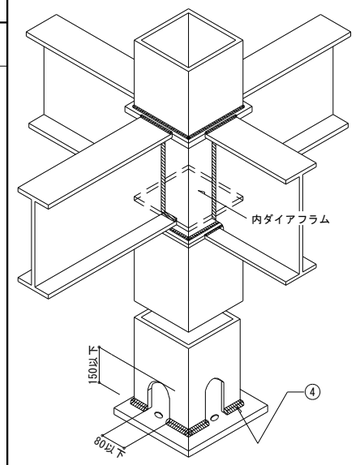
	MC			NGC			GC		
t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L	
6＜t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5	
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5	
19＜t≦40	35°	9	9	8	35°	9	9	8	
溶接姿勢	F.V								

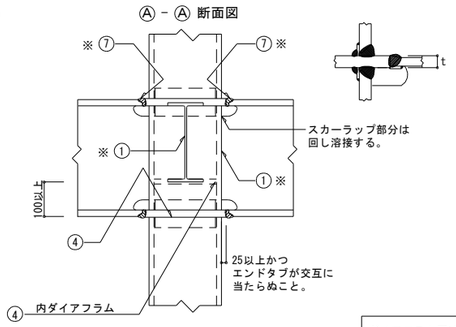
（４）フレアー溶接

寸法 (mm)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・フレアー溶接長は,鋼板に接する全長とする。
・9 mm～16 mmは1パス以上,19 mm以上は2パス以上とする。
溶接棒角度θは30°～40°とする。

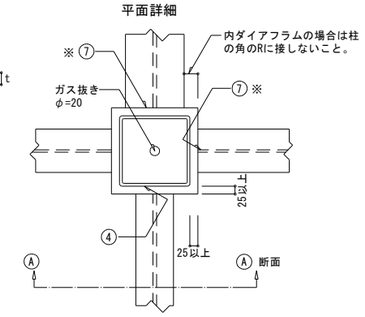
●BOX型（通しダイアフラムの場合）





⑦ ※ はりフランジは、通しダイアフラムの厚み(t)の内部で溶接すること。

① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②・又は③～⑤とする。



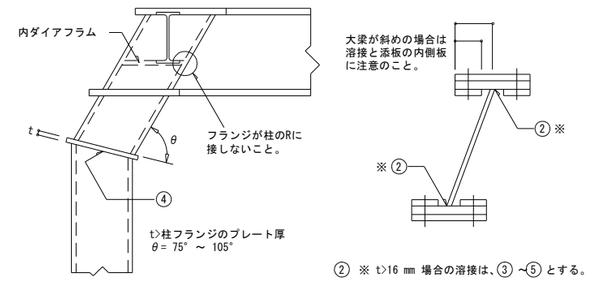
ダイアフラム厚は、接合する梁の最大厚の２サイズアップ以上とする。
＜ 柱材料:BCR295,BCP325を使用する場合 ＞
ダイアフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C　SN490B
柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C　を使用する。

●鋼材種別による溶接条件　溶接材料と入熱量・パス間温度

鋼材の種類		規格	溶接材料	入熱(kJ/cm)	パス間温度(℃)
一般鋼材	400N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11、YGW15	40 以下	350 以下
			YGW18、YGW19	30 〃	450 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
				30 〃	450 〃
		JIS Z 3211	E43xx、E49xx	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW11、YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18、YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U	30 〃	250 〃
			T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
		JIS Z 3211	E49xx	40 〃	350 〃
冷間成形角形鋼管	400N級炭素鋼 BCR295、BCP235 STKR400	JIS Z 3312	YGW11、YGW15	30 〃	250 〃
			YGW18、YGW19	40 〃	350 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40 〃	350 〃
	490N級炭素鋼 BCP325 STKR490	JIS Z 3312	YGW18、YGW19	30 〃	250 〃
		JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

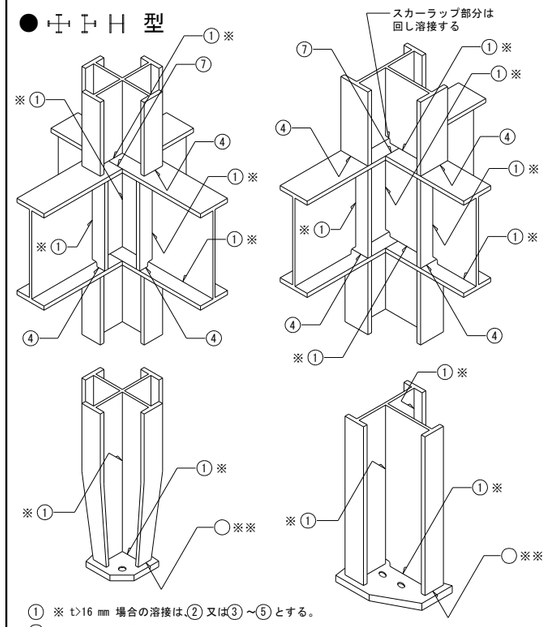
注）ロボット溶接の場合（一社）日本ロボット工業会による建築ロボットの型式認証条件に従うこと。
490N/mm²を超える部材は適合する溶接金属を使用すること。
ガスシールドアーク溶接法による完全溶け込み溶接部に適用する。

● 柱が途中で折れる場合、及び梁せいが異なる場合



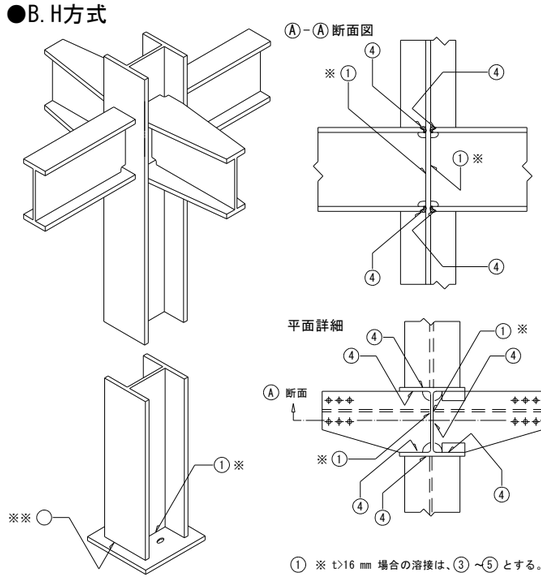
② ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

●Ｈ型



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、②又は③～⑤とする。
◯ ※※ 印は設計者が記入すること。

●B.H方式



① ※ t>16 mm 場合の溶接は、③～⑤とする。

	設計変更年月日
	１回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	２回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	３回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	佐賀県競馬組合	図面番号	S
図面名	鉄骨標準図１	設計　年　月　日	１級建築士登録　第　号		08

鉄 骨 構 造 標 準 図（２）

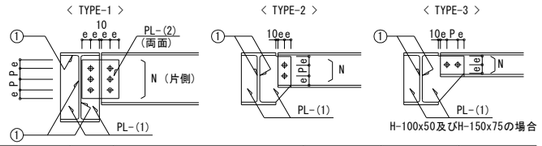
３．継手規準図，その他

（１）高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ(P)　ボルト穴径・最小縁端距離　(mm)

呼び径 d		ボルト穴径	最小縁端距離 (e) (1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	ピッチ (P) 最小	標準
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40	40	60
	M20	22	50	34	26	40	50	60
	M22	24	55	38	28	40	55	60
	M24	26	60	44	32	45	60	70
アンカーボルト・ボルト（）内はボルトを示す	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(50)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(55)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)	(70)
	M27	32		49	36			
	M30	35		54	40			
	M30を超える	呼び径＋５		9d/5	4d/3			

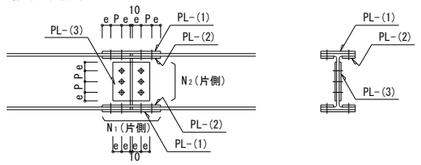
〔注〕(1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
(2) せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離。
(3) 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離。

（２）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部　材	PL-(1)	PL-(2)	N - 径
	3	H－125・60・6・8	6		2－M16
	3	H－150・75・5・7	6		2－M16
	2	H－175・90・5・8	6		2－M16
	2	H－200・100・5.5・8	6		2－M16
	2	H－250・125・6・9	6		3－M16
	2	H－300・150・6.5・9	9		3－M20
	2	H－350・175・7・11	9		4－M20
	1	H－350・175・7・11	9	6	4－M20
	2	H－400・200・8・13	9		5－M20
	1	H－400・200・8・13	9	9	4－M20

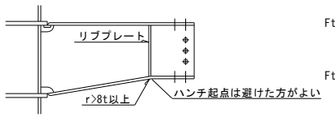
（３）剛接合梁継手リスト (SCSS-H97による)



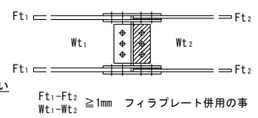
〔注〕端部をBHとする場合の部材は設計図による。

符号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N_1- 径	ウエブ PL-(3)	N_2- 径

（４） ハンチ部の継手

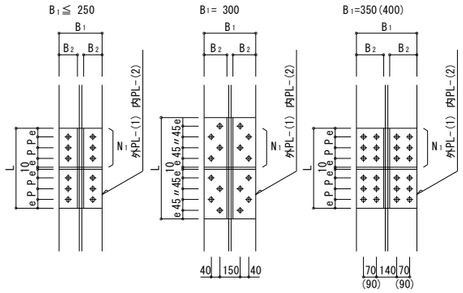


フランジ及びウエブ厚の差のある場合

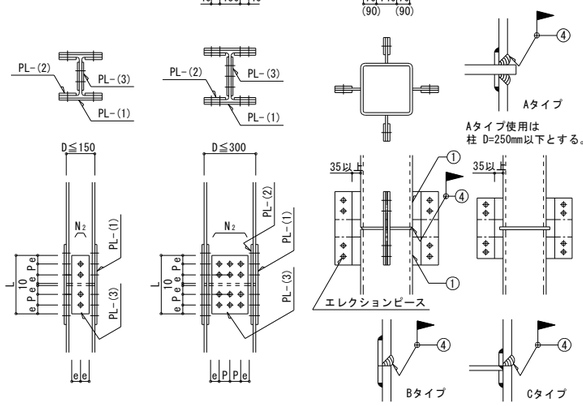


ハンチ勾配は普通1:4程度であるが構造図による。
r：半径　t：板厚

（５）柱継手リスト



B_1	B_2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170



〔注〕現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符 号	部　材	フランジ PL-(1)	PL-(2)	N_1- 径	ウエブ PL-(3)	N_2- 径

（６）ターンバックルブレース (JIS規格品とする … JIS A 5540 … 2008 / 5541 … 2008)

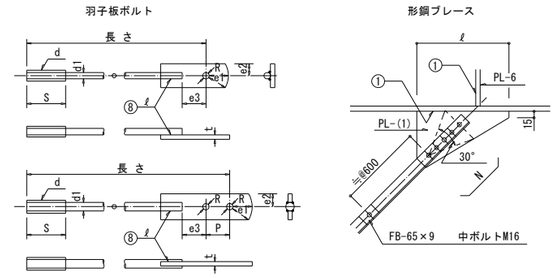
(a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最大		10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最小		10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径 許容差 +0，-0.5 mm		R	17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき(最小)	(2)	e1	40	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき(最小) (1)	e2	28	28	28	34	34	38	38
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき(最小) (1)	e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5	37.5
	板　厚	t	6	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴芯のあき(最小)		e3	52	52	59	66	66	73	70
溶接長さ(最小)		W	40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種　類		JIS B 1186 2種高力ボルト(F10T) (3)						
	ねじの呼び		M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本　数		1	1	1	1	1	1	2

〔注〕(1) e1,e2が確保されてれば形状は自由でよい。
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。
(3) 溶融亜鉛めっき製品では、JIS B 1186 に規定する 1 種 F8TAに準じるものを使用する。

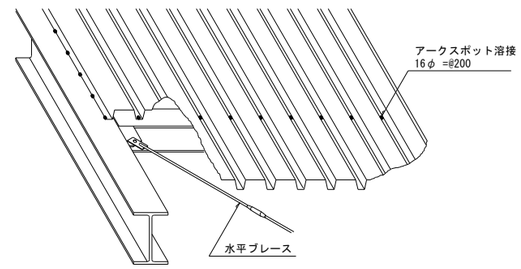
(b) 形鋼ブレース

符 号	部　材	PL-(1)	N - 径	ℓ

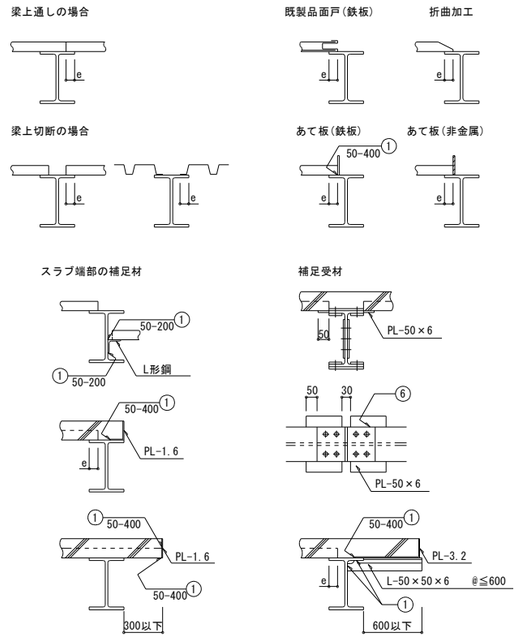


（７）デッキプレート (床剛性を考慮する合成床,合成梁のときは構造図参照)

梁との溶接およびコネクター

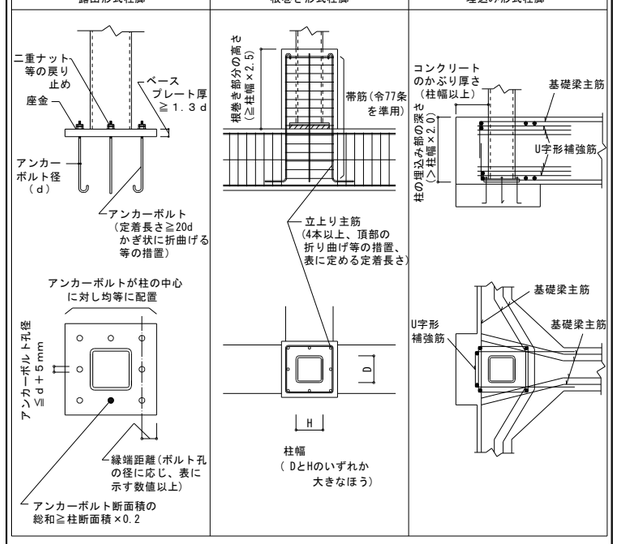


受梁へのかかり寸法及端部処理　e：長手方向で50mm以上、幅方向で30mm以上とする。
且つ、各メーカーの仕様による。



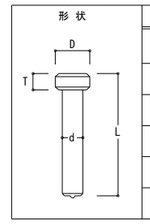
（８）柱脚

注）許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式
※ 構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220,JIS B 1221を使用する。



（９）頭付きスタッド(JIS B 1198 - 2011)

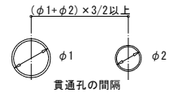
スタッド材の標準形状・寸法

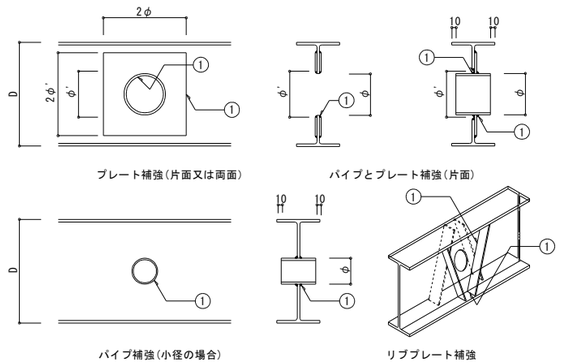


形状	スタッド材 呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	呼び長さ L mm
	φ13 mm	13	25	8	□80 □100 □120 □
	φ16 mm	16	29	8	□80 □100 □120 □
	φ19 mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ22 mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ25 mm	25	41	12	□120 □150 □170 □

（10）梁貫通補強

・計算で確認された場合は下図の位置,寸法及び補強方法によらなくて良い。
・梁端部（内法スパンℓ0 の1/10以内かつ、2D以内）は避ける。
・φ≦ 0.4D
・φ'は補強板の穴径を示す。





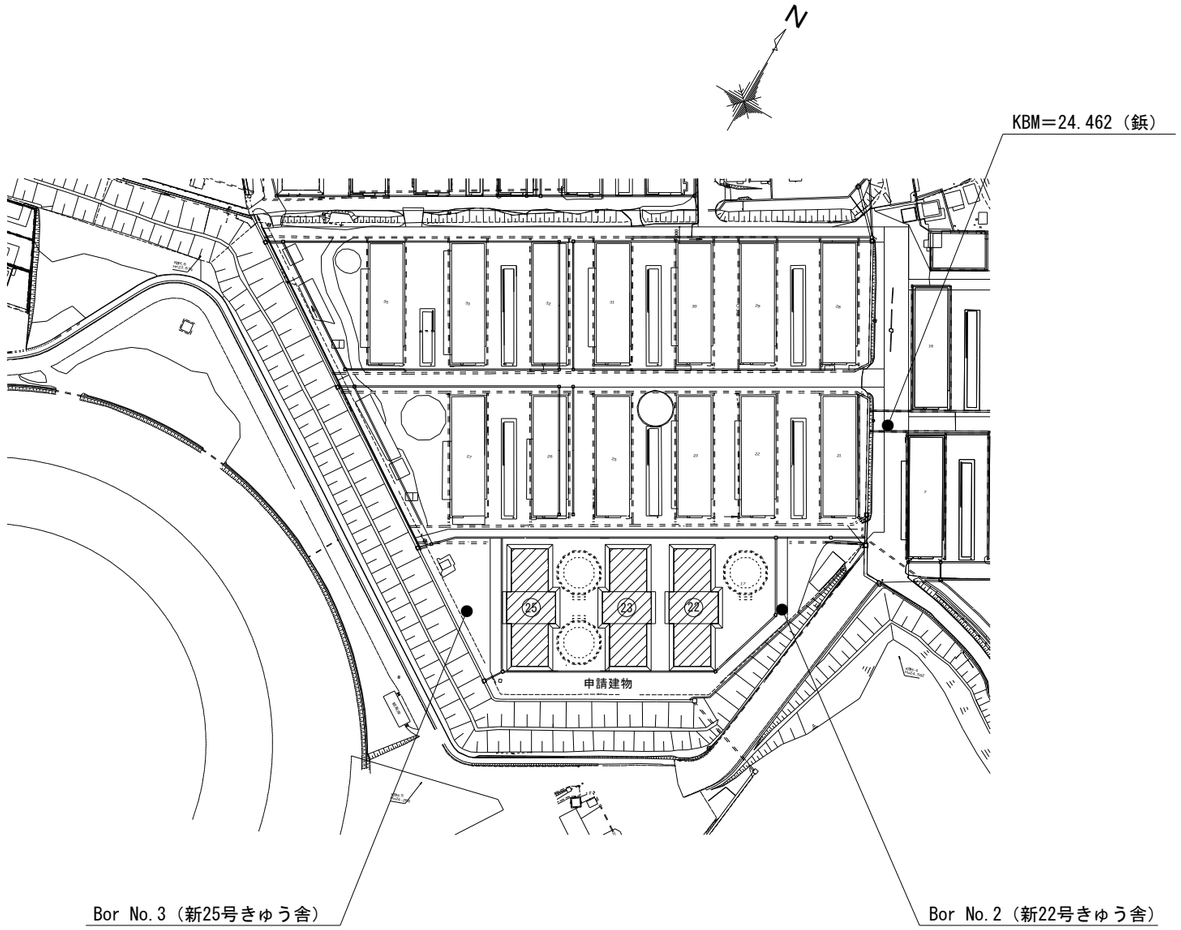
プレート補強の板厚

スリーブ径	補　強　板
φ≦ 0.15D	補強板不要（計算で安全性の確認を行う）
φ≦ D/4	Web板厚以上（片面）
φ≦ D/3	Web板厚x1.2倍以上（片面）
φ≦ 0.4D	Web板厚以上（両面）

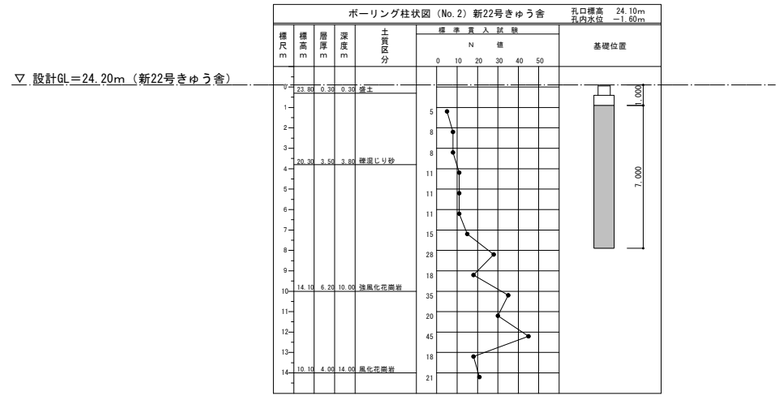
設計変更年月日	
１回　年　月　日	
２回　年　月　日	江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号
３回　年　月　日	一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美
	構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美

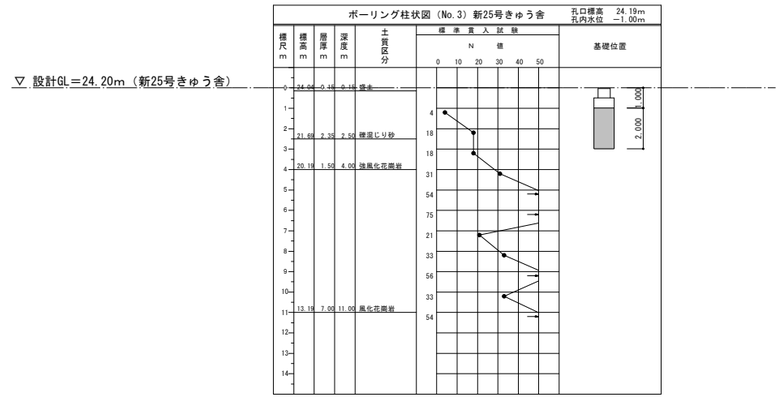
工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	佐賀県競馬組合
図面名	鉄骨標準図２	設計 年 月 日	１級建築士登録 第　号

図面番号 S/09



ボーリング位置図　1/1000

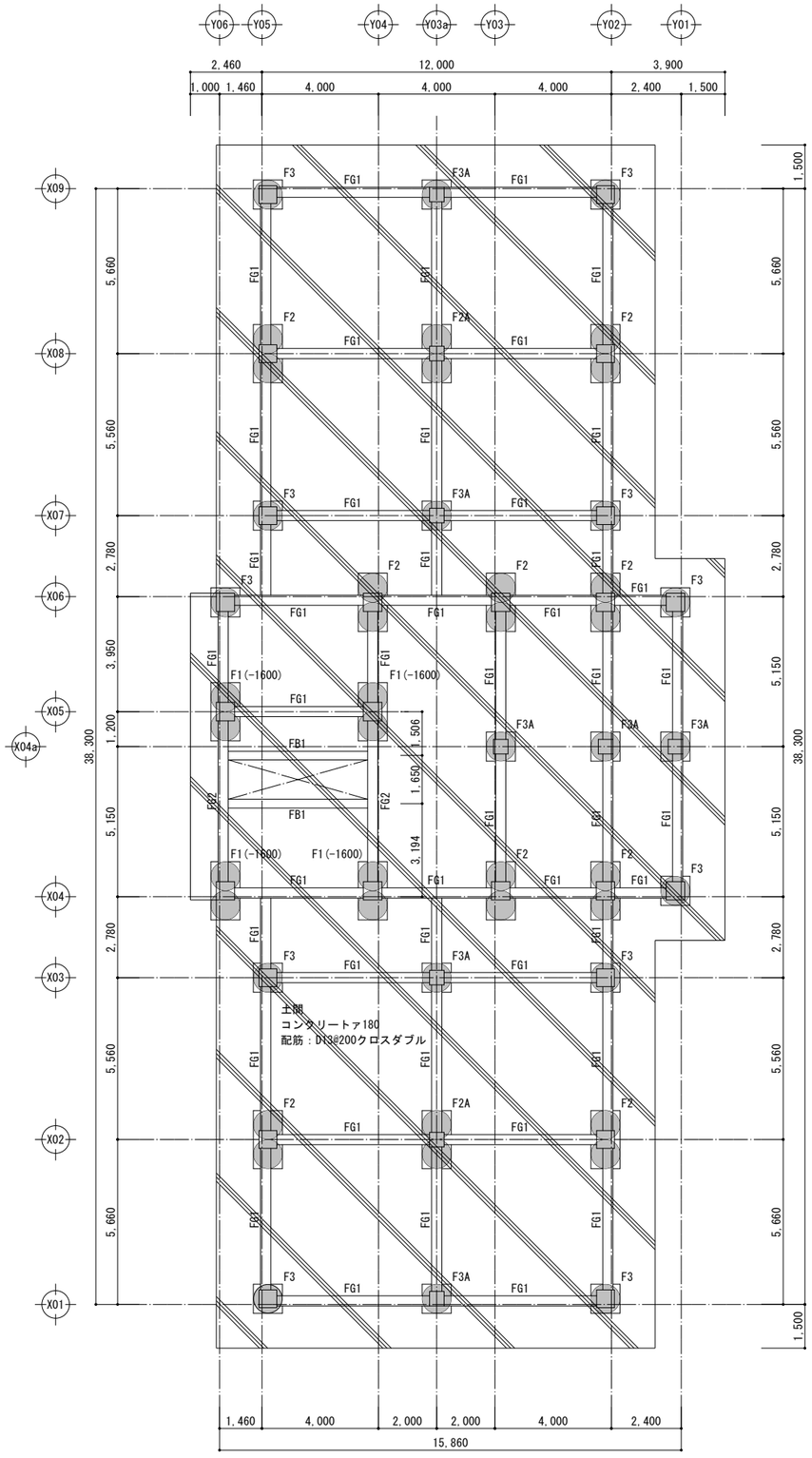




	設計変更年月日
	1回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	2回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	3回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/1000 A3：S=1/2000	佐賀県競馬組合
図面名	ボーリング図	設計	年　月　日	1級建築士登録　第　　号

図面番号　S / 10



基礎伏図　S=1/100

特記事項

1．特記なき地中梁天端は GL-100 とする。
2．特記なき改良杭天端は GL-1,000 とする。
3．◯ は改良杭 φ1,000 を示す。
4．▷◁ は配管ピット範囲（GL-1,200）を示す。
5．梁貫通補強は認定品を使用し、適用範囲である事を確認する事。

使用材料	
コンクリート	Ｆｃ＝２１（ＳＬ＝１５）
デッキコン	Ｆｃ＝２１（ＳＬ＝１８）
鉄　筋	ＳＤ２９５（Ｄ１６以下）
	ＳＤ３４５（Ｄ１９以上）
鉄　骨	ＢＣＲ２９５
	ＳＮ４００Ｂ
	ＳＳ４００
	ＳＴＫＲ４００
	ＳＳＣ４００
ＨＴＢ	Ｓ１０Ｔ
アンカーボルト	ベースバック（２５-１２Ｖ）
	ベースバック（２５-０９Ｖ）
	ＳＳ４００

杭仕様

1．工　　法　：深層混合処理工法（Ｄコラム工法）
2．コラム改良強度（設計基準強度）：Ｆｃ＝１０００ｋＮ／㎡
3．固化材の添加量は施工前に現場土を採取し、室内配合試験結果により最終決定する。
（推定添加量３００ｋｇ／m3、最低添加量２５０ｋｇ／m3）
4．特記なきは、住宅・都市整備公団「ソイルセメントコラム工法設計・施工指針」による。
5．施工業者は、Ｄコラム工法協会に所属する指定施工会社とする。
6．六価クロム抽出試験を行うこと。
7．支持地盤はボーリング柱状図（No.2）に示す強風化花崗岩とする。
（上記以外を支持層とする場合は、監督員の承諾を得ること。）

No.	改良径	改良深さ	空掘深さ	改良長	本　数	備　考
1	φ1000	GL－8.00m	1.60m	6.40m	８本	F1×4基
2	φ1000	GL－8.00m	1.00m	7.00m	４０本	F2×9基、F2A×2基、F3×11基、F3A×7基

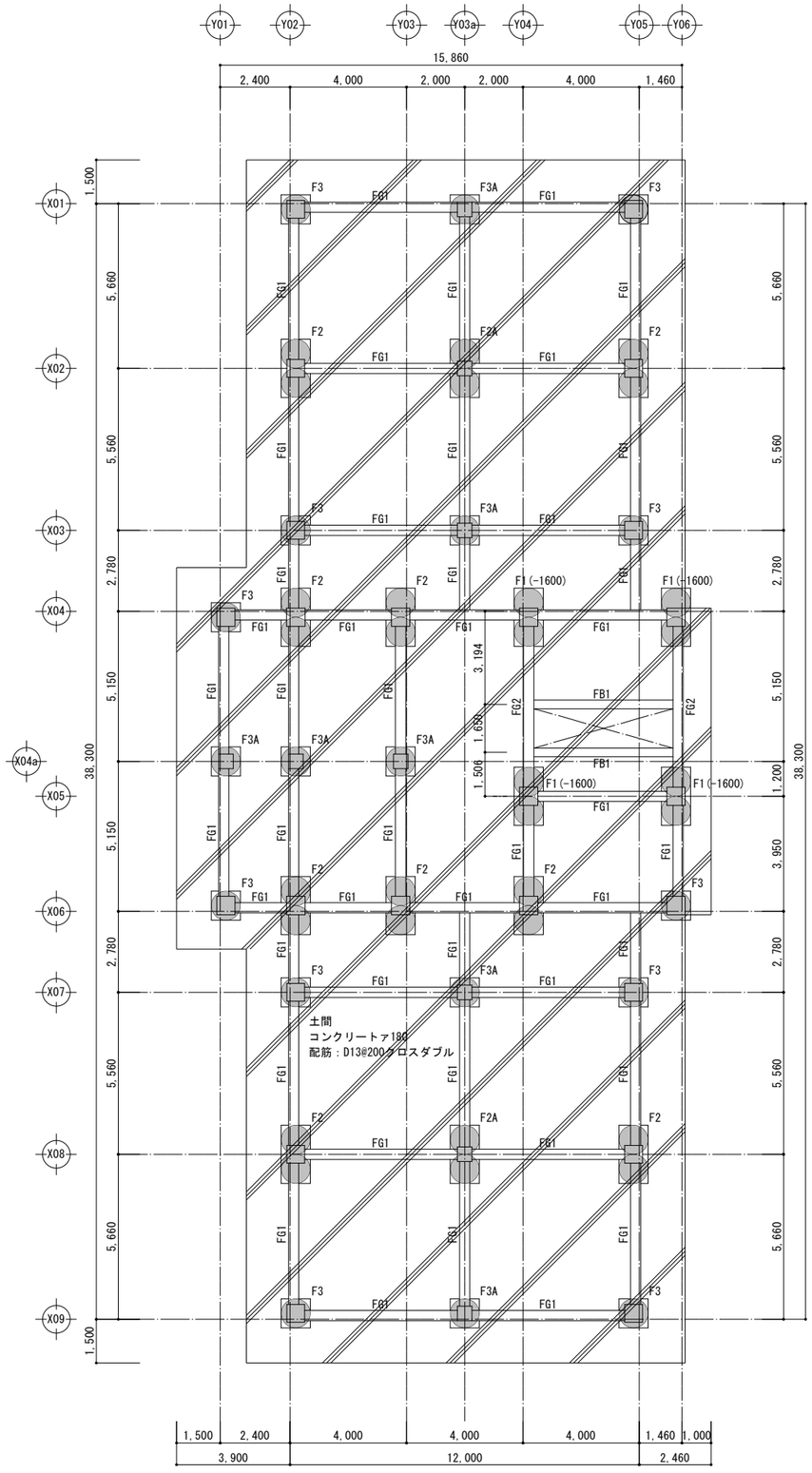
	設計変更年月日
	１回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	２回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	３回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/100 A3：S=1/200
図面名	基礎伏図（新22号きゅう舎）	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

図面番号 S/11



基礎伏図　S=1/100

特記事項

1．特記なき地中梁天端は GL-100 とする。
2．特記なき改良杭天端は GL-1,000 とする。
3．◯ は改良杭 φ1,000 を示す。
4．▷◁ は配管ピット範囲（GL-1,200）を示す。
5．梁貫通補強は認定品を使用し、適用範囲である事を確認する事。

使用材料	
コンクリート	Ｆｃ＝２１（ＳＬ＝１５）
デッキコン	Ｆｃ＝２１（ＳＬ＝１８）
鉄　筋	ＳＤ２９５（Ｄ１６以下）
	ＳＤ３４５（Ｄ１９以上）
鉄　骨	ＢＣＲ２９５
	ＳＮ４００Ｂ
	ＳＳ４００
	ＳＴＫＲ４００
	ＳＳＣ４００
ＨＴＢ	Ｓ１０Ｔ
アンカーボルト	ベースパック（２５-１２Ｖ）
	ベースパック（２５-０９Ｖ）
	ＳＳ４００

杭仕様

1．工　　法　：深層混合処理工法（Ｄコラム工法）
2．コラム改良強度（設計基準強度）：Ｆｃ＝１０００ｋＮ／㎡
3．固化材の添加量は施工前に現場土を採取し、室内配合試験結果により最終決定する。
（推定添加量３００ｋｇ／m3、最低添加量２５０ｋｇ／m3）
4．特記なきは、住宅・都市整備公団「ソイルセメントコラム工法設計・施工指針」による。
5．施工業者は、Ｄコラム工法協会に所属する指定施工会社とする。
6．六価クロム抽出試験を行うこと。
7．支持地盤はボーリング柱状図（No.2）に示す強風化花崗岩とする。
（上記以外を支持層とする場合は、監督員の承諾を得ること。）

No.	改良径	改良深さ	空掘深さ	改良長	本　数	備　考
1	φ1000	GL－6.00m	1.60m	4.40m	８本	F1×4基
2	φ1000	GL－6.00m	1.00m	5.00m	４０本	F2×9基、F2A×2基、F3×11基、F3A×7基

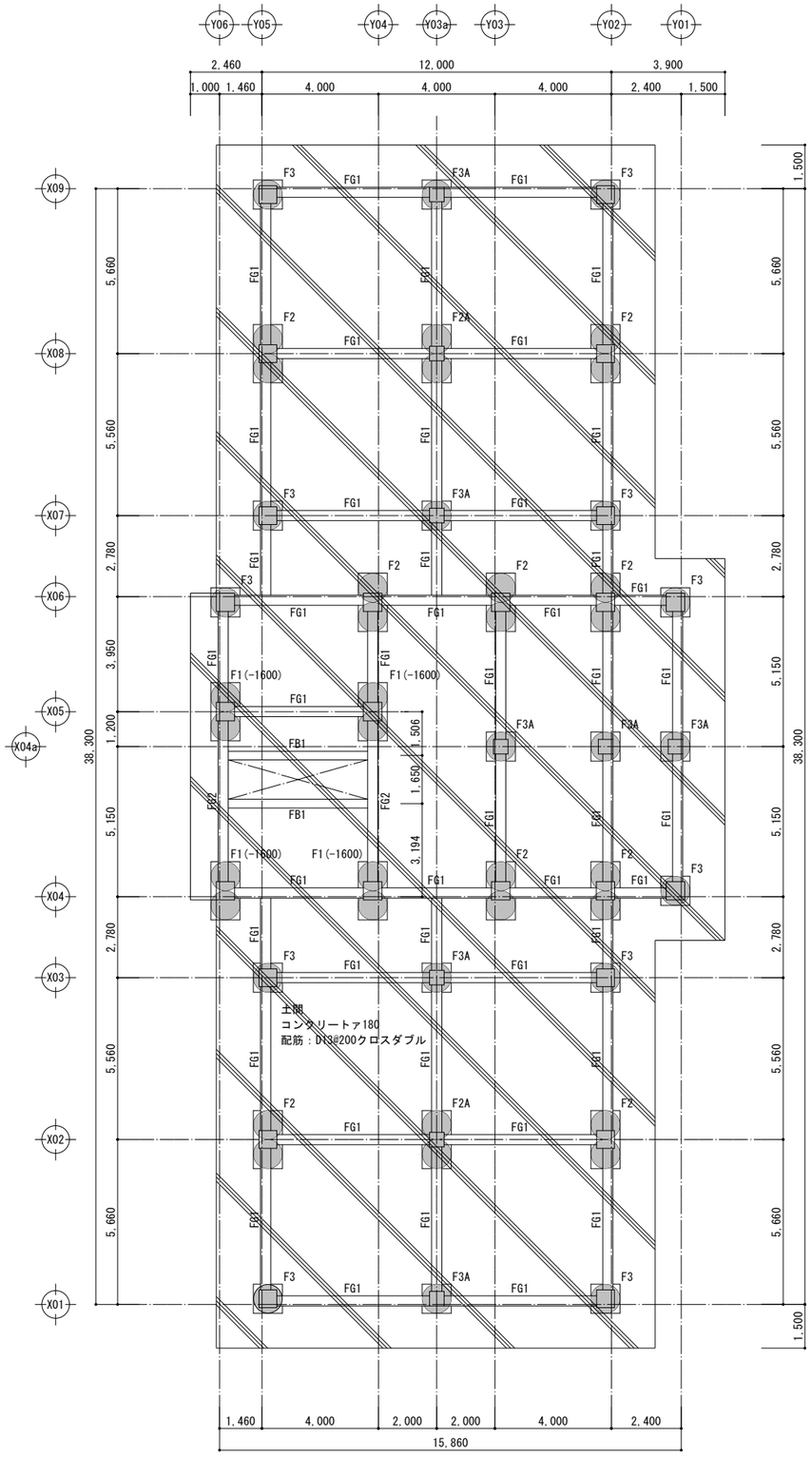
	設計変更年月日
	１回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	２回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	３回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/100 A3：S=1/200
図面名	基礎伏図（新23号きゅう舎）	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

図面番号　S／12



基礎伏図　S=1/100

特記事項

1．特記なき地中梁天端は GL-100 とする。
2．特記なき改良杭天端は GL-1,000 とする。
3．◯ は改良杭 φ1,000 を示す。
4．▷◁ は配管ピット範囲（GL-1,200）を示す。
5．梁貫通補強は認定品を使用し、適用範囲である事を確認する事。

使用材料	
コンクリート	Ｆｃ＝２１（ＳＬ＝１５）
デッキコン	Ｆｃ＝２１（ＳＬ＝１８）
鉄　筋	ＳＤ２９５（Ｄ１６以下）
	ＳＤ３４５（Ｄ１９以上）
鉄　骨	ＢＣＲ２９５
	ＳＮ４００Ｂ
	ＳＳ４００
	ＳＴＫＲ４００
	ＳＳＣ４００
ＨＴＢ	Ｓ１０Ｔ
アンカーボルト	ベースバック（２５-１２Ｖ）
	ベースバック（２５-０９Ｖ）
	ＳＳ４００

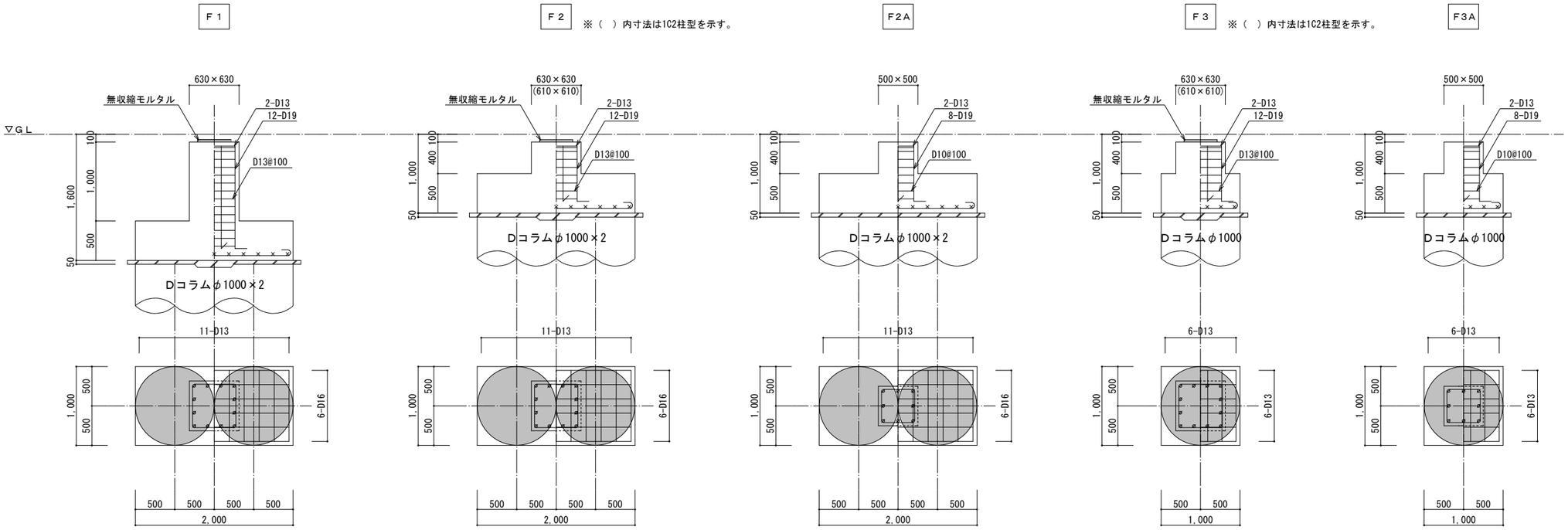
杭仕様

1．工　　法　：深層混合処理工法（Ｄコラム工法）
2．コラム改良強度（設計基準強度）：Ｆｃ＝１０００ｋＮ／㎡
3．固化材の添加量は施工前に現場土を採取し、室内配合試験結果により最終決定する。
（推定添加量３００ｋｇ／m3、最低添加量２５０ｋｇ／m3）
4．特記なきは、住宅・都市整備公団「ソイルセメントコラム工法設計・施工指針」による。
5．施工業者は、Ｄコラム工法協会に所属する指定施工会社とする。
6．六価クロム抽出試験を行うこと。
7．支持地盤はボーリング柱状図（No.3）に示す強風化花崗岩とする。
（上記以外を支持層とする場合は、監督員の承諾を得ること。）

No.	改良径	改良深さ	空掘深さ	改良長	本　数	備　考
1	φ1000	GL－3.00m	1.60m	1.40m	８本	F1×4基
2	φ1000	GL－3.00m	1.00m	2.00m	４０本	F2×9基、F2A×2基、F3×11基、F3A×7基

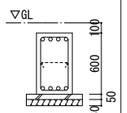
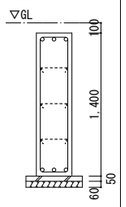
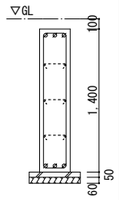
	設計変更年月日
	１回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	２回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	３回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

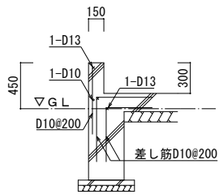
工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事
図面名　基礎伏図（新25号きゅう舎）
縮尺　A1：S=1/100　A3：S=1/200
設計　年　月　日
佐賀県競馬組合
１級建築士登録　第　　号
図面番号　S／13



基礎リスト　S=1/30

地中梁リスト　※　巾止め筋 D10@1000 以内とする。

符　号	FG1	FG2	FB1
位　置	全断面	全断面	全断面
断　面			
Ｂ×Ｄ	350×600	350×1400	300×1400
上端筋	4-D22	3-D22	3-D19
下端筋	4-D22	3-D22	3-D19
ＳＴＰ	D10@200	D10@200	D10@200
腹　筋	2-D10	6-D10	6-D10



根廻り詳細図　S=1/30

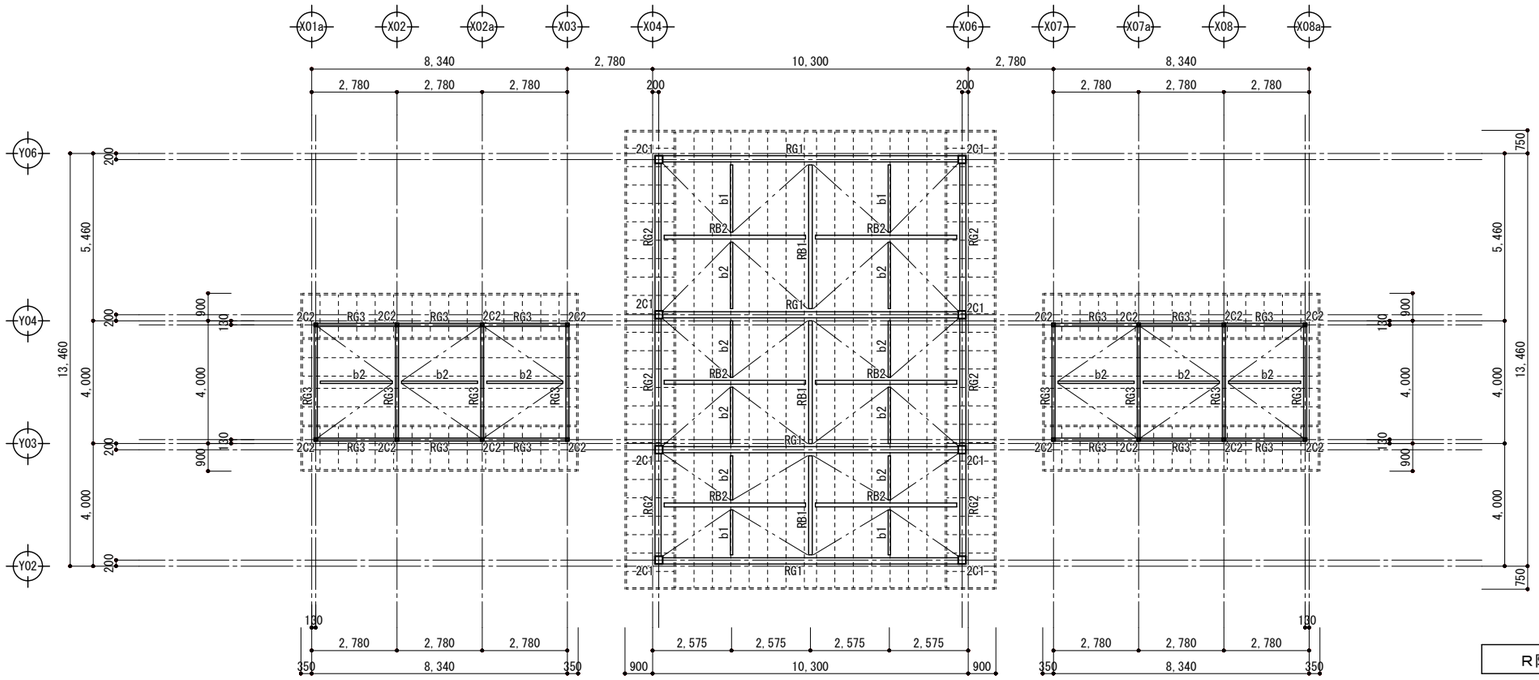
	設計変更年月日
	１回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	２回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	３回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/30 A3：S=1/60
図面名	基礎リスト/共通	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合

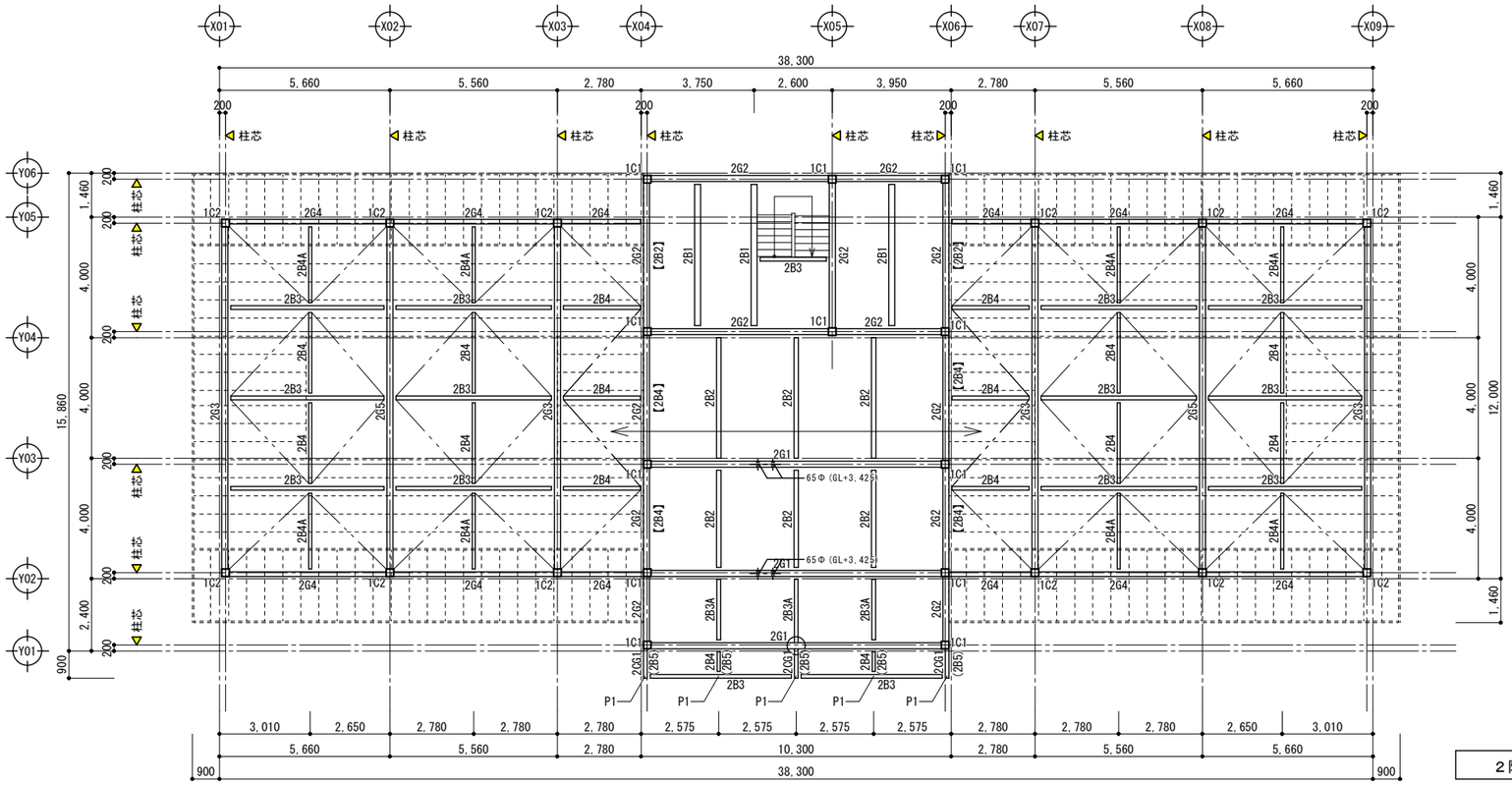
１級建築士登録　第　　号

図面番号　S / 14



R階梁伏図　S=1/100

※　座屈止め（b部材）は大梁芯に取付けること。



２階梁伏図　S=1/100

特記事項

1．←→ はデッキ（DS1）方向を示す。

2．○ は小梁剛接合位置を示す。

3．（　）は軒天受けの梁を示す。

4．【　】は下段屋根レベルの梁を示す。

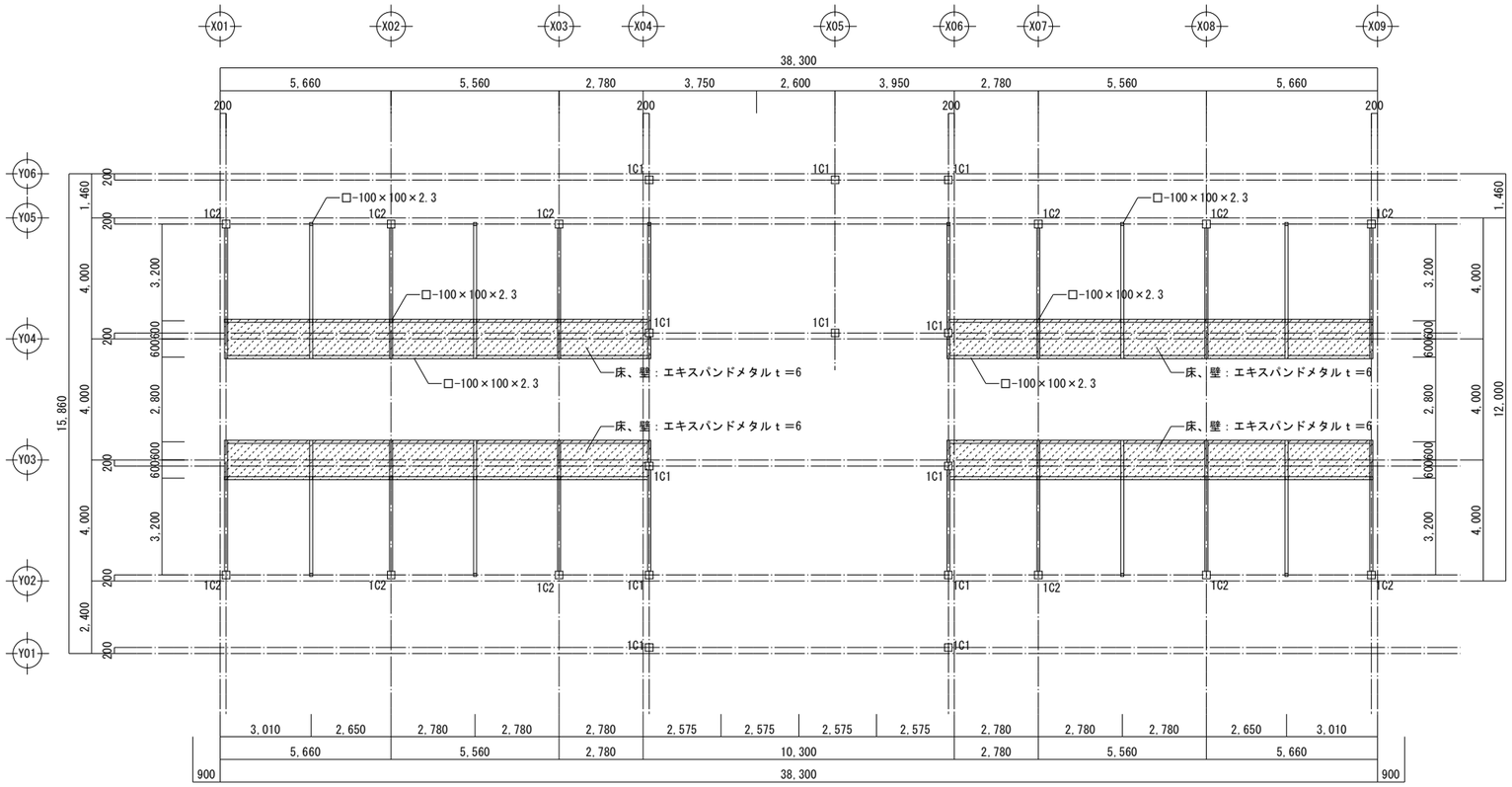
	設計変更年月日
	1回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	2回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	3回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/100 A3：S=1/200
図面名	R階・２階梁伏図/共通	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

図面番号 S/15

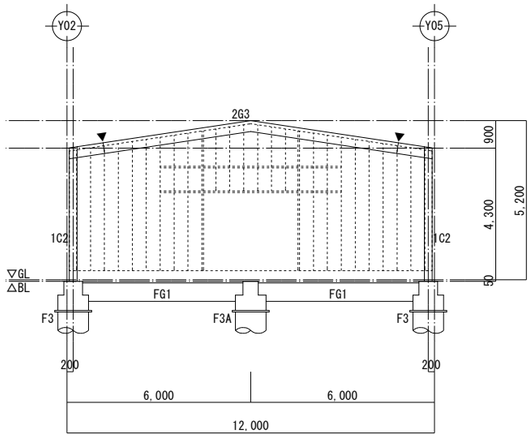


枕棚梁伏図　S=1/100

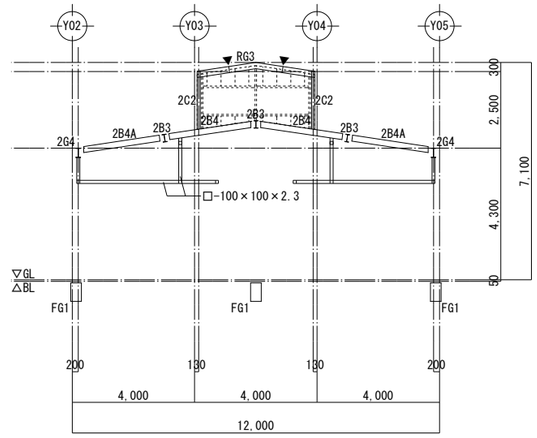
	設計変更年月日		
	1回　年　月　日		
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	2回　年　月　日		
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	3回　年　月　日		
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美			

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/100 A3：S=1/200	佐賀県競馬組合
図面名	枕棚梁伏図/共通	設計	年　月　日	1級建築士登録　第　　号

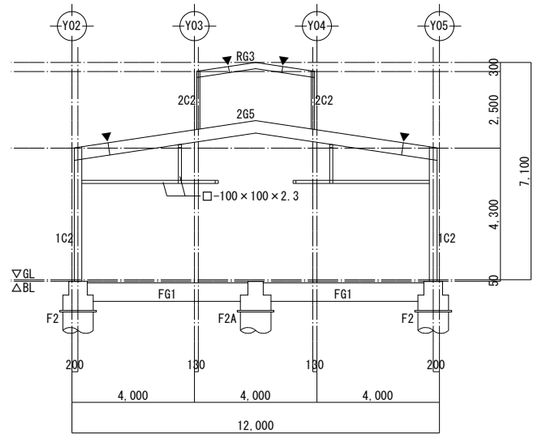
図面番号 S/16



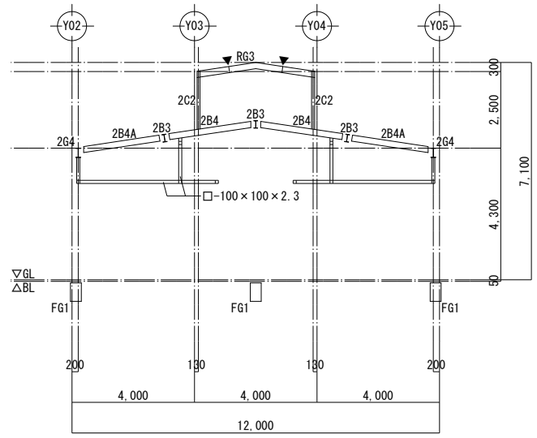
X01通り軸組図　S=1/100



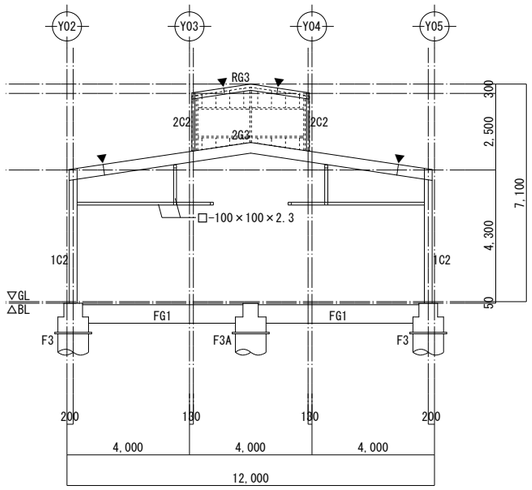
X01a通り軸組図　S=1/100



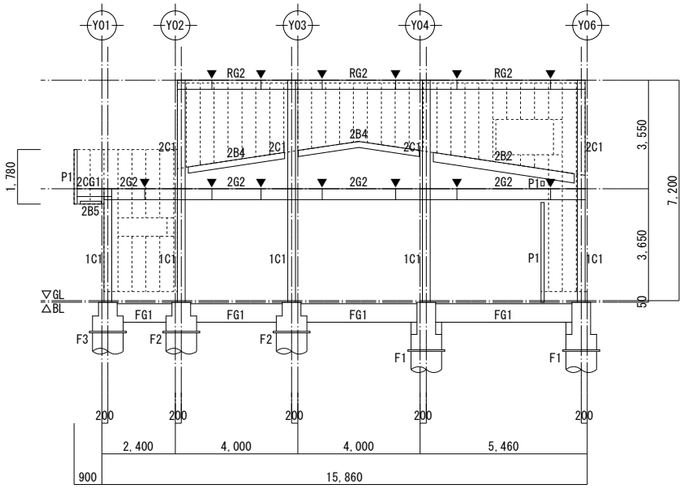
X02通り軸組図　S=1/100



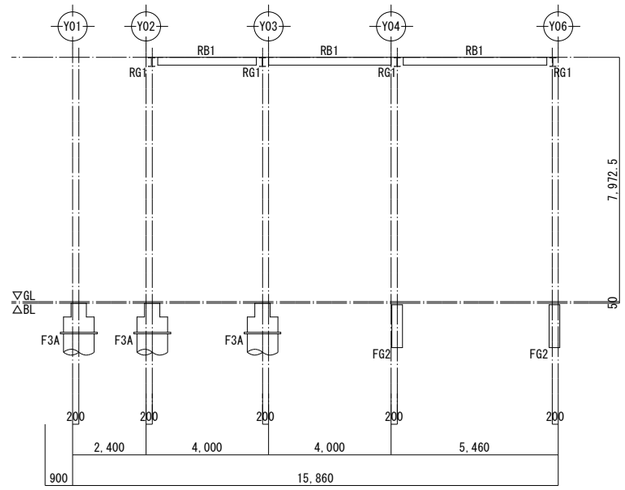
X02a通り軸組図　S=1/100



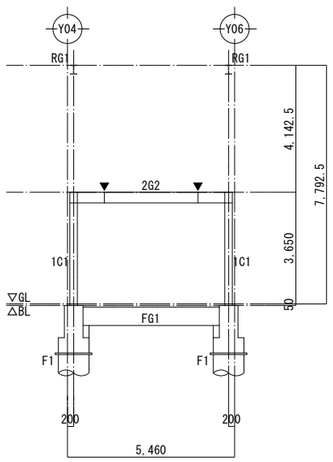
X03通り軸組図　S=1/100



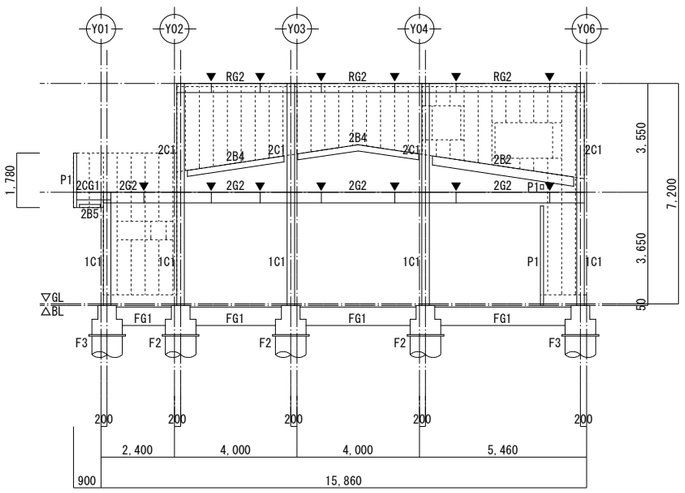
X04通り軸組図　S=1/100



X04a通り軸組図　S=1/100



X05通り軸組図　S=1/100



X06通り軸組図　S=1/100

特記事項

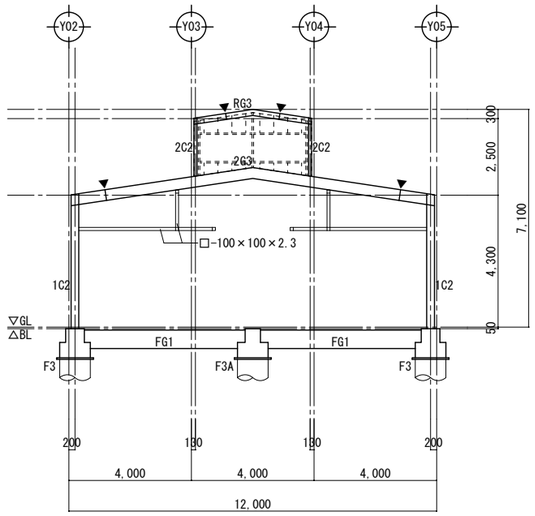
1．▼は大梁ジョイント位置（柱芯より1000）を示す。

2．::::::::::::は開口補強（2C）を示す。

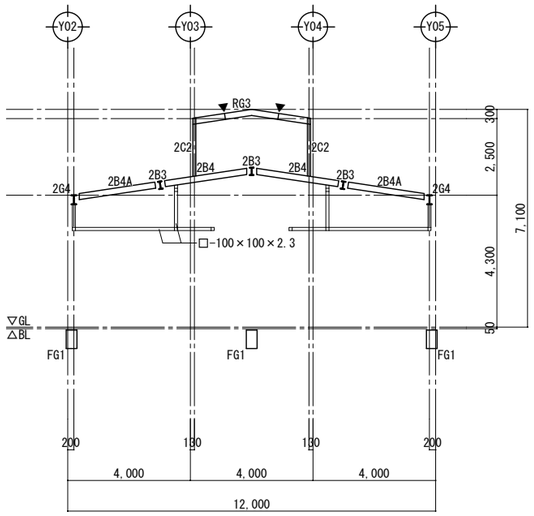
3．縦胴縁受けは腰壁に A.BOLTφ12@1000 で固定すること。

	設計変更年月日
	1回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	2回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	3回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

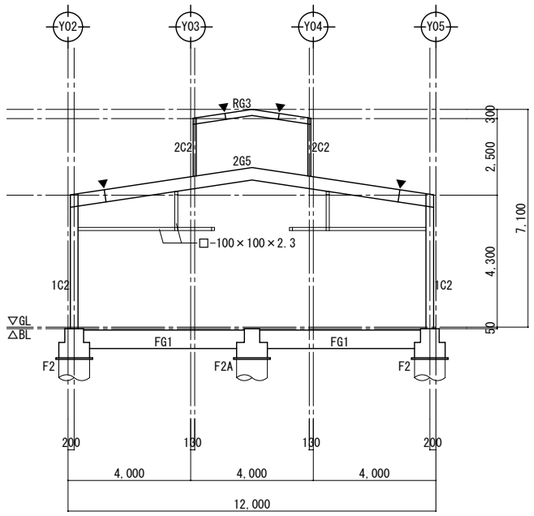
工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/100 A3：S=1/200	佐賀県競馬組合	図面番号 S/17
図面名	軸組図１/共通	設計	年　月　日	１級建築士登録　第　　号	



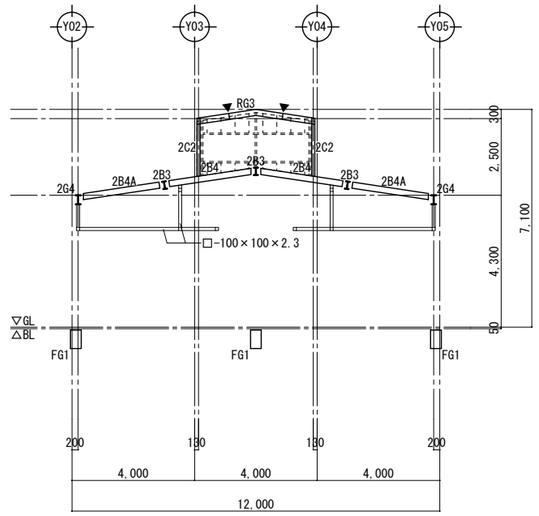
X07通り軸組図　S=1/100



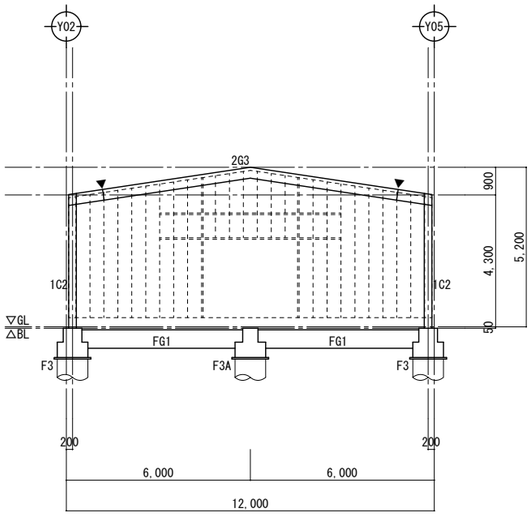
X07a通り軸組図　S=1/100



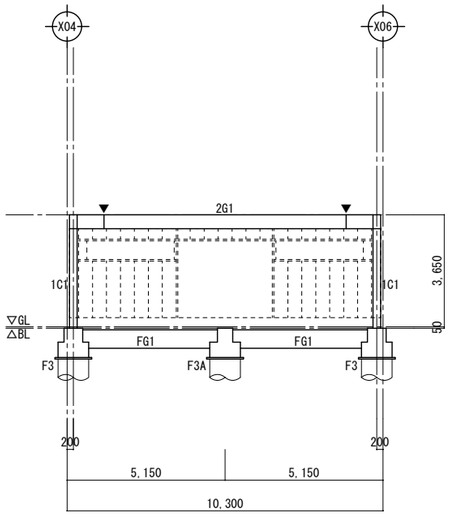
X08通り軸組図　S=1/100



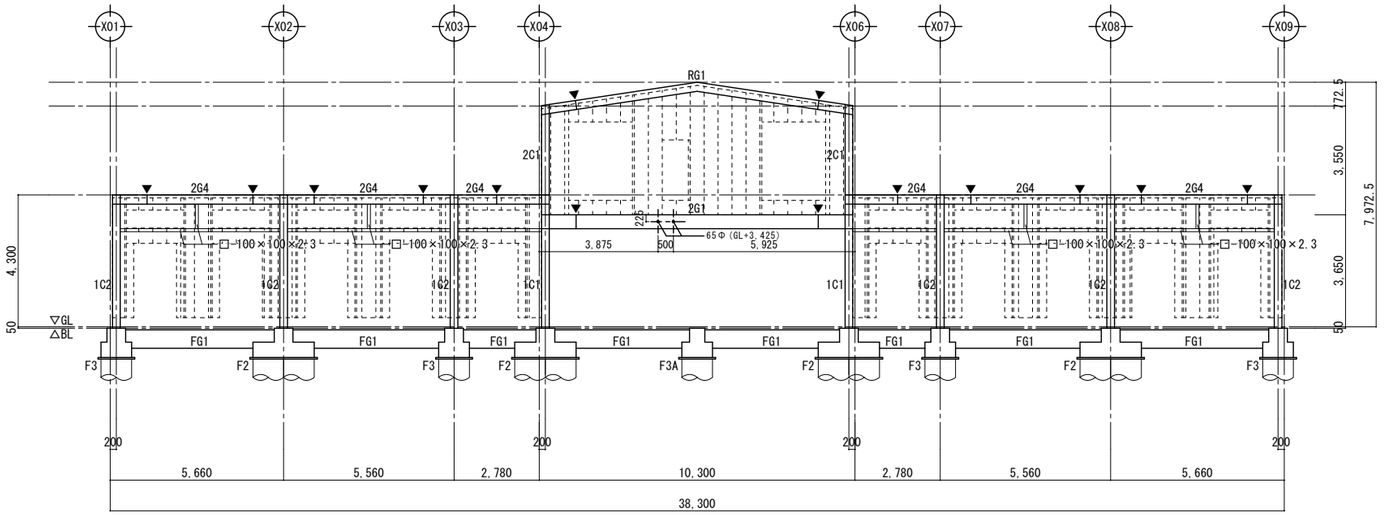
X08a通り軸組図　S=1/100



X09通り軸組図　S=1/100



Y01通り軸組図　S=1/100



Y02通り軸組図　S=1/100

特記事項

1．▼は大梁ジョイント位置（柱芯より1000）を示す。

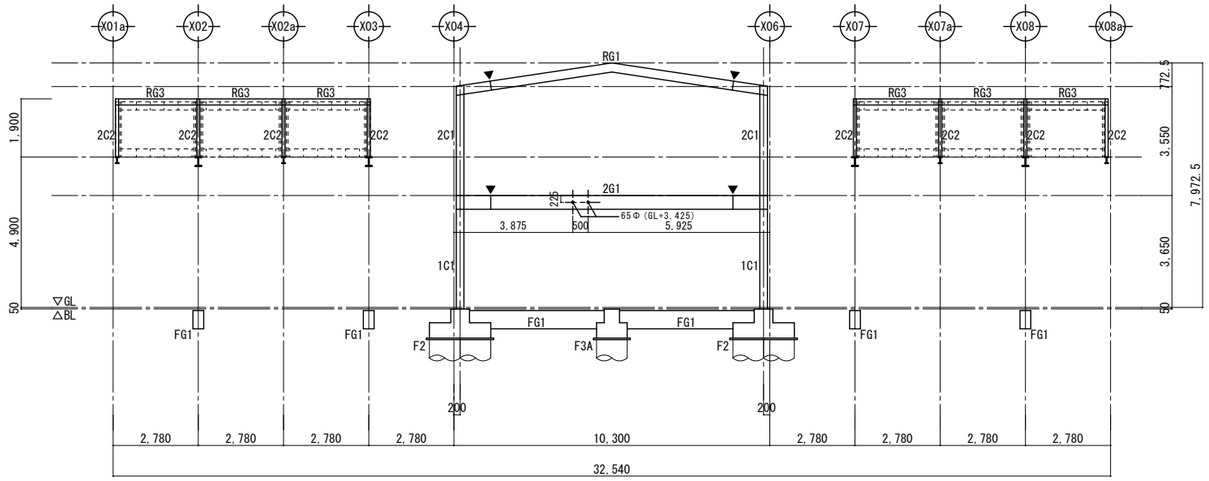
2．:::::::::は開口補強（2C）を示す。

3．縦胴縁受けは腰壁に A.BOLTφ12@1000 で固定すること。

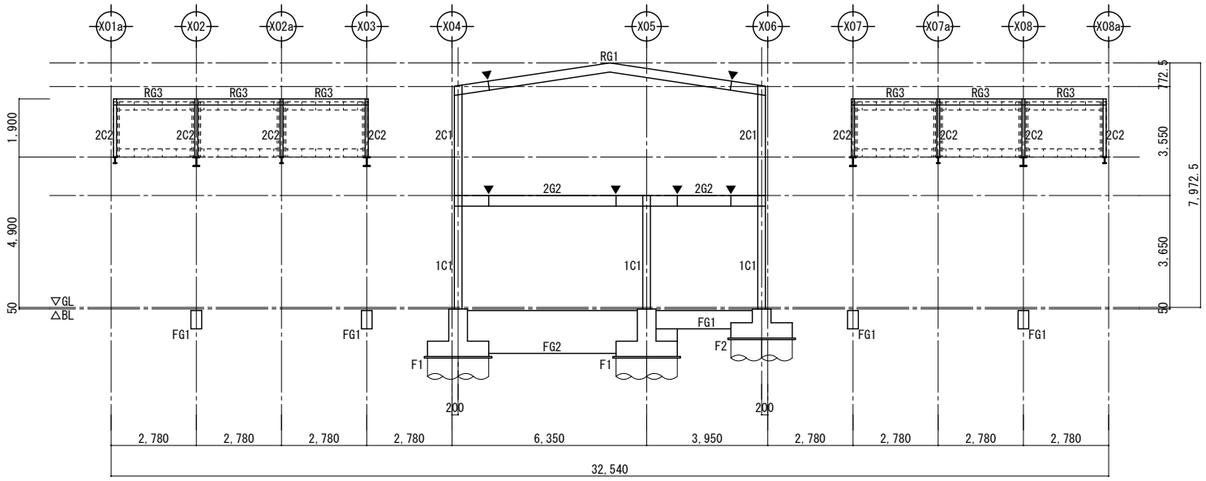
	設計変更年月日
	1回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	2回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	3回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/100 A3：S=1/200	佐賀県競馬組合
図面名	軸組図２/共通	設計	年　月　日	１級建築士登録　第　　号

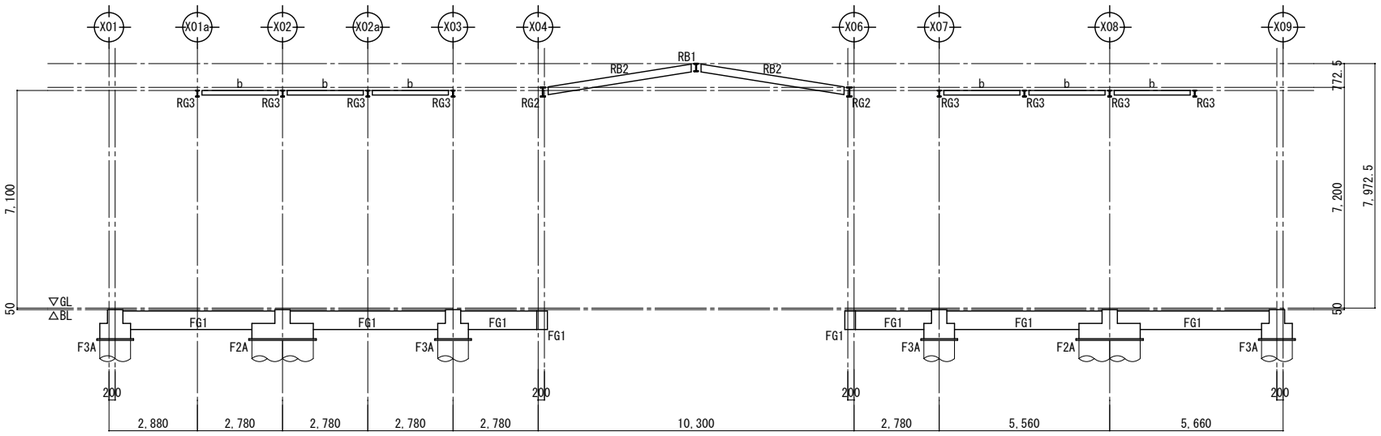
図面番号 S/18



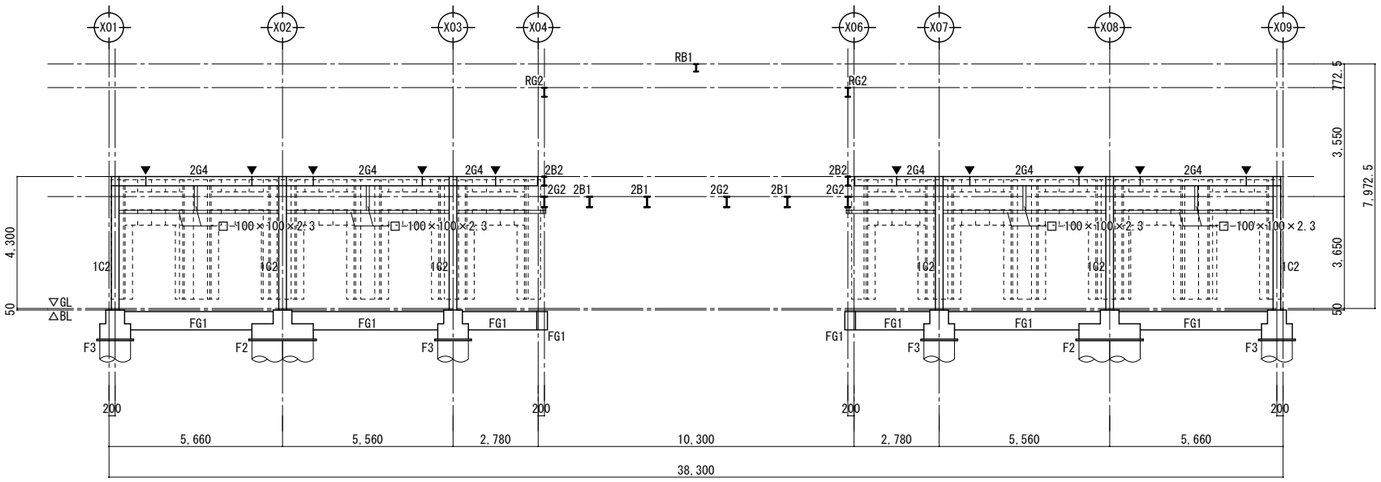
Y03通り軸組図　S=1/100



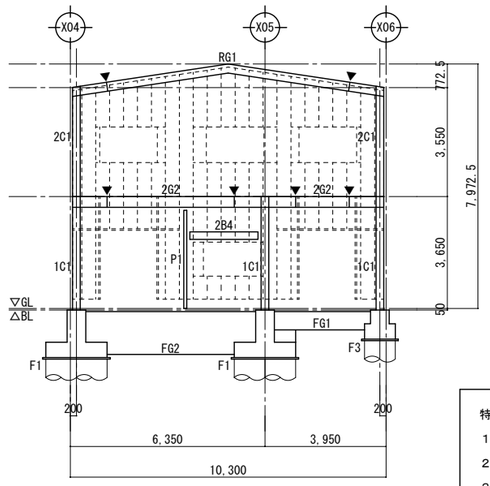
Y04通り軸組図　S=1/100



Y03a通り軸組図　S=1/100



Y05通り軸組図　S=1/100



Y06通り軸組図　S=1/100

特記事項

1．▼は大梁ジョイント位置（柱芯より1000）を示す。

2．:::::::::は開口補強（2C）を示す。

3．縦胴縁受けは腰壁に A.BOLTφ12@1000 で固定すること。

	設計変更年月日
	1回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	2回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	3回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/100 A3：S=1/200	佐賀県競馬組合
図面名	軸組図３/共通	設計	年　月　日	１級建築士登録　第　　号

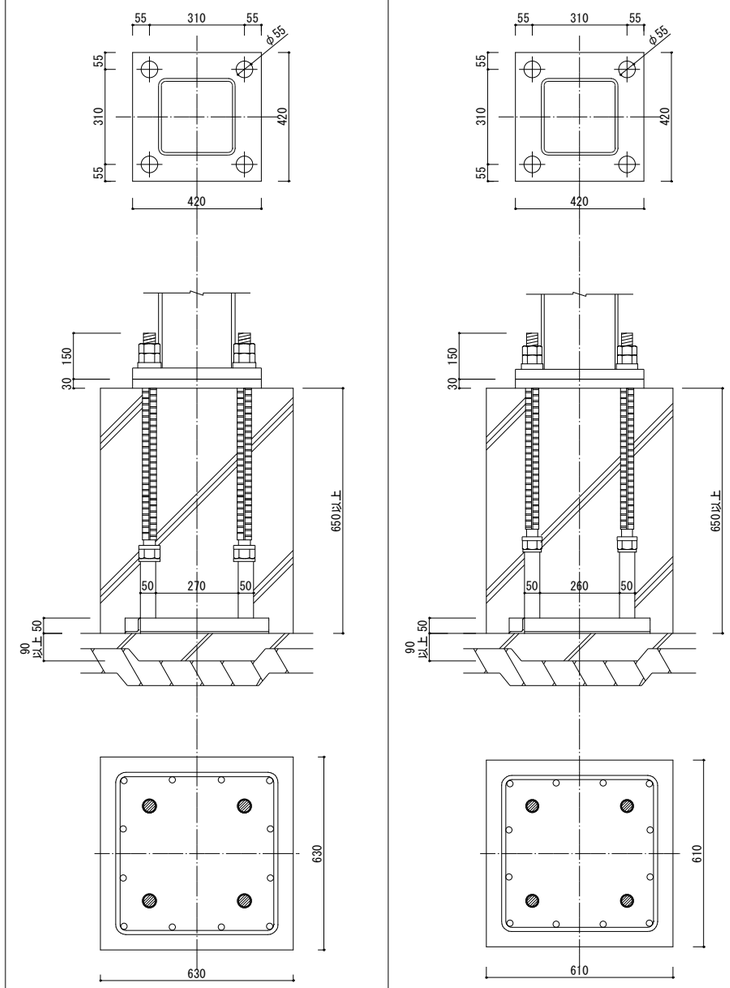
図面番号 S/19

部材リスト表

※　特記なき部材はＳＮ４００Ｂとする。　※　大梁ジョイントはＳＣＳＳ－Ｈ９７による。
※　ＢＣＲ部材に取付くダイヤフラムはＳＮ４９０Ｃとする。

符　号	部　材	柱脚・接合部	符　号	部　材	接合部
２Ｃ１	□－250×250×9　（BCR295）		ＲＢ１	H－250×125×6×9　（SS400）	G.PL－6　HTB3－M16
２Ｃ２	□－100×100×4．5　（STKR400）	B．PL－22×130×260 HTB4－M16	ＲＢ２	H－248×124×5×8　（SS400）	G.PL－6　HTB3－M16
１Ｃ１	□－250×250×12　（BCR295）	ベースパック（25－12V）	２Ｂ１	H－350×175×7×11　（SS400）	G.PL－9　HTB4－M20
１Ｃ２	□－250×250×9　（BCR295）	ベースパック（25－09V）	２Ｂ２	H－298×149×5．5×8　（SS400）	G.PL－6　HTB3－M20
ＲＧ１	H－294×200×8×12	(F) 2S.PL－ 9　HTB　6－M20 (W) 2S.PL－ 9　HTB　3－M20	２Ｂ３	H－248×124×5×8　（SS400）	G.PL－6　HTB3－M16
ＲＧ２	H－300×150×6．5×9	(F) 2S.PL－ 9　HTB　4－M16 (W) 2S.PL－ 6　HTB　3－M16	２Ｂ３Ａ	H－248×124×5×8　（SS400）	外端部：G.PL－6　HTB3－M20@70 内端部：G.PL－6　HTB3－M16
ＲＧ３	H－200×100×5．5×8	(F)　S.PL－16　HTB　4－M16 (W) 2S.PL－ 6　HTB　2－M16	２Ｂ４	H－198×99×4．5×7　（SS400）	G.PL－6　HTB2－M16
２Ｇ１	H－450×200×9×14	(F) 2S.PL－12　HTB　6－M20 (W) 2S.PL－ 9　HTB　5－M20	２Ｂ４Ａ	H－198×99×4．5×7　（SS400）	外端部：G.PL－6　HTB2－M20 内端部：G.PL－6　HTB2－M16
２Ｇ２	H－350×175×7×11	(F) 2S.PL－ 9　HTB　4－M20 (W) 2S.PL－ 6　HTB　3－M20	２Ｂ５	□－100×100×3．2　（STKR400）	2PL－4．5　BOLT2－M16
２Ｇ３	H－350×175×7×11	(F) 2S.PL－ 9　HTB　4－M20 (W) 2S.PL－ 6　HTB　3－M20	ｂ１	[－150×75×6．5×10　（SS400）	G.PL－6　HTB2－M20
２Ｇ４	H－300×150×6．5×9	(F) 2S.PL－ 9　HTB　4－M16 (W) 2S.PL－ 6　HTB　3－M16	ｂ２	[－150×75×6．5×10　（SS400）	G.PL－6　HTB2－M16
２Ｇ５	H－400×200×8×13	(F) 2S.PL－ 9　HTB　6－M20 (W) 2S.PL－ 9　HTB　4－M20			
２ＣＧ１	H－250×125×6×9	工場溶接	胴　縁	C－100×50×20×2．3@455	ネコPL－4．5　BOLT2－M12 ジョイント2C
			母　屋	C－100×50×20×2．3@606	ネコPL－4．5　BOLT2－M12 ジョイント2C@1820
Ｐ１	□－100×100×3．2　（STKR400）	2PL－4．5　BOLT2－M16 B．PL－16×130×260（柱脚） A.BOLT2－M16　L＝500WN	屋根ブレース	M16	G.PL－6　HTB1－M16
			ＤＳ１	デッキプレート（QL99－50－12）	コンクリートｱ80　ワイヤメッシュφ6－150×150 焼抜き栓溶接@600
			ササラ桁	PL－12×250	G.PL－12　HTB3－M16（柱頭） B．PL－19×200×350　（柱脚） A.BOLT2－M20　L＝500WN

1C1	ベースパック　25-12V	1C2	ベースパック　25-09V

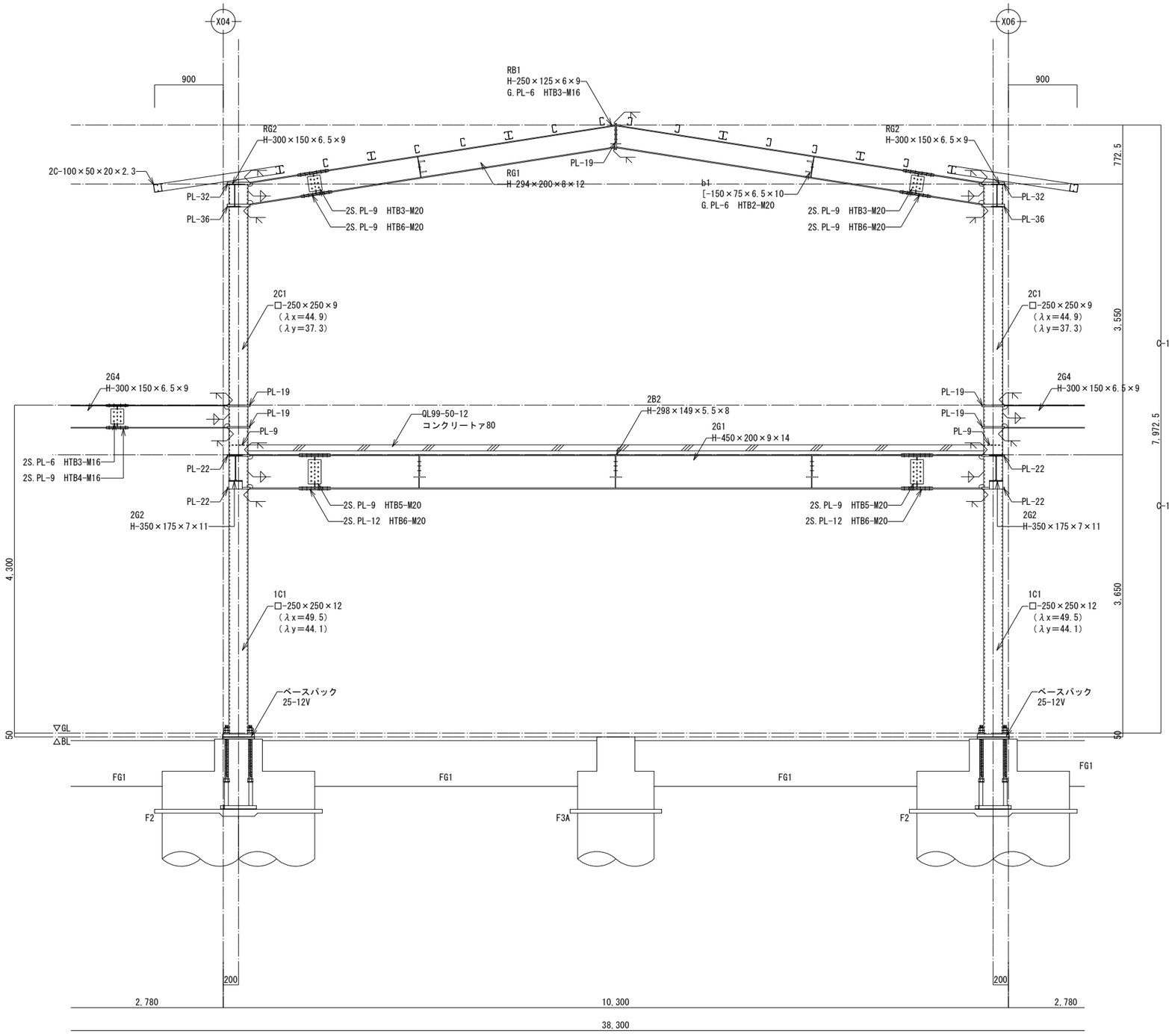


柱部材	□-250×250×12	柱部材	□-250×250×9
ベースプレート	420×420×36	ベースプレート	420×420×32
アンカーボルト	4-M39(SD490)	アンカーボルト	4-M36(SD490)
コンクリート柱断面	630×630	コンクリート柱断面	610×610
立上り筋	12-D19(SD345)	立上り筋	12-D19(SD345)
フープ筋	D13@100(SD295)	フープ筋	D13@100(SD295)

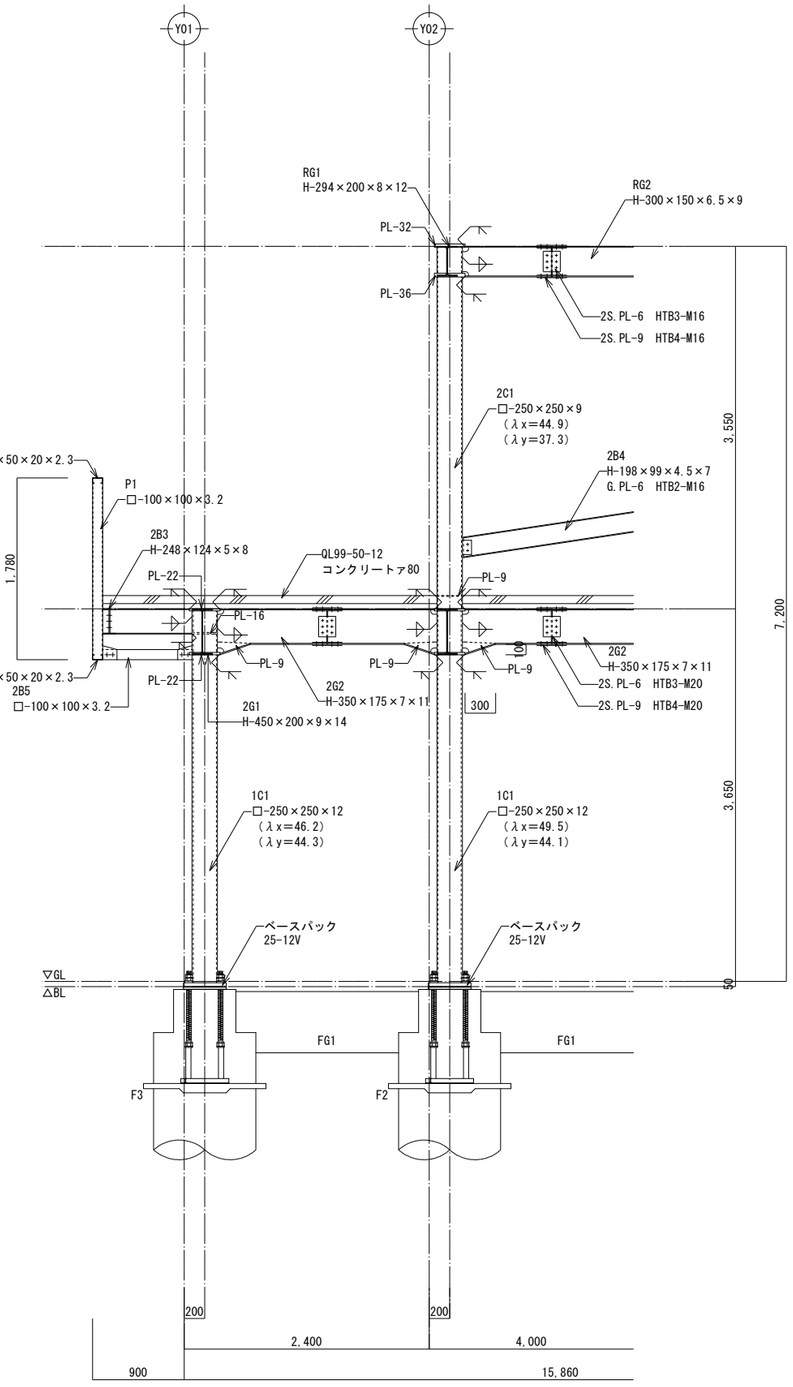
	設計変更年月日
	１回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	２回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	３回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/30 A3：S=1/60	佐賀県競馬組合
図面名	部材リスト表/共通	設計	年　月　日	１級建築士登録　第　　号

図面番号　S/20



Y02通り架構詳細図　S=1/30



X04通り架構詳細図　S=1/30

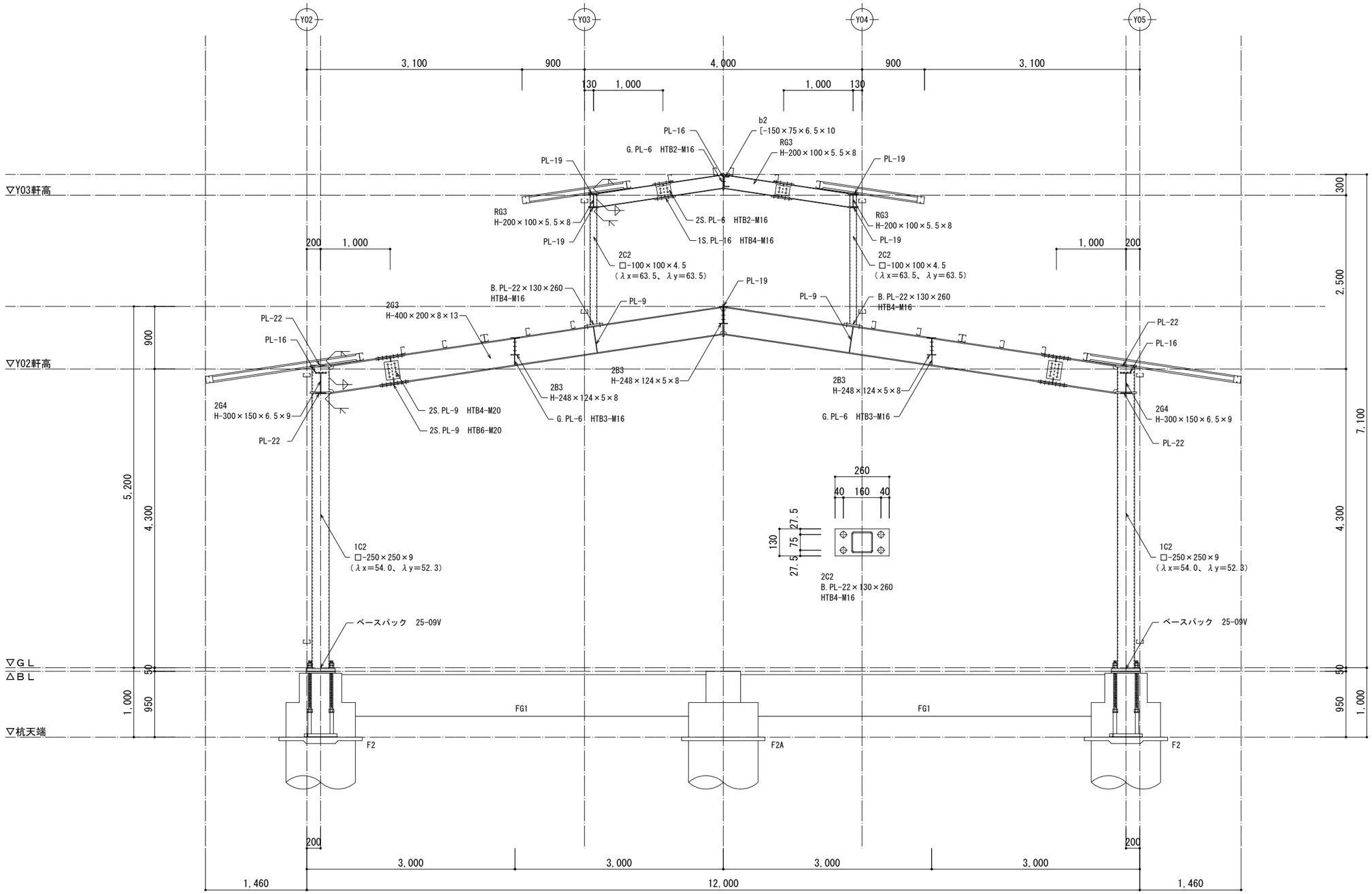
	設計変更年月日
	1回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	2回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	3回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/30 A3：S=1/60
図面名	架構詳細図/共通	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合

1級建築士登録　第　　号

図面番号 S/21



X02通り架構詳細図 S=1/30

	設計変更年月日
	1回 年 月 日
江口建築設計事務所 事務所登録 第は-1228号	2回 年 月 日
一級建築士建設大臣登録第262723号 江口達美	3回 年 月 日
構造設計一級建築士 第 4894 号 江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1：S=1/30 A3：S=1/60	佐賀県競馬組合
図面名	架構詳細図２/共通	設計	年 月 日	1級建築士登録 第 号

図面番号 S/22

Ｄコラム工法特記仕様書

１．　工法概要

本工法はセメント系固化材を固化材液として現地地盤に注入し、共回りを防止する撹拌翼（Ｄバー）を

装着した撹拌装置を用いて混合撹拌することによりソイルセメントコラムを形成する工法である。

２．　特記仕様

（１）コラム径　φ＝１０００㎜　　（２）掘削深度　　Ｈ＝３．０～８．０ｍ（掘削長変更の場合は、監督員と協議しトルク計にて確認を行う。）

（３）設計基準強度　　Ｆｃ＝１０００kN/㎡

（４）大臣認定機関（財団法人　日本建築センターの技術審査証明ＢＣＪ96を有する工法とする。）
（問い合わせ先　㈱ドリームテック　0952-20-3326）

３．　固化材の配合及び配合量

（１）固化材　　セメント系固化材又は、セメントを使用する。（六価クロム溶出試験を行う事）

（２）配合と配合量の検討　　原則として現地土を採取し室内配合試験を行い決定する。

$X_f = \alpha_t \times F_c$

X_f ：配合強度（kN/㎡）
α_t ：割増し係数
F_c ：設計基準強度（kN/㎡）

変動係数	抜取ヶ所数（Ｎ）	１	２	３	４～６	７～８	９以上
25%	割増係数（αt）	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

※　変動係数を想定し、7項に規定する抜き取りヶ所数Ｎ、合格確率80%とした上表を用いて設定する。

４．　施工計画書

本工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書には次の事項を明記する。

（１）工法概要　（２）工事概要　（３）施工場所　（４）施工機械　（施工手順）　（５）施工管理体制
（６）施工管理　（７）安全対策　（８）工程表

５．　施工

（１）固化材液の充填方法は、掘削時充填方法とする。
（２）掘削速度1.0m/分、引き上げ速度1.0m/分以下とする。
（３）施工手順は以下の通りとする。

1.コラムの中心位置を出し、その位置に撹拌ロッドの中心がくるように機械をセットする。
2.セットが完了したら撹拌ロッドを回転し、規定の速度で掘削を開始する。
3.所定の位置まで来たら固化材液を撹拌ロッド先端より注入しながら掘削撹拌を行う。
4.掘削が完了したら固化材液の注入をやめ、撹拌ロッドを掘削時と正逆回転し50ｃｍ以上練り返しを行う。
5.逆回転で再撹拌しながら引き上げる。

６．　施工管理

（１）コラムの鉛直度　改良機本体の傾斜計で管理する。
（２）固化材液の作成　水の計量　　：計量計又は水管計で計測する。
　　固化材の計量　：袋数又は重量計で計測する。
（３）固化材吐出量　流量計で計測し記録する。
（４）掘削深度　　深度計で計測し記録する。
（５）掘削速度　　速度計計測し記録する。
（６）支持層強度　　トルク計で測定し記録する。

7.強度管理試験

本コラム又は採取用コラムより、100本毎に1箇所、1箇所あたり3個の供試体を採取する。

材令28日における圧縮強度試験結果が下記の式をクリアしなければならない。

合否の判定は、Ｎ箇所（抜取個数）の一軸圧縮強さの平均値ＸＮと合格判定値ＸＬの大小関係を比較する事で行う。（改良長3.0m以内は改良体頭部より採取しモールドコアとする。）

$X_N \geqq X_L = F_c + ka \quad \sigma d$

ここに、

X_N ：　Ｎ箇所の一軸圧縮強さの平均値　（kN/㎡）
X_L ：　合格判定値　（kN/㎡）
F_c ：　設計基準強度　（kN/㎡）
ka ：合格判定係数（下表による）（kN/㎡）
Ｎ ：検査対象層の抜取箇所数
σｄ：設計で想定したコア強度の標準偏差
　σｄ＝Ｖｄ・qud　（kN/㎡）
qud ：想定した一軸圧縮強さ（kN/㎡）
Ｖｄ：変動係数

抜取箇所数	Ｎ	１	２	３	４～６	７～８	９以上
合格判定係数	ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

※　品質に支障があった場合の処理
　品質に支障があった場合は、監督員と協議し適切な処置を行う。

8.施工報告書

工事完了後、次の事項について報告書をまとめ、監督員に提出する。

（１）コラム配置図及び番号　（２）施工年月日　（３）コラム径　（４）掘削長　（５）掘削深度
（６）固化材の使用量　（７）強度管理試験結果

ベースパックⅠ型

角形鋼管
F値295N/mm²以下
□-150×150 ～ □-300×300 用

（一財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」（平成30年9月21日付）

ベースパック柱脚工法 設計 施工 標準図

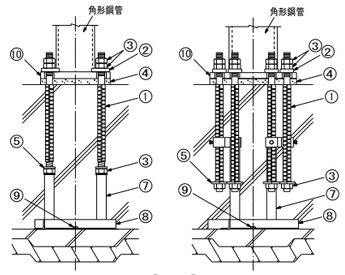
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社 TEL03（3624）5336
旭化成建材株式会社 TEL03（3296）3515

2021年4月作成

1．工法概要

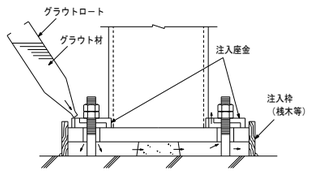
1．1 構成部材



①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースパックグラウト（グラウト材）
⑤定着座金
⑥テンプレート
⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑥～⑨は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1．2 柱脚の定着方法概要



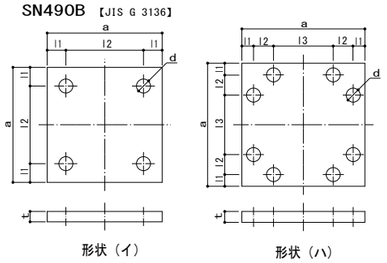
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	
	TSC295	

3．構成部材・寸法

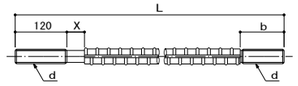
3．1 ベースプレート

●材質
SN490B 【JIS G 3136】



3．2 アンカーボルト（Mアンカーボルト） 【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

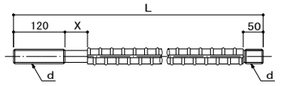
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L注1)	X	b注1)	基準強度 (N/mm²)
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合



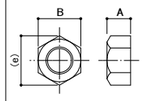
単位 mm

呼び d	異形部呼び名	L	X	基準強度 (N/mm²)
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

3．3 Mナット

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

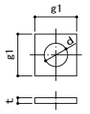


単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3．4 定着座金

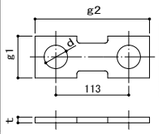
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

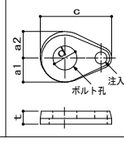


単位 mm

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3．5 注入座金

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

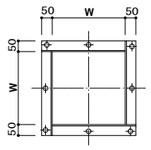


単位 mm

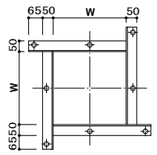
記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3．6 フレームベース

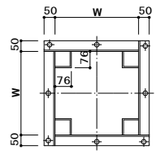
i）Aタイプ



ii）Cタイプ



iii）特Cタイプ

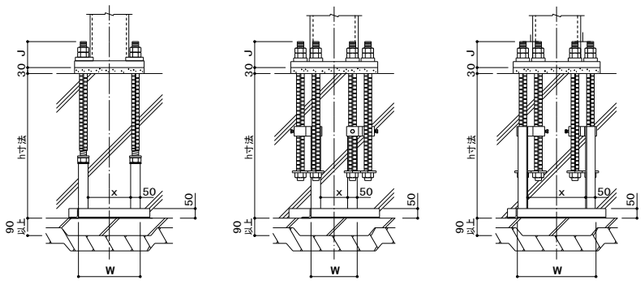


3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉　〈 Cタイプ ※ 〉　〈 特Cタイプ 〉

※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

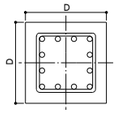


単位 mm

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

●形状
形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。

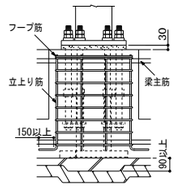


●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm²以上とする。

●鉄筋
SD295（D13, D16）
SD345（D19, D22）

4．2 配筋

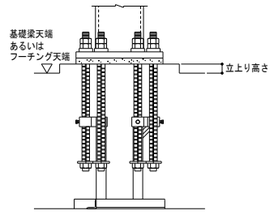
配筋仕様は下表による。



※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以上とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



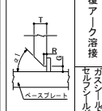
4．4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

採用
☐ 下表標準柱型寸法からの変更あり「柱型寸法最大・最小値一覧」による）
☐ 下表標準配筋仕様からの変更あり
☐ 立上り筋に頂部フックが必要

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｶｹﾞｷ線）に柱材軸心を合わせる。
■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。（JASS 6 鉄骨工事による）

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より ）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	−2, +∞ (−3, +∞)	2	−2, +1 (−2, +2)	α1：45	−2.5, +∞ (−5, +∞)	下向き
			9	−2, +∞ (−3, +∞)	2	−2, +1 (−2, +2)	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	−2, +∞ (−3, +∞)	2	−2, +1 (−2, +2)	α1：45	−2.5, +∞ (−5, +∞)	下向き
			7	−2, +∞ (−3, +∞)	2	−2, +1 (−2, +2)	α1：35		

許容差 ・記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（上段：管理許容差、下段括弧内：限界許容差）を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温（鋼材表面温度）が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) t＜32	32≦t＜40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50 ℃	50 ℃
CO2ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：7．本工法の施工及び施工管理参照。

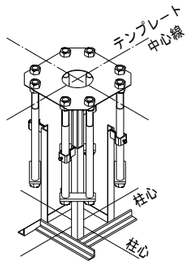
6．工事場施工

6．1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。
●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。
●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



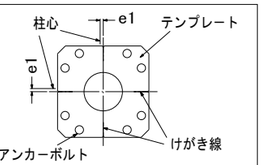


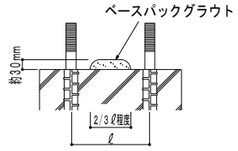
図	e1：柱心とテンプレートのけがき線との許容差
標準許容差	−2≦e1≦2 基準高さより誤差は −3≦e≦10

6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材１袋（6kg）に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。
●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。
●本工法のうち6．2アンカーボルト据付け及び6．6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。
●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	l1	l2	l3	d	アンカーボルト 本数-呼び	基準強度(N/mm²)	アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法D(mm) 標準フレーム	特C	配筋 立上り筋	フープ筋	設計基準強度(N/mm²)	フレームベース 寸法W(mm) 標準フレーム	特C	フレームポスト間 寸法X(mm) 標準フレーム	特C	最低h寸法(mm)	J寸法(mm)
	15-12V	□-150×150	t≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	−	φ45	4-M27	490	A	500	−	12-D16	D13@100	21以上	250	−	150	−	550	135
	17-12V	□-175×175	t≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	−	φ45	4-M30	490	A	530	−	12-D19	D13@100	21以上	280	−	180	−	600	135
	20-09V	□-200×200	t≦9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	−	φ45	4-M30	490	A	560	−	12-D16	D13@100	21以上	310	−	210	−	600	135
	20-12V	□-200×200	t≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	−	φ50	4-M33	490	A	560	−	12-D19	D13@100	21以上	310	−	210	−	600	135
●	25-09V	□-250×250	t≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	−	φ55	4-M36	490	A	610	−	12-D19	D13@100	21以上	360	−	260	−	650	150
●	25-12V	□-250×250	t≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	−	φ55	4-M39	490	A	630	−	12-D19	D13@100	21以上	370	−	270	−	650	150
	25-16V	□-250×250	t≦16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	490	C	620	640	12-D19	D13@100	21以上	240	440	140	300	650	135
	30-09V	□-300×300	t≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	−	φ55	4-M39	490	A	680	−	12-D22	D13@100	21以上	420	−	320	−	650	150
	30-12V	□-300×300	t≦12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	490	C	700	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	650	135
	30-16V	□-300×300	t≦16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	490	C	710	710	12-D22	D13@100	21以上	310	510	210	370	700	150
	30-19V	□-300×300	t≦19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	490	C	740	740	12-D22	D13@100	21以上	340	540	240	400	700	150

江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美

設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	N・S	佐賀県競馬組合	図面番号 S/24
図面名	ベースパック施工標準図/共通	設計	年 月 日	1級建築士登録 第 号	

ＱＬデッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様①
合成スラブ工業会仕様

JFE 建材 株式会社

［耐火認定FP60FL-9095,9101,FP120FL-9107,9113用］

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工規準 2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　［ISO 9001認証取得］

デッキプレート種類		板厚(mm)	表　面　処　理
■ＱＬ９９－５０ □ＱＬ９９－７５	端部加工 ■ｴﾝｸﾛ有り □無し	――	――――
		■1.2 □1.6	□裏面防錆処理(一次塗装) ＱＬプライマー(P)*1 ■亜鉛めっき　［ ■Z12　□Z27 ］ □JFEｴｺｶﾞﾙ(高耐食溶融めっき鋼板)　［ □Y18　□Y27 ］ □その他(　　)　□無し
材　質	ＪＩＳ Ｇ ３３５２に定めるＳＤＰ１Ｔ、ＳＤＰ２、ＳＤＰ２Ｇ		

*1 現場搬入までの一次防錆（ＪＩＳ Ｋ ５６２１ ２種または３種相当）

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート　□軽量コンクリート［ □１種　□２種 ］
設計基準強度	□１８　■２１　□２４　□（　　）Ｎ／mm²
厚さ(ＱＬデッキ山上)	□６０　□７０　■８０　□８５　□９０　□９５　□１００　□（　　）mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

□ 溶 接 金 網	ＪＩＳ Ｇ ３５５１	□φ６-７５×７５　■φ６-１５０×１５０ □φ６-１００×１００　□（　　）*2
□ 異 形 鉄 筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７	□Ｄ１０-１５０×１５０ □Ｄ１０-２００×２００　□（　　）
耐火補強筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７	Ｄ１３-@３００

*2 線形6mm以上を用いたもの

接　　合

梁 と の 接 合	□頭付きスタッド	JIS B 1198 □φ１３　□φ１６　□φ１９　□φ２２ (各長さ・ピッチは特記による*3)
	■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
	□打込み鋲	接合箇所には特記による
	□その他	

*3 最小長さはデッキ高さ+30mm以上とする

耐　　火

ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	耐火区分	支持条件	ｺﾝｸﾘｰﾄ種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50 QL99-75	床１時間	単純	普通/軽量	要	□ＦＰ０６０ＦＬ－９１０１
		連続		不要	□ＦＰ０６０ＦＬ－９０９５
	床２時間	単純		要	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１１３
		連続		不要	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１０７

注）床２時間は床１時間耐火を含む

その他	□指定なし　□（　　）□（　　）

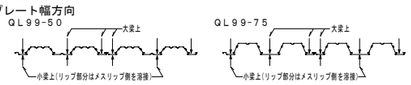
特　　記

支保工有無	
■無　□有	その他：

上欄内の採用項目に ■ を記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキプレート幅方向



デッキプレートスパン方向

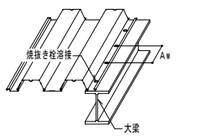
「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$$A_W = \frac{1.5Q_a}{Q_0} \times 1000\text{mm かつ}600\text{mm 以下}$$

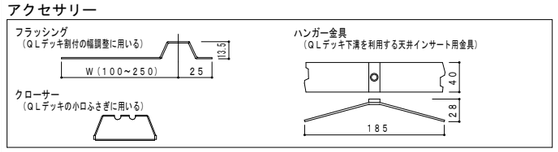
Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（Ｎ）
Q0：設計最大せん断力(Ｎ/m)
Aw：焼抜き栓溶接ピッチ

板厚	Qa (N)
1.2	4,900
1.6	7,350(SPW)、6,860(A.P.W)

Ａｗ ＝（ 600 ）mm
(注) 接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要



アクセサリー



施工時許容スパン表（デッキプレートの検討）

注１：普通コンクリート（単位体積重量24.0kN/m³）、表面処理が亜鉛めっきの場合
注２：() 数値は表面処理がめっきなしまたは塗装品の許容スパンを示す。
注３：表を超える場合は、別途支保工が必要です。

QL99-50　（単位：m）

コンクリート厚(mm)		60		70		80		90		100	
板厚(mm)		1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6
支持条件	単純(内法)	2.52 (2.52)	2.75 (2.75)	2.47 (2.47)	2.69 (2.69)	2.42 (2.42)	2.64 (2.64)	2.37 (2.37)	2.59 (2.59)	2.33 (2.33)	2.54 (2.54)
	2連続	3.38 (3.38)	3.67 (3.67)	3.31 (3.31)	3.61 (3.61)	3.24 (3.24)	3.54 (3.54)	3.18 (3.15)	3.47 (3.47)	3.12 (3.07)	3.41 (3.41)
	3連続	3.12 (3.12)	3.40 (3.40)	3.05 (3.05)	3.33 (3.33)	2.99 (2.99)	3.26 (3.26)	2.93 (2.93)	3.20 (3.20)	2.88 (2.88)	3.15 (3.15)

QL99-75　（単位：m）

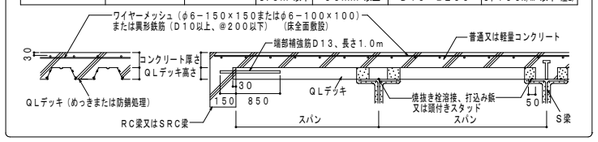
コンクリート厚(mm)		60		70		80		90		100	
板厚(mm)		1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6	1.2	1.6
支持条件	単純(内法)	3.31 (3.31)	3.61 (3.61)	3.24 (3.24)	3.55 (3.55)	3.18 (3.18)	3.48 (3.48)	3.13 (3.13)	3.42 (3.42)	3.07 (3.07)	3.37 (3.37)
	2連続	4.02 (3.89)	4.30 (4.30)	3.96 (3.78)	4.24 (4.24)	3.91 (3.67)	4.18 (4.18)	3.83 (3.58)	4.13 (4.13)	3.73 (3.49)	4.07 (4.07)
	3連続	3.78 (3.78)	4.05 (4.05)	3.73 (3.73)	3.99 (3.99)	3.68 (3.68)	3.93 (3.93)	3.63 (3.63)	3.88 (3.88)	3.58 (3.58)	3.83 (3.83)

耐　火　仕　様

【連続支持合成スラブ】

支 持 梁 ：鉄骨(S)梁 及び 大梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁：鉄骨(S)梁
コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.0m 以下	80mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	φ６－１００x１００	4,400N/m²以下 注2)
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	3.0m 以下	80mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)Ｂ 参照
			3.6m 以下	95mm 以上	Ｄ１０－@２００	5,400N/m²以下 注2)
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	85mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
			3.6m 以下	90mm 以上	Ｄ１０－@２００	5,400N/m²以下 注2)

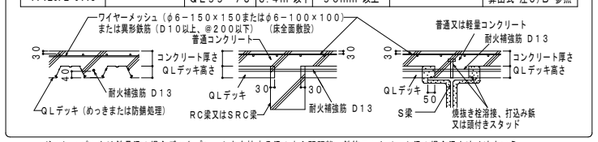


【単純支持合成スラブ】

支 持 梁 ：鉄骨(S)梁　　コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/mm² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）
耐火補強筋 ：Ｄ１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	品　名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	80mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下			算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	95mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)Ｂ 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	2.7m 以下	85mm 以上		算出式 注5)Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	3.4m 以下			算出式 注5)Ｂ 参照

支持梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁の場合　　コンクリート：設計基準強度１８Ｎ/mm² 以上の普通コンクリート
耐火補強筋：Ｄ１３（デッキプレート各溝@３００）



注１）スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
注２）スパンが３．４ｍを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド（軸径１６ｍｍ以上、ピッチ３００ｍｍ以下）で結合する。
注３）鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、打込み鋲、または頭付きスタッドを用いる。
注４）梁の耐火被覆　梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注５）許容積載荷重Ｗ　算出式　　ℓ：支持スパン（m）

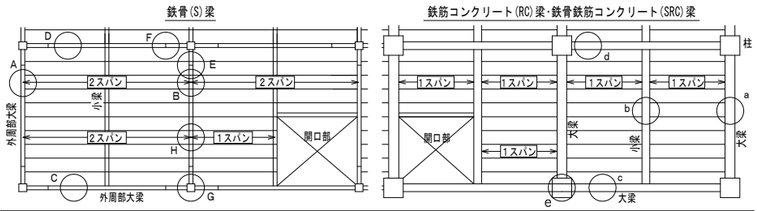
［A］ＱＬ９９－５０	［B］ＱＬ９９－７５
$W = 5,400 \times \left(\frac{2.7}{\ell}\right)^2$ かつ９，８００ N/m² 以下	$W = 5,400 \times \left(\frac{3.4}{\ell}\right)^2$ かつ９，８００ N/m² 以下

※許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上げ荷重も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。

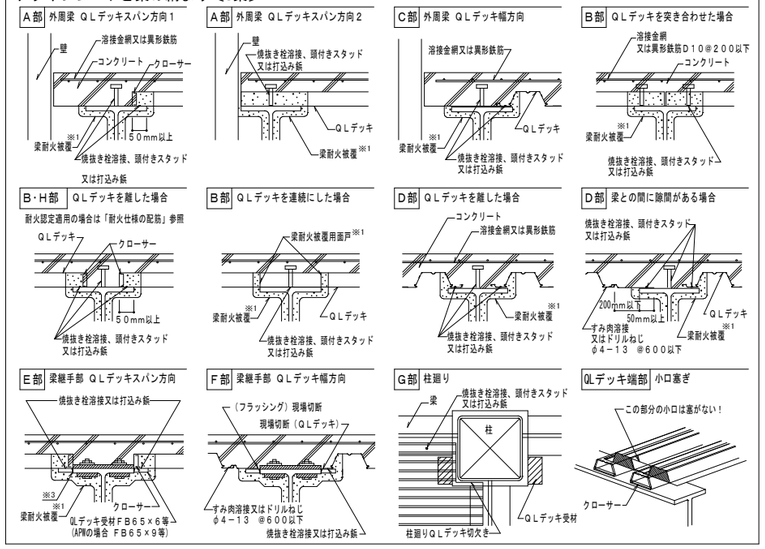
付帯条件
連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは２スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔(スパン比３：２を超えない程度※)に支持されるものとする。
※合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」参照

標　準　納　まり

図中※１は、梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。　※２はＱＬデッキ耐火認定を適用する場合に必要。
※３ 溶接方法等は別途検討が必要。（合成スラブ工業会Ｑ＆Ａ参照）

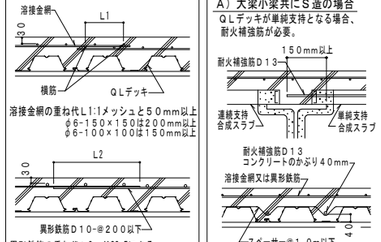


デッキプレートと梁の納まり〔S梁〕



スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０ｍｍになるようレベル保持し、全面に配筋する。



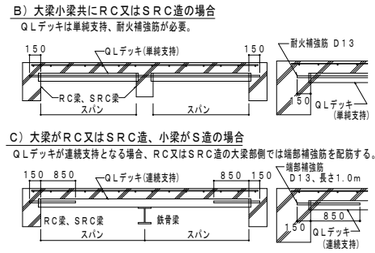
耐火仕様の配筋

・ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はＪＡＳＳ５鉄筋コンクリート工事による。
・耐火補強筋・端部補強筋が必要な場合、ＱＬデッキの各溝中央部にかぶり４０ｍｍで配筋する。
・耐火補強筋、端部補強筋共、梁へ１５０ｍｍ以上定着させる。梁上で定着が１５０ｍｍとれない場合は、Ｌ型に曲げて１５０ｍｍ以上を確保する。

A）大梁小梁共にＳ造の場合
ＱＬデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋が必要。

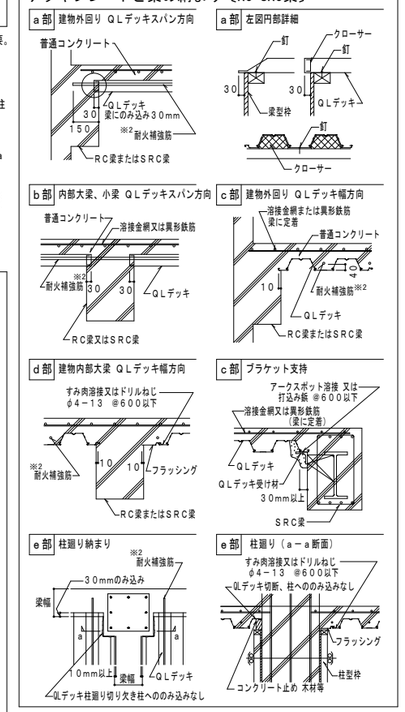
※配筋のスペーサーはφ４．０ｍｍ以上鉄線またはセメントブロックを用いて間隔は１．０ｍ以下とする。

B）大梁小梁共にＲＣ又はＳＲＣ造の場合
ＱＬデッキは単純支持、耐火補強筋が必要。



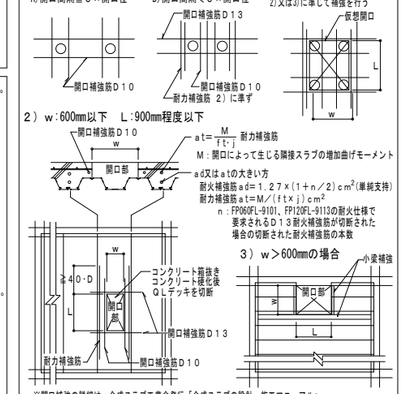
C）大梁がＲＣ又はＳＲＣ造、小梁がＳ造の場合
ＱＬデッキが連続支持となる場合、ＲＣ又はＳＲＣ造の大梁部側では端部補強筋を配筋する。

デッキプレートと梁の納まり〔RC・SRC梁〕



開口部補強案

1）開口がφ１５０程度の場合
A)開口間隔≧３×開口径　B)開口間隔＜３×開口径　C)開口が連続している場合
連続する開口の開口群(仮想開口)と見なし、その開口部の大きさにより、2)又は3)に準じて補強を行う



※開口補強の詳細は、合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」
（1）合成スラブの設計　4．合成スラブの開口補強方法　を参照する。

施工

施工順序

墨出し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
ＱＬデッキと梁との接合
1）頭付きスタッド
2）打込み鋲
3）焼抜き栓溶接
↓
溶接金網敷込み
↓
検　査
↓
コンクリート打設

敷　込　み

鉄骨梁の場合
1）墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数(５～１０枚)ごとに仮止め溶接する。
2）各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るように敷込む。

デッキプレート幅方向のかかり代は、５０ｍｍ以上あることを確認する。
(頭付きスタッドの場合は３０ｍｍ以上)
3）デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、５０ｍｍ以上あることを確認する。

ＲＣ梁またはＳＲＣ梁の場合
1）デッキプレートは柔型枠に釘止める。
2）デッキプレートの柔型枠へのみ込み代が幅方向１０ｍｍ以上、長手方向が３０ｍｍあることを確認する。

ＱＬデッキプレートと梁との接合

1）頭付きスタッド
施工は、JASS6「鉄骨工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

2）打込み鋲
施工は打込み鋲製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へご確認下さい。
日本ヒルティ(株)

3）焼抜き栓溶接
国土交通省告示第３２６号(平成14年4月16日制定)及び国土交通省告示第６００６号(平成19年6月20日改正)の第２接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件：黒皮または一般錆止め塗装）
合成スラブ工業会主催の「焼抜き栓溶接講習会」の受講が望ましい。

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］ ―アーク手溶接―

（１）溶接機
交流アーク溶接機 ＡＷ２５０Ａ以上　エンジン溶接機 ２３０Ａ以上
（２）溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916 に定める低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４ｍｍのものを
（３）標準溶接条件
梁フランジ板厚：６ｍｍ以上
溶 接 電 流 ：１９０～２３０Ａ(標準２１０Ａ)
（４）溶接工の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841 における基本級の有資格者
（５）手順・要領
右の１～４の順に行う。

	工　程	手　順・要　領
1	アーク発生	ＱＬデッキを梁になじませ(隙間２ｍｍ以下)溶接棒をＱＬデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	ＱＬデッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径10mm弱で"の"の字を描いてＱＬデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ２～３回転しながら溶棒。
4	整　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値２１０Ａ(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］ ―ＣＯ２アークスポット溶接 ―

（１）一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　１８ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
発電機の場合　３５ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
（２）ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ１．２ｍｍ
（３）標準溶接条件：下表

ＱＬデッキ板厚	梁フランジ板厚	電流（Ａ）	電圧（Ｖ）	アークタイム（秒）
１．２ｍｍ	６～９ｍｍ未満	３００～３２０	３３～３５	３．０～４．０×１度打ち
	９ｍｍ以上	３００～３２０	３３～３５	３．０～４．０×２度打ち
１．６ｍｍ	６～９ｍｍ未満	３００～３２０	３４～３６	３．５～４．５×１度打ち
	９ｍｍ以上	３００～３２０	３４～３６	４．０～４．５×２度打ち

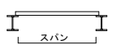
注１．デッキプレート　板厚１．２、１．６ｍｍ　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
２．ＣＯ２ガス流量：２０ℓ／分以上

検　査

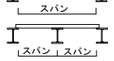
【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ．Ｐ．Ｗ）】
□事前検査
ＳＰＷ：適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で電流値をチェックする。
1）検査計での計測
2）溶接棒の消費長さによる確認 ―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約３ｍｍに保持し、１０ｍｍ程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３ｍｍであること。
Ａ．Ｐ．Ｗ：試し溶接を行って溶接径を確認する。
□溶接後の外観検査
1）溶接箇所の確認　2）焼き切れ、余盛り不足の有無
3）標準余盛り径　SPW：18mm以上　A.P.W：25mm±3
□不良部の補修
ＳＰＷ　の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
Ａ．Ｐ．Ｗの場合：重ね溶接して補修する。
【そ の 他】
(1)ＱＬデッキ相互の嵌合状況　(2)ひび割れ拡大防止筋の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

S造・施工時のスパンの取り方

【単純支持】



【連続支持】



その他の納まり・参考例等については、ＱＬデッキ施工マニュアルまたは別途『納まり図』(技術資料CADデータ収録)を参照下さい。

2021/7/01

	設計変更年月日
	１回　年　月　日
江口建築設計事務所　事務所登録 第は-1228号	２回　年　月　日
一級建築士建設大臣登録第262723号　江口達美	３回　年　月　日
構造設計一級建築士　第 4894 号　江口達美	

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	N・S	佐賀県競馬組合	図面番号 S/25
図面名	ＱＬデッキ施工標準図/共通	設計	年　月　日	１級建築士登録　第　　号	

新22号・23号・25号きゅう舎新築工事　特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1. 工事場所　鳥栖市江島町字西谷3256-228

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積(㎡)	消防法施行令別表第一区分	備考
22号・23号・25号きゅう舎	S	2	637.99	(16項) ロ	

3. 工事種目及び工事科目（〇印の付いたものが対象工事）

施工範囲別 ＼ 工事科目	工事種目 22号・23号・25号きゅう舎					屋外
⊙ 電灯設備	新設　1式					
・ 動力設備						
・ 電熱設備						
・ 雷保護設備						
・ 受変電設備						
・ 電力貯蔵設備						
・ 発電設備						
⊙ 構内情報通信網設備	新設　1式					
⊙ 構内交換設備	新設　1式					
・ 情報表示設備						
・ 映像・音響設備						
・ 拡声設備						
・ 誘導支援設備						
⊙ テレビ共同受信設備	新設　1式					
⊙ 監視カメラ設備	新設　1式					
・ 駐車場管制設備						
・ 防犯・入退室管理設備						
・ 自動火災報知設備						
・ 中央監視制御装置						
・ 構内配電線路						
・ 構内通信線路						
・ 撤去工事						
・ 仮設工事						

4. 指定部分　・ 無　・ 有（工期：令和　年　月　日）
（一部完成）　（対象部分：　　）

5. 設備概要
設備方式は、・に〇印の付いたものを該当項目とする。

電灯設備	1	照明器具	⊙一般照明　・非常照明（・電源内蔵　・電源別置）
	2	EPS	・有　・無
動力設備	1	設備概要	・空気調和　・暖房　・冷房　・ＥＬＶ ・換気　・給排水　・消化　・排煙
雷保護設備	1	受雷部	・突針　・棟上げ導体
受変電設備	1	設備方式	・キュービクル式配電盤　・開放形配電盤
	2	型式	・屋内型　・屋外型
発電設備	1	発電機	・（　）相（　）線式（　）V ・定格出力（　）kVA　・運転時間（　）時間
		原動機	・ディーゼル　・ガスタービン
		燃料	・軽油　・灯油　・A重油
	2	太陽光発電装置	・太陽電池アレイ公称出力（　）kW　・系統連系（有／無）
	3	その他発電装置	・（　）発電装置　定格出力（　）kVA
通信・情報設備	1	構内情報通信網装置	・ネットワーク管理装置　・ファイヤウォール ・リピータ　・ルータ　⊙配管、配線
	2	構内交換装置	・電子交換機　・ボタン電話装置　⊙配管、配線
	3	情報表示装置	・マルチサイン装置　・情報表示装置　・チャイム ・時刻表示装置　・出退表示装置
	4	映像・音響装置	・映像装置　・音響装置
	5	拡声装置	・一般放送用　・非常放送用
	6	誘導支援装置	・音声誘導装置　・インターホン　・呼出装置
	7	テレビ共同受信装置	⊙UHS　・BS　・CS　・有線（CATV）
	8	テレビ電波障害防除装置	・有　・無
	9	監視カメラ装置	・カメラ　・ビデオモニタ　・タイムラプスVTR ・デジタルレコーダ　⊙配管
	10	駐車場管制装置	・管制装置　・検知器　・信号灯 ・警報灯　・発券機
	11	防犯・入退室管理装置・制御装置	・制御装置
	12	自動火災報知装置	・P型受信機　・R型受信機
	13	自動閉鎖装置	・防火戸用　・防火シャッター用　・防煙ダンパー用
	14	非常警報装置	・埋込形　・露出形
	15	ガス漏れ火災警報装置	・液化石油ガス用　・都市ガス用
中央監視制御設備	1	方式	・警報盤　・簡易型監視制御　・監視制御
構内配電線路	1	ふ設方式	・架空線式　・地中埋込式
構内通信線路	1	ふ設方式	・架空線式　・地中埋込式

Ⅱ　工事仕様書

1. 共通仕様
(1) 図面及び特記仕様書に記載されてない事項は、国土交通省官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和4年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（令和4年版）」（以下、「標準図」という。）による。

(2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、機械設備工事の工事仕様書は（　/　）図、建築工事の工事仕様書は（　/　）図による。

(3) 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合、排出ｶﾞｽ対策型建設 機械を使用するものとする。なお、排出 ガス対策型建設機械に代えて、認定された排出ガス浄化装置を装着した建設機械についても、同等の建設機械とみなすものとする。

※ 排出ｶﾞｽ対策型建設機械とは、指定要項に基づき指定された排出ｶﾞｽ対策型建設機械をいう。

2. 特記仕様
(1) 項目は、番号に〇印のついたものを適用する。
(2) 特記事項のうち複数の項目から選択する事項は、・に〇印の付いたものを適用する。

項目	特記事項
① 材料・機材の品質等	(1) 本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 (2) 本工事において別表-1に示す材料を使用する場合の材料・機材等の製造業者等は次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データを整理していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。
② 環境への配慮	(1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ①合板、木質フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝剤、断熱材、塗料、仕上剤は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③接着剤は、可塑性（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 (2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する　材料を指し、同区分「第三種」とは③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③ 電気工作物の種類	・事業用電気工作物　⊙一般電気工作物
④ 電気保安技術者	工事現場において電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 ⊙要　・不要
5 電気工事士	契約電力500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工を行う。
⑥ 工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力、水、及び官公署その他への諸手続などの費用は、すべて請負業者の負担とする。
⑦ 工事用仮設物	構内につくることが　⊙できる　・できない
⑧ 監督員事務所	・設ける（　号）　⊙設けない
9 仮設備	仮設備項目（・受変電　・発電　・　） 仮設備期間（・図示　・　・　）
⑩ 施工調査	改修標準仕様書によるほか、下記による。 事前調査　⊙本工事　・別途工事） 調査項目　⊙既存資料調査　・　） 調査範囲及び方法（・図示　⊙既存図面調査及び目視調査　） 非破壊検査（費用は別途）
⑪ 足場その他	・別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。 ⊙本工事で設置する。 ・内部仮設足場等（・　種　・　種） ・外部仮設足場等（・　種　・　種）
⑫ 形状・寸法等	姿図の形状寸法等は、図面表示と多少相違してもよい。 ただし、監督員の承諾を受けるものとする。
⑬ 配線本数、管路等	分電盤、制御盤、端子盤等の2次側以降の配管配線経路、配線太さ、配線本数、管径等は、図面と相違しても差しつかえない。 ただし、監督員の承諾を受けるものとする。
14 金属製電線管の塗装	露出配管は塗装を行う。　・屋外　・屋外（　）
⑮ 屋外の支持金物	屋外の支持金物、ボルト及びナットなどは、溶融亜鉛めっき仕上げ又はSUS製とする。
⑯ 耐震措置	設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計施工指針２０１４年版」（独立行政法人建築研究所監修）による。 なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督職員に提出し、承諾を受けるものとする。 (1) 設計用水平地震力 機器の重量[kN]に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用標準水平震度は、次による。

設計用標準水平震度(Ks)

設置場所	機器種別	耐震安全性の分類 ・特定の施設 重要機器	・特定の施設 一般機器	⊙一般の施設 重要機器	⊙一般の施設 一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
地下・１階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6

【備考】
水槽類には、オイルタンク等を含む。
重要機器は次のものを示す。
・受変電機器　⊙配、分電盤　・発電設備　・直流電源装置
・交流無停電電源装置　・交換機　・自動火災報知受信機
・中央監視装置　・通信総合盤

(2) 上層階の定義は次による。
２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、10～12階建の場合は上層３階、13階以上の場合は上層４階
中間階とは地階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの。
(3) 設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。
(4) 重量1kN以下の軽量な機器の耐震支持については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）に準拠あるいは同等な設計用地震力に耐える方法で設計・施工すること。

17 地盤変位への対応	想定沈下量（・小規模　・中規模　・大規模）
18 はつり	既存のコンクリート床、壁などの貫通部の穴開けは、図面に特記なき場合、原則としてダイヤモンドカッターによる。 なお、図面に特記がある場合、走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行うこと。
19 撤去後の補修	壁付器具、床置器具、天井付器具撤去後の取付けボルト孔、壁面、天井面の変色等は監督員と協議して補修を行う。
20 電路の保護	図面に特記なき引き下げ又は立ち上げ部分及び露出部分の配線はＭＭ１（Ａ型）にて保護する。貫通部分の配線は、金属管などにて保護する。
㉑ 照明器具の接地	コードペンダント以外の放電灯器具、LED照明器具及び水気のある場所の白熱灯器具は、接地する。ただし、二重絶縁構造等、接地の省略が可能なものは、監督員との協議による。（対地電圧が交流150V以下のLED照明器具を乾燥した場所に施設する場合は、監督員と協議し省略することができる。）
22 絶縁抵抗測定	取外し再使用機器及び改修に関わる電路は、性能確認のため絶縁抵抗測定を行う。
23 インバータ装置の規約効率	三相可変速電動機用インバータ装置の規約効率は、次の数値以上とする。

電動機出力(kW)	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5
規約効率(%)	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5

電動機出力(kW)	11	15	18.5	22	30	37	45
規約効率(%)	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5

【備考】
(1) 規約効率は、JEM-TR 245 「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。

(2) 規約効率は、JIS C 4212 「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V、IP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。

(3) 0.75kW以上の効率は、JIS C 4213「低圧三相かご形誘導電動機ートップランナーモーター」の定格電圧200V、IP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする

㉔ 接地極	接地極の材料は下表による。なお、設置棒EB（14φ）の長さは1500mm以上とする。

接地の種類	記号	接地極	
共同接地		EP-0.9(900×900×1.5t)	1枚以上
		EB　(14φ、L=1500)	2本以上
A種接地			6本以上
B種接地			2本以上
C種接地			6本以上
D種接地			1本以上
高圧避雷器			6本以上
雷保護用		EP-0.6(600×600×1.5t)	2枚以上
構内交換機用		EP-0.9(900×900×1.5t)	1枚以上
		EB　(14φ、L=1500)	2本以上
電話引込口の保安器用			1本以上
通信用			6本以上
通信用			1本以上
測定用			1本以上

㉕ 呼び線	長さ１ｍ以上の入線しない電線管には１．２ｍｍ以上のビニル被覆鉄線を挿入し、行先表示を行う。
㉖ 盤類の塗装	盤類キャビネットの塗装は、指定色仕上げとする。
27 特定建設資材の処理	本工事は「建設工事に係る資材の再生資源化等に関する法律」（平成１２年５月３１日法律１０４号）の対象建設工事であり、分別解体、特定建設資材の再資源化等について適切な処理を行う。 ただし、工事契約後にやむを得ない事情により予定した条件により難い場合は監督職員と協議する。 分別解体・再資源化等の完了時に、以下の事項を書面にて監督職員に報告する。 (1) 再資源化等が完了した年月日 (2) 再生資源化等をした施設の名称及び住所 (3) 再生資源化等に要した費用

分別解体の方法

工程	作業内容	分別解体の方法
・ 建設設備 ・ 内装材等	建設設備・内装材の取り外し （・有　・無）	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用
・ その他 （　）	その他の取り壊し （・有　・無）	・ 手作業 ・ 手作業、機械作業の併用

特定建設資材廃棄物の種類と再生資源化等をする施設

特定建設資材廃棄物の種類	再生資源化等をする施設の名称	所在地
・ コンクリート		
・ コンクリート及び鉄から成る建設資材		
・ 木材		
・ アスファルト・コンクリート		

再生資源利用計画書及び実施書は、建設副産物情報交換システム（コブリス）にて作成し提出すること。

28 発生材の処理等	発生材一時保管、集積場所構内に（・有　・無） ・ 引渡しを要するもの （・金属類　・電線、ケーブル類　・蓄電池　・照明器具） ・ 特別管理産業廃棄物 （・PCB使用機器　・　） ・ PCB使用機器の有無については、調査を行い結果を監督員に報告する。 ・ PCB使用機器の取り扱いについては、監督員の指示を受ける。 ・ 発生資源利用物 （・ランプ類　・電線、ケーブル類　・　） ・ 引渡しを要するもの及び再生資源化を図るもの以外は、構外適切搬出処理とする。
29 建設発生土の処理	・ 構内敷きならし　・ 構内指定場所へのたい積 ・ 構外搬出　・ 再利用を図る

分類	受け入れ場所	搬出距離
建設発生土		

上記に示す受け入れ場所・搬出距離は参考であり、実施にあたっては監督員と協議のうえ決定する。

設計変更年月日	
１回	年　月　日
２回	年　月　日
３回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社 渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版：ＮＳ A3版：ＮＳ
図面名	特記仕様書（電気設備工事）その１	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合
１級建築士登録　第　号

図面番号 E/01

30 地中埋設標	地中埋設標を設ける。材質個数は図示による。 （・電力用　　・通信用）
31 標識シート	低圧地中幹線路及び通信地中幹線路にも設ける。
32 外灯ポール	外灯ポールは、亜鉛付着量３５０ｇ／ｍ（JIS H8641「溶融亜鉛めっき」に規定するＨＤＺ３５以上の溶融亜鉛めっきを施したものとする。（エッチングプライマー、指定色仕上）
㉝ 線名札	幹線に取付る線名札には、施工年月及び施工業者名を記入する。
34 ハンドホール内のケーブル余長	建物直近のハンドホールでは、内部でケーブル１巻分の余長を取ること。
㉟ 機器取付高さ	図面に特記なき場合は、別表-2による。
㊱ 他工事または他工種との工事区分	図面に特記なき場合は、別表-3による。

○別表-1

品目	機材等	適用
照明器具	LED照明器具(一般屋内用に限る)	（一社）公共建築協会の「建築材料･設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿」
盤類	分電盤（実験盤を含む）	
	制御盤	
	可変速運転用インバータ装置	
	照明制御装置	
高圧機器	キュービクル式配電盤	
	高圧交流遮断器	
	高低圧変圧器	
	高圧進相コンデンサ	
	高圧限流ヒューズ	
	高圧負荷開閉器	
	高圧スイッチギア(OW,PW)	
交流無停電電源装置		
太陽光発電装置	パワーコンディショナー及び系統連携系保護装置	
監視カメラ装置		
中央監視制御装置	監視制御装置	

○別表-2

名称		測点	取付高(mm)
電力	取付用計器	地上 ～ 窓中心	1,500
	引込開閉器	床上 ～ 中心	1,500
	分電盤、OA盤 制御盤、実験盤	〃	1,500 （上端1,900以下）
	開閉器箱	床上 ～ 中心	1,500
	電磁開閉器用 押ボタン	〃	1,300
	接地極埋設標	地上 ～ 中心	600
	給油ボックス	地上 ～ 給油口	1,000
通信	スイッチ	床上 ～ 中心	1,300
	多機能トイレ スイッチ	〃	1,100
	コンセント　一般	〃	300
	コンセント　換気扇	〃	1,600～2,100
	コンセント　便所	〃	500
	コンセント　エアコン	天井下 ～ 上端	200～300
	コンセント　台上	台上 ～ 中心	150
	コンセント　車庫	床上 ～ 中心	800
	コンセント　車椅子	天井下 ～ 上端	900
	ブラケット　出入口	床上 ～ 中心	1,500～2,000
	ブラケット　浴室	〃	1,500～2,000
	ブラケット　踊り場	〃	2,500
	ブラケット　一般	〃	2,100
	ブラケット　鏡上	鏡上端 ～ 中心	150
	避難口誘導灯	床上 ～ 下端	1,500以上
	廊下通路誘導灯	床上 ～ 上端	1,000以下
動力	手元開閉器	床上 ～ 中心	1,500
	操作スイッチ	床上 ～ 中心	1,300
	警報盤	床上 ～ 中心	1,800
構内交換	端子盤（室内）	床下 ～ 上端	300
	集合保安器箱	天井下 ～ 上端	200
	電話用アウトレット	床上 ～ 中心	150～400
	電話用アウトレット （台上）	台上 ～ 中心	150
電気時計・拡声	壁掛形親時計	床上 ～ 中心	1,500
	子時計	〃	天井高×0.9
	壁掛形スピーカ	〃	天井高×0.9
	壁付アッテネータ	〃	1,300
	時報子時計	〃	2,300

名称		測点	取付高(mm)
表示	表示器	床上 ～ 中心	天井高×0.9
	据付発信器	〃	1,300
	ベル・ブザー チャイム	〃	1,500～2,300
	壁付押ボタン	〃	1,300
インターホン	インターホン	〃	1,300
	外部受付用	〃	標準図による
	壁付位置ボックス（一般）	〃	300～400
	多目的トイレ　親機	〃	1,300～1,500
	多目的トイレ　子機	〃	1,100～1,500
	多目的トイレ　呼出ボタン	〃	900
	多目的トイレ　復帰ボタン	〃	1,800
	多目的トイレ　表示灯	〃	2,000
	多目的トイレ　親ﾄｲﾚ	〃	1,100～1,500
テレビ共同受信	直列ユニット （一般）	〃	300
	直列ユニット （和室）	〃	150
	機器収容箱	〃	1,800
	テレビ端子	〃	150～400
	直列ユニット （台上）	台上 ～ 中心	150
	機器収容箱	床上 ～ 中心	800～1,500
自動火災報知設備	発信機	〃	800～1,500
	火報受信機 （複合盤）	床上 ～ 操作部	800～1,500
	副受信機	床上 ～ 中心	1,500
	警報ベル	床上 ～ 上端	天井高×0.9
	表示灯	床上 ～ 中心	天井高×0.8
	連動制御器 （自動閉鎖）	〃	1,500
	ガス漏れ検知器　LPガス	床上 ～ 上端	300
	ガス漏れ検知器　都市ガス	天井面 ～ 中心	天井面 -200
端子箱	接地用	床上 ～ 中心	500
	雷保護接地用	床上 ～ 下端	800
	端子盤 (EPS・電気室)	床上 ～ 中心	1,500

【備考】　天井高×0.9及び天井高×0.8は、天井高が2,500～3,000mmの場合に適用する。
取付高については、事前に監督員と協議する。

他工事との工事区分表

○別表-3

工事内容				本工事	建築工事	機械設備工事
機器の基礎	電気関係	配電盤・制御盤の基礎	屋内			
			屋外			
			屋上			
		テレビアンテナ基礎				
		避雷針の基礎				
		特記した基礎				
	機械関係	屋内設備				
		屋上設備(架台、アンカーボルトを除く)				
		屋外設備（　　〃　　）				
		架台・ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ				
		特記した基礎				
開口部	梁、床、壁 貫通スリーブ	補強を要するもの			●	
		補強を要しないもの		●		●
	梁、床、壁 貫通部型枠	補強を要するもの			●	
		補強を要しないもの		●		●
	軽量鉄骨下地 壁・天井ﾎﾞｰﾄﾞ 類の切込	補強を要するもの			●	
		補強を要しないもの （アウトレットボックスは除く）		●		●
	埋込形分電盤、 端子盤等の型枠	補強を要するもの			●	
		補強を要しないもの				●
	上記開口部の墨出し			●		
	上記開口部の補強				●	
	スリーブの穴埋め（型枠の穴埋めを含む）				●	
	OA フロアー配線器具用					
点検口	床、壁、天井				●	
外部取付ｶﾞﾗﾘ	ダクト、チャンバーの接続用フランジを含む					
点検口	オイルサービスタンクの防油堤、タンク基礎					
床下水槽のマンホールふた						
ガス漏れ検知器						
消火栓組込み機器収納箱内配線整理用端子板						
湯沸室の排気フード						●
換気扇	本体					●
	取付枠					●
流し台	本体（排水トラップ共）					●
	水栓					●
浴　槽						●
身障者用便所手摺り						
電気配管配線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）					
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線			●		
	自動制御盤と動力盤との電源供給の渡り配管配線					
	自動制御盤と動力盤との操作回路の渡り配管配線					
	機器と付属操作スイッチ等との渡り配線					●
	機器と付属操作スイッチ等との渡り配管					●
	機器と付属操作スイッチ					●
	機器と付属操作スイッチの埋込ボックス					●
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパー及び排煙口に至る配管配線					
	小便器用節水装置制御盤以降の配管配線					
	自動ドア及び電動シャッタなどの制御部への電源供給					
	自動ドア及び電動シャッタなどの制御部と操作スイッチ間の配管配線及び操作スイッチ					
	防火扉レリーズ					
	電極棒					
	配線ピット及びふた					
	別途機器などへの接続					
システム天井	ボード・ｔバー					
	照明ライン設備プレート					
	空調ライン設備プレート					
電子錠	電気錠及び通電金具					
	テンキー及び制御盤					
浄化槽	杭工事					
	土工事					
	基礎工事					
	電気工事					
水道リモートメーターの配線						
水道リモートメーターの配線の結線と調査						

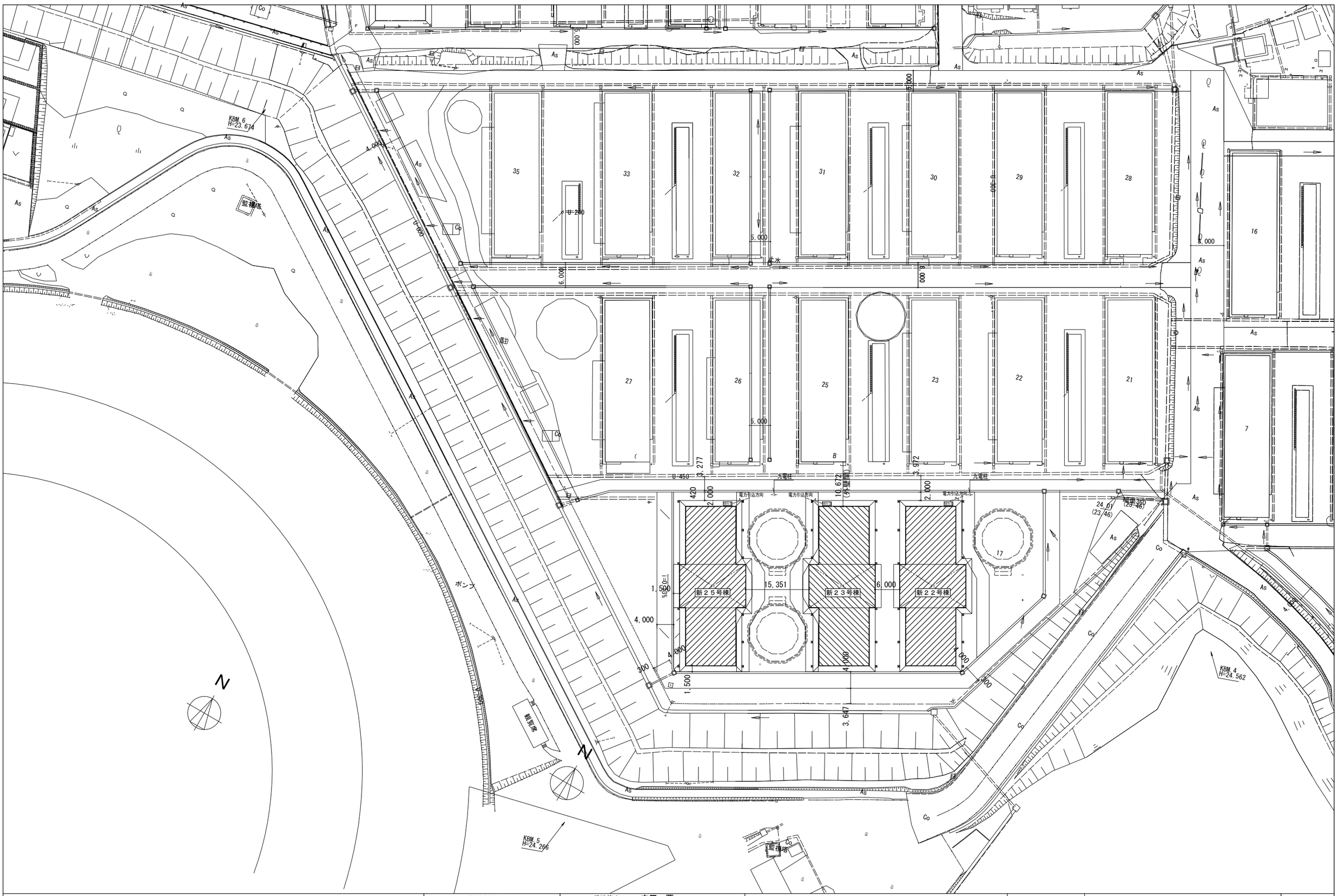
設計変更年月日			
1回	年	月	日
2回	年	月	日
3回	年	月	日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社 渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺	A1版：ＮＳ A3版：ＮＳ
図面名	特記仕様書（電気設備工事）その２	設計	年　月　日

佐賀県競馬組合
１級建築士登録　第　　号

図面番号 E/02



設計変更年月日	
1回	年 月 日
2回	年 月 日
3回	年 月 日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名　部分配置図

縮尺　A1版 1:400　A3版 1:800

設計　年 月 日

佐賀県競馬組合

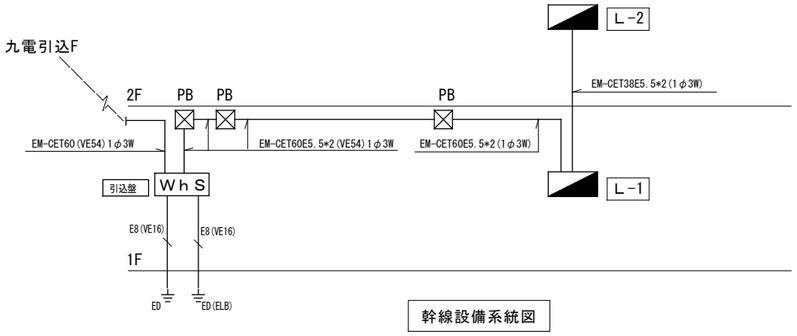
１級建築士登録　第　　号

図面番号　E / 03

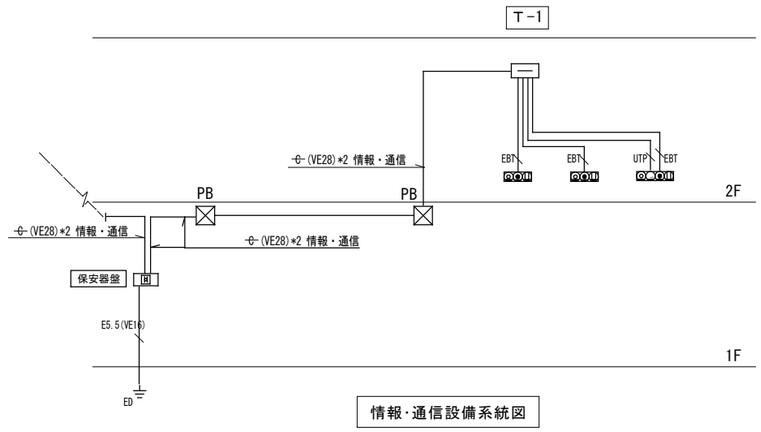
凡例

※配線器具プレートは新金属製とする

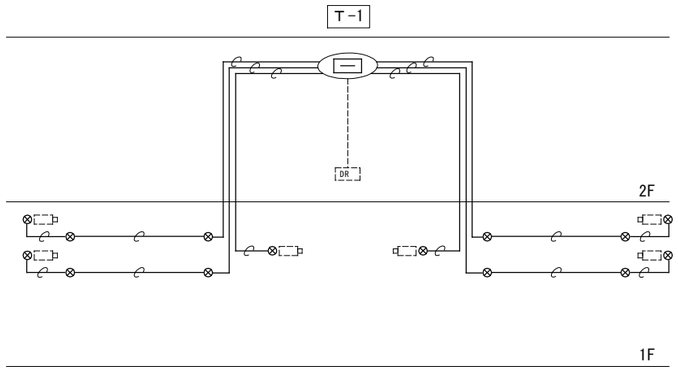
記号	名称	規格・備考
WhS	電力ﾒｰﾀｰ収納函	電力会社取付
	分電盤	分電盤ﾘｽﾄ参照
通	通信保安器盤	屋外壁掛型
	照明器具	姿図参照
	照明器具	姿図参照
	埋込スイッチ	１Ｐ１５Ａ×１
3	埋込スイッチ	３Ｗ１５Ａ×１
WP	埋込スイッチ	１Ｐ１５Ａ×１（防水）
P	埋込スイッチ	１Ｐ４Ａ×１（運転表示付）
3P	埋込スイッチ	３Ｗ４Ａ×１（運転表示付）
4L	フル２線式 リモコンスイッチ	４Ｌ
24L	フル２線式 リモコンスイッチ	２４Ｌ
	埋込引掛ｼｰﾘﾝｸﾞ	２Ｐ１５Ａ（ﾊﾝｶﾞｰ付）
2	埋込コンセント	２Ｐ１５Ａ×２
E	埋込コンセント	２Ｐ１５Ａ×１Ｅ
ET	埋込コンセント	２Ｐ１５Ａ×１　ＥＴ付
2ET	埋込コンセント	２Ｐ１５Ａ×２　ＥＴ付
AC	埋込コンセント（天井付）	２Ｐ１５Ａ×１　ＥＴ付
WPE	埋込コンセント	２Ｐ１５Ａ×２　防水ＥＴ付
	ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ	
2	埋込コンセント 電話受口 情報受口 TV受口 4SSB（ｾﾊﾟﾚｰﾀｰ付）	２Ｐ１５Ａ×２ 電話ＭＪ付 情報ＭＪ付 直列ﾕﾆｯﾄ75Ω*1
2	埋込コンセント 電話受口 TV受口 3SSB（ｾﾊﾟﾚｰﾀｰ付）	２Ｐ１５Ａ×２ 電話ＭＪ付 直列ﾕﾆｯﾄ75Ω*1
2	埋込コンセント TV受口 2SSB（ｾﾊﾟﾚｰﾀｰ付）	２Ｐ１５Ａ×２ 直列ﾕﾆｯﾄ75Ω*1
	誘導標識	蓄光式
	端子盤	リスト参照
	TV機器収納函	TV機器別途工事
DR	ﾚｺｰﾀﾞｰ	別途工事
	監視カメラ	別途工事
	換気扇（天井付）	機械設備
24H	換気扇（天井付）	機械設備（24H換気）
RF	換気扇（ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ）	機械設備
	換気扇（壁付）	機械設備
24H	換気ｽｲｯﾁ	機械設備より支給品



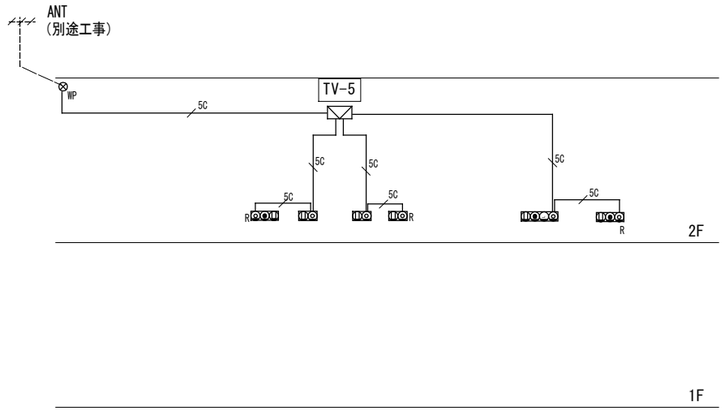
幹線設備系統図



情報・通信設備系統図



ITV配管設備系統図



※配管配線は本工事とする

TV共同受信設備系統図

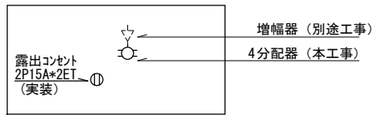
通信保安器盤 屋外壁掛型

- 電話保安器10Pｽﾍﾟｰｽ
- 情報保安器

端子盤 屋内壁掛型
屋内壁掛型（放熱孔付）

- 電話10Pｽﾍﾟｰｽ
- 情報機器ｽﾍﾟｰｽ
- ITV中継配線ｽﾍﾟｰｽ

TV-5 屋内壁掛型（放熱孔付）



500*600*120（参考）

設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社 渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名　凡例・幹線、弱電設備系統図

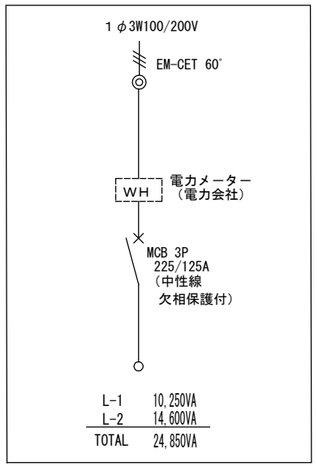
縮尺　A1版：S=NS　A3版：S=NS

設計　年　月　日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

図面番号　E / 04

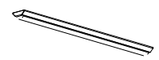
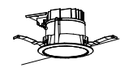


引込盤　屋外壁掛型

盤名 幹線番号	電気方式 主幹結線 合計容量	回路番号	電圧（V）	開閉器（AF／AT）	負荷名称	負荷容量 L＝VA P＝KW	備考
L－1	1φ3W 60°						
鋼板製 屋内壁掛型	TB						
		L-2	200/100	MCCB 3P 100/75			14,600VA
		主幹	200/100	ELCB 3P 100/60 中性線欠相保護付			
		101	100	ELCB 2P 30/20	馬房照明	900	▲*10
		102	100	ELCB 2P 30/20	馬房照明	900	▲*10
		103	100	ELCB 2P 30/20	倉庫他照明	500	
		104	100	ELCB 2P 30/20	通路照明	600	▲*2
		105	100	ELCB 2P 30/20	通路照明	600	▲*2
		106	100	ELCB 2P 30/20	屋外照明	150	外壁 (AS+TS)
		107	100	ELCB 2P 30/20	有圧換気扇	800	
		108	100	ELCB 2P 30/20	有圧換気扇	800	
		109	100	ELCB 2P 30/20	ﾘﾓｺﾝﾄﾗﾝｽ		RT
					予備		
							(5,250VA)
		301	100	ELCB 2P 30/20	通路ｺﾝｾﾝﾄ	500	
		302	100	ELCB 2P 30/20	通路ｺﾝｾﾝﾄ	500	
		303	100	ELCB 2P 30/20	通路ｺﾝｾﾝﾄ	500	
		304	100	ELCB 2P 30/20	通路ｺﾝｾﾝﾄ	500	
		305	100	ELCB 2P 30/20	馬房ｺﾝｾﾝﾄ	500	
		306	100	ELCB 2P 30/20	馬房ｺﾝｾﾝﾄ	500	
		307	100	ELCB 2P 30/20	馬房ｺﾝｾﾝﾄ	500	
		308	100	ELCB 2P 30/20	馬房ｺﾝｾﾝﾄ	500	
		309	100	ELCB 2P 30/20	倉庫他ｺﾝｾﾝﾄ	1000	
			100	ELCB 2P 30/20	予備		
			100	ELCB 2P 30/20	予備		
			100	ELCB 2P 30/20	予備		
			100	ELCB 2P 30/20	予備		
							(5,000VA)
					TOTAL	10,250VA	
				（照明制御）			
				▲ ﾌﾙ2線式ﾘﾓｺﾝﾘﾚｰ			
				RT ﾘﾓｺﾝﾄﾗﾝｽ			
				（外灯制御）			
				１、自動点滅器により点灯			
				２、ソーラータイマーにより任意時間に消灯			
				３、盤面にて切替（自動・手動・切）			
					L-1	10,250VA	
					L-2	14,600VA	
					TOTAL	24,850VA	

盤名 幹線番号	電気方式 主幹結線 合計容量	回路番号	電圧（V）	開閉器（AF／AT）	負荷名称	負荷容量 L＝VA P＝KW	備考
L－2	1φ3W 30°						
樹脂製（扉付） 屋内壁掛型	TB						
		主幹	200/100	ELCB 3P 100/75 中性線欠相保護付			
		101	100	MCCB 2P 50/20	休憩室照明	500	
		102	100	MCCB 2P 50/20	玄関他照明	600	
		103	100	MCCB 2P 50/20	予備		
		104	100	MCCB 2P 50/20	予備		
							(1100VA)
		301	100/200	ELCB 2P 50/20	ｴｱｺﾝｺﾝｾﾝﾄ	1000	100/200切替可能型
		302	100/200	ELCB 2P 50/20	ｴｱｺﾝｺﾝｾﾝﾄ	1000	100/200切替可能型
		303	100/200	ELCB 2P 50/20	ｴｱｺﾝｺﾝｾﾝﾄ	1000	100/200切替可能型
		304	100/200	ELCB 2P 50/20	ｴｱｺﾝｺﾝｾﾝﾄ	1000	100/200切替可能型
		305	100/200	ELCB 2P 50/20	ｴｱｺﾝｺﾝｾﾝﾄ	1000	100/200切替可能型
		306	100/200	ELCB 2P 50/20	ｴｱｺﾝｺﾝｾﾝﾄ	1000	100/200切替可能型
		307	100/200	ELCB 2P 50/20	ｴｱｺﾝｺﾝｾﾝﾄ	1000	100/200切替可能型
		308	100	ELCB 2P 50/20	ﾄｲﾚｺﾝｾﾝﾄ	500	
		309	100	ELCB 2P 50/20	洗面ｺﾝｾﾝﾄ	500	
		310	100	ELCB 2P 50/20	洗面ｺﾝｾﾝﾄ	800	
		311	100	MCCB 2P 50/20	DKｺﾝｾﾝﾄ	1000	
		312	100	ELCB 2P 50/20	DKｺﾝｾﾝﾄ	500	
		313	100	MCCB 2P 50/20	休憩室ｺﾝｾﾝﾄ	800	
		314	100	MCCB 2P 50/20	休憩室ｺﾝｾﾝﾄ	800	
		315	100	MCCB 2P 50/20	事務室ｺﾝｾﾝﾄ	400	
		316	100	MCCB 2P 50/20	休憩室ｺﾝｾﾝﾄ	800	
		317	100	MCCB 2P 50/20	TV機器ｺﾝｾﾝﾄ	400	
			100	MCCB 2P 50/20	予備		
			100	MCCB 2P 50/20	予備		
			100	MCCB 2P 50/20	予備		
							(13500VA)
					TOTAL	14,600VA	

照明器具姿図　参考図

A	ＬＥＤ直付型 LSS9-4-48	E	壁付型 LBF3MP/RP-2-06
消費電力 31.9W		消費電力 10.2W	
B	ダウンライト LRS1-08	F	反射傘付 6900LM WP
消費電力 7.6W		消費電力 43.1W	
C	ＬＥＤｼｰﾘﾝｸﾞﾗｲﾄ ６０形	G	壁付付 1150LM 防浸・耐塵型
消費電力 6.8W	防湿・防雨形　天井面・壁面取付け兼用	消費電力 12.8W	
D	ＬＥＤキッチンライト		
消費電力 10.0W			

設計変更年月日	
１回	年　月　日
２回	年　月　日
３回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社 渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名　分電盤・照明器具姿図

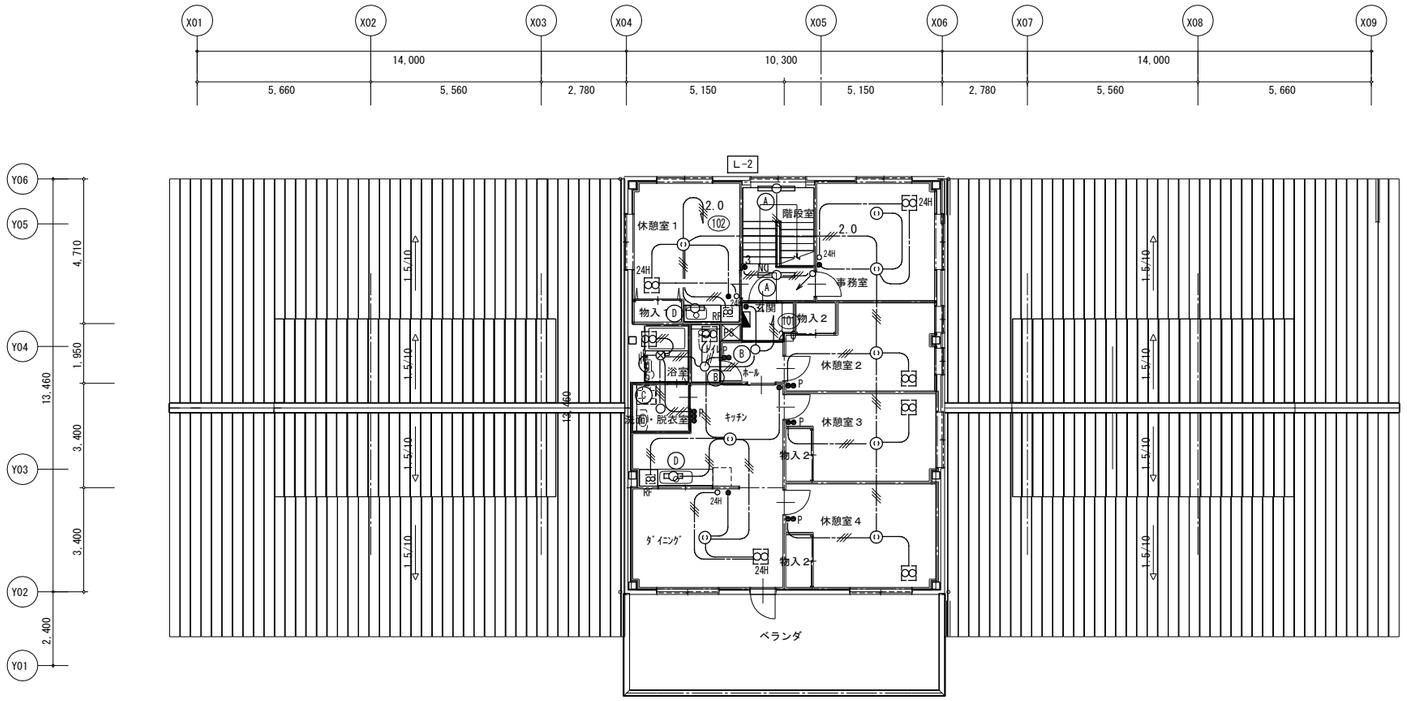
縮尺　A1版：S=NS　A3版：S=NS

設計　年　月　日

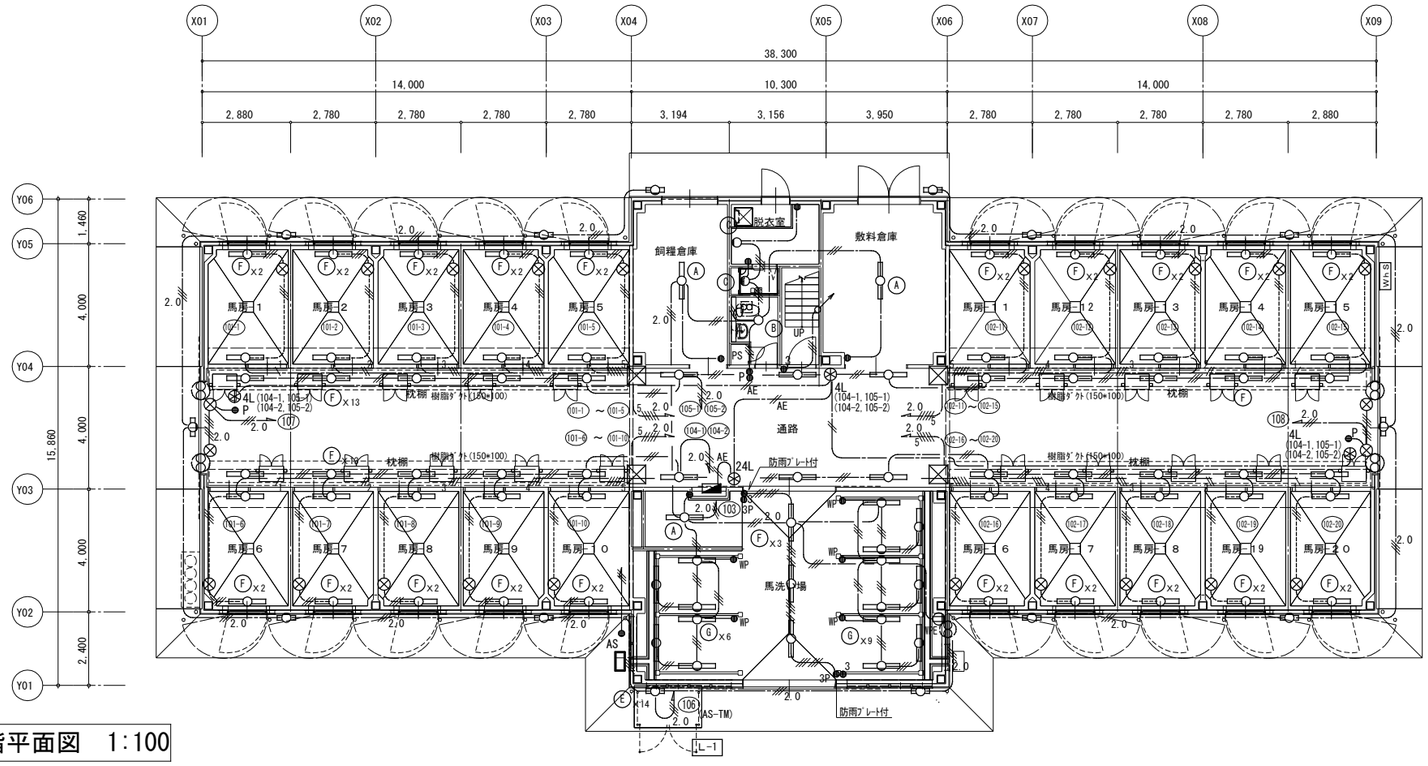
佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

図面番号　E／05



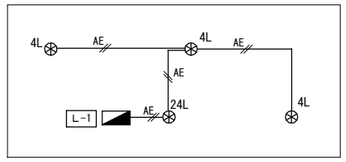
2階平面図　1:100



1階平面図　1:100

リモコンスイッチリスト 24L

スイッチNO	点灯室	回路番号	備考
1	馬房-1	101-1	
2	馬房-2	101-2	
3	馬房-3	101-3	
4	馬房-4	101-4	
5	馬房-5	101-5	
6	馬房-6	102-6	
7	馬房-7	102-7	
8	馬房-8	102-8	
9	馬房-9	102-9	
10	馬房-10	102-10	
11	馬房-11	101-11	
12	馬房-12	101-12	
13	馬房-13	101-13	
14	馬房-14	101-14	
15	馬房-15	101-15	
16	馬房-16	102-16	
17	馬房-17	102-17	
18	馬房-18	102-18	
19	馬房-19	102-19	
20	馬房-20	102-20	
21	通路-1	104-1	
22	通路-1	104-2	
23	通路-2	105-1	
24	通路-2	105-2	



照明リモコン配線系統図

リモコンスイッチリスト 4L

スイッチNO	点灯室	回路番号	備考
1	通路-1	104-1	
2	通路-1	104-2	
3	通路-2	105-1	
4	通路-2	105-2	

配線リスト

壁内PF管保護

※1階通路及び馬房内露出部は全てPF管保護

※1階通路壁上部配線は樹脂ﾀﾞｸﾄ内配線とする

電灯

2.0	EM-EEF2.0-3C	(ｺﾛｶﾞｼ)
	EM-EEF1.6-2C	(ｺﾛｶﾞｼ)
	EM-EEF1.6-3C	(ｺﾛｶﾞｼ)
	EM-EEF1.6-2C*2	(ｺﾛｶﾞｼ)
	EM-EEF1.6-2C+3C	(ｺﾛｶﾞｼ)
5 2.0	EM-EEF2.0-3C*5	(ｺﾛｶﾞｼ)
5	EM-EEF1.6-3C*5	(ｺﾛｶﾞｼ)
4	EM-EEF1.6-3C*4	(ｺﾛｶﾞｼ)
3	EM-EEF1.6-3C*3	(ｺﾛｶﾞｼ)
2	EM-EEF1.6-3C*2	(ｺﾛｶﾞｼ)
1	EM-EEF1.6-3C	(ｺﾛｶﾞｼ)
	EM-EEF1.6-3C(PF16)	(露出)
AE	EM-AE1.2-2C	(ｺﾛｶﾞｼ)

設計変更年月日			
1回	年	月	日
2回	年	月	日
3回	年	月	日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名　1・2階　電灯設備図

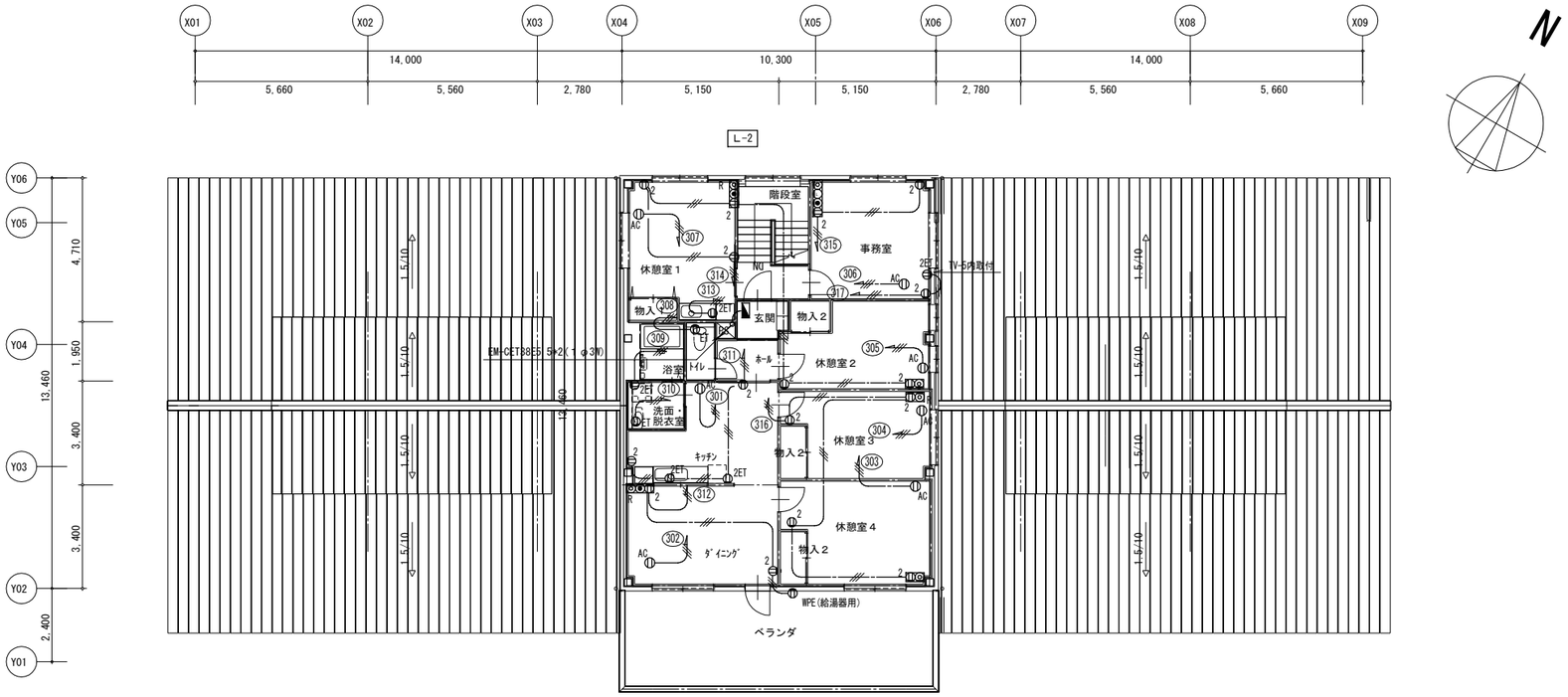
縮尺　A1版 1:100　A3版 1:200

設計　年　月　日

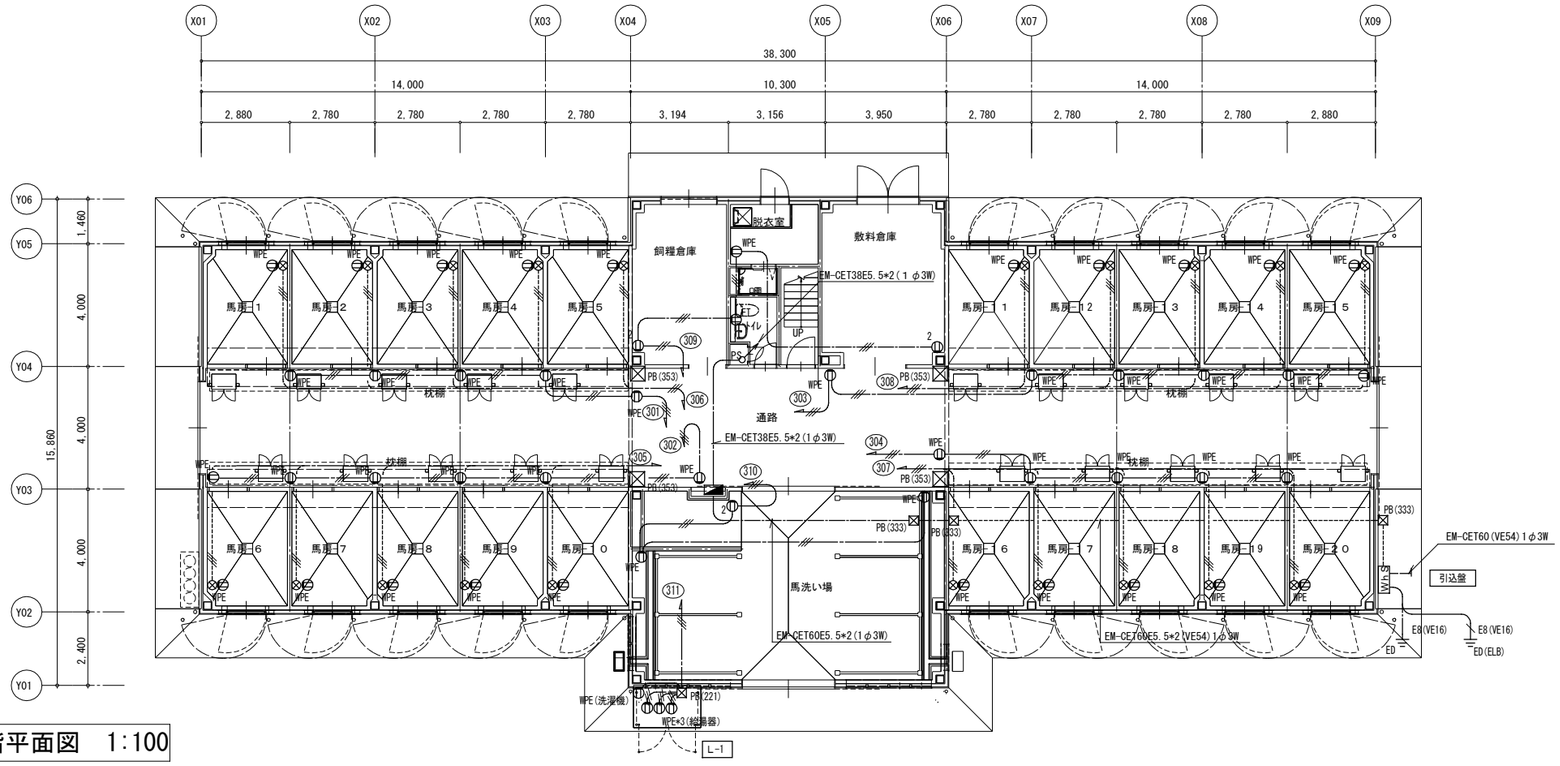
佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

図面番号　E / 06



2階平面図　1:100



1階平面図　1:100

配線リスト

壁内PF管保護
※1階通路及び馬房内露出部は全てPF管保護
※1階通路壁上部配線は樹脂ﾀﾞｸﾄ内配線とする

コンセント

—·—//—·— EM-EEF2.0-3C　（ｺﾛｶﾞｼ）

ＰＢリスト

PB(221)　200*200*100 SUS,WP
PB(333)　300*300*300 SUS,WP

注記

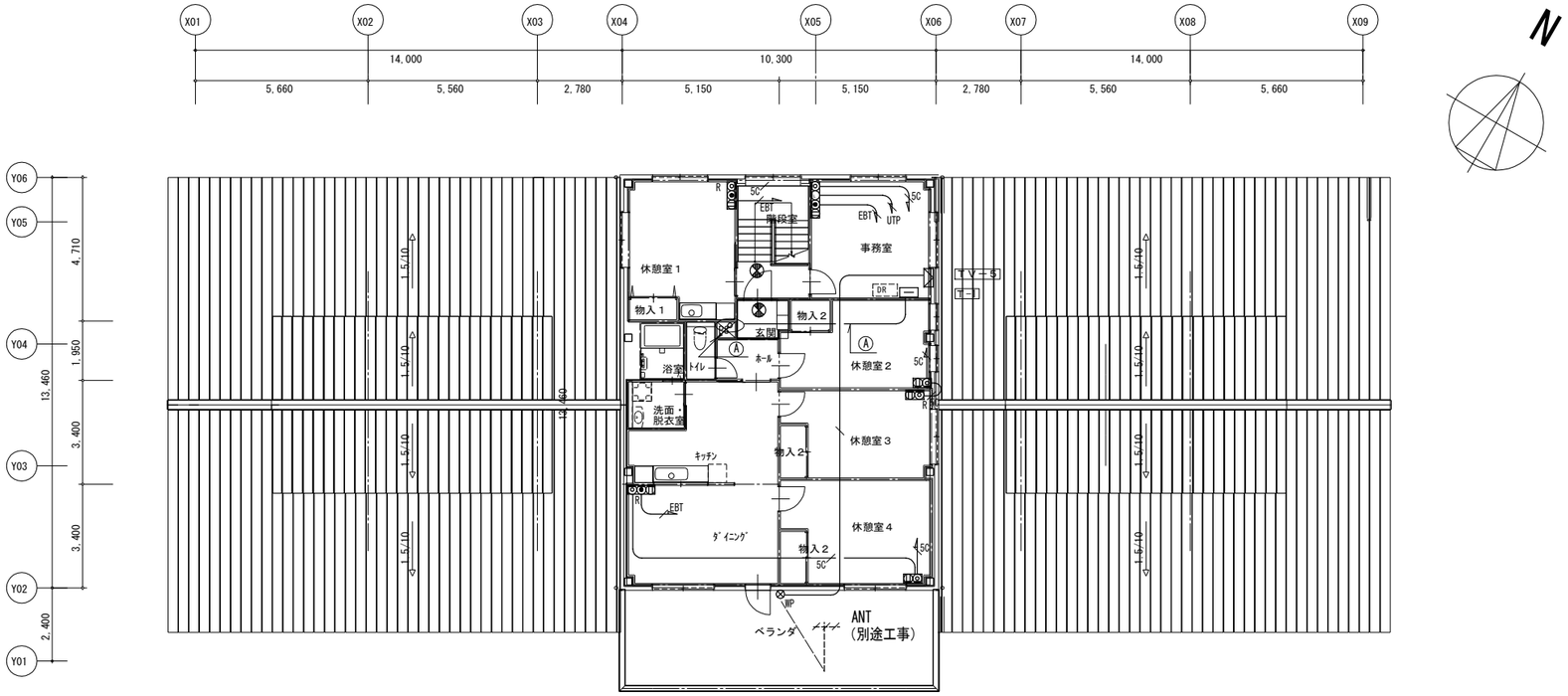
1.給湯器リモコン配管配線は機械設備工事とする
2.24H換気ｽｲｯﾁは機械設備より支給品とする

設計変更年月日			
1回	年	月	日
2回	年	月	日
3回	年	月	日

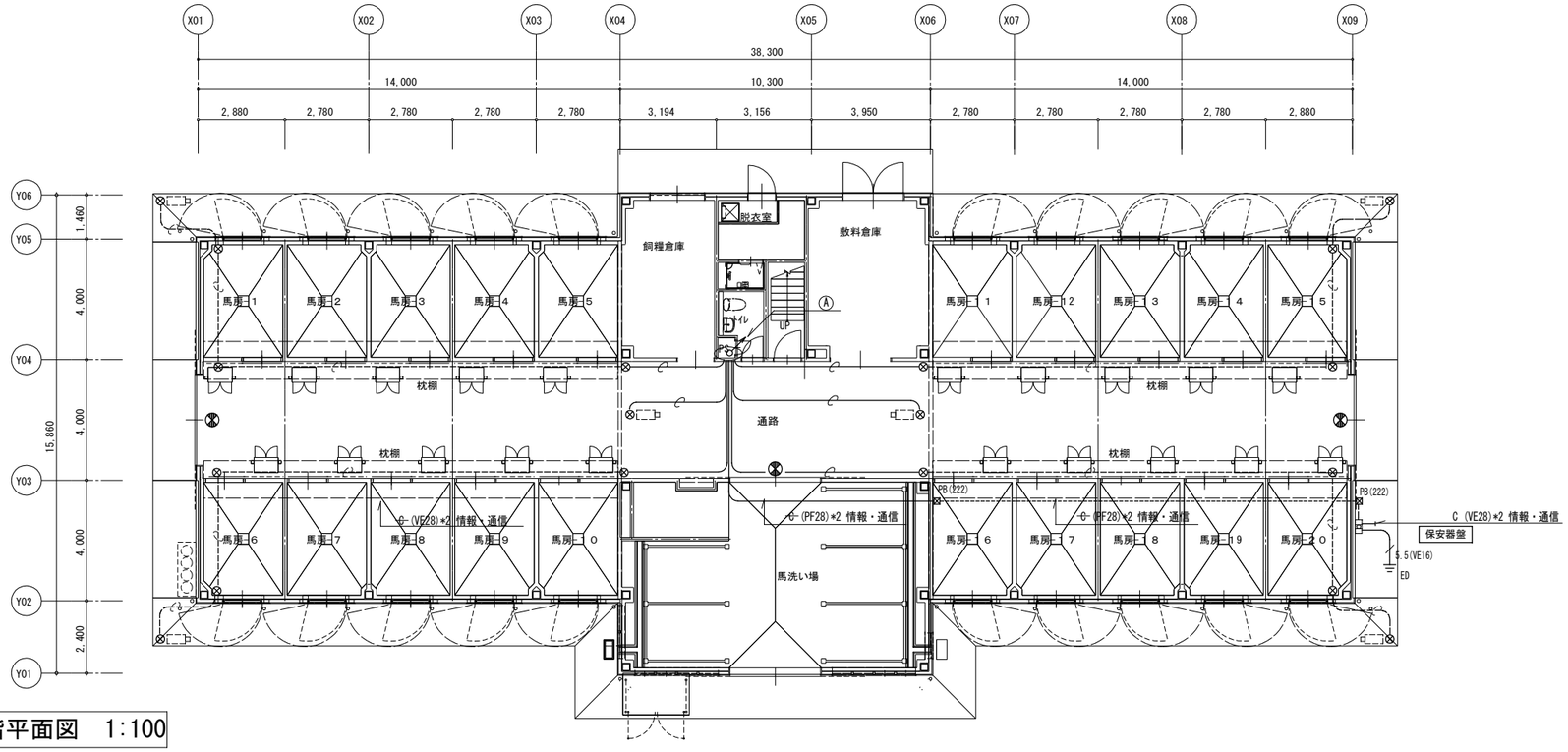
１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:100 A3版 1:200	佐賀県競馬組合
図面名	1・2階　幹線、ｺﾝｾﾝﾄ設備図	設計 年 月 日	１級建築士登録　第　号

図面番号 E / 07



2階平面図　1:100



1階平面図　1:100

配線リスト

壁内PF管保護

電話			
	EBT	EM-EBT0.4-2P	ｺﾛｶﾞｼ
情報			
	UTP	EM-UTPCAT5e	ｺﾛｶﾞｼ
ＴＶ			
	SC	EM-S-5S-FB	ｺﾛｶﾞｼ
ＩＴＶ			
		(PF22)	ｲﾝﾍﾟｲ
		(VE22)	露出

Ⓐ

(PF28)*2 情報・通信
(PF22)*6 ITV

ＰＢリスト

PB(222)　200*200*200 SUS,WP

設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新22号・23号・25号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:100 A3版 1:200	佐賀県競馬組合
図面名	1・2階　弱電設備図	設計 年　月　日	１級建築士登録　第　号

図面番号 E/08

新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事　特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1　工事場所　　佐賀県鳥栖市

2　建物概要

建物名称	構　造	階　数	延べ面積（㎡）	消防法施工令別 表 第 一	備　考
きゅう舎新22号	S	2	637.99	16項ロ（複合用途）	
きゅう舎新23号	S	2	637.99	16項ロ（複合用途）	
きゅう舎新25号	S	2	637.99	16項ロ（複合用途）	

3　工事種目及び工事科目（○印の付いたものが対象工事）

建物別及び屋外	工　事　種　目				
工　事　項　目	きゅう舎新22号	きゅう舎新23号	きゅう舎新25号		屋外
・空気調和設備	一式	一式	一式	一式	一式
⊙換気設備	新　設　一式	新　設　一式	新　設　一式	一式	一式
・排煙設備	一式	一式	一式	一式	一式
・自動制御設備	一式	一式	一式	一式	一式
⊙衛生器具設備	新　設　一式	新　設　一式	新　設　一式	一式	一式
⊙給水設備	新　設　一式	新　設　一式	新　設　一式	一式	新　設　一式
⊙排水設備	新　設　一式	新　設　一式	新　設　一式	一式	新　設　一式
⊙給湯設備	新　設　一式	新　設　一式	新　設　一式	一式	新　設　一式
・消火設備	一式	一式	一式	一式	一式
・厨房機器設備	一式	一式	一式	一式	一式
⊙ガス設備	新　設　一式	新　設　一式	新　設　一式	一式	新　設　一式
・浄化槽設備	一式	一式	一式	一式	一式
・撤去工事	一式	一式	一式	一式	一式

4　指定区分　　⊙無　　・有（工期：令和　　年　　月　　日）
（一部完成）　　（対象部分：　　）

5　設備概要
本工事における、工事項目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない○印のものが該当する

方式及び種別	設　備　概　要
空調方式	・空気調和　・単一ダクト方式　・全空気方式
主要熱源機器	・小型吸収冷温水機ユニット　・直だき吸収冷温水機　・空冷ヒートポンプユニット
自動制御方式	・電気式　・電子式　・デジタル式
給水方式	・高置タンク方式　⊙水道直結方式　・ポンプ直送方式
排水方式	建物内の汚水と雑排水（　⊙分流式　・合流式（　　系統）） ポンプ排水　・有（　・汚物　・雑排水　・湧水　）　⊙無 建物外　放流先 （１）汚水　⊙直放流下水管　・浄化槽 （２）雑排水　⊙直放流下水管　・浄化槽
消火設備の種類	・屋内消火栓設備　・スプリンクラー設備　・泡消火設備 ・連結散水設備　・連結送水管設備　・不活性ガス消火設備（・　　）
ガスの種類	・都市ガス（種別　　発熱量　　MJ/m3　供給事業者　　） ⊙液化石油ガス

Ⅱ　工事仕様

1　共通仕様
1)図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和４年版）」（以下、「標準仕様書」という。）「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和４年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和４年版）」（以下、「標準図」という。）による。
2)電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事は、それぞれの工事仕様を適用する。
なお、電気設備工事の工事仕様は（　／　）図、建築工事の工事仕様は（　／　）図による。
2　特記仕様
章は●印の付いたもの、項目は番号に○印のものを適用し特記事項のうち選択する事項は、・に○印のものを適用する

章	項　目	特　記　事　項
●一般共通事項	● 材料・機材の品質等	（１）本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 （２）図面に機材等名が記載された製造業者等は次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データを整理していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。
	● 環境への配慮	（１）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ①合板、木質フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝剤、断熱材、塗料、仕上剤は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③接着剤は、可塑性（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 ④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 （２）設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは③又は④に該当する材料を指す. ①建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
	● 電気保安技術者	工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。 ⊙要　　・不要
	● 技能士の適用	⊙配管施工（配管工事）　・建築板金施工（ダクトの製作及び取付） ⊙熱絶縁施工（保温工事）　・厨房設備施工（厨房工事） ・冷凍空気調和機器施工（冷凍空調器の据付及び整備）
	●監督職員事務所	⊙設けない　・設ける ・既存の建物内の一部を使用する・構内に設置する（・10　・20）㎡程度
	● 足場その他	・別契約の関係請負者が定置したものは無償で使用できる。 ・本工事で設置とする。 ・内部仮設足場等（　・　種　・　種） ・外部仮設足場等（　・　種　・　種） ・電気設備工事　⊙建築工事　で設置する。
	● 工事用仮設物	構内につくることが（　⊙できる　・できない）
	● 工事用電力水その他	本工事に必要な工事用電力、水、及び官公署その他への諸手続などの費用は、すべて請負業者の負担とする。
	● 埋戻し土・盛土	⊙根切り土の中の良質土（ただし、コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類） ⊙山砂の類
	● 機材の承諾図	機械設備工事機材承諾図様式集（令和４年版）によるほか、監督職員の指示による。
	● 総合試運転調整	⊙本工事　・別途 調整項目（測定箇所等は監督職員の指示による。） ⊙風量調整　⊙水量調整　・室内外空気の温湿度の測定 ・騒音の測定　・飲料水の水質測定　・雑用水の水質測定 ・室内気流及びじんあいの測定
	● 電動機	換気扇、圧力扇及び標準仕様書に記載なく、特記のないもの電動機の保護規格は製造者規格による標準品としてよい。
	● 容量等の表示	（１）機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 （２）電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は、原則として表示された数値以下とする。
	● 耐震措置	耐震措置の計算及び施工方法は次によるほか、「建築設備耐震設計・施工指針２０１４年版（独立行政法人建築研究所監修）」による。 （１）機器の据付及び取付 設計用水平地震力は、機器の重量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量）に地域係数及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。 設計用水平震度

設置場所		耐震安全性の分類			
		・特定の施設		⊙一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階、屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水槽類（※）	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水槽類（※）	1.5	1.0	1.0	0.6
1階及び地下階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水槽類（※）	1.5	1.0	1.0	0.6

【備考】　（※１）：水槽類には、オイルタンク等を含む。
上層階の定義は次による。
2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階、中間階とは地下階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの（平屋建の場合は無し）
重要機器は次のものを示す。
・給水機器　・排水機器　・換気機器　・空調機器　・熱源機器
・防災設備　・監視制御装置　・危険物貯蔵装置
・火を使用する設備　・避難経路上に設置する機器
（２）設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。
（３）重量1kN以下の軽量な機器の耐震支持については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（独立行政法人建築研究所監修）に準拠あるいは同等な設計用地震力に耐える方法で設計・施工すること。

● 地中埋設標等	（１）地中埋設標　⊙要（図示の箇所）　・不要 （２）埋設標示用テープ　⊙要（排水管を除く）　・不要
● 保温	・共同溝内保温は、標準仕様書第2編の施工箇所（　　）を適用する。 ⊙多湿箇所（天井内共）は下記の場所とする。 ・浴室（ユニットは除く）・脱衣室・厨房（天井内は除く）・シャワー室
○ 塗装	下記の配管、ダクトは塗装を行う。 ・屋外露出（　　） ・屋内露出（　　）
● 電線類	電線及びケーブルの規格は標準仕様書第４編１．５．１表４．１．１１による。
○ 天井仕上区分	（　）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
● 施工調査	事前調査　⊙　本工事　・　別途 調査項目 調査範囲　・　図示　⊙　施工範囲　・ 調査方法　・　図示　⊙　既存図面調査及び目視調査　・ はつり作業及び穿孔作業を行う場合は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督員職員に報告する。
● 試験	既存配管を含む部分の試験 ⊙不要　・要（方法及び圧力：　　）
● 他工事又は他工種との取り合い	図面に特記なき場合は、工事区分表による。 ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議する。
○ 配管	（１）ステンレス鋼管の接合は、下記による。 ・呼び径 60Su 以下（SAS 322を満足した継手　　） （２）溶接部の非破壊検査　・不要　・要 （検査の種類：　　抜取率　　%）
● 建設発生土の処理	・構内敷きならし　・構内指定場所への堆積　・構外搬出・再利用を図る

分　類	受 け 入 れ 場 所	搬出距離
建設発生土		

上記に示す受け入れ場所・搬出距離は参考であり、実施にあたっては監督員と協議のうえ決定する。

● 特定建設資材等の処理

本工事は「建設工事に係る資材の再生資源化等に関する法律」（平成１２年５月３１日法律１０４号）の対象建設工事であり、分別解体、特定建設資材の再資源化等について適切な処理を行う。
ただし、工事契約後にやむを得ない事情により予定した条件により難い場合は監督職員と協議する。分別解体・再資源化等の完了時に、以下の事項を書面にて監督職員に報告する。
（１）再資源化等が完了した年月日
（２）再生資源化等をした施設の名称及び住所
（３）再生資源化等に要した費用

分別解体の方法

工　程	作　業　内　容	分 別 解 体 の 方 法
・建設設備・内装材等	建設設備・内装材の取り外し	・手作業
	（・有　・無　）	・手作業,機械作業の併用
・その他（　　）	その他の取り壊し	・手作業
	（・有　・無　）	・手作業,機械作業の併用

特定建設資材廃棄物の種類と再生資源化等をする施設

特定建設資材廃棄物の種類	再生資源化等をする施設の名称	所在地
・ｺﾝｸﾘｰﾄ		
・ｺﾝｸﾘｰﾄ及び鉄から成る建設資材		
・木材		
・ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ		

再生資源利用計画及び実施書は、建設副産物情報交換システム（コブリス）にて作成し提出すること。

○空気調和設備 ○ 設計温湿度	

	外　気		屋　内					
			一般系統					
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
夏期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%
冬期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%

○ 鋼板製煙道	（１）はいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口の位置は図示による。 （２）鋼板厚（・3.2mm　・4.5mm）
○ ダクト	・低圧ダクト（　・　コーナーボルト工法（長辺の長さが1,500mm以下の部分） ・　アングルフランジ工法）とする。 ・高圧１ダクトの適用範囲は図示による。
○ スパイラルダクト	図面に特記なき場合は低圧とする。
○ 風量測定口	取り付け箇所は図示による。
○ チャンバー	（１）内張りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。 （２）空気調和機に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及びダクト系で消音内張りしたチャンバーには、点検口を設ける。なお、大きさは図示による。 （３）外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する。
○ ダンパー	（１）防煙ダンパー　復帰方式（・遠隔　・　　）定格入力はDC24V以下とする。 （２）ピストンダンパー　復帰方式（・遠隔　・　　）
○ 配管材料	（１）冷温水管　・凡例による （２）冷却水管　・凡例による （３）油管　・凡例による （４）膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管 ・凡例による　・ （５）空調用排水管　・凡例による　・ （６）冷媒管　・凡例による　・
○ 弁類	・図示による（図面に特記の無き場合の呼び圧力は、JIS 又は JV５Kとする。） ・ステンレス配管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
○ 油面制御装置	制御盤には、標準仕様書によるほか（・遠隔警報　・電磁弁制御　・　　）の端子を設ける。 なお、フロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする。
○ 保温及び消音内張	・通りダクト（保温の厚さ25mm、範囲は図示による） ・外気取り入れ用ダクト（保温の厚さ25mm、範囲は図示による） ・膨張管及び膨張タンクよりボイラ等への補給水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の温水管の項による。 ・建物内の空気抜き管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の温水管の項による。 ・空気調和機及びファンコイルユニットの排水管の保温は標準仕様書第２編3.1.5の排水管の項による。 ・冷媒管の外装の種類は次による。 屋内露出箇所　・凡例による　・ 屋外露出箇所　・凡例による　・
○ 集中リモコン・配線	複数のエアコンを集中管理するためのリモコン、配線及びその方式は、監督員の第２編承諾を受けたうえで製造業者の標準仕様にて施工する。
●換気設備 ○ ダクト	・低圧ダクト（　・　コーナーボルト工法（長辺の長さが1,500mm以下の部分） ・　アングルフランジ工法）とする。 ・高圧１ダクトの適用範囲は図示による。 ・厨房系統の排気用ダクトの材質は（・亜鉛鉄板　・ステンレス鋼板）製、板厚はダクトの長辺（・450以下は0.6mm、・451～1200は0.8mm）以上とし、アングルフランジ工法とする。
● スパイラルダクト	図面に特記なき場合は低圧とする。
○ 風量測定口	取り付け箇所は図示による。
○ ダンパー	空気調和設備の当該項目による。
○ シールする排気ダクトの系統	・浴室（シャワー室、脱衣室を含む）系統　・厨房系統
○ チャンバー	空気調和設備の当該項目による。
○ 保温	・全熱交換ユニット用の外気取り入れ用ダクト（保温の厚さ25mm、範囲は図示による） ・多湿箇所（保温の厚さは50mm、範囲は図示による） （・厨房　・湯沸室　）用の隠ぺい箇所の排気用ダクトの仕様は、h・(f)・Ⅸとし、範囲は図示による。
○ 集中リモコン・配線	複数の全熱交換器等を集中管理するためのリモコン、配線及びその方式は、監督員の承諾を受けたうえで製造業者の標準仕様にて施工する。
○排煙設備 ○ ダクト	・亜鉛鉄板　・鋼板（厚1.6mm）
○ 排煙口の形式	・図示による。
○ 排煙口開放及び復帰方式	・電気式（遠隔操作　・不要　・要　）
○ 排煙風量測定	建築設備定期検査業基準書２０１６年版（（一財）日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方法に準ずる。
○自動制御設備 ○ 中央監視制御装置	・有り（・新設　・既設　）　・無し
○ 中央監視制御装置の構成・機能	図示による。
○ 電気計装用配線	使用する電線及びケーブルは原則としてＥＭ電線又はＥＭケーブルとする。 屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。 天井内隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。
●衛生器具設備 ○ 自動洗浄装置及びその組み込み小便器	・個別感知フラッシュ方式（・ＡＣ電源　・自己発電）
○ 自動水栓の電源種別	・ＡＣ電源　・自己発電
● 衛生器具ユニット	ユニットの配管材料は図示による。

設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社　渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 ---　A3版 ---	佐賀県競馬組合
図面名	特記仕様書（機械設備工事）その１	設計　年　月　日	１級建築士登録　第　　号

図面番号　M-01

●給水設備	● 配管材料	（１）量水器までの給水引き込み管（直結部分）水道事業者の指定 （⊙凡例による　・　　）による。 （２）地中埋設配管　　⊙凡例による　・ （３）一般配管　　⊙凡例による　・ ・親メーター（・貸与品　・　　）
	● 量水器	⊙子メーター（⊙買い取り　・　　）
	○ 量水器桝	・水道事業者指定品（・貸与品　・買い取り）　・標準図ＭＣ形
	● 弁類	⊙図示による。（図面に特記なき場合の呼び圧力は、ＪＩＳ又は ＪＶ　５Ｋ　とする。） ・ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。 ・水道直結部分の呼び圧力は、ＪＩＳ又はＪＶ　１０Ｋとする。
	● 管の地中埋設深さ	埋設深さ（管の上端深さ）は原則として、車両通行部（ ⊙600mm・　） その他の部分は、（ ⊙300mm　・　　）以上とする。
	○ 建物導入部配管	標準図（建物導入部の変位吸収配管要領）による。 ・（ａ）　・（ｂ）　・（ｃ）
	○ 引込納付金等	・別途工事　・本工事
	● 水質検査	・残留塩素 ⊙　10項目　（　　）
●排水設備	● 配管材料	（１）屋内　汚水管　　⊙凡例による　・ 雑排水管　　⊙凡例による　・ 通気管　　⊙凡例による ポンプアップ管・凡例による （２）屋外　第一桝まで　⊙凡例による　・ 桝間　　⊙凡例による　・
	● 台所流し等の排水管	洗面器に直結する排水管は、器具トラップより１サイズアップとする。 台所流し等の床上部分の配管は、ビニル管（ＲＦ－ＶＰ）でもよい。
	● 満水試験継手	取付位置は図示による。
	○ 放流納付金等	・別途工事　・本工事
●給湯設備	● 配管材料	（１）給湯管　⊙凡例による　・ （２）膨張管　・凡例による　・
	● 弁類	⊙図示による。（図面に特記なき場合の呼び圧力は、ＪＩＳ又は ＪＶ　５Ｋ　とする。） ・ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
○消火設備	○ 配管材料	（１）屋内消火栓　一般　・凡例による　地中　・凡例による （２）連結送水管　一般　・凡例による　地中　・凡例による
	○ 保温	屋外露出配管は標準仕様書第2編3.1.5の e2・（ハ）・Ⅴ-Ⅱによる。
	○ 建物導入部配管	標準図（建物導入部の変位吸収配管要領）による。 ・（ａ）　・（ｂ）　・（ｃ）
○厨房設備	○ 機器の性能等	図示による。
●ガス設備	● 配管材料	・都市ガス　ガス事業者の供給規定による。 ⊙液化石油ガス　(1)一般　(2)地中
	● メーター	・親メーター（・貸与品　・　　） ⊙子メーター（⊙買い取り　・　　）
	● 充てん容器	別途（⊙５０kg　・　kg　・　kg）×　本
	● 集合装置	標準図（液化石油ガス容器廻り配管要領）による　本組
	● 転倒防止	標準図（液化石油ガス容器転倒防止施工要領）による。 ・（ａ）　・（ｂ）
	○ 電気防食	・要　・不要
	○ 引込負担金等	・要（・別途工事　・本工事）　・不要
○浄化槽設備	○ 型式	・ユニット型　・現場施工型
	○ 仕様等	図示による。
○撤去工事	○ 保温材	保温材は、配管・ダクトより分離する。
	○ 支持金物等	ダクト・配管等の支持金物及び吊り金物は本工事にて撤去する。
	○ 発生材の処理	・金属類（　・機器類　・ダクト　・配管　・その他金属　）の 処理は（　・管理者に引き渡し　・構外搬出適切処理　）とする。 ・特別産業廃棄物（　・　・　　）の処理は （　・別途　・構外適切処理　）とする。 ・石綿含有産業廃棄物（・配管用成形保温材　・フランジ用ガスケット） の処理は（　・別途　・構外適切処理　）とする。 ・上記以外のもの（　・　・　　）の処理は （　・別途　・構外適切処理　）とする。
	○ 冷媒(フロン類)の回収	・本工事　・別途 冷凍機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第3編2.4.3により、次の書類を監督員に提出する。 ・フロン回収行程管理表の写し ・特定家庭用機器廃棄物管理票(家電リサイクル券)の写し 工事請負者 フロン回収・運搬委託　回収証明書 処理費用支払い　業者登録書の写し 第一種フロン類回収業者　フロン回収・運搬 フロン類破壊業者　フロン破壊処分

（別表-1）

他工事との工事区分表

工事内容				機械工事	建築工事	電気設備工事
機器の基礎	電気関係	配電盤・制御盤の基礎	屋内			
			屋外			
			屋上			
		テレビアンテナ基礎				
		避雷針の基礎				
		特記した基礎				
	機械関係	屋内設備				
		屋上設備(架台、アンカーボルトを除く)				
		屋外設備(　〃　)				
		架台・ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ				
		特記した基礎				
開口部	梁、床、壁 貫通スリーブ	補強を要するもの			○	
		補強を要しないもの		○		○
	梁、床、壁 貫通部型枠	補強を要するもの			○	
		補強を要しないもの		○		○
	軽量鉄骨下地 壁・天井ﾎﾞｰﾄﾞ 類の切込	補強を要するもの			○	
		補強を要しないもの （アウトレットボックスは除く）		○		○
	埋込形分電盤、 端子盤等の型枠	補強を要するもの			○	
		補強を要しないもの				○
	上記開口部の墨出し					○
	上記開口部の補強				○	
	スリーブの穴埋め（型枠の穴埋めを含む）				○	
	0A フロアー配線器具用					
点検口	床、壁、天井				○	
外部取付ｶﾞﾗﾘ	ダクト、チャンバーの接続用フランジを含む					
点検口	オイルサービスタンクの防油堤、タンク基礎					
床下水槽のマンホールふた						
ガス漏れ検知器						
消火栓組込み機器収納箱内配線整理用端子板						
湯沸室の排気フード				○		
換気扇	本体			○		
	取付枠			○		
流し台	本体（排水トラップ共）				○	
	水栓			○		
浴　槽						
身障者用便所手摺り						
電気配管配線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）					
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線					○
	自動制御盤と動力盤との電源供給の渡り配管配線					
	自動制御盤と動力盤との操作回路の渡り配管配線					
	機器と付属操作スイッチ等との渡り配線			○		
	機器と付属操作スイッチ等との渡り配管			○		
	機器と付属操作スイッチ			○		
	機器と付属操作スイッチの埋込ボックス			○		
	煙感知器から連動制御盤を経て防煙ダンパー及び排煙口に至る配管配線					
	小便器用節水装置制御盤以降の配管配線					
	自動ドア及び電動シャッタなどの制御部への電源供給					
	自動ドア及び電動シャッタなどの制御部と操作スイッチ間の配管配線及び操作スイッチ					
	防火扉レリーズ					
	電極棒					
	配線ピット及びふた					
	別途機器などへの接続					
システム天井	ボード・Ｔバー					
	照明ライン設備プレート					
	空調ライン設備プレート					
電子錠	電気錠及び通電金具					
	テンキー及び制御盤					
浄化槽	杭工事					
	土工事					
	基礎工事					
	電気工事					
水道リモートメーターの配線						
水道リモートメーターの配線の結線と調査						

設計変更年月日	
１回	年　月　日
２回	年　月　日
３回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社　渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 --- A3版 ---	佐賀県競馬組合
図面名	特記仕様書（機械設備工事）その２	設計 年 月 日	１級建築士登録　第　号

図面番号 M-02

衛生　器具表

名　称	記号・品番	仕様・付属品	設置場所（きゅう舎棟）																													備　考
			２２号棟									２３号棟									２５号棟									合計	
			１階		２階					屋外	小計	１階		２階					屋外	小計	１階		２階					屋外	小計		
			トイレ	馬洗い場	トイレ	D・K	浴室	洗面脱衣室	休憩室１			トイレ	馬洗い場	トイレ	D・K	浴室	洗面脱衣室	休憩室１			トイレ	馬洗い場	トイレ	D・K	浴室	洗面脱衣室	休憩室１				
洋風腰掛便器	CS232B　SH232BA　TC291	防露便器　タンク　手洗無　床排水　壁給水式　普通便座　その他一式	1								1	1								1	1								1	3	
洋風腰掛便器	CS232B　SH233BA　TC291	防露便器　タンク　手洗有　床排水　壁給水式　普通便座　その他一式			1						1			1						1			1						1	3	
紙巻器	YH117	ステンレス製　154x109x82　ワンタッチ式	1		1						2	1		1						2	1		1						2	6	
壁掛洗面器	L210C　TLG04101J	壁掛 そで付き形　立水栓（ハンドル式）　止水栓　Ｓトラップ　その他一式	1								1	1								1	1								1	3	
壁掛洗面器	L270C　TLG04302JA	壁掛 そで付き形　台付シングルレバー水栓　止水栓x２　Ｓトラップ						1			1						1			1						1			1	3	
ユニットバス	１４１８	１４１８タイプ　サーモ水栓　シャワーセット　シャワーフック　タオル掛け　照明　ミラー ドア位置ずらし１００　浴槽(浴槽内握りバーなし)　収納棚　その他一式					1				1					1				1					1				1	3	建築工事
流し台	１８００	流し台　１８００Ｌ　コンロ台７５０　コンロ用バックガード　吊戸棚７００Ｈ　水切１段棚　その他一式				1					1				1					1				1					1	3	建築工事
流し台	１２００	流し台　１２００Ｌ　ガス台　７５０				1					1				1					1				1					1	3	建築工事
洗濯機用防水パン	PWSP64H2W	６４０タイプ　ＰＰ樹脂製　横引トラップ（樹脂製）						1			1						1			1						1			1	3	
化粧鏡	YM4560F	角形　４５０ｘ６００　耐食鏡　取付金具共	1					1			2	1					1			2	1					1			2	6	
洗濯機用横水栓	TW11R	ワンタッチ式　壁用　緊急止水、逆止弁付						1		1	2						1		1	2						1		1	2	6	
吐水口回転型横水栓	T200SNR13	１３φ　節水コマ付		5						2	7		5						2	7		5						2	7	２１	
混合水栓	TKS05316J	壁付シングル混合水栓（食洗器用分岐金具ＴＨＦ２２Ｒ）				1			1		2				1			1		2				1			1		2	6	
水栓柱	樹脂製	９００Ｌ　ＶＬＰ管入り　固定金具共								2	2								2	2								2	2	6	
ガス給湯器	２０号　ﾌﾙｵｰﾄﾀｲﾌﾟ	ＬＰＧガス対応　外壁設置形　高効率タイプ　２ヶ所リモコン　ケーブル（10m） 配管カバー　固定金具（耐震対応品）循環アダプター　ペアチューブ（10m）　その他一式								1	1								1	1								1	1	3	
業務用ガス給湯器	給湯専用	９６号（給湯器３２号３台接続）タイプ　ＬＰＧ対応　給湯器リモコン　リモコン線（10ｍ） 配管カバー　固定金具（耐震対応品）その他一式								1	1								1	1								1	1	3	
ガスコック	単口	ＬＢ形　9.5φ　ヒューズ付				1			1		2				1			1		2				1			1		2	6	
中形サーモスタット	ＴＭ４４０ＢＸ２０	露出配管形　サーモスタット混合栓　温度計付		5							5		5							5		5							5	１５	

設計変更年月日
１回　年　月　日
２回　年　月　日
３回　年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社　渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事

図面名　衛生　器具表

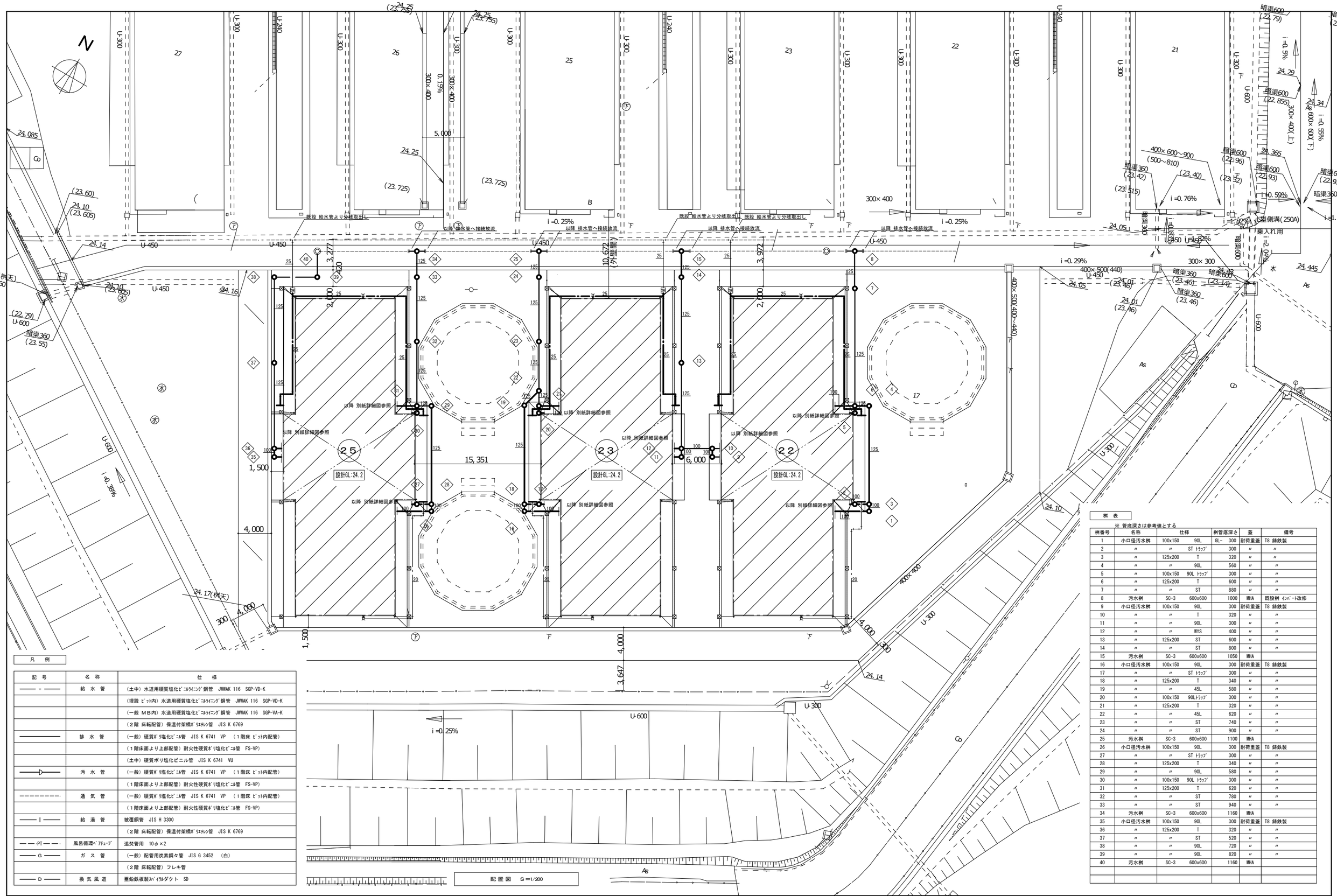
縮尺　A1版　---　A3版　---

設計　年　月　日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　号

図面番号　M-03



凡　例

記　号	名　称	仕　様
——— - ———	給　水　管	（土中）水道用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管　JWWAK 116　SGP-VD-K
		（埋設 ﾋﾟｯﾄ内）水道用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管　JWWAK 116　SGP-VD-K
		（一般 ＭＢ内）水道用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管　JWWAK 116　SGP-VA-K
		（２階 床転配管）保温付架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管　JIS K 6769
———————	排　水　管	（一般）硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管　JIS K 6741　VP　（１階床 ﾋﾟｯﾄ内配管）
		（１階床面より上部配管）耐火性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管　FS-VP）
		（土中）硬質ポリ塩化ビニル管　JIS K 6741　VU
———▷———	汚　水　管	（一般）硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管　JIS K 6741　VP　（１階床 ﾋﾟｯﾄ内配管）
		（１階床面より上部配管）耐火性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管　FS-VP）
----------	通　気　管	（一般）硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管　JIS K 6741　VP　（１階床 ﾋﾟｯﾄ内配管）
		（１階床面より上部配管）耐火性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管　FS-VP）
——— I ———	給　湯　管	被覆銅管　JIS H 3300
		（２階 床転配管）保温付架橋ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管　JIS K 6769
—— —·PT—— —·	風呂循環ﾍﾞﾌﾟﾁｭｰﾌﾞ	追焚管用　10φ×2
——— G ———	ガ　ス　管	（一般）配管用炭素鋼々管　JIS G 3452　（白）
		（２階 床転配管）フレキ管
——— D ———	換 気 風 道	亜鉛鉄板製ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ　SD

配置図　S=1/200

桝　表

※ 管底深さは参考値とする

桝番号	名称	仕様		桝管底深さ	蓋	備考
1	小口径汚水桝	100x150	90L	GL- 300	耐荷重蓋	T8 鋳鉄製
2	〃	〃	ST ﾄﾗｯﾌﾟ	300	〃	〃
3	〃	125x200	T	320	〃	〃
4	〃	〃	90L	560	〃	〃
5	〃	100x150	90L ﾄﾗｯﾌﾟ	300	〃	〃
6	〃	125x200	T	600	〃	〃
7	〃	〃	ST	880	〃	〃
8	汚水桝	SC-3	600x600	1000	MHA	既設桝 ｲﾝﾊﾞｰﾄ改修
9	小口径汚水桝	100x150	90L	300	耐荷重蓋	T8 鋳鉄製
10	〃	〃	T	320	〃	〃
11	〃	〃	90L	300	〃	〃
12	〃	〃	WYS	400	〃	〃
13	〃	125x200	ST	600	〃	〃
14	〃	〃	ST	800	〃	〃
15	汚水桝	SC-3	600x600	1050	MHA	
16	小口径汚水桝	100x150	90L	300	耐荷重蓋	T8 鋳鉄製
17	〃	〃	ST ﾄﾗｯﾌﾟ	300	〃	〃
18	〃	125x200	T	340	〃	〃
19	〃	〃	45L	580	〃	〃
20	〃	100x150	90Lﾄﾗｯﾌﾟ	300	〃	〃
21	〃	125x200	T	320	〃	〃
22	〃	〃	45L	620	〃	〃
23	〃	〃	ST	740	〃	〃
24	〃	〃	ST	900	〃	〃
25	汚水桝	SC-3	600x600	1100	MHA	
26	小口径汚水桝	100x150	90L	300	耐荷重蓋	T8 鋳鉄製
27	〃	〃	ST ﾄﾗｯﾌﾟ	300	〃	〃
28	〃	125x200	T	340	〃	〃
29	〃	〃	90L	580	〃	〃
30	〃	100x150	90L ﾄﾗｯﾌﾟ	300	〃	〃
31	〃	125x200	T	620	〃	〃
32	〃	〃	ST	780	〃	〃
33	〃	〃	ST	940	〃	〃
34	汚水桝	SC-3	600x600	1160	MHA	
35	小口径汚水桝	100x150	90L	300	耐荷重蓋	T8 鋳鉄製
36	〃	125x200	T	320	〃	〃
37	〃	〃	ST	520	〃	〃
38	〃	〃	90L	720	〃	〃
39	〃	〃	90L	820	〃	〃
40	汚水桝	SC-3	600x600	1160	MHA	

設計変更年月日	
1回	年　月　日
2回	年　月　日
3回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社　渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新22号・23号・25号きゅう舎新築工事

図面名　配置図、凡例、桝表

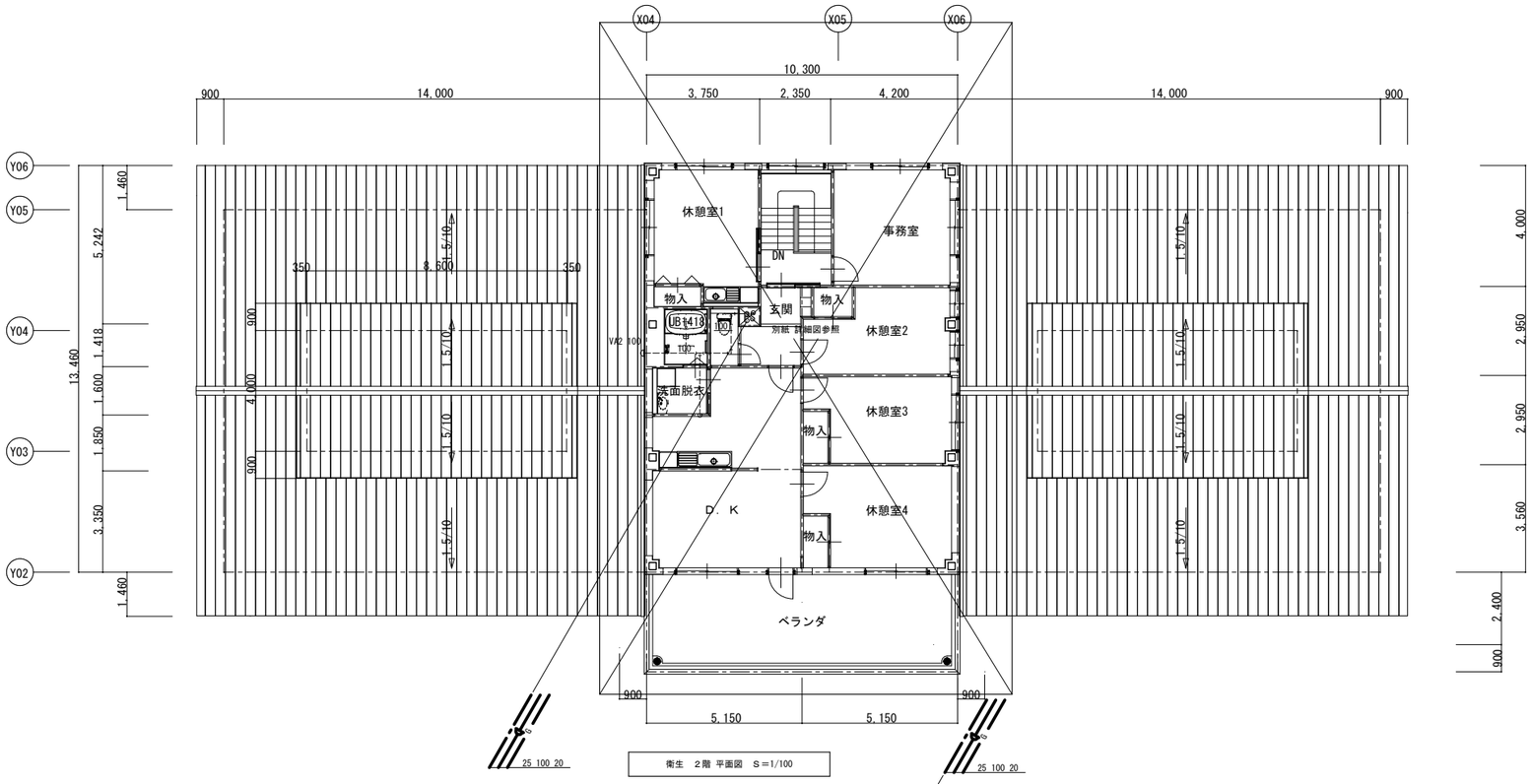
縮尺　A1版　1:200　A3版　1:400

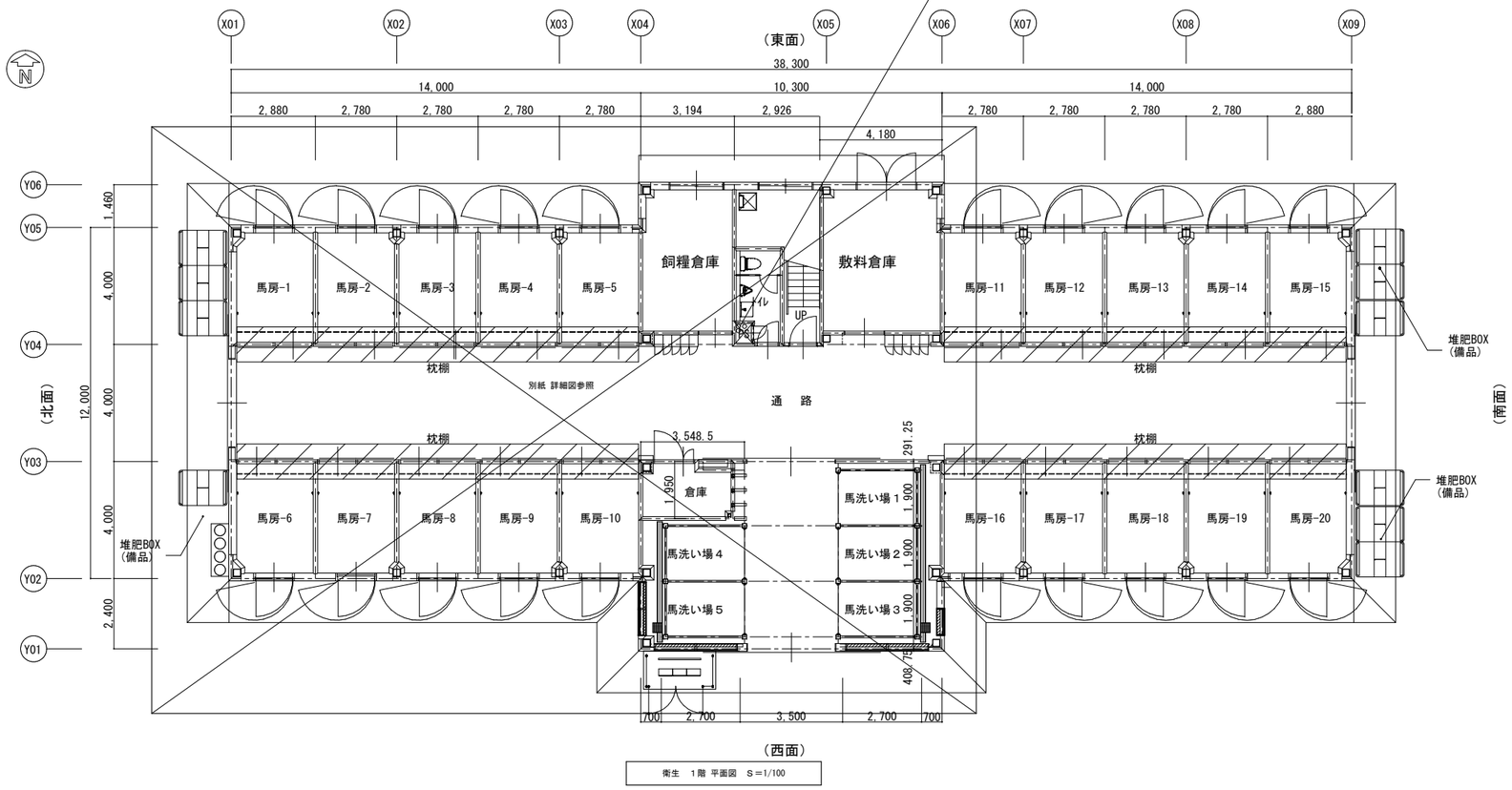
設計　年　月　日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

図面番号　M-04



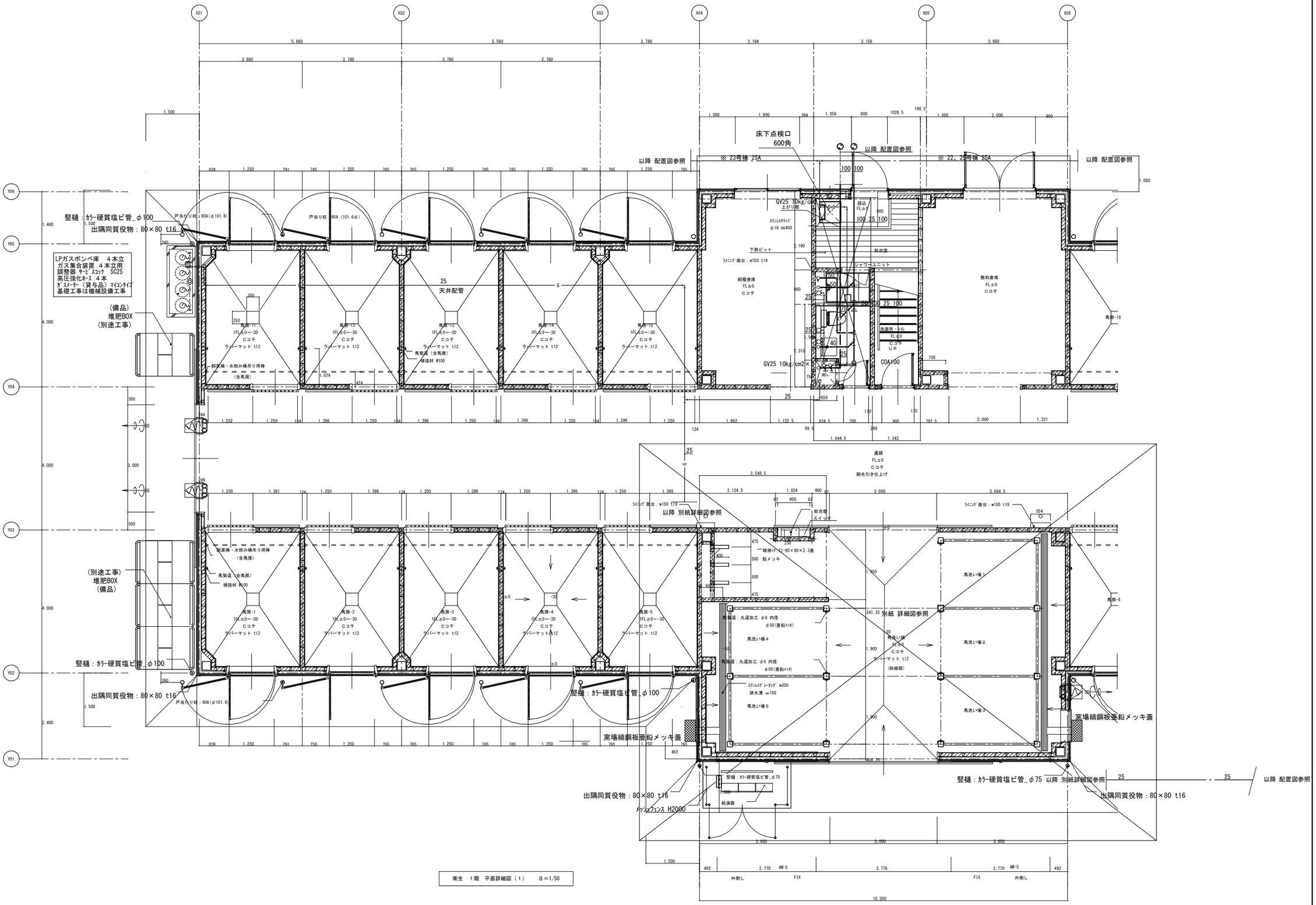


設計変更年月日	
１回	年　月　日
２回	年　月　日
３回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社　渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:100 A3版 1:200	佐賀県競馬組合
図面名	衛生　１，２階　平面図	設計 年　月　日	１級建築士登録　第　　号

図面番号 M-05



衛生　1階　平面詳細図（1）　S＝1/50

設計変更年月日			
1回	年	月	日
2回	年	月	日
3回	年	月	日

1級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社　渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事

図面名　衛生　1階　平面詳細図（1）

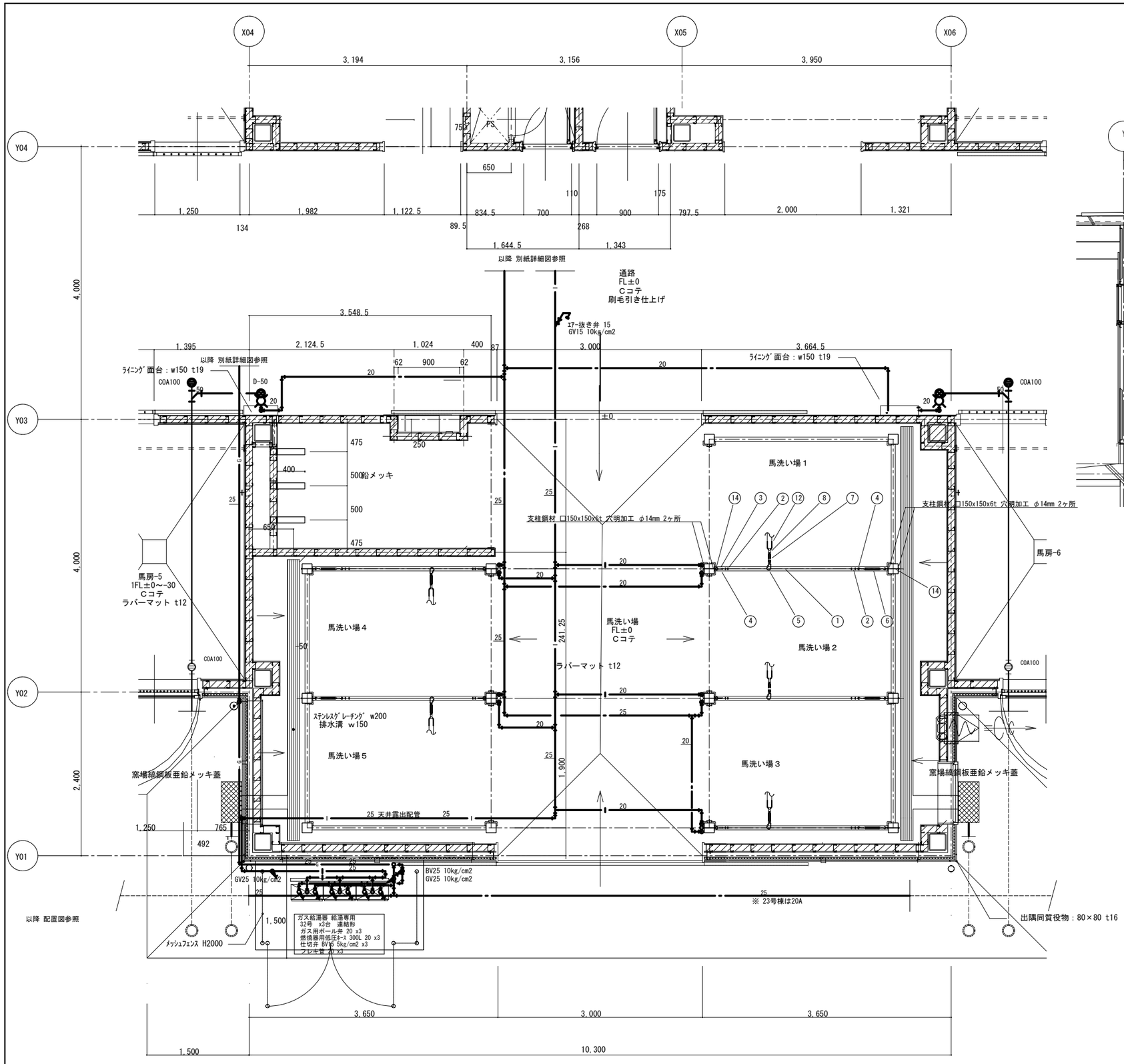
縮尺　A1版　1:50　A3版　1:100

設計　年　月　日

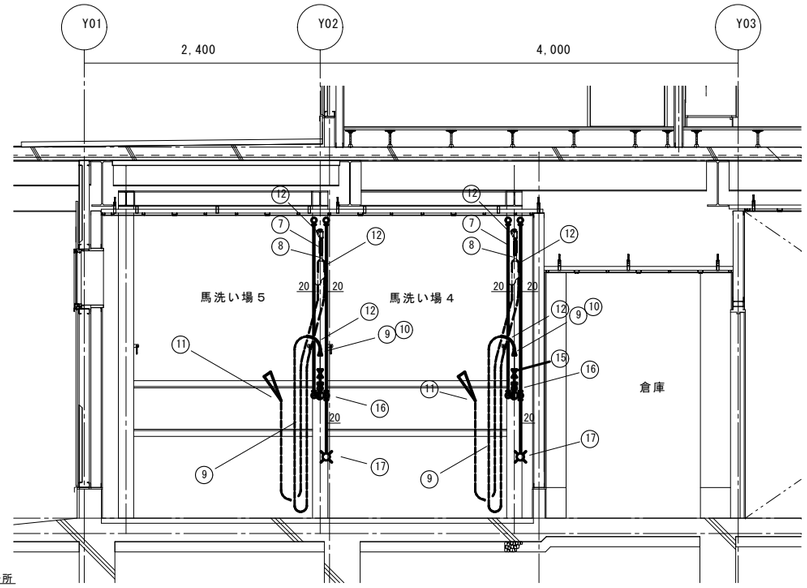
佐賀県競馬組合

1級建築士登録　第　　号

図面番号　M-06



衛生 1階 平面詳細図（2） S＝1/30



衛生 1階 側面詳細図 S＝1/30

馬洗い場 部材リスト

※ 鋼材、部材は溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上げとし特記部材はステンレス製する。

番号	名 称	仕 様	数 量
1	ワイヤー	外形６mm 7x19本線（SUS製） 3m	5
2	ワイヤークリップ	ﾜｲﾔｰｻｲｽﾞ８mm用 M8 （SUS製）	２０
3	シャックル	ﾛﾝｸﾞﾀｲﾌﾟ M8 L=78 （SUS製）	5
4	ワイヤーコース	ﾜｲﾔｰｻｲｽﾞ8mm用 D径20mm （SUS製）	１０
5	カラビナ	ﾌｯｸ環付 ﾊﾞﾈﾚﾙ止ﾅｯﾄ付 φ8mm 82mm φ8mm 82mm （SUS製）	5
6	ターンバックル	ｻｲｽﾞ8mm用 L=286 ｵｽﾒ径M5/16 （SUS製）	5
7	スプリング	引張用 1.2mm L=280	5
8	管材支持金物	片ｻﾄﾞﾙﾊﾞﾝﾄﾞ 29～36mm用	5
9	ホース	汎用ﾎｰｽ 25mm PVC、ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ 5m	5
10	ホースバンド	汎用ﾎｰｽ 25mm用	１０
11	スプレーガン	大口径用 ﾚﾊﾞｰ切替付	5
12	ホーススプリング	ﾎｰｽ保護用 25mm L=300	１０
13	ホースニップル	１8x27 ﾎｰｽ差込長52mm	5
14	ロングアイボルト	M12X200L（L寸長さ加工調整） M12ﾅｯﾄ ﾜｯｼｬｰ２枚共	１０
15	止水栓	25A 用	5
16	中形サーモ	TM440BX20（TOTO製）	5
17	吐水口回転形横水栓	13 F－7	5

設計変更年月日			
1回	年	月	日
2回	年	月	日
3回	年	月	日

１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社 渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名 新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事

図面名 衛生 １階 平面詳細図（２）

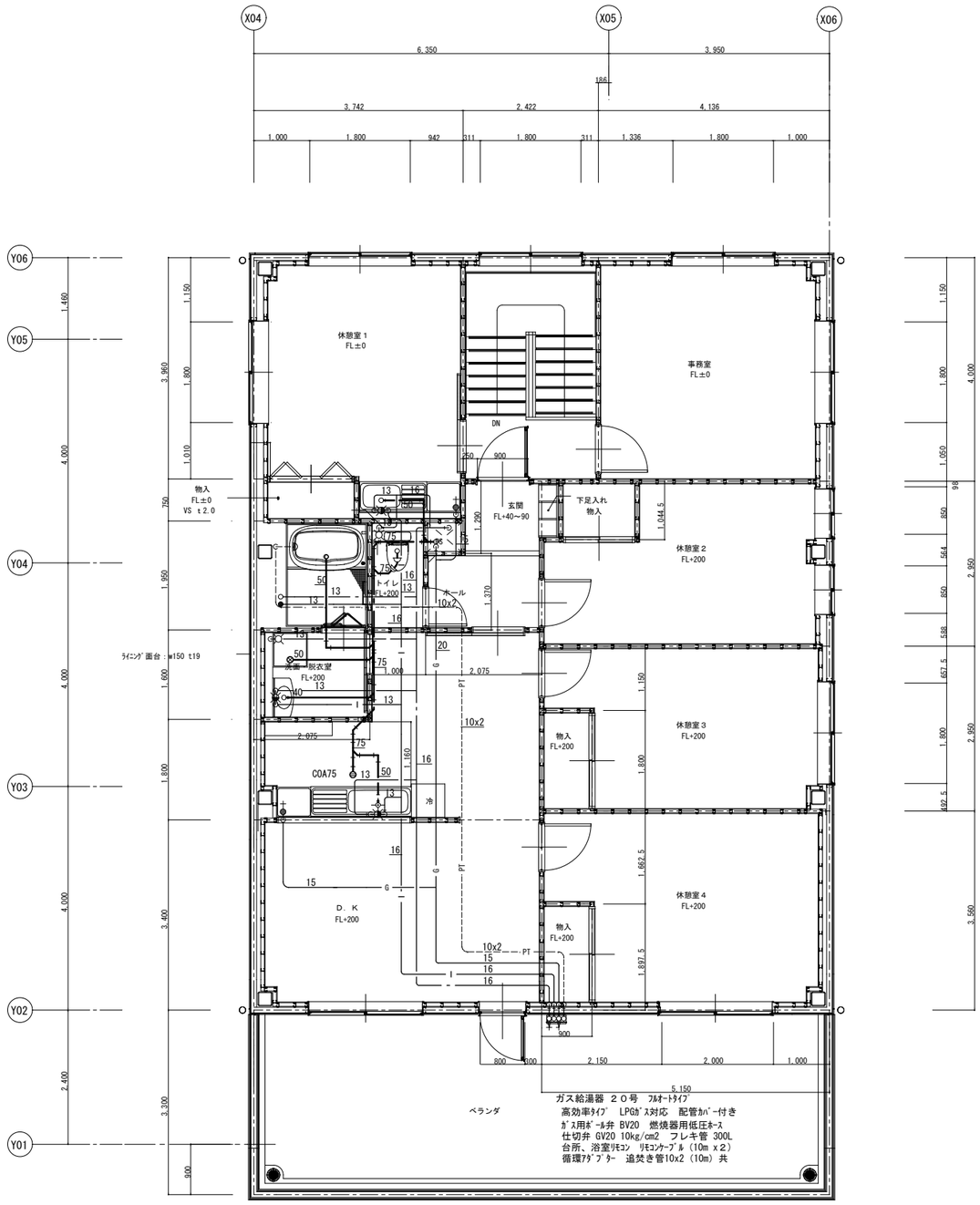
縮尺 A1版 1:30 A3版 1:60

設計 年 月 日

佐賀県競馬組合

１級建築士登録 第 号

図面番号 M-07



衛生 ２階 平面詳細図 S＝1/50

※ ２階 給水、給湯 ガス配管は床上転がし配管とする。
※ ２階 汚水、雑排水配管は床上転がし配管とする。

設計変更年月日			
１回	年	月	日
２回	年	月	日
３回	年	月	日

１級建築士 内田 要
大臣登録 第１８９２９４号
株式会社 渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:50 A3版 1:100	佐賀県競馬組合
図面名	衛生 ２階 平面詳細図	設計 年 月 日	１級建築士登録 第 号

図面番号 M-08

換気　機器表

記　号	名　称	形　式	仕様 風量（m3/H）（一般）	風量（m3/H）（24H）	消費電力（w）	騒音（dB）	電源	接続ﾀﾞｸﾄ	各棟小計	合計	設置場所	備　考
ＴＦ－１	天井換気扇	低騒音　ｲﾝﾃﾘｱ格子ﾀｲﾌﾟ 24時間換気対応形	280	120 静圧 7.6Pa	36	33	単相100V	150	3	9	各棟　3台　休憩室1 Ｄ.Ｋ 事務室	SUS製深型ﾌｰﾄﾞﾍﾞﾝﾄﾞｷｬｯﾌﾟ　指定色 24時間運転表示ｽｲｯﾁ共 型番：VD-18ZLX14-CS(三菱電機)
ＴＦ－２	天井換気扇	低騒音　ｲﾝﾃﾘｱ格子ﾀｲﾌﾟ	250	---	28.5	31	単相100V	150	3	9	各棟　3台　休憩室2, 3, 4	SUS製深型ﾌｰﾄﾞﾍﾞﾝﾄﾞｷｬｯﾌﾟ　指定色 型番：VD-18ZX14-C(三菱電機)
ＴＦ－３	天井換気扇	低騒音　ｻﾆﾀﾘｰ用　２室対応	180	---	23	34	単相100V	100	1	3	各棟　1台　浴室	SUS深型ﾌｰﾄﾞﾍﾞﾝﾄﾞｷｬｯﾌﾟ　指定色 副吸込口ｸﾞﾘﾙ共 型番：VD-15ZFC14(三菱電機)
ＴＦ－４	天井換気扇	低騒音　ｻﾆﾀﾘｰ用	120		15.5	28.5	単相100V	100	2	6	各棟　2台　ＷＣ	SUS製深型ﾌｰﾄﾞﾍﾞﾝﾄﾞｷｬｯﾌﾟ　指定色 型番：VD-13ZC14(三菱電機)
ＬＦ－１	ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞﾌｧﾝ	標準ﾀｲﾌﾟ　W600　ﾌﾞｰｽ形（深形） 本体ｽｲｯﾁ　照明付き	300	---	83	37.5	単相100V	150	2	6	各棟　2台　Ｄ.Ｋ　休憩室1	SUS製深型ﾌｰﾄﾞﾍﾞﾝﾄﾞｷｬｯﾌﾟ　指定色
ＡＦ－１	有圧換気扇	低騒音　排気用　羽根径450	5500	---	390	50	単相100V	---	4	１２	各棟　4台	SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ　取付枠 電動式ｼｬｯﾀｰ 型番：EWF-45ESA2(三菱電機)
ＡＦ－２	有圧換気扇	低騒音　排気用　羽根径350	3100	---	175	45.5	単相100V	---	1	３	各棟　1台	SUS製ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ　取付枠 電動式ｼｬｯﾀｰ　ﾊﾞｯｸｶﾞｰﾄﾞ共 型番：EWF-35DSA2(三菱電機)
給－１	給排気用ｸﾞﾘﾙ	150φ用　ﾌｨﾙﾀｰ付　壁用	---	---	---	---	---	---	2	6	各棟　2個	SUS製深型ﾌｰﾄﾞﾍﾞﾝﾄﾞｷｬｯﾌﾟ　指定色 型番：P-18GHF5(三菱電機)
給－２	給排気用ｸﾞﾘﾙ	100φ用　ﾌｨﾙﾀｰ付　壁、天井用	---	---	---	---	---	---	6	１８	各棟　6個	SUS製深型ﾌｰﾄﾞﾍﾞﾝﾄﾞｷｬｯﾌﾟ　指定色 型番：P-13GHF5(三菱電機)
	ﾙｰﾑｴｱｺﾝ用 室外機据付架台	壁面用　溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上げ　使用荷重80kg　ｴｱｺﾝ用壁ｳｰﾗｰｽﾘｰﾌﾞ100φ共							6	１８	各棟　6台	金具取付及び穴明工事共 ※下地補強工事は建築工事

２４時間換気計算書

室名	横寸法（m）	縦寸法（m）	室面積（m2）	平均天井高（m）	気積（m３）	必要換気回数（回／Ｈ）	必要換気量（m３／Ｈ）	換気種別	合計換気量（m３／Ｈ）	有効換気量 給気機（m３／Ｈ）	有効換気量 排気機（m３／Ｈ）	給気口	排気口	換気回数（回／Ｈ）
事務室	---	---	16.87	2.4	40.5	0.5	20.3	第３種	20.3		120	○		
				計	40.5			計	20.3	計	120			3.0
結果	必要換気量	20.3	m3/H	＜	機器排気量	120	m3/H							
	機器排気量が上回り	---	ＯＫ											
	機器排気量	120	m3/H	÷	室気積合計	40.5	m3	≒	3.0					
	機器排気量が室気積合計の	0.5	回/Ｈを上回る	3.0	回/Ｈで	---	ＯＫ							
休憩室１	---	---	16.27	2.4	39.0	0.5	19.6	第３種	19.6		120	○		
				計	39.0			計	19.6	計	120			3.0
結果	必要換気量	19.6	m3/H	＜	機器排気量	120	m3/H							
	機器排気量が上回り	---	ＯＫ											
	機器排気量	120	m3/H	÷	室気積合計	39.0	m3	≒	3.0					
	機器排気量が室気積合計の	0.5	回/Ｈを上回る	3.0	回/Ｈで	---	ＯＫ							
休憩室２	---	---	13.74	2.7	37.1	0.5	18.6	第３種	18.6			○		
休憩室３	---	---	13.59	2.7	36.7	0.5	18.4	第３種	18.4			○		
休憩室４	---	---	16.64	2.7	44.9	0.5	22.5	第３種	22.5			○		
Ｄ・Ｋ	---	---	31.73	2.7	85.7	0.5	42.9	第３種	42.9		120	○		
玄関	---	---	5.0	2.6	13.0	0.5	6.5	第３種	6.5					
				計	201.75			計	108.9	計	120			0.55
結果	必要換気量	108.9	m3/H	＜	機器排気量	120	m3/H							
	機器排気量が上回り	---	ＯＫ											
	機器排気量	120	m3/H	÷	室気積合計	217.4	m3	≒	0.55					
	機器排気量が室気積合計の	0.5	回/Ｈを上回る	0.55	回/Ｈで	---	ＯＫ							

火気器具使用に伴う換気量計算

使用ガス種別　ＬＰＧガス　発熱量　50.2Mj/kg　理論排ガス量　0.93m3/kwh

使用ガス器具　ガステーブル　コンロ　２口　グリル付　全点火時　8.5kw　（参考）

式）　Ｖ　（必要換気量）　＝　Ｋ　（理論排ガス量）　x　Ｎ　（定数）　Ｑ　（発熱量）

＝　0.93　m3/kwh　x　30　x　8.5　kw

＝　237.2　≒　240　**m3/H**

結果　必要換気量　240　m3/H　＜　機器排気量　300　m3/H

機器排気量が上回り　---　ＯＫ

	設計変更年月日
	１回　年　月　日
	２回　年　月　日
	３回　年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社　渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事

図面名　換気 機器表　換気計算書

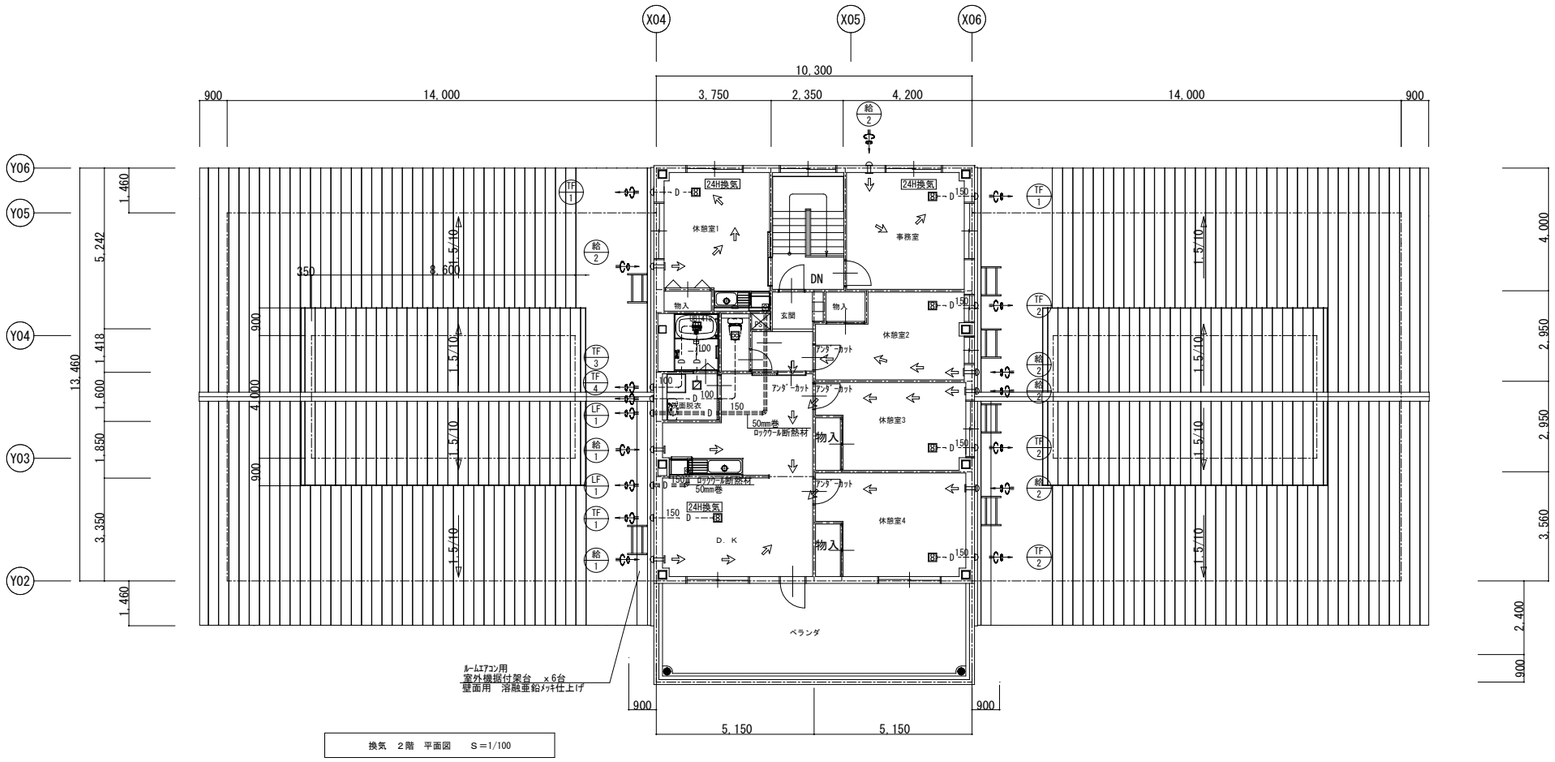
縮尺　A1版　---　A3版　---

設計　年　月　日

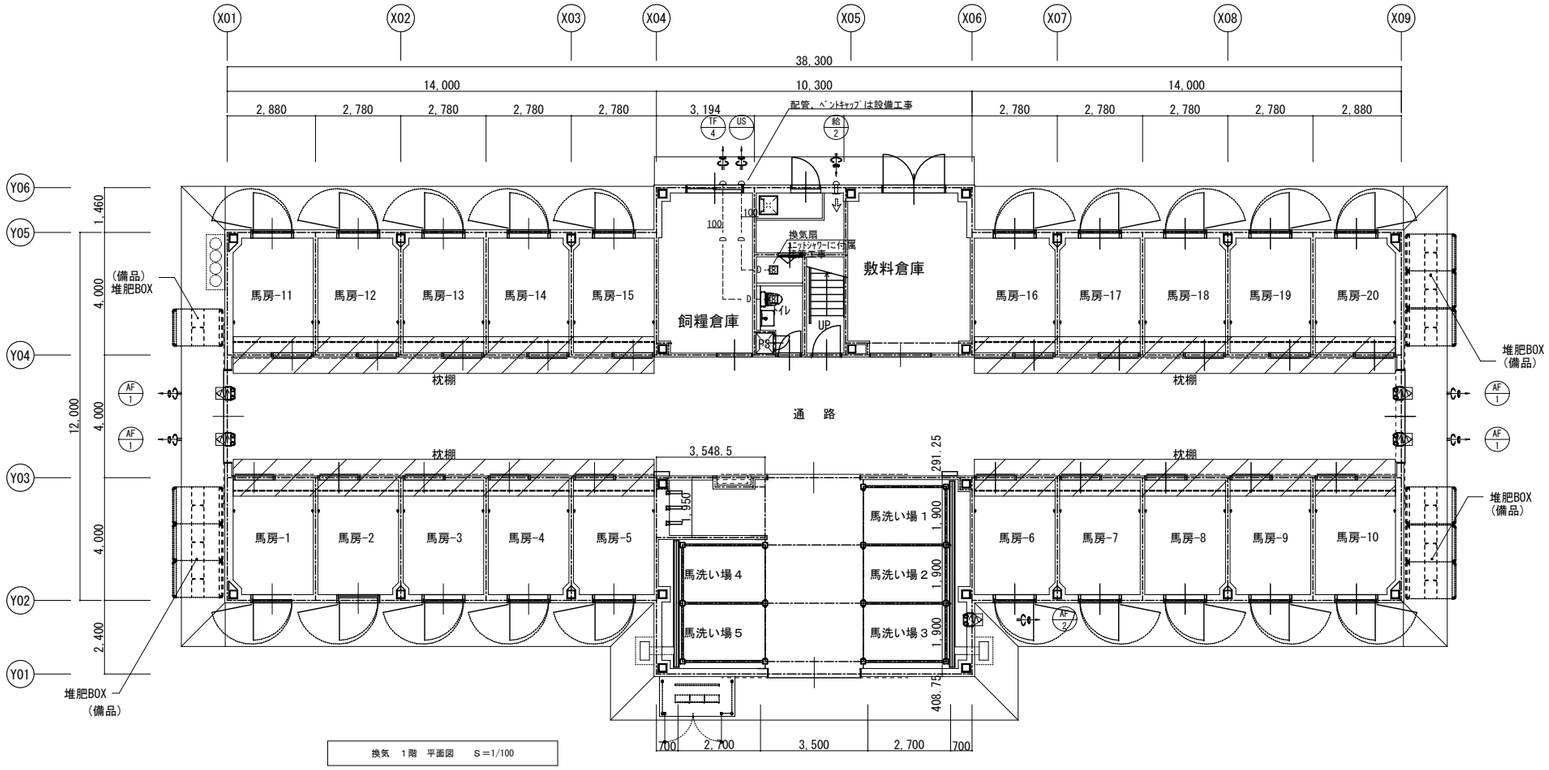
佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　号

図面番号　M-09



換気　２階　平面図　　S＝1/100



換気　１階　平面図　　S＝1/100

凡　例

24H	２４時間換気対応機器を示す
⇦ ⇨	風の流れを示す
	給排気ｸﾞﾘﾙ壁用（ﾌｨﾙﾀｰ付） ｽﾃﾝﾚｽ製深形ﾌｰﾄﾞ ﾍﾞﾝﾄﾞｷｬｯﾌﾟ
	ﾙｰﾑｴｱｺﾝ用 室外機据付架台 壁面用　溶融亜鉛ﾒｯｷ仕上げ

設計変更年月日			
１回	年	月	日
２回	年	月	日
３回	年	月	日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社　渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名　新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事

図面名　換気　１、２階 平面図

縮尺　A1版　1:100　A3版　1:200

設計　年　月　日

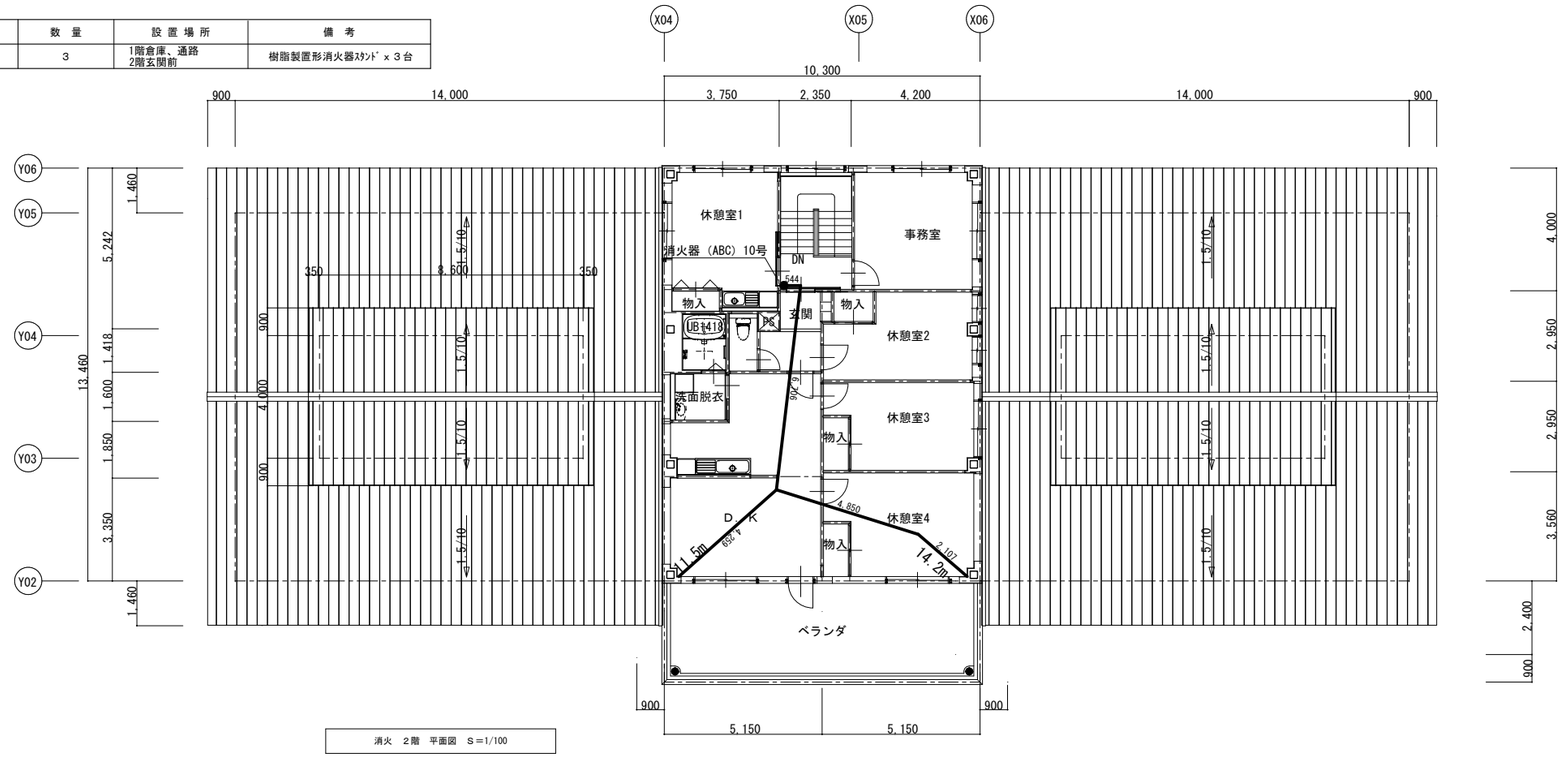
佐賀県競馬組合

１級建築士登録　第　　号

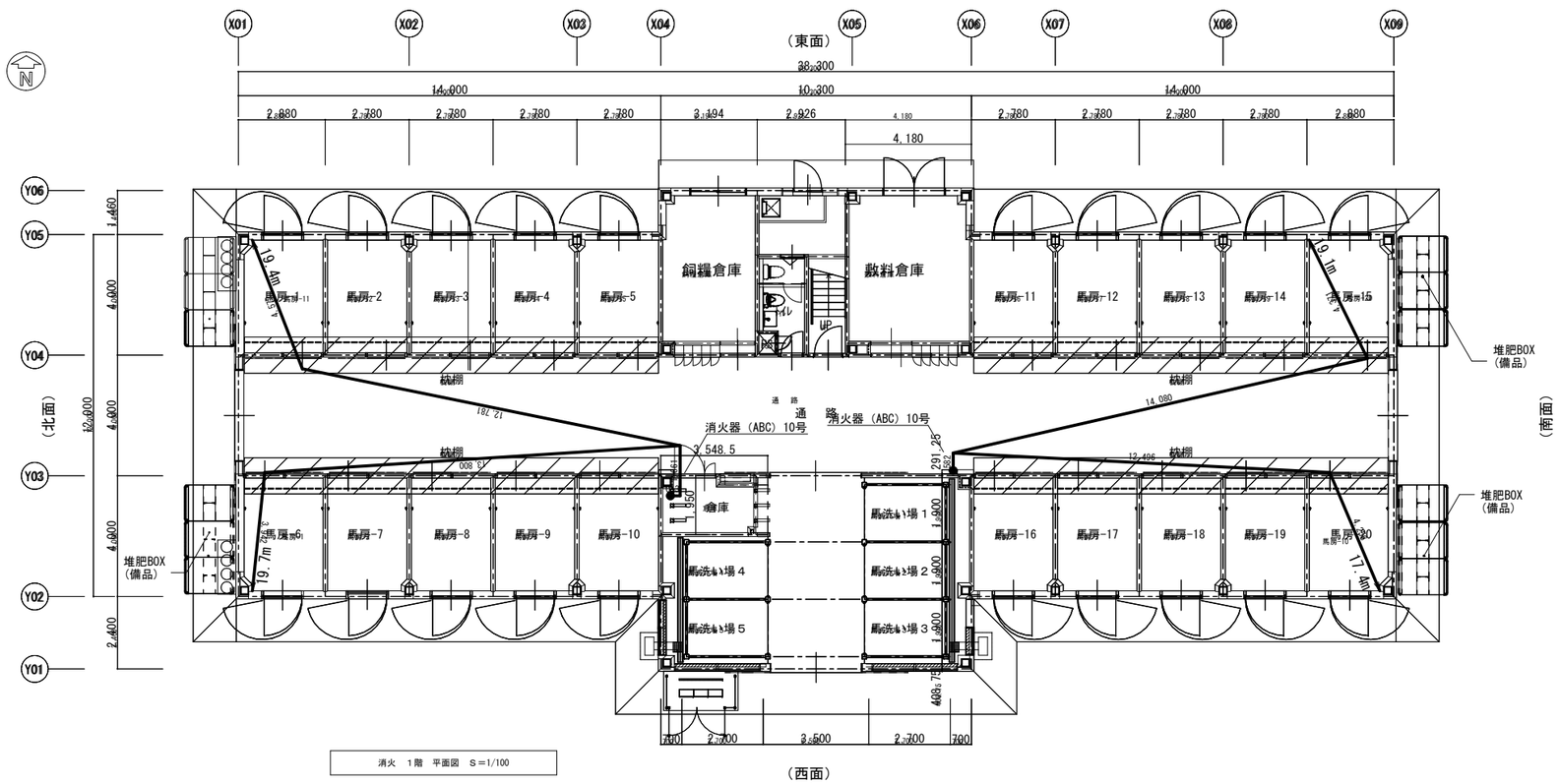
図面番号　M-10

機　器　表

名　称	仕様・付属品	数　量	設置場所	備　考
消火器	ＡＢＣ　１０号	3	1階倉庫、通路 2階玄関前	樹脂製置形消火器ｽﾀﾝﾄﾞ×３台



消火　２階　平面図　Ｓ＝1/100



消火　１階　平面図　Ｓ＝1/100

設計変更年月日	
１回	年　月　日
２回	年　月　日
３回	年　月　日

１級建築士　内田　要
大臣登録　第１８９２９４号
株式会社　渋江建築設計事務所
佐賀市多布施四丁目３番５０号
TEL 0952-24-7211

工事名	新２２、２３、２５号きゅう舎新築工事	縮尺 A1版 1:100 A3版 1:200	佐賀県競馬組合
図面名	消火　１、２階　平面図	設計　年　月　日	１級建築士登録　第　　号

図面番号　M-11